志木市の文化財　第82集

中野遺跡 第 109 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第82集
中野遺跡第109地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第82集

中野遺跡 第109地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

埼玉県志木市教育委員会

1．調査地点遠景（西から）

2．調査地点近景（南から）

1．4号石器集中地点遺物出土状態Ⅳ下Ⅴ層（南から）

2．4号石器集中地点出土遺物

1．88 号住居跡遺物出土状態（北西から）

2．88 号住居跡出土遺物

1．1区全景（北から）

2．1号段切状遺構（東から）

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『中野遺跡第 109 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和元年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、中野遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する中野遺跡第 109 地点では、旧石器時代～近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　　言

1．本書は、令和元年度から令和２年度にかけて発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する中野遺跡第 109 地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、道路新設工事及び分譲住宅建設に伴う記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第 99 条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。

3．本調査の実施にあたり、工事主体者・志木市教育委員会・大成エンジニアリング株式会社（代表取締役　石川　勇）の三者による協定を締結した上で、大成エンジニアリング株式会社が発掘調査支援業務を行った。

4．発掘作業は令和元年 12 月 24 日から令和２年６月 22 日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和３年６月 30 日まで行った。

5．本書の作成は尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡が監修し、編集は市川康弘が行った。執筆は第１章、第２章第１節を尾形、第２章第２節から第４章を市川が担当した。

6．中世の遺物については、和光市文化財調査指導員の野澤　均氏にご教示いただいた。

7．本書に掲載した石器については、文化財整理こうけんに実測・トレースを委託した。

8．自然科学分析については、梶ヶ山真里（国立科学博物館）、植月　学（帝京大学文化財研究所）に委託し、玉稿を賜った。

9．発掘作業における表土剥ぎ作業については、合同会社久松（代表社員　久松洋次郎）に委託した。

10. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

11. 調査組織は以下のとおりである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一（～令和元年度）
〃	北村竜一（令和２年度～）
教育政策部次長	北村竜一（～令和元年度）
〃	大熊克之（令和２年度～）
生涯学習課長	原田謙二（～令和元年度）
〃	山本　勲（令和２年度）
〃	土崎健太（令和３年度～）
生涯学習副課長	中原敦也（令和２年度）
〃	吉成和重（令和３年度～）
生涯学習課主幹	中原敦也（～令和元年度）
〃	浅見千穂（令和２年度～）
生涯学習課主査	浅見千穂（～令和元年度）
〃	武井香代子（～令和２年度）

〃　　尾形則敏
〃　　徳留彰紀（令和２年度～）
生涯学習課主任　　松永真知子（～令和２年度）
〃　　徳留彰紀（～令和元年度）
〃　　武井香代子（令和３年度～）
〃　　大久保　聡
〃　　石川千尋（令和３年度～）
生涯学習課主事補　　鈴木楓月（～令和２年度）
〃　　遠藤彪雅（令和３年度～）
志木市文化財保護審議会　　井上國夫（会長）
〃　　深瀬　克（委員）
〃　　上野守嘉（委員）
〃　　新田泰男（委員）
〃　　金子博一（委員）（令和２年度～）
〃　　髙橋　豊（委員）（～令和元年度）
調査担当者　　尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡

【大成エンジニアリング株式会社】

○発掘調査

調査員　　市川康弘
現場代理人　　氏家雅仁
調査補助員　　黒済和彦・山中菊乃・久嶋　衛
作業員　　新垣天悟・石井加代・石田智幸・岩崎保宏・遠藤万希子・小野寺　信
加藤清正・加藤優李・門脇美保・神田康一・木下秀一・小松祐佳
佐久間正崇・舎川史矩・鈴木勝広・瀬戸宏征・髙橋慶多・田原　浩
為石　篤・並木智子・野村洋祐・星川明子・松田美幸・三森凛冴
宮崎文隆・柳井武夫・吉岡秀雄・和田聖子

○整理作業

調査員　　市川康弘
調査補助員　　宇田武史・小池　聡・山寄裕子
作業員　　大平宏典・岡崎千津子・小美濃一浩・可知直子・菊池直美・栗山結花
小室峯子・志塚翔磨・菅沼晶子・竹内千晴・中村君江・藤瀬和枝
藤田優子・堀田　勉・松本義弘・吉岡明子・渡邊幹子

12. 発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会
朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

13. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記のとおりである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和元年 12 月 12 日付け　教文資第４－1446 号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和２年９月８日付け　教文資第７－69 号

凡　　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２図　1：5,000 ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成 27 年４月発行

株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に即している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水系レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　　］、推定値は（　　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構などの略記号は、以下のとおりである。

U＝旧石器時代の石器集中地点　　Y＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

H＝古墳時代～平安時代の住居跡　　S＝縄文時代の集石　　ＦＰ＝縄文時代の炉穴

D＝土坑　　W＝井戸跡　　M＝溝跡　　段＝段切状遺構　　道＝道路状遺構　　P＝ピット

ＴＰ＝旧石器時代の試掘坑

目　　次

巻頭図版／はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境……1
　第１節　市域の地形と遺跡……1
　第２節　遺跡の概要……8
第２章　発掘調査の概要……10
　第１節　調査に至る経緯……10
　第２節　発掘調査の経過……11
　第３節　基本層序と地形……16
第３章　検出された遺構と遺物……24
　第１節　旧石器時代の遺構・遺物……24
　第２節　縄文時代の遺構・遺物……46
　第３節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物……59
　第４節　古墳時代後期の遺構・遺物……62
　第５節　平安時代の遺構・遺物……73
　第６節　中世以降の遺構・遺物……86
　第７節　遺構外出土遺物……156
第４章　調査のまとめ……166
　第１節　旧石器時代……166
　第２節　縄文時代……169
　第３節　古墳時代後期……170
　第４節　平安時代……171
　第５節　中世以降……172

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．中野遺跡第 109 地点出土人骨について……179
　Ⅱ．中野遺跡第 109 地点出土のウマ遺体……181

図　　版
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）……2
第 2 図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）……9
第 3 図　確認調査時の遺構分布（1／500）……11
第 4 図　調査区配置図（1／500）……13
第 5 図　遺構全体図（1／300）……17
第 6 図　等高線図（1／300）……19
第 7 図　試掘坑配置図（1／400）……21
第 8 図　基本層序 1（1／80）……22
第 9 図　基本層序 2（1／80）……23
第 10 図　旧石器時代遺構全体図（1／500）……24
第 11 図　4 号石器集中地点　器種別分布図（1／60）……26
第 12 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 1（1／60）……27
第 13 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 2（黒曜石）（1／60）……28
第 14 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 3（赤色頁岩）（1／60）……29
第 15 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 4（頁岩）（1／60）……30
第 16 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 5（その他石材）（1／60）……31
第 17 図　4 号石器集中地点出土遺物 1（4／5）……32
第 18 図　4 号石器集中地点出土遺物 2（4／5）……33
第 19 図　4 号石器集中地点出土遺物 3（4／5）……34
第 20 図　4 号石器集中地点出土遺物 4（4／5）……35
第 21 図　4 号石器集中地点出土遺物 5（4／5）……36
第 22 図　4 号石器集中地点出土遺物 6（4／5）……37
第 23 図　4 号石器集中地点出土遺物 7（4／5）……38
第 24 図　4 号石器集中地点出土遺物 8（4／5）……39
第 25 図　4 号石器集中地点出土遺物 9（4／5）……40
第 26 図　4 号石器集中地点出土遺物 10（4／5）……41
第 27 図　4 号石器集中地点出土遺物 11（4／5）……42
第 28 図　4 号石器集中地点出土遺物 12（4／5）……43
第 29 図　縄文時代遺構全体図（1／500）……46
第 30 図　65 号炉穴（1／60）……47
第 31 図　縄文時代の土坑 1（1／60）……48
第 32 図　縄文時代の土坑出土遺物（1／3）……49
第 33 図　縄文時代の土坑 2（1／60）……51
第 34 図　508 号土坑出土遺物（1／4・1／3）……52
第 35 図　縄文時代の土坑 3（1／60）……55
第 36 図　560 号土坑出土遺物（1／3）……56
第 37 図　5 号集石（1／60）……56
第 38 図　縄文時代のピット（1／60）……58
第 39 図　弥生時代後期～古墳時代前期遺構全体図（1／500）……59
第 40 図　32 号住居跡（1／60）……60

第 41 図　32 号住居跡出土遺物（1／3）……61
第 42 図　古墳時代後期遺構全体図（1／500）……62
第 43 図　86 号住居跡（1／60）……63
第 44 図　88 号住居跡・遺物出土状態（1／60）……65
第 45 図　88 号住居跡カマド・遺物出土状態（1／30）……66
第 46 図　88 号住居跡ピット・遺物出土状態（1／30・1／60）……66
第 47 図　88 号住居跡出土遺物 1（1／4）……67
第 48 図　88 号住居跡出土遺物 2（1／4）……68
第 49 図　88 号住居跡出土遺物 3（1／4）……69
第 50 図　19 号溝跡（1／60）……72
第 51 図　19 号溝跡出土遺物（1／4）……72
第 52 図　平安時代遺構全体図（1／500）……73
第 53 図　87 号住居跡・遺物出土状態（1／60）……75
第 54 図　87 号住居跡カマド（1／30）……76
第 55 図　87 号住居跡ピット（1／60）……76
第 56 図　87 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……77
第 57 図　89 号住居跡・遺物出土状態（1／60）……78
第 58 図　89 号住居跡カマド・遺物出土状態（1／30）……79
第 59 図　89 号住居跡ピット（1／60）……79
第 60 図　89 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……80
第 61 図　平安時代の土坑（1／60）……84
第 62 図　平安時代のピット（1／60）……85
第 63 図　中世以降の遺構全体図（1／300）……87
第 64 図　1 号段切状遺構（1／80・1／60）……89
第 65 図　1 区中世以降の遺構全体図・等高線図（1／120）……90
第 66 図　1 区東壁・西壁（1／120）……91
第 67 図　1 号段切状遺構出土遺物（1／4・1／3）……92
第 68 図　3 号段切状遺構（1／60）……94
第 69 図　3 号段切状遺構出土遺物（1／4）……95
第 70 図　4 号段切状遺構（1／60）……96
第 71 図　4 号段切状遺構出土遺物（1／3）……96
第 72 図　5 号段切状遺構（1／60）……97
第 73 図　1 号道路状遺構　ピット（1／60）……98
第 74 図　1 号道路状遺構　第 1 面（1／60）……99
第 75 図　1 号道路状遺構　第 2 面（1／60）……100
第 76 図　1 号道路状遺構　第 3 面（1／60）……101
第 77 図　1 号道路状遺構　土層断面（1／60）……102
第 78 図　1 号道路状遺構出土遺物（1／4・1／3）……102
第 79 図　土坑　A 群 2 類（1／60）……104
第 80 図　中世以降の土坑出土遺物（1／4）……105
第 81 図　土坑　B 群 1 類 1（1／60）……108
第 82 図　土坑　B 群 1 類 2（1／60）……109
第 83 図　土坑　B 群 1 類 3（1／60）……111

第84図　土坑　B群2類1（1／60）……113
第85図　土坑　B群2類2（1／60）……114
第86図　土坑　B群2類3（1／60）……115
第87図　土坑　B群2類4（1／60）……116
第88図　土坑　B群2類5（1／60）……117
第89図　土坑　B群3類（1／60）……118
第90図　土坑　C群（1／60）……120
第91図　土坑　E群1類1（1／60）……122
第92図　土坑　E群1類2（1／60）……124
第93図　495号土坑出土遺物（1／4・1／3）……125
第94図　土坑　G群（1／60）……126
第95図　中世以降の土坑出土銭貨（4／5）……129
第96図　中世以降の井戸跡1（1／60）……131
第97図　中世以降の井戸跡2（1／60）……132
第98図　17号井戸跡出土遺物（1／3）……132
第99図　20号溝跡（1／150・1／60・1／15）……135
第100図　20号溝跡出土遺物（1／4・1／3・4／5）……137
第101図　21号溝跡（1／60）……138
第102図　22号溝跡（1／60）……139
第103図　22号溝跡出土遺物（1／4）……139
第104図　23号溝跡（1／60）……140
第105図　24号溝跡（1／60）……141
第106図　中世以降のピット1（1／60）……142
第107図　中世以降のピット2（1／60）……143
第108図　中世以降のピット3（1／60）……144
第109図　中世以降のピット4（1／60）……145
第110図　中世以降のピット5（1／60）……146
第111図　中世以降のピット6（1／60）……147
第112図　中世以降のピット7（1／60）……148
第113図　中世以降のピット8（1／60）……149
第114図　中世以降のピット9（1／60）……150
第115図　中世以降のピット10（1／60）……151
第116図　旧石器時代遺構外出土遺物（4／5）……157
第117図　縄文時代遺構外出土遺物1（1／4・1／3）……158
第118図　縄文時代遺構外出土遺物2（1／4・1／3）……159
第119図　縄文時代遺構外出土遺物3（2／3・1／3）……163
第120図　弥生時代後期～平安時代遺構外出土遺物（1／4・1／3）……164
第121図　中世以降遺構外出土遺物（1／4・1／3）……165
第122図　4号石器集中地点　石器製作工程……168
第123図　3・4号石器集中地点　石質組成……169
第124図　竪穴による地下式坑分類図……174
第125図　築瀬氏による地下式坑時期的変化模式図……174
第126図　土坑墓配置図（1／150）……175

表　目　次

第 1 表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧……1
第 2 表　中野遺跡第 109 地点の発掘調査工程表（1）……14
　　中野遺跡第 109 地点の発掘調査工程表（2）……15
第 3 表　4 号石器集中地点出土石器一覧（1）……44
　　4 号石器集中地点出土石器一覧（2）……45
第 4 表　土坑出土縄文土器一覧……49
第 5 表　508 号土坑出土縄文土器一覧……52
第 6 表　560 号土坑出土縄文土器一覧……56
第 7 表　32 号住居跡出土土器一覧……61
第 8 表　86 号住居跡出土土器一覧……64
第 9 表　88 号住居跡出土土器一覧（1）……69
　　88 号住居跡出土土器一覧（2）……70
　　88 号住居跡出土土器一覧（3）……71
第 10 表　88 号住居跡出土土製品一覧……71
第 11 表　19 号溝跡出土土器一覧……72
第 12 表　87 号住居跡出土土器一覧……77
第 13 表　87 号住居跡出土石製品一覧……77
第 14 表　89 号住居跡出土土器一覧（1）……80
　　89 号住居跡出土土器一覧（2）……81
第 15 表　89 号住居跡出土石製品一覧……81
第 16 表　1 号段切状遺構出土陶器・土器一覧……93
第 17 表　1 号段切状遺構出土石製品一覧……93
第 18 表　1 号段切状遺構出土金属製品一覧……93
第 19 表　3 号段切状遺構出土陶磁器一覧……95
第 20 表　4 号段切状遺構出土陶器一覧……95
第 21 表　4 号段切状遺構出土石製品一覧……95
第 22 表　1 号道路状遺構出土陶器一覧……102
第 23 表　1 号道路状遺構出土石製品一覧……103
第 24 表　中世以降の土坑出土陶器一覧……105
第 25 表　495 号土坑出土陶器一覧……125
第 26 表　495 号土坑出土石製品一覧……125
第 27 表　中世以降の土坑一覧（1）……127
　　中世以降の土坑一覧（2）……128
第 28 表　中世以降の土坑出土銭貨一覧……130
第 29 表　17 号井戸跡出土陶器一覧……133
第 30 表　17 号井戸跡出土石製品一覧……133
第 31 表　20 号溝跡出土陶器一覧……137
第 32 表　20 号溝跡出土土製品一覧……137
第 33 表　20 号溝跡出土銭貨一覧……137
第 34 表　22 号溝跡出土陶器・土器一覧……139

第 35 表　ピット一覧（1）……151
ピット一覧（2）……152
ピット一覧（3）……153
ピット一覧（4）……154
ピット一覧（5）……155
第 36 表　旧石器時代遺構外出土石器一覧……160
第 37 表　縄文時代遺構外出土土器一覧（1）……160
縄文時代遺構外出土土器一覧（2）……161
縄文時代遺構外出土土器一覧（3）……162
第 38 表　縄文時代遺構外出土石器一覧……163
第 39 表　弥生時代後期～平安時代遺構外出土土器一覧……164
第 40 表　弥生時代後期～平安時代遺構外出土金属製品一覧……164
第 41 表　中世以降遺構外出土陶器一覧……165
第 42 表　中世以降遺構外出土土製品一覧……165
第 43 表　中世以降遺構外出土石製品一覧……165
第 44 表　赤色頁岩の分類……166
第 45 表　出土人骨……180

図 版 目 次

巻頭図版 1　1．調査地点遠景（西から）　2．調査地点近景（南から）
巻頭図版 2　1．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅳ下Ⅴ層（南から）　2．4 号石器集中地点出土遺物
巻頭図版 3　1．88 号住居跡遺物出土状態（北西から）　2．88 号住居跡出土遺物
巻頭図版 4　1．1 区全景（北から）　2．1 号段切状遺構（東から）

図版 1　1．1 区調査前現況（東から）　2．2・3 区調査前現況（西から）　3．遺構精査風景（南から）
4．全体清掃風景（東から）　5．9 号試掘坑南壁（北から）　6．10 号試掘坑南壁（北から）
7．11 号試掘坑西壁（東から）　8．13 号試掘坑北壁（南から）
図版 2　1．15 号試掘坑西壁（東から）　2．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅴ層下部（南から）
図版 3　1．4 号石器集中地点遺物出土状態（南から）　2．4 号石器集中地点遺物出土状態（西から）
3．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅳ下Ⅴ層（西から）　4．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅳ下Ⅴ層（南から）
5．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅴ層下部（西から）　6．4 号石器集中地点遺物出土状態Ⅴ層下部（南から）
7．旧石器調査風景（南から）　8．旧石器調査風景（西から）
図版 4　1．476 号土坑（北から）　2．485 号土坑（西から）　3．493 号土坑（南から）
4．493 号土坑断割り断面（東から）　5．506 号土坑（南から）　6．508 号土坑遺物出土状態（北から）
7．532 号土坑（東から）　8．547 号土坑（南から）
図版 5　1．560 号土坑遺物出土状態（南から）　2．5 号集石（東から）　3．32 号住居跡（南から）
4．86 号住居跡（北から）　5．88 号住居跡遺物出土状態（南西から）
図版 6　1．88 号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）　2．88 号住居跡カマド（南西から）
3．88 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 1（北から）　4．88 号住居跡貯蔵穴断面（北から）
5．88 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 2（北から）　6．88 号住居跡貯蔵穴（南西から）

7．88号住居跡（北西から）　8．19号溝跡（東から）

図版 7　1．87号住居跡遺物出土状態（南から）　2．87号住居跡（南から）

3．87号住居跡カマド遺物出土状態（南から）　4．87号住居跡カマド（南から）

5．89号住居跡遺物出土状態（南から）　6．89号住居跡（南から）

7．89号住居跡カマド遺物出土状態（南から）　8．89号住居跡カマド（南から）

図版 8　1．486号土坑（南から）　2．507号土坑（西から）　3．1区遺構検出状況（北から）

4．1区調査区西壁（東から）　5．1号段切状遺構断面（東から）　6．1号段切状遺構断面（西から）

7．2号段切状遺構・1号道路状遺構（北から）　8．2号段切状遺構・1号道路状遺構（西から）

図版 9　1．1号道路状遺構第1面（東から）　2．1号道路状遺構第2面（東から）

3．1号道路状遺構第3面（西から）　4．1号道路状遺構断面（西から）

5．464号土坑（A群2類）（西から）　6．474号土坑（B群1類）（南から）

7．490号土坑（B群1類）（東から）　8．512号土坑（B群1類）（東から）

図版 10　1．515号土坑（B群1類）（西から）　2．550号土坑（B群1類）（東から）

3．472号土坑（B群2類）（南から）　4．484号土坑（B群2類）（西から）

5．487号土坑（B群2類）（南から）　6．496号土坑（B群2類）（東から）

7．501号土坑（B群2類）（南から）　8．503号土坑（B群2類）（南から）

図版 11　1．503号土坑人骨出土状態（東から）　2．503号土坑人骨出土状態（南から）

3．504号土坑人骨出土状態（東から）　4．504号土坑人骨出土状態（南から）

5．504号土坑（B群2類）（南から）　6．505号土坑（B群2類）（南から）

7．514号土坑（B群2類）（南から）　8．518号土坑（B群2類）（南から）

図版 12　1．519号土坑（B群2類）（北から）　2．527号土坑（B群2類）（南から）

3．555号土坑（B群2類）（西から）　4．492号土坑断面（西から）

5．492号土坑人骨出土状態（南から）　6．492号土坑人骨出土状態（西から）

7．492号土坑（B群3類）（南から）　8．502号土坑（B群3類）（南から）

図版 13　1．477号土坑（C群）（西から）　2．478号土坑人骨出土状態（南から）

3．478号土坑（C群）（南から）　4．494号土坑（C群）（西から）

5．548号土坑（C群）（南から）　6．551号土坑（C群）（南から）

7．491号土坑（E群1類）（東から）　8．491号土坑（E群1類）（北から）

図版 14　1．495号土坑（E群1類）（南から）　2．495号土坑（E群1類）（西から）

3．495号土坑竪坑接続部（北から）　4．553号土坑（E群1類）（東から）

5．553号土坑竪坑（南から）　6．553号土坑断面（東から）

7．15号井戸跡（西から）　8．16号井戸跡（北から）

図版 15　1．17号井戸跡（西から）　2．18号井戸跡（東から）　3．20号溝跡（2区）（西から）

4．20号溝跡馬歯出土状態（南から）　5．23号溝跡（北から）　6．24号溝跡（南から）

7．2区遺構検出状況（西から）　8．2区全景（西から）

図版 16　1．2区遺構検出状況（南から）　2．2区全景（南から）

図版 17　1．3区遺構検出状況（東から）　2．3区全景（東から）

図版 18　4号石器集中地点出土遺物1

図版 19　4号石器集中地点出土遺物2

図版 20　4号石器集中地点出土遺物3

図版 21　4号石器集中地点出土遺物4

図版 22　4号石器集中地点出土遺物5

図版 23　4号石器集中地点出土遺物6

図版 24　1．縄文時代の土坑出土遺物　2．508 号土坑出土遺物
図版 25　1．560 号土坑出土遺物　2．32 号住居跡出土遺物　3．86 号住居跡出土遺物
図版 26　88 号住居跡出土遺物 1
図版 27　88 号住居跡出土遺物 2
図版 28　88 号住居跡出土遺物 3
図版 29　1．19 号溝跡出土遺物　2．87 号住居跡出土遺物　3．89 号住居跡出土遺物 1
図版 30　1．89 号住居跡出土遺物 2　2．1 号段切状遺構出土遺物 1
図版 31　1．1 号段切状遺構出土遺物 2　2．3 号段切状遺構出土遺物　3．4 号段切状遺構出土遺物
図版 32　1．1 号道路状遺構出土遺物　2．中世以降の土坑出土遺物 1
図版 33　中世以降の土坑出土遺物 2
図版 34　1．中世以降の土坑出土遺物 3　2．495 号土坑出土遺物
図版 35　1．17 号井戸跡出土遺物　2．20 号溝跡出土遺物
図版 36　1．22 号溝跡出土遺物　2．旧石器時代遺構外出土遺物
図版 37　縄文時代遺構外出土遺物 1
図版 38　縄文時代遺構外出土遺物 2
図版 39　縄文時代遺構外出土遺物 3
図版 40　1．弥生時代後期～平安時代遺構外出土遺物　2．中世以降の遺構外出土遺物
図版 41　人骨写真
図版 42　馬歯写真

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.05㎢（註１）、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

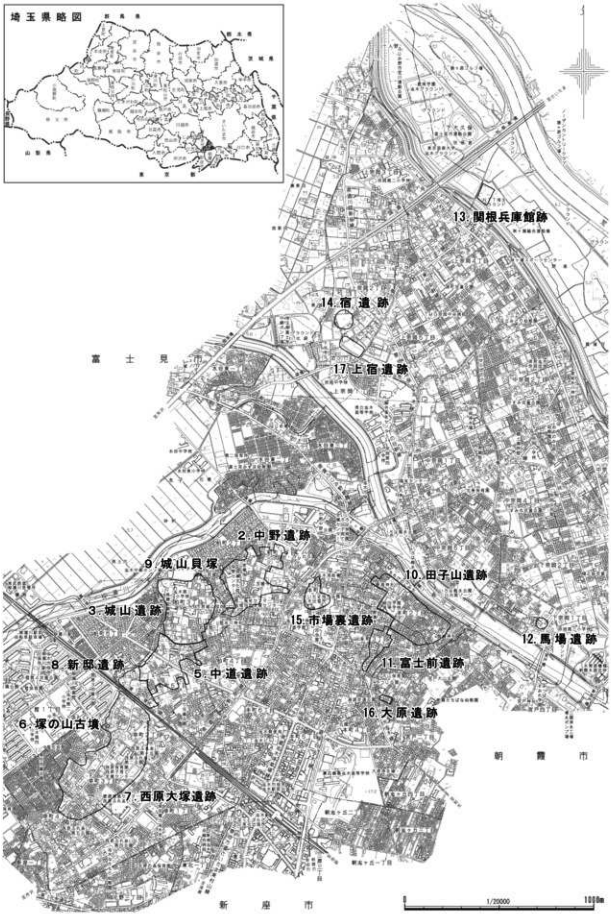
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成 30 年 12 月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 13 遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた 15 遺跡である（第１図・第１表）。

№.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	70.950 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、人骨等
3	城山	82.100 ㎡	畑・宅地	城館跡 集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中～後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	54.420 ㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚ノ山古墳	800 ㎡	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	164.960 ㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20.080 ㎡	畑・宅地	貝塚 集落跡 墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 ㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、貝、縄文土器
10	田子山	74.030 ㎡	畑・宅地	集落跡 墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14.830 ㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平、近世以降	住居跡、土坑？溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬場	2.800 ㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4.900 ㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7.700 ㎡	水田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13.800 ㎡	宅地	集落跡 墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1.700 ㎡	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
17	上宿	8.600 ㎡	水田・宅地	集落跡	平、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合計		522.570 ㎡					

令和３年４月１日 現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観して見ることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年度の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２ヶ所、平成７（1995）年度には１ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第224地点で、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土しており、平成27（2016）年に発掘調査が実施された第91㊿地点からは、礫群１基が検出された。

また、城山遺跡では、平成12・13（2000・2001）年度に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２ヶ所、礫群９基が検出された。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期後葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器３点、同第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点から、

前期後葉の諸磯ａ式期で、貝層をもつ住居跡が４軒検出され、貝類としては、ヤマトシジミ・マガキが主体であった。また、平成２（1990）年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で 200 軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が１軒確認されているが、平成 27（2015）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第 76 地点からは、加曽利Ｅ４式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡の西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所が検出されている。平成 25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 85 地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成５・６（1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。平成 26（2014）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 204 地点や平成 27・28（2015・2016）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 91 地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 216 地点から、堀之内１式期の住居跡１軒と遺物包含層が検出され、良好な土器・石器が出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行Ⅲ Ｃ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 96 地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高杯、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁などが良好な状態で出土している。

後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されており、中でも、平成 27（2015）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 91 地点では、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が検出されている。平成５・６（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点の 21 号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約 620 軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122 号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。また、平成 24（2012）年度に発掘調査が実施された第 179 地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鈴が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることが注目される。また、平成11（1999）年度に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20ｍを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の二重口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺が出土している。なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品１点と、西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土の鳥形土製品１点と壺形土器４点の計６点は、考古資料として平成25（2013）年３月１日付けで市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年度に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年度に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加を見る。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、７世紀前葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5ｍの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他、ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後葉から７世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で260軒を超え、次いで中野遺跡で約60軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7ｍの不整円形で２ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33ｍの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見が期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第 35 地点の 128 号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成 20・21（2008・2009）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 62 地点では、平安時代の 241 号住居跡から皇朝十二銭の一つである富寿神寶（ふじゅしんぽう）２枚とその付近から鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年度に発掘調査が実施された第 24 地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして 100 基を越える土坑群が検出されている。平成５・６（1993・1994）年度に発掘調査が実施された第 31 地点の 44 号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）と南比企窯跡群（鳩山町）の２ヶ所で生産された須恵器坏が共伴して出土しており、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡 128 号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と、城山遺跡 241 号住居跡出土の富寿神寶ほか２点の遺物は、考古資料として平成 25（2013）年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻回雑記』（註３）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1978・2002）。

平成７（1995）年度に発掘調査が実施された第 29 地点の 127 号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

また、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第 35 地点では、鋳造関連の遺構が検出されている。130 号土坑については鋳造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成 27・28（2015・2016）年度に発掘調査が実施された第 89 地点の調査により、第 35 地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

さらに、平成 13（2001）年度に発掘調査が実施された第 42 地点では、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土

坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札（そね）である鉄製品1点と鉄鏃1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け、横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑の他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面から、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。この「T字形」の火葬土坑は、平成29（2017）年度に発掘調査が実施された第102地点でも検出され、こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯の遺構が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。最新では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点でも、T字形」の火葬土坑2基が検出されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年度に発掘調査が実施された第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年度に発掘調査が実施された第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年度に発掘調査が実施された第1地点で検出された段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺（しょうりんざんかんのんじ）大受院（だいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された第74地点では、段切状遺構の平場から多数のピット・溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

7．近代以降

近代以降の遺跡では、平成5・6（1993・1994）年度に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年度に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する中野遺跡について概観することにする。

中野遺跡は、志木市柏町一丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約 1.2㎞に位置している。遺跡は柳瀬川流域右岸の台地上に立地しており、標高は北端で約９m、南端で約 11 mを測り、台地縁辺では際立った断崖も見られないまま、緩やかに北側の低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

本遺跡は、これまでに 119 地点の調査（令和３年４月１日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代早期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

［註］

註１　平成 26 年度「全国都道府県市区町村別面積調」により 9.06㎢から 9.05㎢に変更された。

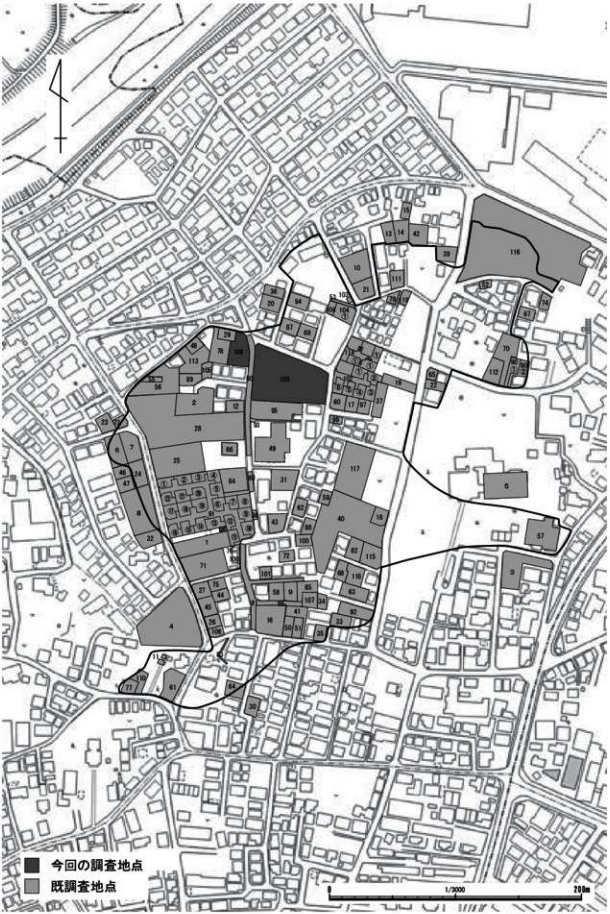
註２　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒（なかつね）が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）６月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1978「『廻回雑記』に現れる大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号　志木市郷土史研究会

2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号　志木市郷土史研究会



令和3年4月1日現在

第２図　中野遺跡の調査地点（１／3,000）

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成31年２月、ＪＡあさか野から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町一丁目1491－１、1492－１、1493－２（面積2,410.37㎡）地における個人の相続手続きのために土地の売却等を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

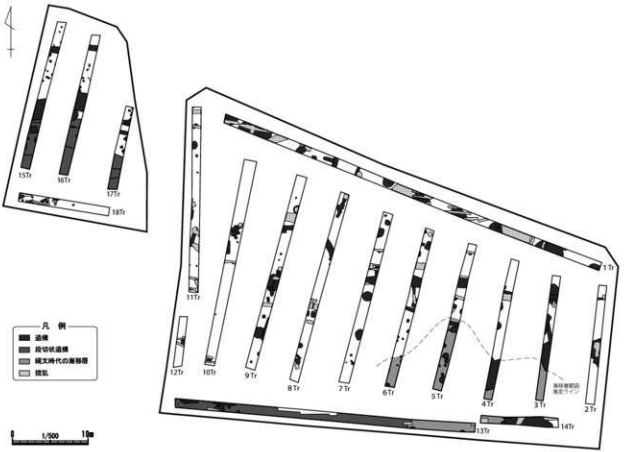
平成31年２月22日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第109地点として、３月18～20・22日に確認調査を実施した。土木工事の内容は、分譲住宅建設を実施しようとするものであった。確認調査は、第３図に示すように大きく２ヶ所の調査区にトレンチ（１～18Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡５軒・土坑14基、古墳～平安時代の住居跡７軒、中世以降の土坑57基・地下室１基・溝跡５本・段切状遺構１ヶ所、その他ピット90本を確認した。教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

その後、令和元年10月、個人の代理であるＪＡあさか野から連絡があったため、保存措置についての事前打合せを実施した。その結果、道路新設工事及び宅地部分全棟で地盤改良を実施する計画であり、盛土保存を適用することができないことを確認したため、敷地全面の発掘調査を実施することに決定した。

令和元年11月13日、教育委員会は土木工事主体者である個人より埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出されたため、発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

12月12日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織の三者により事前協議を実施し、同日、中野遺跡第109地点埋蔵文化財保存事業に係る協定を土木工事主体者である個人、教育委員会、大成エンジニアリング株式会社（代表取締役　石川　勇）の三者により締結した。

教育委員会は同日、12月12日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に12月24日から発掘調査を実施した。



第３図　確認調査時の遺構分布（１／500）

第２節　発掘調査の経過

発掘調査は、令和元年12月24日から令和２年６月22日まで実施した。調査に際しては、調査地点内に南北方向に延びる市道西側を１区、市道東側の東半部を２区、西半部を３区と区分し（第４図）、１区→２区→３区の順で調査を進行させる計画とした。

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

12月24日　調査実施の準備段階として安全柵の設置を開始する。

1月　7日　重機（バックホー）による１区表土剥ぎ作業を開始する。残土については一時的に調査区南側に仮置きし、後日場外搬出することとした。表土剥ぎ作業中に人員を動員し、並行して場内整備及び遺構確認作業を行う。

8日　１区表土剥ぎ作業２日目。午前中は雨天のため、場内整備のみ行い、午後から表土剥ぎ及び遺構確認作業を再開する。また、調査区南側に仮置きしていた残土の場外搬出を開始する。残土は最後に調査する３区に置き、１区調査終了後に再度搬入を行うこととした。

9日　１区表土剥ぎ作業３日目。並行して残土の場外搬出及び遺構確認作業も行う。

10日　１区表土剥ぎ作業４日目。表土剥ぎ作業は遺構掘削土搬出のために掘り残した南東部を

残して完了したため、遺構確認作業終了後、遺構検出状況の写真撮影を行う。また、１区北側にある三角点からの基準点・水準点移動も行った。

14 日　古墳時代後期の溝跡（19 M）、中世以降の道路状遺構（１道）などの精査を開始する。

1月　中旬　中世以降の段切状遺構（１・２段）・井戸跡（16 W）などの精査を行う。

1月 31 日　１区完掘全景写真撮影及び調査区東・西壁土層断面の写真撮影・写真測量を行う。並行して２区の除草作業を行った後、２区調査区設定を行う。

2月　3日　場外搬出路として掘り残していた１区南東部の表土剥ぎ及び当該部の遺構確認・精査を行った後、１区等高線図作成のための測量作業を行う。並行してローム漸移層が残存する１区北側に南北方向の土層観察用ベルトを１ヶ所設定し、ローム層までの掘削を開始する。

2月　4日　旧石器確認調査のための試掘坑（ＴＰ１・２、規模２ｍ×２ｍ）の精査を開始する。並行して重機（バックホー）による２区表土剥ぎ作業を開始する。

2月　7日　ＴＰ１・２を共に立川ローム第Ⅹ層まで掘り下げ、壁面土層観察・分層を行った後、写真撮影・写真測量を行う。なお、旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。２区表土剥ぎ作業は本日で全面完了した。

2月 10 日　２区遺構確認作業を調査区東側から開始する。並行して重機（バックホー・ダンプカー）を用いて、１区埋戻し作業を開始する。

2月 12 日　２区遺構確認作業２日目。１区埋戻し作業は本日で全面完了した。

2月 13 日　２区遺構確認作業３日目。１区埋戻し状況を土木工事主体者に立会確認していただき、完了の了承をいただく。

2月 14 日　ドローンを用いて２区検出全景写真撮影を行う。また、２区遺構測量用に基準杭３点を調査区外に打設し、調査区上・下端の平面測量及び等高線図作成のための測量作業を行う。

2月　中旬　古墳時代後期の住居跡（86 H）、中世以降の溝跡（20 M）・土坑墓（478 D）などの精査を行う。478 Dからは人骨と共に銭貨（新寛永）が出土した。

2月　下旬　弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（32 Y）、平安時代の住居跡（87 H）、20 Mなどの精査を行う。

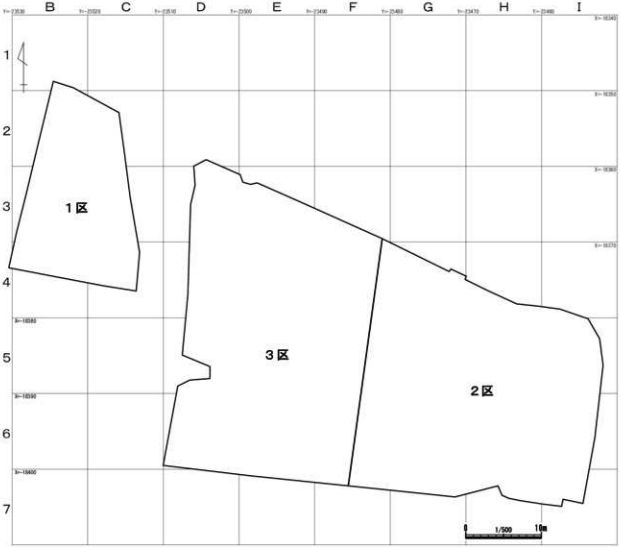
2月 27 日　古墳時代後期の住居跡（88 H）の精査を開始する。なお、88 Hは完形土器が多数出土し、遺存状況が良好であった。

3月　上旬　88 H、20 M、平安時代の住居跡（89 H）、中世以降の土坑墓（492 D）・地下式坑（495 D）などの精査を行う。495 Dは検出時、方形のプランであることから住居跡と想定していたが、掘り進めた結果、地下式坑と判明した。

3月　中旬　88・89 H、20 M、495 Dなどの精査を継続して行うほか、中世以降の土坑墓３基（503 D～ 505 D）の精査を行う。20 M覆土上層からウマ遺体（上下顎骨及び歯）が出土した。

3月 26 日　ドローンを用いて２区完掘全景写真撮影を行う。写真撮影終了後、旧石器確認調査のための試掘坑（ＴＰ３～８、規模２ｍ×２ｍ）を設定し、精査を開始する。並行して 86・87・89 Hの掘方調査を行う。

3月 31 日　継続してＴＰ３～８の精査を行う。並行して 88 Hの掘方調査、中世以降の地下式坑（491 D）の断割り調査を開始する。



第４図　調査区配置図（１／500）

4月　上旬　継続してＴＰ３～８の精査を行う。並行して基本層序の確認も兼ねて縄文時代の陥穴（493 D）及び 491 Dの断割り調査を行う。また、調査終了箇所から２区埋戻し作業を開始する。

4月　6日　ＴＰ３～８の精査が完了した。立川ローム第Ｘ層に達するまで掘削を行ったが、６ヶ所いずれからも旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。

4月　8日　２区埋戻し作業が完了し、２区から３区への調査区変更に向けた場内整備を行う。

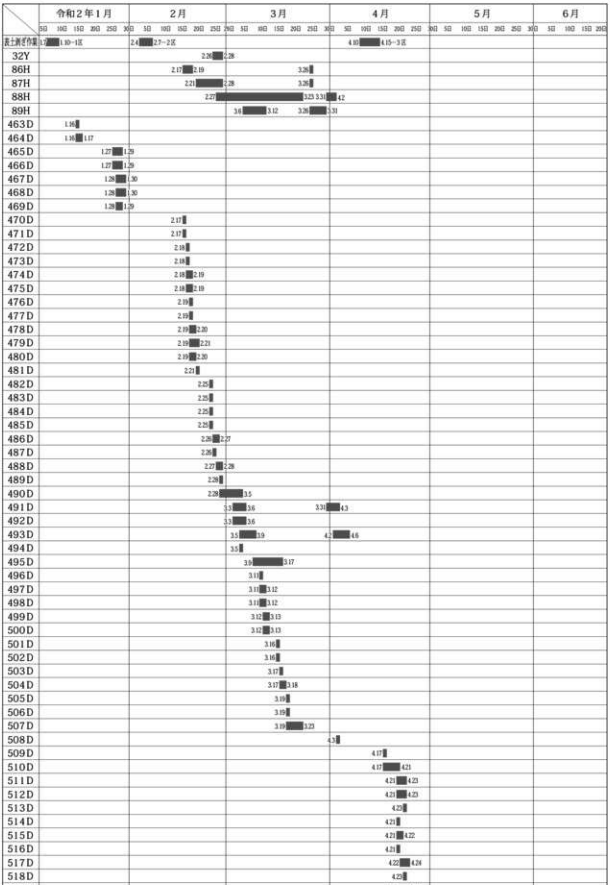
4月 10日　重機（バックホー）による３区表土剥ぎ作業を開始する。並行して電気工事の他、場内整備を行う。

4月 15日　３区表土剥ぎ作業を完了する。３区遺構確認作業を調査区南側から開始する。

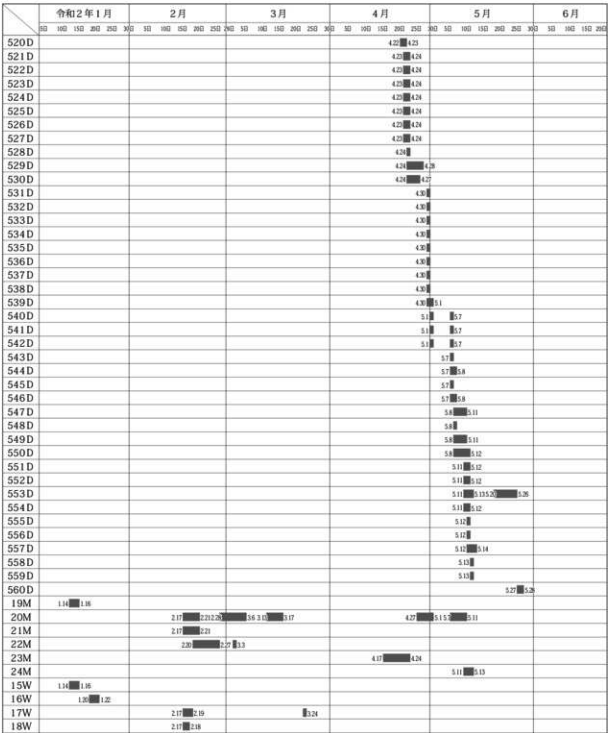
4月 17日　ドローンを用いて３区検出全景写真撮影を行う。

4月　下旬　20 M、縄文時代の炉穴（65 ＦＰ）、平安時代の土坑（521 ～526 D）などの精査を行う。３区は近世以降の畝状遺構が多く確認され、遺構の遺存状態が悪い。

5月　中旬　中世以降の地下式坑（553 D）などの精査を行う。並行して３区完掘全景写真撮影に向けた全体清掃と等高線図作成のための測量作業を行う。



第２表　中野遺跡第 109 地点の発掘調査工程表（１）



第２表　中野遺跡第 109 地点の発掘調査工程表（２）

5月 20日　ドローンを用いて３区完掘全景写真撮影を行う。写真撮影終了後、旧石器確認調査のための試掘坑（ＴＰ９～14、規模２ｍ×２ｍ）を設定し、精査を開始する。並行して553Ｄの断割り調査を行う。

5月　下旬　継続してＴＰ９～14の精査及び553Ｄの断割り調査を行う。並行してローム漸移層が残存する範囲の掘下げ作業を行う。

5月 29日　ローム漸移層残存範囲の掘下げ時に、黒曜石の剥片が１点出土したため、出土地点を中心部とした試掘坑（ＴＰ 15、規模３ｍ×３ｍ）を新たに設定し、精査を開始する。

6月　1日　ＴＰ９～14の精査を完了する。立川ローム第Ｘ層に達するまで掘削を行ったが、６ヶ所いずれからも旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかったが、別途に設定したＴＰ15において旧石器時代の石器集中地点（４Ｕ）を確認した。また、調査終了箇所から３区埋戻し作業を開始する。

6月　上旬　４Ｕの旧石器出土状況に準じて適宜ＴＰ15を拡張し、精査を継続して行う。最終的にＴＰ15は変則的な方形となり、規模は東西約6.9m×南北約6.8mとなった。

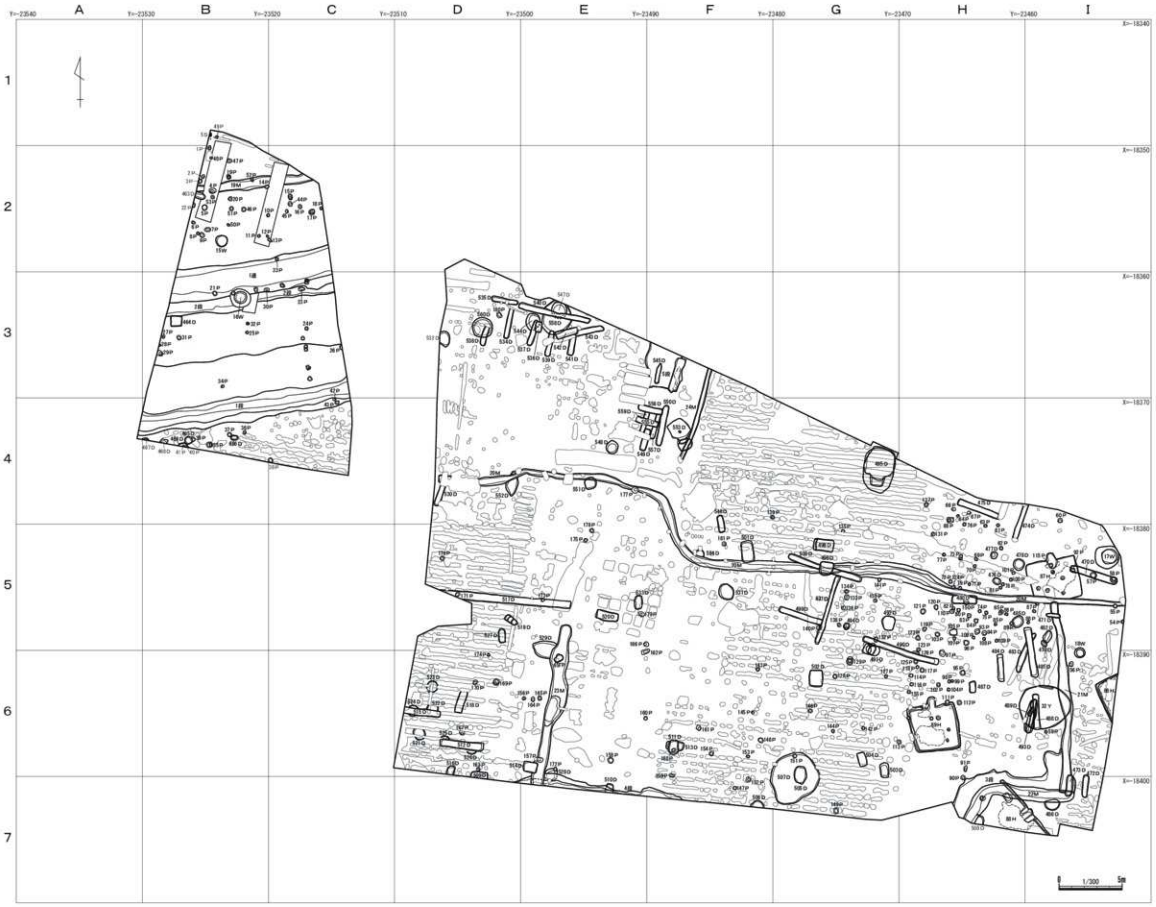
6月 15日　４Ｕ出土遺物の記録作業・取上げ及びＴＰ15壁面土層の記録作業を終えた後、特に遺物が集中していた箇所に、試掘坑（ＴＰ16、規模２ｍ×２ｍ）を追加設定し、立川ローム第Ⅸ層上部まで掘下げを行う。最終的に立川ローム第Ⅶ層上部まで旧石器の出土が確認された。

6月 16日　３区埋戻し作業が完了した。撤収工については22日に全作業が完了した。

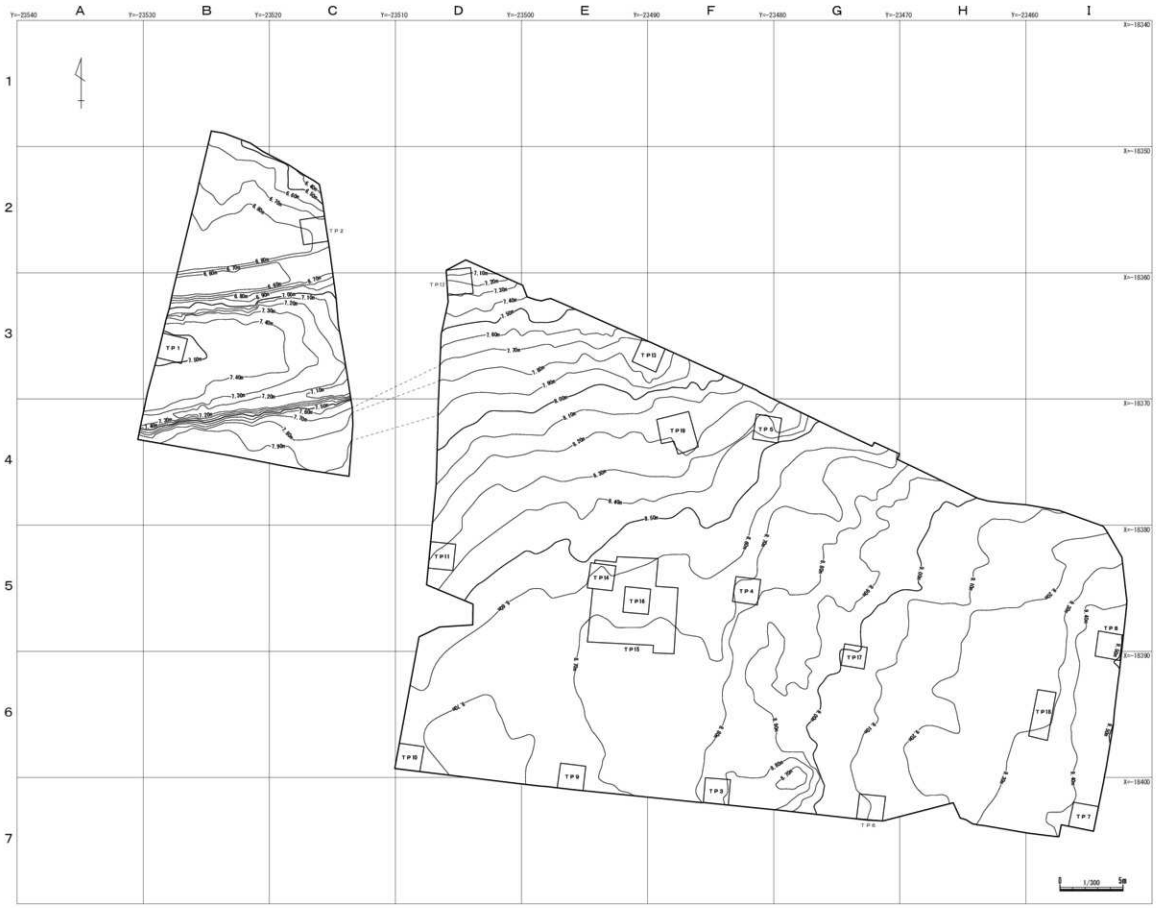
第３節　基本層序と地形

基本層序の確認と旧石器時代の調査のため、２ｍ×２ｍを基本形とした試掘坑（ＴＰ１～16）を16ヶ所設定した。また、491・493・553Ｄの断割り調査時に、別途３ヶ所の試掘坑（ＴＰ17～19）を設定し、試掘坑は計19ヶ所となった（第７図）。試掘坑はそれぞれ立川ローム第Ｘ層が確認されるまで掘削を行い、本報告書Ⅲ層～Ｘ層は、立川ローム第Ⅲ層～Ｘ層に対応する。なお、第Ⅷ層は確認されなかった。遺構確認面は概ねⅢ層であるが、１区北側はローム漸移層が残っていたため、Ⅱ層下部で遺構確認を行った。また、２区西側と３区南側は全体に削平されていたため、立川ローム第Ⅲ層下部～Ⅳ層上部で遺構確認を行った。

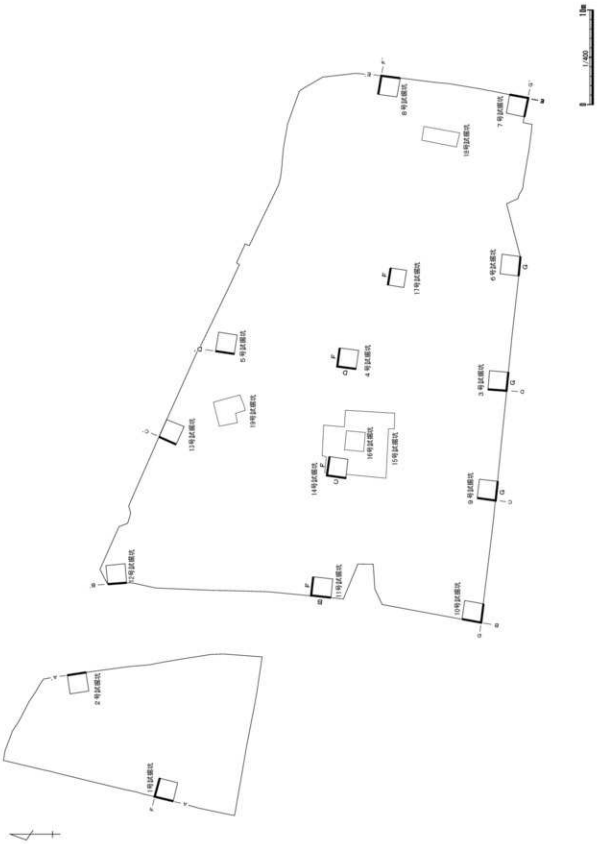
第６・８・９図に示した等高線図・基本層序にあるように、本調査地点は南東から北西方向に緩やかに傾斜する緩斜面地で、北西部に向かうにつれ、勾配が大きくなり、東西の比高差は3.1ｍを測る。なお、１区南半部は中世以降の段切状遺構により、大規模に切土造成されており、現地形を残していないが、ＴＰ１・11の立川ローム層の堆積状況から、２・３区と同様に南東から北西方向に向かい、緩やかに傾斜する地形であったことが推測される。



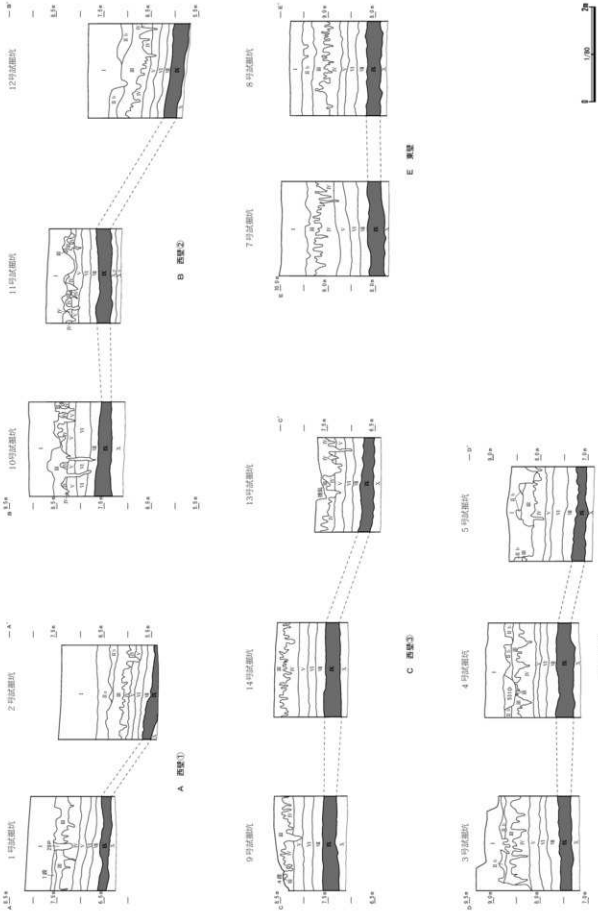
第５図　遺構全体図（１／300）



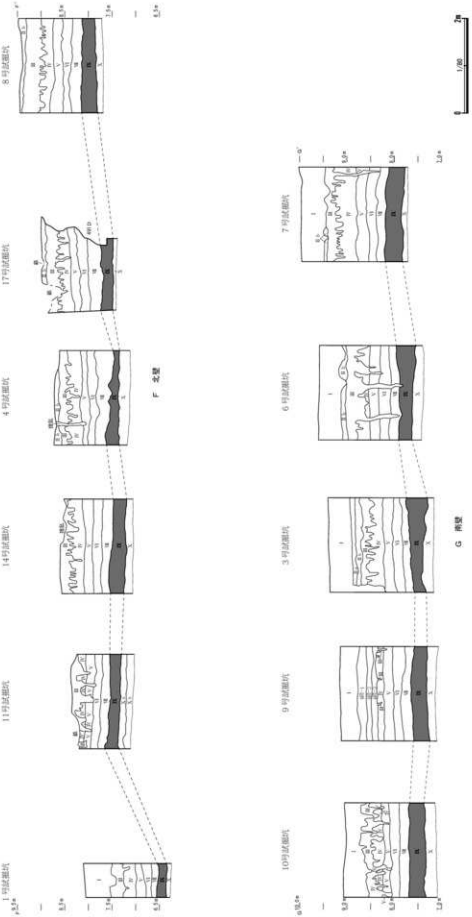
第６図　等高線図（１／300）



第７図　試掘坑配置図（１／400）



第８図　基本層序１（１／80）



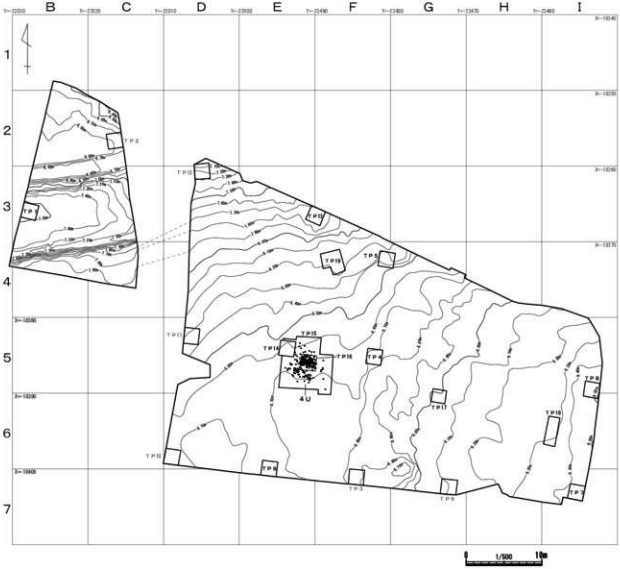
第９図　基本層序２（１／80）

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代の遺構・遺物

（１）概　要

基本層序の確認も兼ねた旧石器試掘坑（ＴＰ１～19）を計19ヶ所設定し（第７図）、精査を行った結果、15号試掘坑（ＴＰ15）において、石器集中地点１ヶ所（４Ｕ）が検出された。なお、その他の試掘坑からの石器の出土は確認されなかった。



第10図　旧石器時代遺構全体図（１／500）

（２）石器集中地点

４号石器集中地点

遺　構（第 11 ～ 16 図）

［位　　置］（Ｅ・Ｆ－５）グリッド。

［検出状況］上面は中世以降の土坑２基（520・533 Ｄ）・ピット（179 Ｐ）の他、多数の攪乱により削平されていたが、これらの掘り込みは深いものでも立川ローム第Ⅳ層上端部に達する程度であり、本遺構への影響は軽微なものと推測される。

［構　　造］**規模：**東西方向 5.07m、南北方向 5.23m の範囲で石器の分布が確認された。適宜、拡張を続けたため、概ね本石器集中地点の全体を精査できたと考えられる。石器の分布は立川ローム第Ⅲ層下部からⅦ層上部にかけて広がり、比高差 60 ～ 75㎝とやや上下幅が見られるが、使用石材が限定的で、且つ接合関係が多く認められることから、文化層は１枚として捉えることとした。石器の分布は立川ローム第Ⅳ層下部からⅤ層下部に集中する傾向が認められる。

［遺　　物］石器の総点数は 282 点で、調整剥片２点、石核３点、剥片 221 点、砕片 55 点、敲石１点が出土した。石質別では、黒曜石 177 点、赤色頁岩 64 点、頁岩 35 点、安山岩２点、黒色頁岩１点、砂岩１点、チャート１点、ホルンフェルス１点となり、黒曜石・赤色頁岩・頁岩の３種の石材が主体となる状況である。

以下に、主要３石材の分布状況を述べる。黒曜石の分布は４Ｕ中央部一帯に広がり、その範囲は東西方向 3.88m、南北方向 4.20m を測る。層位的には、立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅵ層上部にかけて広がりを見せるが、分布の中心は立川ローム第Ⅴ層にあり、全体の約７割は同層中から出土している。また、石核・砕片・微細剥片は分布の中心域にまとまる傾向にある。

赤色頁岩の分布は４Ｕ中央部南西寄りに集中する傾向にあり、その範囲は東西方向 3.96m、南北方向 1.12m を測る。層位的には立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅵ層上部にかけて広がりを見せ、主要３石材の中では最も高低差が見られる。

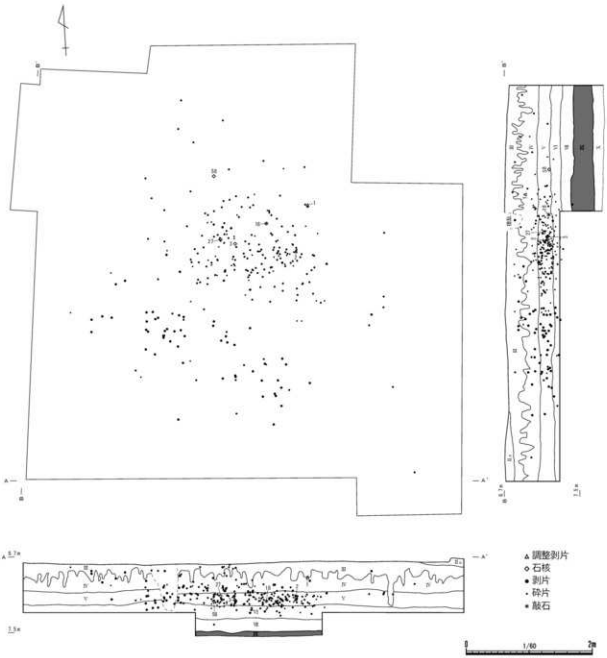
頁岩の分布は４Ｕ中央部に比較的小さくまとまる傾向にあり、その範囲は東西方向 1.88m、南北方向 1.08m を測る。層位的にも立川ローム第Ⅳ層下部から第Ⅴ層下部にかけて比高差 30㎝前後の範囲内に概ねまとまる。

遺　物（第 17 ～ 28 図、図版 18 ～ 23、第３表）

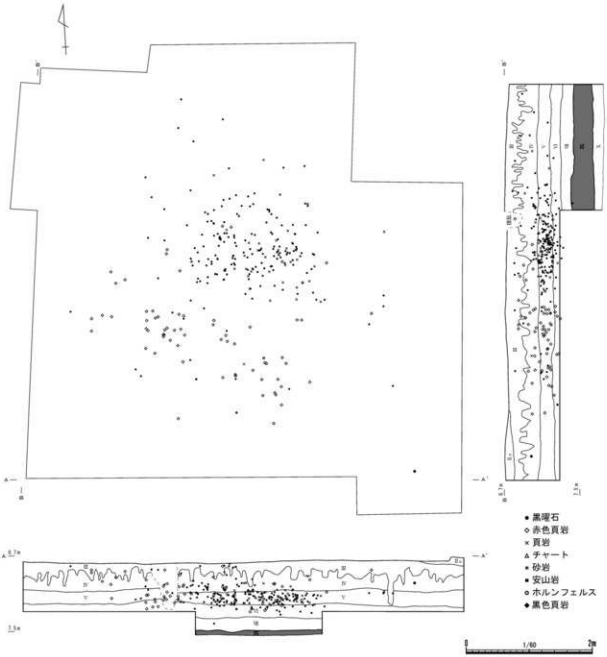
［石　　器］（第 17 ～ 28 図１～ 66、図版 18 ～ 23 －１～ 66、第３表）

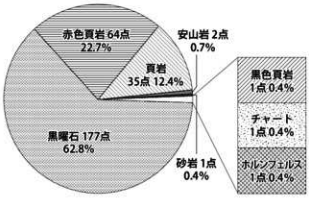
１・２はナイフ形石器または角錐状石器の先端部調整剥片で、石質は頁岩である。３は黒曜石製の石核である。４～ 17 は剥片で、石質は４～８が黒曜石、９～ 14 が赤色頁岩である。15 は安山岩製の縦長剥片、16 は黒色頁岩製の横長剥片、17 はチャート製の横長剥片である。18 は砂岩製の敲石で、製品の出土はこの１点のみである。

19 ～ 36 は黒曜石製の石核・剥片接合資料、37 ～ 53 は赤色頁岩製の剥片接合資料である。54 ～ 66 は頁岩製の石核・剥片接合資料で、全て同一母岩から作出されたと考えられる。

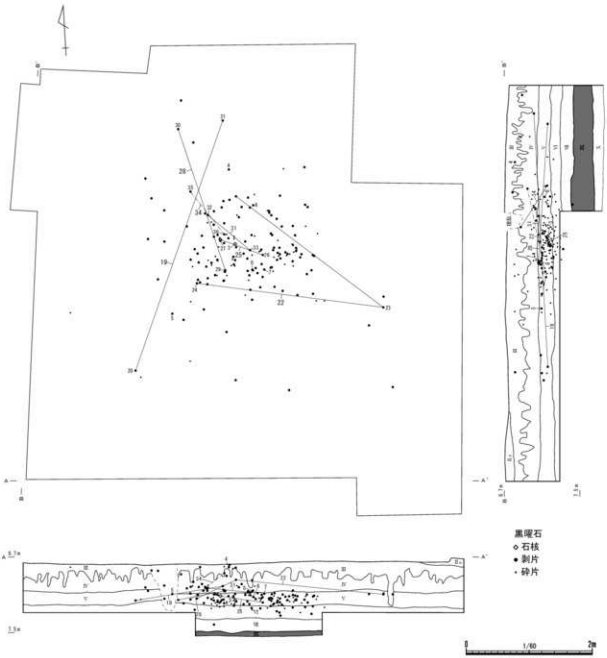


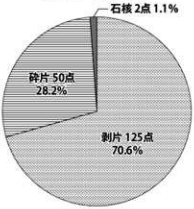
第 11 図　４号石器集中地点　器種別分布図（１／60）



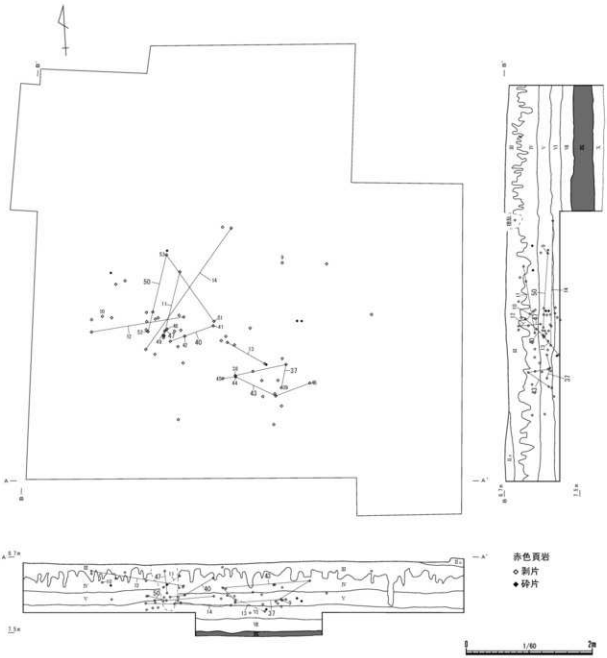


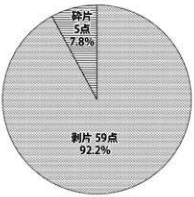
第 12 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 1（1／60）



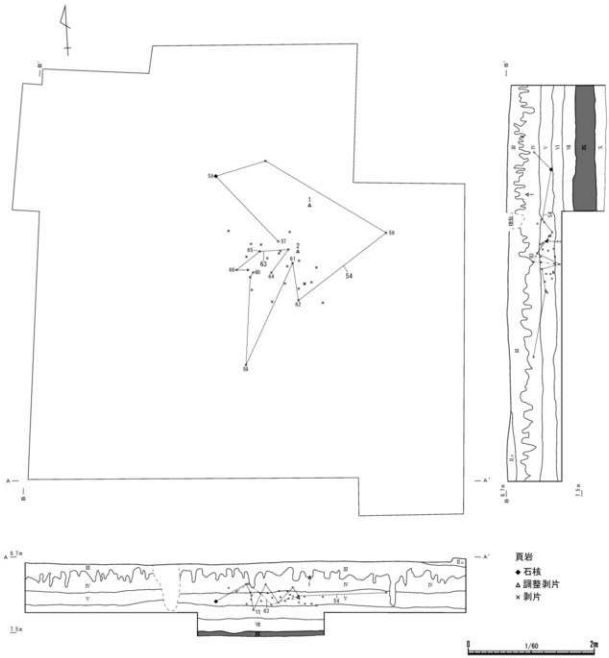


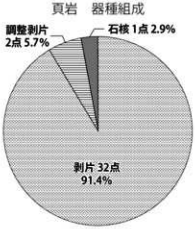
第 13 図　4 号石器集中地点　石材別分布図２（黒曜石）（1 ／ 60）



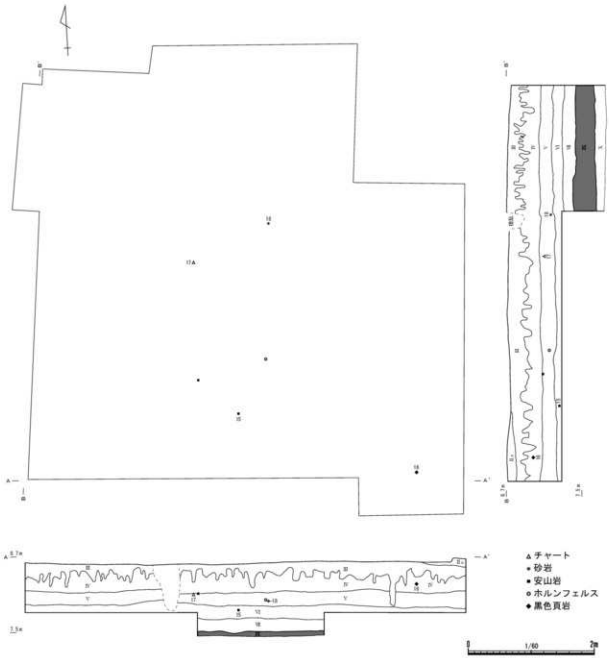


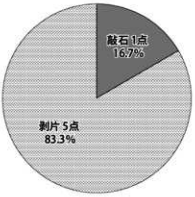
第 14 図　4号石器集中地点　石材別分布図３（赤色頁岩）（１／60）





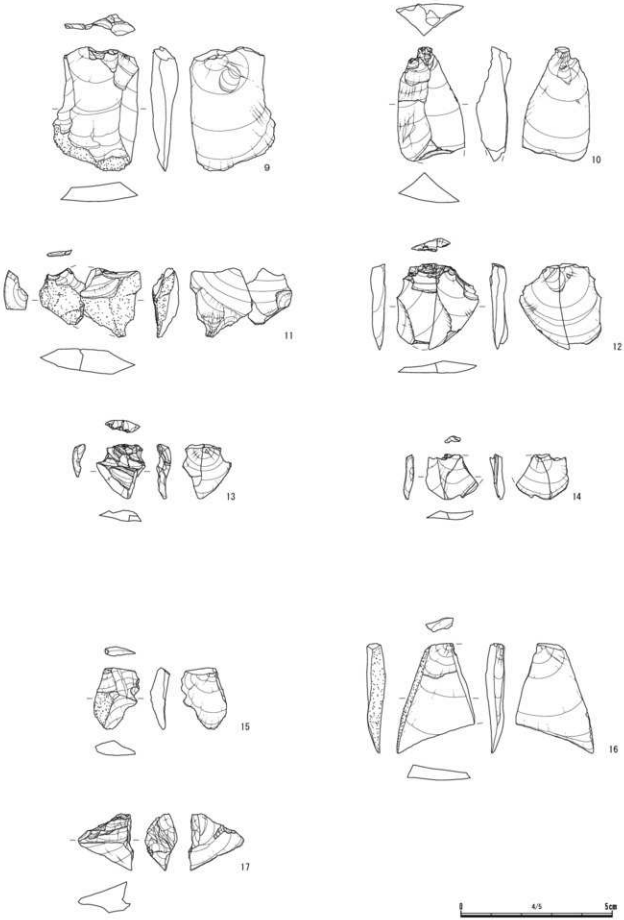
第 15 図　4 号石器集中地点　石材別分布図 4（頁岩）（1 ／ 60）



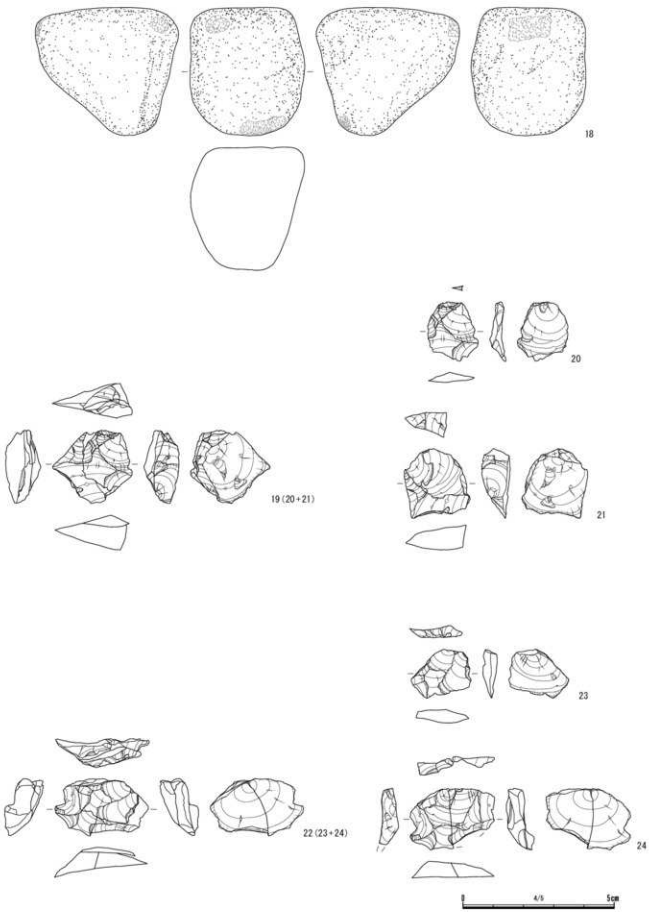


第 16 図　4 号石器集中地点　石材別分布図５（その他石材）（1 ／ 60）

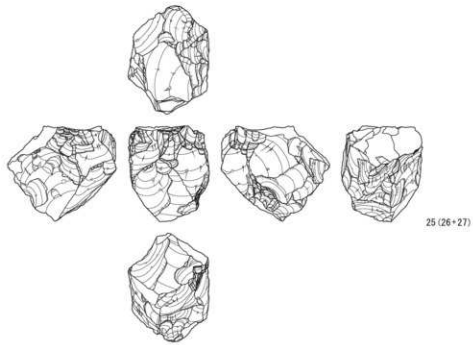
第 17 図　４号石器集中地点出土遺物１（４／５）

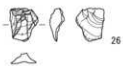


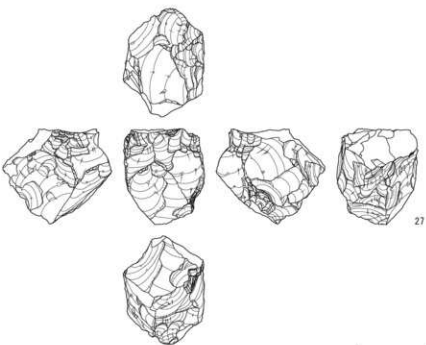
第 18 図　４号石器集中地点出土遺物２（４／５）



第 19 図　４号石器集中地点出土遺物３（４／５）

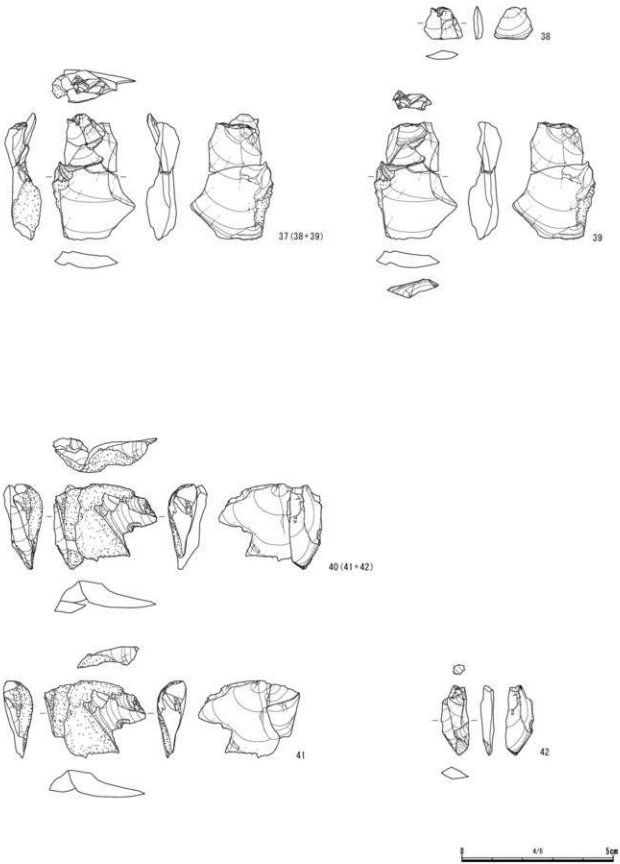




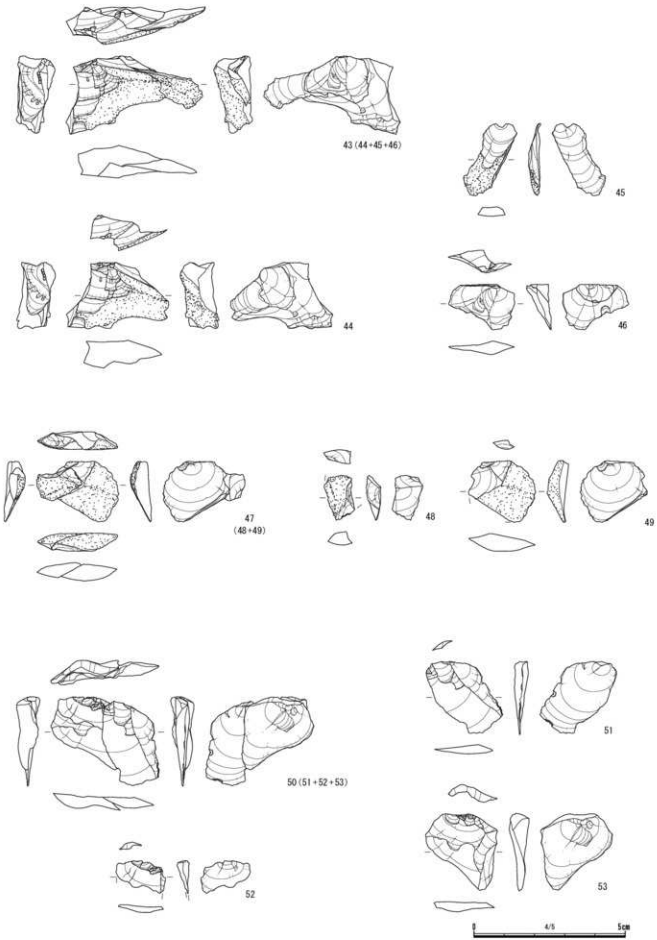


第 20 図　4 号石器集中地点出土遺物 4（4／5）

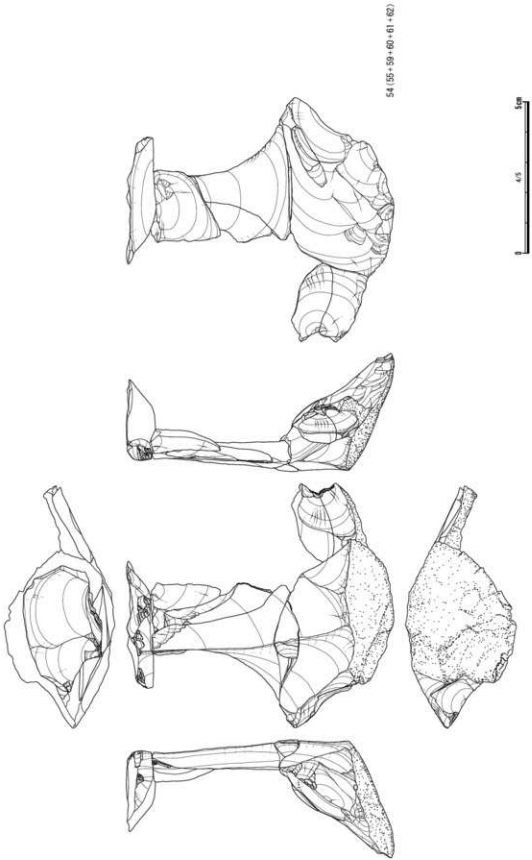
第21図　４号石器集中地点出土遺物５（４／５）



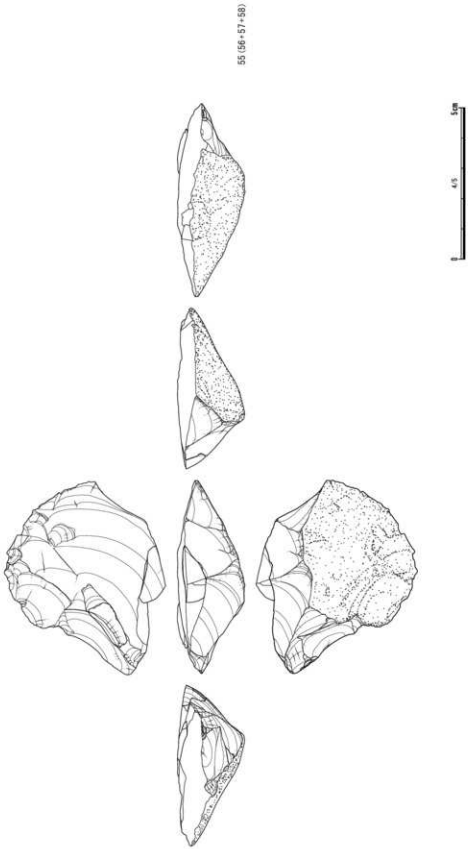
第 22 図　４号石器集中地点出土遺物６（４／５）



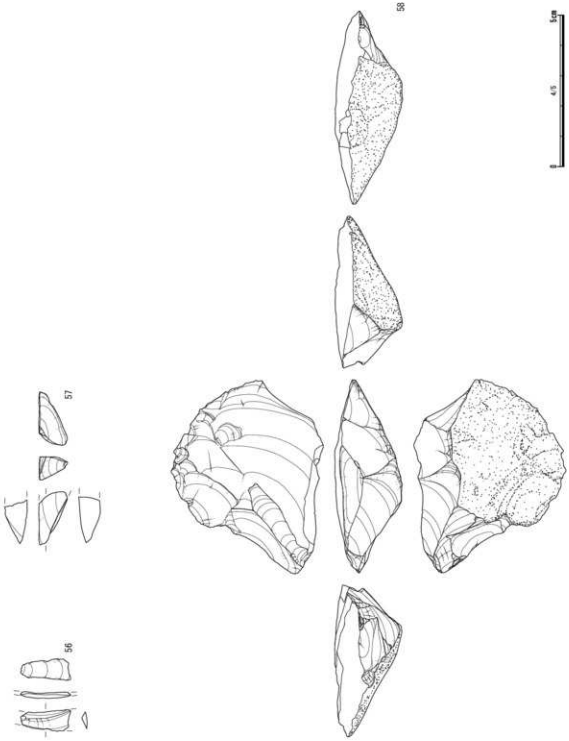
第23図　４号石器集中地点出土遺物７（４／５）



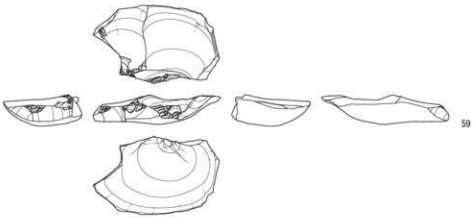
第24図　4号石器集中地点出土遺物８（４／５）

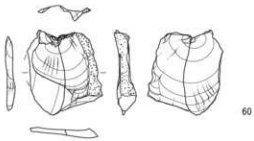


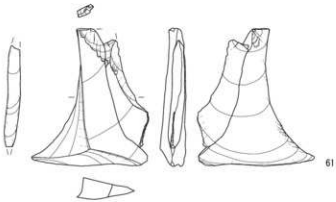
第25図　４号石器集中地点出土遺物９（４／５）

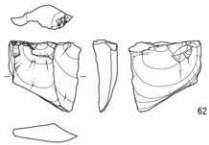


第26図　4号石器集中地点出土遺物10（4／5）

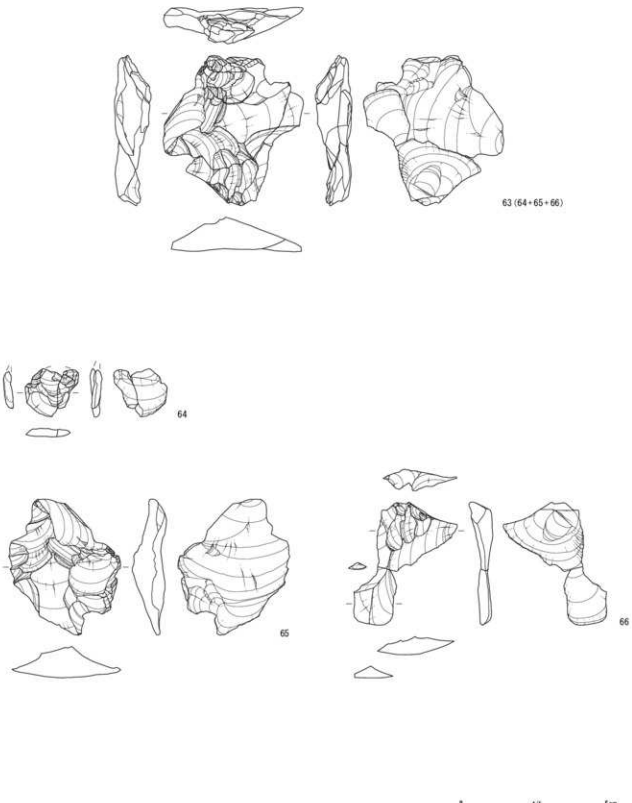








第 27 図　４号石器集中地点出土遺物 11（４／５）



第 28 図　４号石器集中地点出土遺物 12（４／５）

掲図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第17図1 図版18-1	調整剥片	買岩	1.43	0.58	0.46	0.37	ナイフ形石器または角錐状石器の先端部の再生剥片か／打面・左側面欠損／剥離時に同時割れの可能性あり
第17図2 図版18-2	調整剥片	買岩	2.32	0.83	0.68	1.13	ナイフ形石器または角錐状石器の先端部の再生剥片か／下端部欠損
第17図3 図版18-3	石核	黒曜石	2.18	3.31	1.66	11.59	残核か／先行作業面を打面として、縦繋に打面転位しながら横長剥片を剥離
第17図4 図版18-4	剥片	黒曜石	2.61	2.36	0.97	4.20	不定形横長剥片／背面稜成近、左側面に大きく残った主縁剥離面を打面とした左方向からの剥片剥離の痕跡あり／打面転位しながら剥離が行われる
第17図5 図版18-5	剥片	黒曜石	3.17	3.11	0.71	5.29	不定形剥片
第17図6 図版18-6	剥片	黒曜石	1.73	2.33	0.76	1.93	不定形横長剥片
第17図7 図版18-7	剥片	黒曜石	2.19	2.32	0.52	1.59	不定形縦長剥片／下端部欠損
第17図8 図版18-8	剥片	黒曜石	3.01	2.53	0.66	4.15	不定形縦長剥片／左右側縁部一部欠損
第18図9 図版18-9	剥片	赤色買岩	4.09	2.83	0.91	9.11	石刃様の縦長剥片／背面に原礫面を一部残す／頭部調整
第18図10 図版18-10	剥片	赤色買岩	3.77	2.21	1.14	5.97	不定形縦長剥片／下端部欠損またはステップフラクチャー／剥離開始部に頭部調整
第18図11 図版18-11	剥片	赤色買岩	2.28	3.35	0.87	5.29	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／打面・下端部欠損／背面に原礫面を1/2以上残す／礫面除去時に作出
第18図12 図版18-12	剥片	赤色買岩	2.84	2.70	0.58	2.96	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／下端部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／剥離開始部に頭部調整
第18図13 図版18-13	剥片	赤色買岩	1.80	1.61	0.47	0.88	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／剥離時に同時割れの可能性あり／剥離開始部・打面部に頭部調整
第18図14 図版18-14	剥片	赤色買岩	1.49	1.73	0.48	0.65	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／右側縁部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／打面調整
第18図15 図版19-15	剥片	公山岩	2.02	1.49	0.64	1.35	不定形縦長剥片／背面に原礫面を一部残す
第18図16 図版19-16	剥片	黒色買岩	3.63	2.42	0.61	4.37	不定形縦長剥片／右側縁部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／背面左側縁部に原礫面を残す
第18図17 図版19-17	剥片	チャート	1.86	1.82	1.05	2.04	不定形横長剥片
第19図18 図版19-18	敲石	砂岩	4.22	3.79	4.73	106.37	亀裂／亜角礫素材／稜状部を敲打面に使用
第19図19 図版19-19	接合資料 20＋21	黒曜石	2.41	2.62	1.16	4.44	「20→A→21→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／20・21は同一打面から剥離／背面は多方面からの剥離で構成され、打面転位しながら剥離が行われる
第19図20 図版19-20	剥片	黒曜石	1.95	1.66	0.53	0.87	不定形横長剥片／剥離開始部に頭部調整／打面調整剥片の可能性あり
第19図21 図版19-21	剥片	黒曜石	2.30	2.17	0.94	3.57	不定形横長剥片／打面調整剥片の可能性あり
第19図22 図版19-22	接合資料 23＋24	黒曜石	1.88	3.08	1.03	3.46	「23→A→24→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／23・24は同一打面から剥離／背面は多方面からの剥離で構成され、打面転位しながら剥離が行われる
第19図23 図版19-23	剥片	黒曜石	1.62	1.98	0.46	1.04	不定形横長剥片
第19図24 図版19-24	剥片	黒曜石	2.02	2.79	0.62	2.42	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／下端部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり
第20図25 図版19-25	接合資料 26＋27	黒曜石	3.16	2.68	3.59	28.78	「26→A→27」の順に剥離／A資料は未確認／26剥離以前に作業面がステップ状になったため、Aの剥離は下端まで抜け切れず、Aの剥離を最後に作業は停止する
第20図26 図版19-26	剥片	黒曜石	1.09	0.93	0.48	0.29	不定形縦長剥片／打面側欠損
第20図27 図版19-27	石核	黒曜石	3.16	2.68	3.59	28.49	残核か／打面を定めず、平坦面を打面とし、作業面と打面を入れ替え、打面転位しながら剥離が行われる／ステップ状の作業面あり
第21図28 図版20-28	接合資料 29＋30	黒曜石	3.39	1.43	0.96	1.88	「29→A→30→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／29・30の打面の高さに7mm程の差があり、Aの段階で打面再生を行っている／背面は多方面からの剥離で構成され、打面転位しながら剥離が行われる
第21図29 図版20-29	剥片	黒曜石	2.60	1.16	0.39	0.83	不定形縦長剥片／剥離開始部に頭部調整
第21図30 図版20-30	剥片	黒曜石	2.56	1.48	0.46	1.05	不定形縦長剥片／剥離開始部に頭部調整
第21図31 図版20-31	接合資料 32＋33	黒曜石	1.83	2.81	0.82	2.36	「32→33→A」の順に剥離／A資料は未確認／32・33は同一打面から剥離／背面の剥離方向と主縁剥離面の軸がずれており、打面転位しながら剥離が行われる／打面は石核作業面の可能性あり
第21図32 図版20-32	剥片	黒曜石	1.27	1.29	0.37	0.42	不定形横長剥片／下端部欠損／打面調整剥片の可能性あり
第21図33 図版20-33	剥片	黒曜石	1.84	2.64	0.66	1.94	不定形横長剥片／打面調整剥片の可能性あり

第３表　４号石器集中地点出土石器一覧（１）

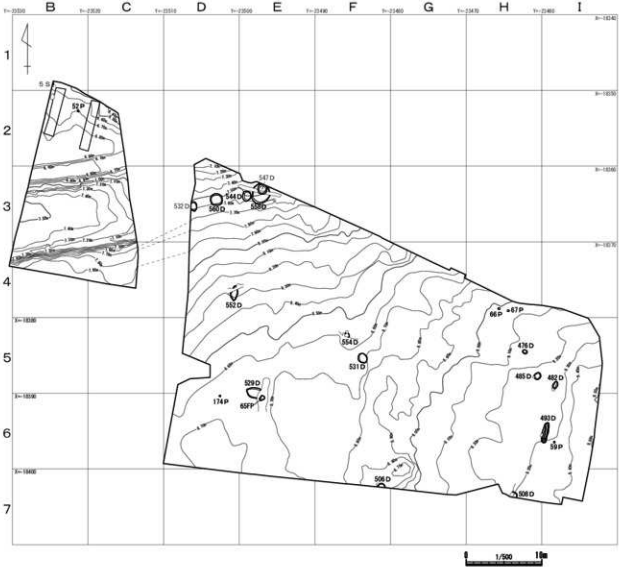
掲図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第21図34 図版20-34	接合資料 35＋36	黒曜石	3.23	2.68	1.03	8.12	「35→A→36→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／35・36は同一打面から剥離／背面は多方面からの剥離で構成され、打面転位しながら剥離が行われる
第21図35 図版20-35	剥片	黒曜石	1.98	1.61	0.62	1.73	不定形縦長剥片／下端部欠損
第21図36 図版20-36	剥片	黒曜石	3.10	2.46	0.97	6.39	不定形縦長剥片／左右側縁部欠損／剥離開始部に頭部調整
第22図37 図版20-37	接合資料 38＋39	赤色頁岩	4.16	2.49	1.01	6.57	「38→A→39→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／38・39の打面の高さに3mm程の差があり、A の段階で打面再生を行っている。礫面除去後の目的剥片剥離段階の資料
第22図38 図版20-38	剥片	赤色頁岩	1.06	1.26	0.30	0.33	不定形横長剥片／剥離開始部に頭部調整／背面左側縁に微細な剥離／線状打面／下端部はヒンジ状で主要剥離面が背面まで伸びる
第22図39 図版20-39	剥片	赤色頁岩	3.87	2.48	0.98	6.24	不定形縦長剥片／剥片１点の折れ／左側縁に原礫面を一部残す／打面調整
第22図40 図版21-40	接合資料 41＋42	赤色頁岩	2.82	3.40	1.28	4.71	「41→A→42→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／A資料で90度の打面転位が行われる
第22図41 図版21-41	剥片	赤色頁岩	2.57	2.79	0.90	3.17	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／下端部欠損／背面に原礫面を1/2以上残す／背面右側縁に連続的な微細剥離
第22図42 図版21-42	剥片	赤色頁岩	2.88	1.15	0.55	1.54	縦長剥片／右側縁部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／背面に原礫面を1/2以上残す／主要剥離面の末端部に連続的な微細剥離
第23図43 図版21-43	接合資料 44＋45＋46	赤色頁岩	2.58	4.50	1.27	8.77	「44→45→46→A」の順に剥離／A資料は未確認／同一主要剥離面を有し、44～46は同時剥離によって生成／礫面除去時に作出
第23図44 図版21-44	剥片	赤色頁岩	2.19	3.37	1.28	6.25	不定形横長剥片／背面に原礫面を1/2以上残す／剥離開始部・打面部に頭部調整／左側面は背面を打面として大きく剥離され、石核として利用された可能性あり
第23図45 図版21-45	剥片	赤色頁岩	2.37	1.05	0.40	0.84	不定形横長剥片／背面に原礫面を1/2以上残す／打点を43の主要剥離面内に有する
第23図46 図版21-46	剥片	赤色頁岩	1.49	2.18	0.82	1.68	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／剥離時に同時割れの可能性あり／表裏が主要剥離面で構成／背面側は43の主要剥離面を含む
第23図47 図版21-47	接合資料 48＋49	赤色頁岩	1.99	2.71	0.69	2.75	「48→A→49→B」の順に剥離／A・B資料は未確認／礫面除去時に作出された剥片を石核素材に使用
第23図48 図版21-48	剥片	赤色頁岩	1.48	1.01	0.48	0.63	不定形横長剥片／右側縁部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／背面に原礫面を1/2以上残す／打面は47の主要剥離面を利用
第23図49 図版21-49	剥片	赤色頁岩	2.03	2.21	0.71	2.12	不定形横長剥片／下端部欠損／背面に原礫面を1/2以上残す／主要剥離面の剥離開始部に単一の剥離
第23図50 図版21-50	接合資料 51＋52＋53	赤色頁岩	2.93	3.57	0.77	4.18	「51→A→52→B→53→C」の順に剥離／A・B・C資料は未確認／51～53は同一打面から剥離
第23図51 図版21-51	剥片	赤色頁岩	2.37	2.53	0.46	1.55	不定形横長剥片／背面下端部・主要剥離面に連続的な微細剥離
第23図52 図版21-52	剥片	赤色頁岩	1.07	1.64	0.40	0.32	不定形横長剥片／下端部欠損／剥離開始部に頭部調整
第23図53 図版21-53	剥片	赤色頁岩	2.52	2.37	0.65	2.31	不定形横長剥片／剥離開始部に頭部調整
第24図54 図版22-54	接合資料 55＋59＋60 ＋61＋62	頁岩	8.84	8.07	3.89	81.67	「①（56・57→A→58）→②（59・60→B→61→C→62→D）」の順に剥離／剥離は①・②で分割して行われる／56・57、59・60の剥離順序は不明／A・B・C・D資料は未確認／59他の剥離後、打面として61・62が剥離
第25図55 図版22-55	接合資料 56＋57＋58	頁岩	2.23	6.37	5.32	55.86	「56・57→A→58」の順に剥離／56・57の剥離順序は不明／A資料は未確認
第26図56 図版22-56	剥片	頁岩	1.65	0.71	0.21	0.21	不定形縦長剥片／打面・末端部欠損
第26図57 図版22-57	剥片	頁岩	0.94	1.75	0.76	1.09	不定形横長剥片／右側縁部欠損／下端部はヒンジ状で主要剥離面が背面まで伸びる
第26図58 図版22-58	石核	頁岩	2.23	6.37	5.02	54.56	石核調整剥片を石核に使用／下端部に原礫面を1/2以上残す／左側面が作業面／その他は59～62分割以前の剥離面
第27図59 図版23-59	剥片	頁岩	1.03	4.17	2.59	9.95	打面再生剥片／正面・右側面・上面に打面調整及び頭部調整
第27図60 図版23-60	剥片	頁岩	2.81	2.49	0.73	2.44	石核調整剥片／剥片１点の折れ／左側縁部欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／左側縁に原礫面を一部残す／剥離開始部に頭部調整
第27図61 図版23-61	剥片	頁岩	4.54	3.87	0.85	9.40	不定形縦長剥片／剥片１点の折れ／打面側欠損／剥離時に同時割れの可能性あり／右側縁下端部に連続的な微細剥離
第27図62 図版23-62	剥片	頁岩	2.33	2.39	0.81	4.02	不定形横長剥片／剥離開始部に頭部調整
第28図63 図版23-63	接合資料 64＋65＋66	頁岩	4.95	4.63	1.21	17.34	「64→A→65→B→66→C」の順に剥離／A・B・C資料は未確認／打面転位を頻繁に行う求心的剥片剥離
第28図64 図版23-64	剥片	頁岩	1.58	1.76	0.40	0.82	不定形横長剥片／剥片１点の折れ／打面側欠損／剥離開始部に頭部調整
第28図65 図版23-65	剥片	頁岩	4.49	3.69	1.13	12.52	不定形縦長剥片／線状打面
第28図66 図版23-66	剥片	頁岩	4.06	2.63	0.78	4.00	不定形縦長剥片／剥片１点の折れ／剥離開始部に頭部調整

第３表　４号石器集中地点出土石器一覧（２）

第２節　縄文時代の遺構・遺物

（１）概　要

縄文時代の遺構については、炉穴１基（65ＦＰ）・土坑15基（476・482・485・493・506・508・529・531・532・544・547・552・554・558・560Ｄ）・集石１基（５Ｓ）・ピット５本（52・59・66・67・174Ｐ）が検出された。出土遺物は、476・482・485・508・531・532・558・560Ｄで確認され、早期末葉から中期後葉の縄文土器が出土した。



第29図　縄文時代遺構全体図（１／500）

（２）炉　穴

65 号炉穴

遺　　構（第 30 図）

［位　　置］（Ｅ－６）グリッド。

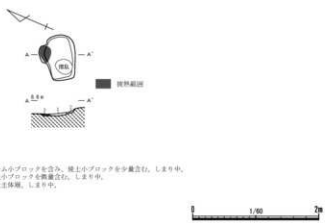
［検出状況］中世以降の溝跡（24 Ｍ）の底面で検出され、上面が削平されている。

［構　　造］**平面形：**不整形。**規模：**長軸 0.72m ／短軸 0.58m ／深さ 0.11m。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 57°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。



第 30 図　65 号炉穴（１／60）

（３）土　坑

476 号土坑

遺　　構（第 31 図）

［位　　置］（Ｈ－５）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.63m ／短軸 0.50m ／深さ 0.15m。**壁：**60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 63°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］縄文土器９点が出土した。うち２点を図化する。

［時　　期］縄文時代前期後葉。

遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１・２、第４表）

［土　　器］（第 32 図１・２、図版 24 －１－１・２、第４表）

１は前期前葉の花積下層式土器、２は前期後葉の諸磯ａ式土器である。

482 号土坑

遺　　構（第 31 図）

［位　　置］（Ｉ－５）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（479 Ｄ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.03m ／短軸 0.62m ／深さ 0.35m。**壁：**65°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 27°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］縄文土器１点が出土した。

［時　　期］縄文時代早期末葉。

遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１、第４表）

［土　　器］（第 32 図１、図版 24 －１－１、第４表）

１は早期末葉の条痕文系土器である。

485 号土坑

遺　　構（第 31 図）

［位　　置］（Ｈ－５）グリッド。

［検出状況］中世以降のピット（89 Ｐ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.95m ／短軸 0.82m ／深さ 0.11m。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 16°－Ｅ。

［覆　　土］単層。

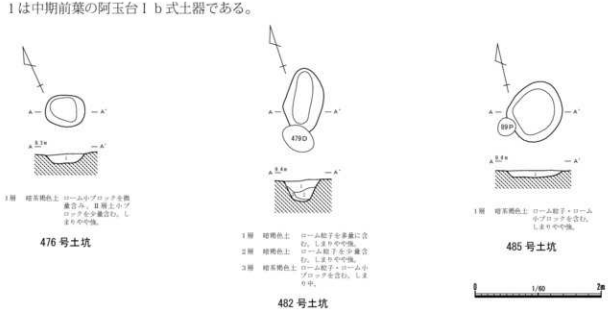
［遺　　物］縄文土器４点が出土した。うち１点を図化する。

［時　　期］縄文時代中期前葉。

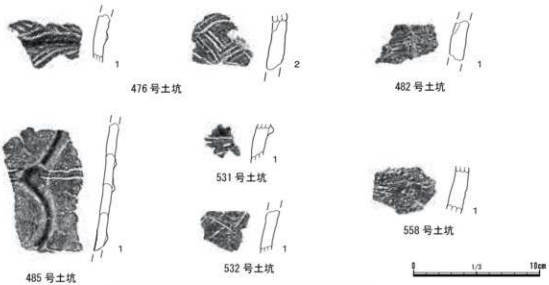
遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１、第４表）

［土　　器］（第 32 図１、図版 24 －１－１、第４表）

１は中期前葉の阿玉台Ⅰｂ式土器である。



第 31 図　縄文時代の土坑１（１／ 60）



第 32 図　縄文時代の土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第32図 1 図版 24-1-1	476 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに外反する	隆帯貼付／棒状工具による刺突／縄Ｌの側面圧痕	灰黄褐色／砂粒・繊維少量	前期前葉 花積下層式	覆土中
第32図 2 図版 24-1-2	476 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	竹管状工具による平行沈線文	にぶい黄褐色／砂粒・小礫中量	前期後葉 諸磯ａ式	覆土中
第32図 1 図版 24-1-1	482 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに外傾する	外面に条痕文	にぶい褐色／砂粒・繊維・小礫中量	早期末葉	覆土中
第32図 1 図版 24-1-1	485 D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	蛇行状に垂下する隆帯貼付／棒状工具による２条の沈線文	にぶい褐色／長石・金雲母多量、砂粒中量	中期前葉 阿玉台Ⅰｂ式	覆土中
第32図 1 図版 24-1-1	531 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	僅かに外傾する	隆帯貼付／棒状工具による刺突／縄Ｌの側面圧痕か	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	前期前葉 花積下層式	覆土中
第32図 1 図版 24-1-1	532 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	斜格子状の沈線文／内面黑褐色	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	早期末葉～ 前期初頭	覆土中
第32図 1 図版 24-1-1	558 D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに内湾する	貝殻背圧痕文	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	前期前葉 花積下層式	覆土中

第４表　土坑出土縄文土器一覧

493 号土坑

遺　構（第 33 図）

［位　置］（Ｈ・Ｉ－６）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（488・489 Ｄ）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（32 Ｙ）に切られる。

［構　造］**平面形：**隅丸長方形。**断面形：**短軸方向ではＶ字状を呈する。**規模：**長軸 2.91 ｍ／短軸 0.78 ｍ／深さ 1.64 ｍ。**壁：**オーバーハングしながら立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ―14°―Ｅ。

［覆　土］９層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

［所　見］平面形、断面形から、陥穴と考えられる。

506 号土坑

遺　構（第 33 図）

［位　置］（F－7）グリッド。

［検出状況］南側は調査区外に延びる。

［構　造］**平面形**：円形か。**規模**：長軸 1.08m ／短軸 0.55m 以上／深さ 0.25m。**壁**：60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：不明。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

508 号土坑

遺　構（第 33 図）

［位　置］（H－7）グリッド。

［検出状況］中世以降の溝跡（22 M）、古墳時代後期の住居跡（88 H）に切られ、北東部以外の大部分は調査区外に延びる。

［構　造］調査区の都合上、北東部のみの検出にとどまったが、遺構の形状と出土遺物から住居跡の一部である可能性が考えられる。**平面形**：不明。**規模**：長軸不明／短軸不明／深さ 0.22m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：不明。**底面**：僅かに硬化が認められた。

［覆　土］単層。

［遺　物］縄文土器 12 点が遺構底面のほぼ直上からまとまって出土した。うち 4 点を図化する。

［時　期］縄文時代中期後葉。

遺　物（第 34 図、図版 24－2－1～4、第 5 表）

［土　器］（第 34 図 1～4、図版 24－2－1～4、第 5 表）

1 は加曽利 E Ⅳ式の深鉢で、胴部に隆帯・沈線による 4 単位の渦巻文が施文される。2 は加曽利 E Ⅲ～ E Ⅳ式の両耳壺、3・4 は 1 とは別個体の加曽利 E Ⅳ式の深鉢である。

529 号土坑

遺　構（第 35 図）

［位　置］（E－5・6）グリッド。

［検出状況］東側を中世以降の溝跡（23 M）に切られる。

［構　造］**平面形**：不整楕円形。**規模**：長軸 1.84m 以上／短軸 1.36m ／深さ 0.27m。**壁**：50°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－78°－W。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

531 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｆ－５）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.38m ／短軸 1.19m ／深さ 0.26m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 32°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］縄文土器１点が出土した。

［時　　期］縄文時代前期前葉。

遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１、第４表）

［土　　器］（第 32 図１、図版 24 －１－１、第４表）

１は前期前葉の花積下層式土器である。

532 号土坑

遺　　構（第 35 図）

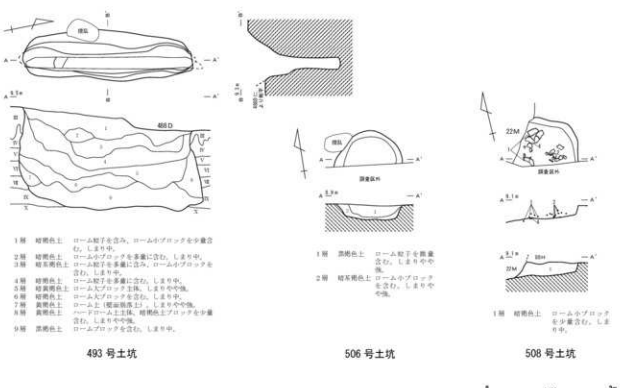
［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［検出状況］西側は調査区外に延びる。

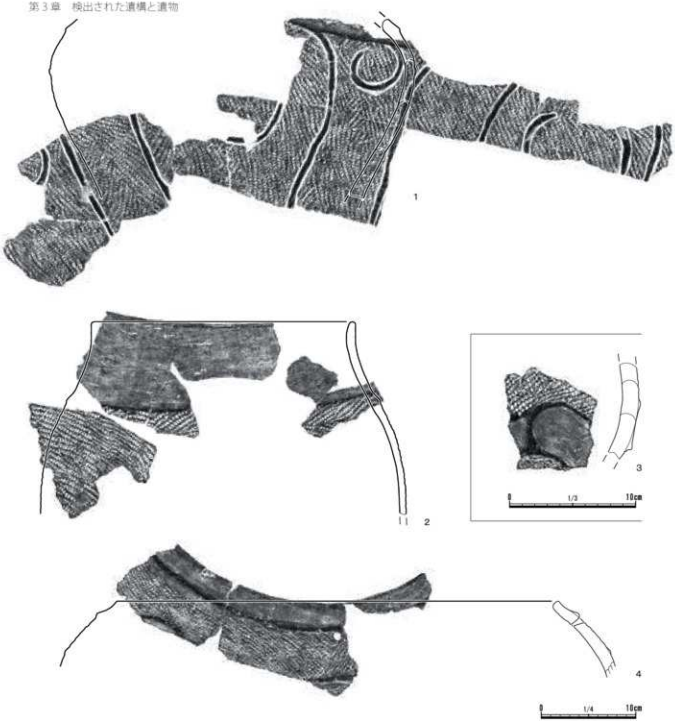
［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.12m ／短軸 0.77m 以上／深さ 0.24m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 20°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］縄文土器１点が出土した。



第 33 図　縄文時代の土坑２（１／ 60）



第 34 図　508 号土坑出土遺物（1／4・1／3）

掲図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第34図 1 図版 24-2-1	深鉢	口縁部～ 胴上半部 50%	高［18.8］	口縁部は内湾する	地文は RL 単節斜縄文／隆帯・沈線による渦巻文（4 単位）	にぶい赤褐色／石英・砂粒・小礫中量	中期後葉 加曽利 E Ⅳ式	底面上
第34図 2 図版 24-2-2	両耳壺	口縁部～ 胴上半部 20%	口（27.5） 高［20.3］	胴上半部は内湾気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する	口縁部は無文／肩部に微隆起線文による横位区画／胴部に LR 単節斜縄文	にぶい褐色／褐色粒子多量，砂粒・小礫中量	中期後葉 加曽利 E 皿 ～ E Ⅳ式	底面上
第34図 3 図版 24-2-3	深鉢	胴部破片	厚 1.6	僅かに内湾する	地文は LR 単節斜縄文／微隆起線文	にぶい褐色／砂粒中量，金雲母少量	中期後葉 加曽利 E Ⅳ式	底面上
第34図 4 図版 24-2-4	深鉢	口縁部 25%	口（46.6） 高［8.1］	口縁部は内湾する	口縁部は無文／口縁部外面直下に微隆起線文による横位区画／胴部に LR 単節斜縄文・微隆起線文／補修孔 1 孔あり	にぶい褐色／砂粒・小礫中量，石英少量	中期後葉 加曽利 E Ⅳ式	底面上

第５表　508 号土坑出土縄文土器一覧

［時　　期］縄文時代早期末葉～前期初頭。

遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１、第４表）

［土　　器］（第 32 図１、図版 24 －１－１、第４表）

１は早期末葉～前期初頭の土器で、外面に斜格子状の沈線文が施文される。

544 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（536・537 Ｄ）に切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 1.27m ／短軸 1.11m ／深さ 0.48m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－ 16°－Ｅ。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

547 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（540 Ｄ）に切られ、558 Ｄを切る。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：円筒状で、坑底は平坦である。**規模**：長軸 1.34m ／短軸 1.21m ／深さ 0.94m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－７°－Ｅ。

［覆　　土］５層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

［所　　見］円筒状を呈する断面形から貯蔵穴の可能性がある。

552 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

［検出状況］中世以降の溝跡（20 Ｍ）に切られる。

［構　　造］**平面形**：不整楕円形。**規模**：長軸 1.97m ／短軸 0.94m ／深さ 0.27m。**壁**：60°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－９°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

554 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｆ－５）グリッド。

［検出状況］中世以降の溝跡（20 Ｍ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸 0.62m 以上／短軸 0.70m ／深さ 0.16m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

558 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（540・542 Ｄ）、547 Ｄに切られ、北側の一部は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 2.66m 以上／短軸 2.28m ／深さ 0.26m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 26°－Ｅ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］縄文土器１点が出土した。

［時　　期］縄文時代前期前葉。

遺　　物（第 32 図、図版 24 －１－１、第４表）

［土　　器］（第 32 図１、図版 24 －１－１、第４表）

１は前期前葉の花積下層式土器である。

560 号土坑

遺　　構（第 35 図）

［位　　置］（Ｄ－３）グリッド。

［構　　造］**平面形：**円形。**規模：**長軸 1.59m ／短軸 1.57m ／深さ 0.47m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。

［覆　　土］４層に分層される。

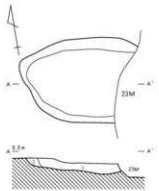
［遺　　物］縄文土器２点が出土した。

［時　　期］縄文時代前期前葉。

遺　　物（第 36 図、図版 25 －１－１・２、第６表）

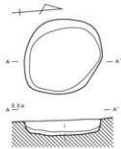
［土　　器］（第 36 図１・２、図版 25 －１－１・２、第６表）

１は前期前葉の羽状縄文系土器、２は前期前葉の花積下層式土器である。



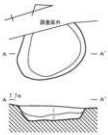
1層　暗茶褐色土　ロームブロックを少量含み、暗褐色土ブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや。

529 号土坑



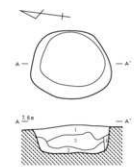
1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ロームと大ブロックを多量に含む。しまりやや。

531 号土坑



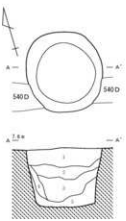
1層　暗茶褐色土　ローム小ブロックを微量含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。

532 号土坑



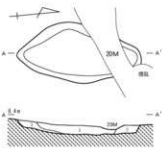
1層　暗茶褐色土　ローム粒子を少量含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ロームやブロックを少量含む。しまりやや強。
3層　暗茶褐色土　ロームブロックを含む。
4層　暗黄褐色土　ロームブロック主体。暗褐系土。しまりやや強。

544 号土坑



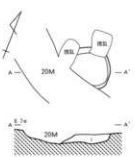
1層　暗茶褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや強。
3層　暗茶褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ロームと大ブロック主体。しまりや。
5層　暗茶褐色土　ロームと大ブロックを多量に含む。しまりや。

547 号土坑



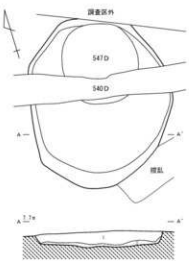
1層　暗茶褐色土　ローム粒子を含み、黒褐色土ブロックを少量含む。しまりや。
2層　暗茶褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。
3層　暗茶褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。

552 号土坑



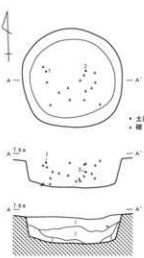
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。

554 号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子を少量含み、ロームブロック・暗褐色土ブロックを含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。

558 号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや強。
3層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

560 号土坑

1/60　2m

第 35 図　縄文時代の土坑３（1／60）

第 36 図　560 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・調　整　等	胎　土	時　期 型式等	出土位置
第36図 1 図版 25-1-1	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	僅かに外傾する	単節 LR 縄文	褐灰色／砂粒・ 繊維中量	前期前葉 羽状縄文系	覆土中
第36図 2 図版 25-1-2	深鉢	胴部 破片	厚 1.5	内傾する	隆帯貼付／単節 LR 縄文	にぶい黄橙色／ 砂粒・繊維中量	前期前葉 花積下層式	覆土中

第６表　560 号土坑出土縄文土器一覧

（４）集石

５号集石

遺　　構（第 37 図）

［位　　置］（Ｂ－１）グリッド。

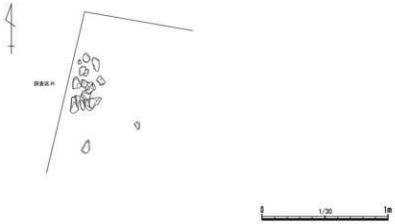
［検出状況］ローム漸移層が残存する１区北側をローム層まで面下げする過程で、ローム漸移層下部で検出された。

［構　　造］規模：東西方向 0.37m、南北方向 0.53m の範囲で被熱した礫の分布が確認された。

［覆　　土］明確な掘込みは確認されなかった。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］確認面の層位から縄文時代と考えられる。



第 37 図　５号集石（１／30）

（５）ピット

52 号ピット

遺　構（第 38 図）

［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。

［検出状況］古墳時代後期の溝跡（19 M）に切られる。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸 0.32m ／短軸 0.23m ／深さ 0.38m。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

59 号ピット

遺　構（第 38 図）

［位　　置］（Ｉ－６）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.25m ／短軸 0.21m ／深さ 0.17m。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

66 号ピット

遺　構（第 38 図）

［位　　置］（Ｈ－４）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.31m ／短軸 0.27m ／深さ 0.52m ／斜行ピット。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

67 号ピット

遺　構（第 38 図）

［位　　置］（Ｈ－４）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.26m ／短軸 0.24m ／深さ 0.47m ／斜行ピット。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

174 号ピット

遺　　構（第 38 図）

［位　　置］（Ｄ－６）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.24m ／短軸 0.23m ／深さ 0.25m。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と考えられる。

1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまり中。

52号ピット

1層　暗茶褐色土　ローム粒子を少量含む、しまりやや強。

59号ピット

1層　黒褐色土　Ⅱ層土小ブロックを含む、しまりや。
2層　黒色土　ローム粒子を少量含む、しまりや。

66号ピット

1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を少量含む、しまりや。

67号ピット

1層　暗茶褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや強。

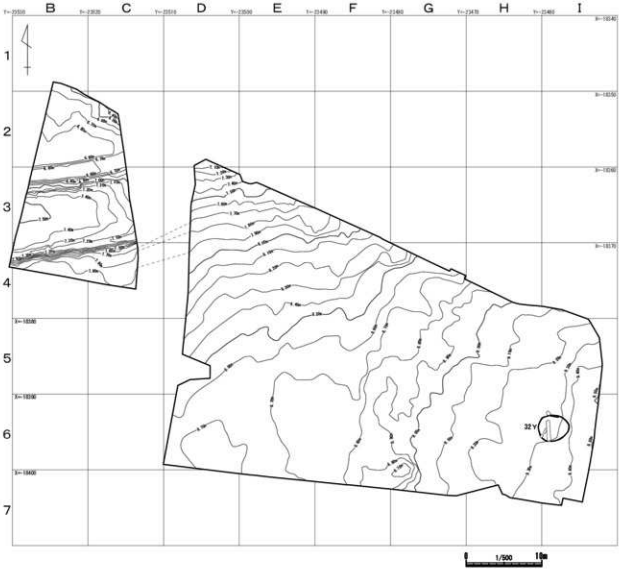
174号ピット

第 38 図　縄文時代のピット（1／60）

第３節　弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

（１）概　要

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構については、住居跡１軒（32 Y）が検出された。時期は出土土器から弥生時代後期～古墳時代前期初頭と考えられる。なお、本住居跡は、中世以降の溝跡（21 M）及び土坑２基（488・489 D）に切られているため、遺物がそれらの遺構覆土中に混入していたが、明らかに本住居跡に伴うものと考えられる土器については、本住居跡出土土器として取り扱うこととした。



第 39 図　弥生時代後期～古墳時代前期遺構全体図（１／500）

（２）住居跡

32 号住居跡

遺　構（第 40 図）

［位　　置］（Ｈ・Ｉ－６）グリッド。

［検出状況］中世以降の溝跡（21 M）及び土坑２基（488・489 D）に切られ、縄文時代の土坑（493 D）を切る。全体に削平され、遺存状態はあまり良好ではない。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 4.06m ／短軸 3.42m ／確認面からの深さ 0.22m。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 75°－Ｅ。**壁溝：**全周せず、北壁沿いの一部でのみ検出される。上幅 12 ～ 21㎝／下幅６～９㎝／深さ４～８㎝。**床面：**ほぼ平坦。硬化面は検出されなかった。**炉：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**入口施設：**検出されなかった。

［覆　　土］４層に分層される。

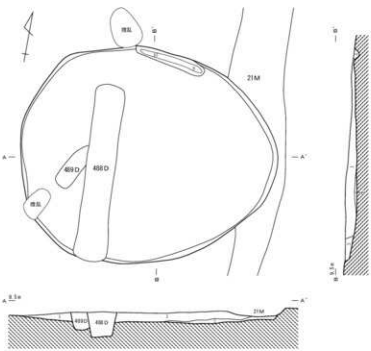
［遺　　物］壺・台付甕形土器の小破片が出土した。

［時　　期］弥生時代後期～古墳時代前期初頭。

遺　物（第 41 図、図版 25 －２、第７表）

［土　　器］（第 41 図１・２、図版 25 －２－１・２、第７表）

１は壺形土器の口縁部、２は台付甕形土器の胴部（脚台部付近）である。



第 40 図　32 号住居跡（１／60）

第 41 図　32 号住居跡出土遺物（１／３）

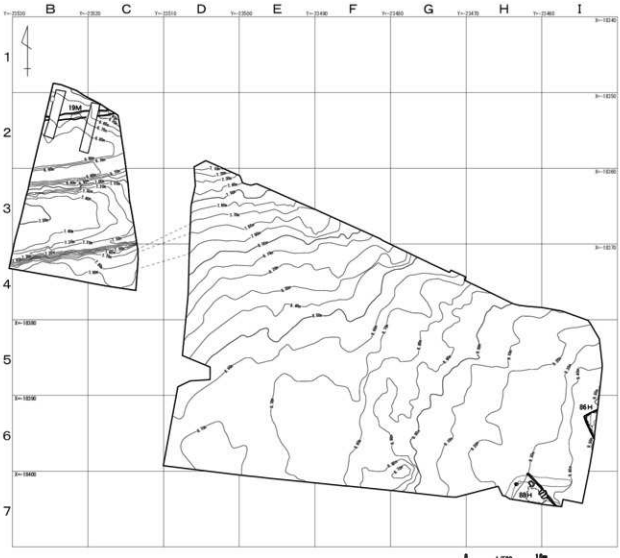
挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・調　整　等	胎　土	出土位置
第41図 1 図版 25-2-1	壺	口縁部 破片	厚 1.0	複合口縁／口縁部はやや内湾気味に直立する	内面：横ナデ／外面：無文部はヘラナデ／口縁部外面に LR 単節斜縄文／内外面口縁部赤彩	明黄褐色／砂粒・褐色粒子中量	覆土中
第41図 2 図版 25-2-2	甕	胴部破片	厚 1.2	台付甕／内外面に被熱の痕跡が認められる	内面：横方向のヘラナデ・ハケ目調整／外面：ハケ目調整／脚台部付近	褐色／橙色粒子・褐色粒子やや多量，小礫中量	覆土中

第７表　32 号住居跡出土土器一覧

第４節　古墳時代後期の遺構・遺物

（１）概　要

古墳時代後期の遺構については、住居跡２軒（86・88 H）・溝跡１本（19 M）が検出された。時期は出土土器から古墳時代後期（７世紀前葉～中葉）と考えられる。なお、88 Hは中世以降の溝跡（22 M）・段切状遺構（３段）に大きく破壊されているため、遺物が各遺構の覆土中に混入していたが、明らかに本住居跡に伴うものと考えられる土器については、本住居跡出土土器として取り扱うこととした。



第 42 図　古墳時代後期遺構全体図（１／500）

（２）住居跡

86 号住居跡

遺　　構（第 43 図）

［位　　置］（Ｉ－６）グリッド。

［検出状況］東側大部分は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**方形か。**規模：**不明であるが、確認された範囲で、長軸 2.06m 以上／短軸 3.42m 以上／確認面からの深さ 0.44m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 64°－Ｅ。**壁溝：**全周すると考えられる。上幅 10 ～ 21㎝／下幅 6 ～ 12㎝／深さ 18 ～ 29㎝。**床面：**壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、３～７㎝の厚さで施されていた。**カマド：**調査区内では検出されなかった。**貯蔵穴：**調査区内では検出されなかった。**柱穴：**調査区内では検出されなかった。**入口施設：**調査区内では検出されなかった。

［覆　　土］８層に分層される。

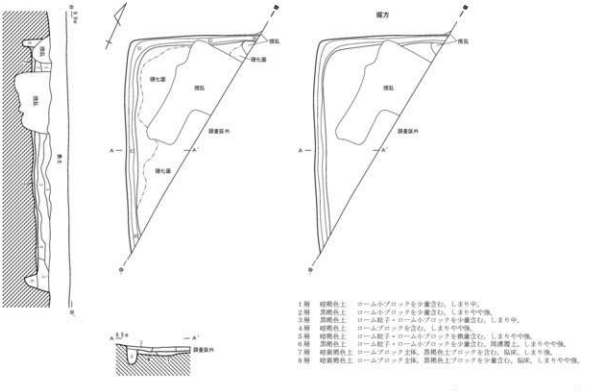
［遺　　物］土師器甕・甑形土器の小破片が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（図版 25 －３、第８表）

［土　　器］（図版 25 －３－１～５、第８表）

１～４は土師器甕形土器、５は土師器甑形土器である。



第 43 図　86 号住居跡（１／60）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
図版 25-3-1	土師器 甕	口縁部 破片	厚 1.0	長甕／口縁部は緩やかに外反する／在地系土師器	内外面：横ナデ	明赤褐色／雲母やや多量、砂粒・石英・白色粒子中量、赤色粒子少量	覆土中
図版 25-3-2	土師器 甕	胴部 破片	厚 0.6	長甕／丸みをもつ／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：縦方向のヘラ削り後ナデ（スリップか）	にぶい橙色／砂粒・長石・雲母・褐色粒子中量	覆土中
図版 25-3-3	土師器 甕	胴部 破片	厚 0.8	長甕／丸みをもつ／在地系土師器	内面：ヘラナデ・ナデ／外面：縦方向のヘラ削り後ナデ（スリップか）	にぶい褐色／砂粒・小礫・雲母・白色粒子中量	覆土中
図版 25-3-4	土師器 甕	胴部 破片	厚 0.8	長甕／丸みをもつ／在地系土師器	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り後ナデ（スリップか）	にぶい橙色／砂粒・石英・雲母・赤色粒子中量	覆土中
図版 25-3-5	土師器 甑	胴部 破片	厚 0.5	やや丸みをもつ／在地系土師器	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦方向のヘラ削り後ナデ（スリップか）	にぶい褐色／砂粒・雲母・白色粒子中量	覆土中

第８表　86 号住居跡出土土器一覧

88 号住居跡

遺　構（第 44 ～ 46 図）

［位　置］（H・I－７）グリッド。

［**検出状況**］中世以降の溝跡（22 M）・段切状遺構（３段）に切られ、縄文時代の土坑（508 D）を切る。南側大部分は調査区外に延びる。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：不明であるが、確認された範囲で、長軸 2.52m 以上／短軸 5.88m 以上／確認面からの深さ 0.69m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：N－56°－E。**壁溝**：全周すると考えられる。上幅 19 ～ 26㎝／下幅 5 ～ 13㎝／深さ 24 ～ 34㎝。**床面**：カマド前面でのみ硬化面を検出した。硬化度は他の住居跡に比して強い。貼床は 6 ～ 21㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北東壁の中央部に位置する。主軸方位は N－56°－E。長さ 95㎝／幅 121㎝／壁への掘り込み 15㎝。袖部はローム層を馬蹄状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。**貯蔵穴**：カマド左脇の北東壁沿いで検出されたＰ２が対応する。平面形は隅丸長方形を呈し、ほぼ完形の土師器鉢・甑形土器が１点ずつ出土した。**規模**：長軸 0.80m ／短軸 0.58m ／床面からの深さ 0.52m。**柱穴**：１本検出した。Ｐ１は主柱穴と考えられる。他の主柱穴は調査区外に存在する可能性が高い。**入口施設**：調査区内では検出されなかった。

［覆　土］６層に分層される。

［遺　物］土師器坏・鉢・甕・甑・壺形土器、土製品（支脚）が出土した。

［時　期］古墳時代後期（７世紀前葉）。

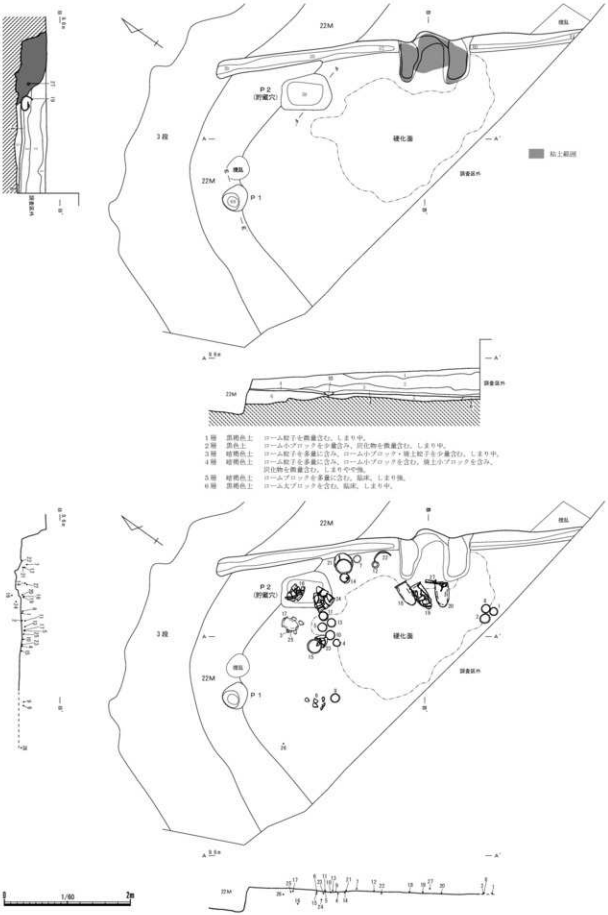
遺　物（第 47 ～ 49 図、図版 26 ～ 28、第９・10 表）

［土　器］（第 47 ～ 49 図１～ 26、図版 26 ～ 28 －１～ 26、第９表）

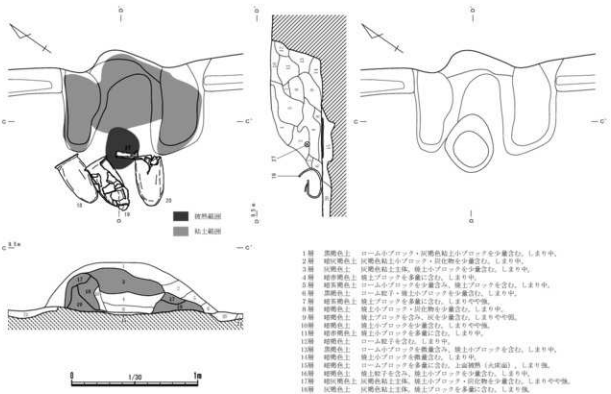
１～ 13 は土師器坏形土器、14 ～ 16 は土師器鉢形土器、17 ～ 22 は土師器甕形土器、23・24 は土師器甑形土器、25 は土師器壺形土器、26 はミニチュア土器である。

［土 製 品］（第 49 図 27、図版 28 － 27、第 10 表）

27 は支脚である。完存し、中空の構造を呈する。カマド内燃焼部からの出土である。

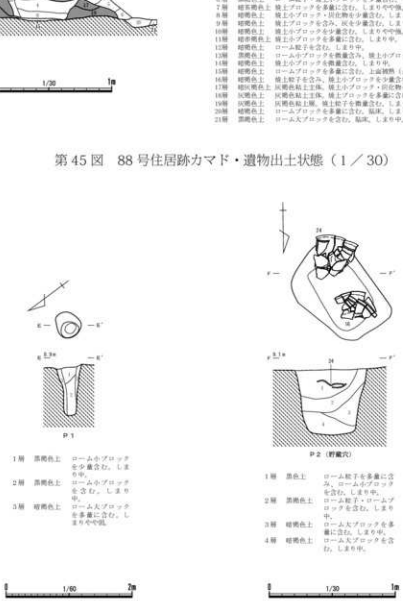


第 44 図　88 号住居跡・遺物出土状態（1／60）



1層　黒褐色土　ローム小ブロック・炭焼色粘土小ブロックを少量含む。しまりやや。
2層　暗灰褐色土　炭焼色粘土小ブロック・炭化物を少量含む。しまりやや。
3層　灰褐色土　炭焼色粘土主体。焼土小ブロックを少量含む。しまりやや。
4層　暗赤褐色土　焼土ブロックを多量に含む。しまりや。
5層　暗灰褐色土　ローム小ブロックを少量含み、焼土ブロックを含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子・焼土小ブロックを少量含む。しまりや。
7層　暗灰褐色土　焼土ブロックを多量に含む。しまりやや強。
8層　暗褐色土　焼土小ブロック・炭化物を少量含む。しまりや。
9層　暗褐色土　焼土ブロックを含み、灰を少量含む。しまりやや弱。
10層　暗褐色土　焼土小ブロックを少量含む。しまりやや強。
11層　暗赤褐色土　焼土小ブロックを多量に含む。しまりや。
12層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
13層　黒褐色土　ローム小ブロックを微量含み、焼土小ブロックを含む。しまりや。
14層　暗褐色土　焼土小ブロックを微量含む。しまりや。
15層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。土器細片（大型甕）。しまり強。
16層　暗褐色土　焼土粒子を含み、焼土小ブロックを少量含む。しまりや。
17層　暗灰褐色土　灰褐色粘土主体。焼土小ブロック・炭化物を少量含む。しまりやや強。
18層　灰褐色土　灰褐色粘土主体。焼土ブロックを多量に含む。しまり強。
19層　灰褐色土　灰褐色粘土層。焼土粒子を微量含む。しまり非常に強。
20層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。粘土。しまり強。
21層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。粘土。しまりや。

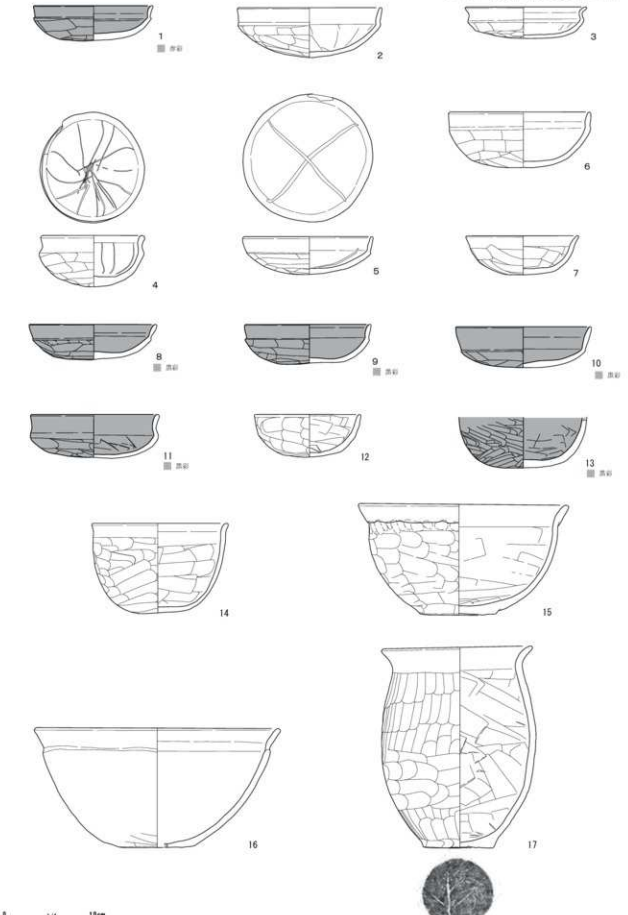
第 45 図　88 号住居跡カマド・遺物出土状態（1／30）



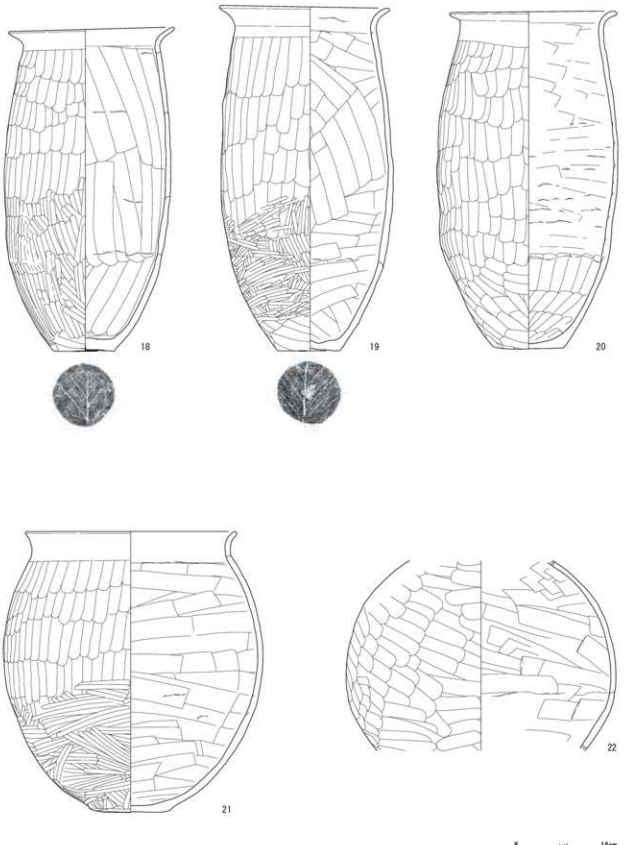
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。

1層　黒色土　ローム粒子を多量に含み、ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム大ブロックを含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりや。

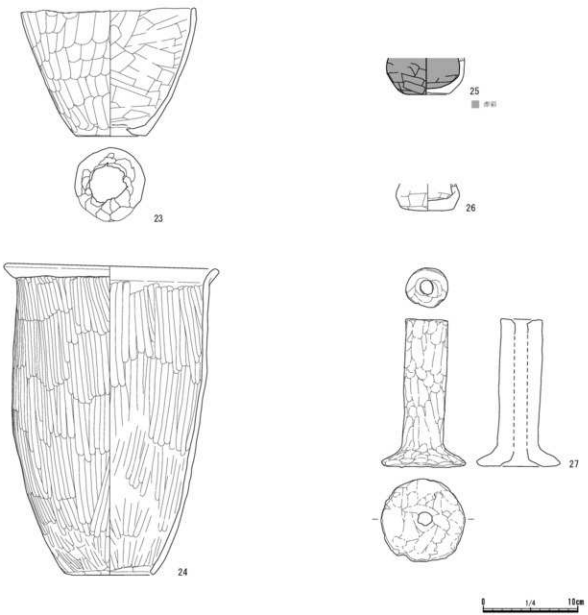
第 46 図　88 号住居跡ピット・遺物出土状態（1／30・1／60）



第 47 図　88 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 48 図　88 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 49 図　88 号住居跡出土遺物３（１／４）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第47図 1 図版 26-1	土師器 坏	完形	口 12.4 高 4.0	赤色系有段坏／口縁部は僅かに外反する／口縁部と体部の境に明瞭な段をもつ	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／内外面全面赤彩	にぶい黄橙色／雲母・石英多量，砂粒・白色粒子中量	床直（カマド周辺）
第47図 2 図版 26-2	土師器 坏	完形	口 15.0 高 5.4	無彩系有段坏／口縁部は直立する／口縁部と体部の境に段をもつ／楕円形／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ	にぶい橙色／雲母多量，石英・小礫・砂粒・白色粒子中量	床直（カマド周辺）
第47図 3 図版 26-3	土師器 坏	口縁部～底部 50%	口 (12.6) 高 3.5	無彩系有段坏／口縁部は大きく外反する／口縁部と体部の境に明瞭な段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はヘラナデ後ナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ	にぶい黄橙色／石英・小礫・砂粒・白色粒子中量	床直（貯蔵穴周辺）
第47図 4 図版 26-4	土師器 坏	ほぼ完形	口 10.6 高 5.5	無彩系有段坏／口縁部は外反する／口縁部と体部の境に明瞭な段をもつ／やや厚手／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／底部内面に放射状暗文	にぶい橙色／石英・雲母・小礫・砂粒・赤色粒子中量	床直（貯蔵穴周辺）
第47図 5 図版 26-5	土師器 坏	完形	口 13.5 高 4.3	無彩系有段坏／口縁部はやや外傾する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／底部内面に「十」字状の暗文	にぶい橙色／石英・雲母・角閃石・砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	床直（貯蔵穴周辺）

第９表　88 号住居跡出土土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第47図 6 図版 26-6	土師器 坏	口縁部～ 底部90%	□ 14.8 高 6.1	無彩系有段坏／口縁部は直立する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ	にぶい橙色／石英・雲母・砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	床直
第47図 7 図版 26-7	土師器 坏	ほぼ完形	□ 11.7 高 4.4	無彩系有段坏／口縁部は外反する／口縁部と体部の境に弱い段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ	にぶい橙色／石英・雲母・小礫・砂粒中量	床直 (カマド左脇)
第47図 8 図版 26-8	土師器 坏	完形	□ 13.2 高 4.1	黒色系有段坏／口縁部は外反する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／口縁部外面直下に指頭押圧が残る／内外面黑彩	にぶい黄橙色／雲母・砂粒・白色粒子・赤色粒子少量	床直 (カマド周辺)
第47図 9 図版 26-9	土師器 坏	完形	□ 13.2 高 4.5	黒色系有段坏／口縁部はやや外傾する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／内外面黑彩	にぶい黄橙色／雲母・砂粒・赤色粒子・橙色粒粒子中量	床直
第47図 10 図版 26-10	土師器 坏	完形	□ 14.2 高 4.4	黒色系有段坏／口縁部は外傾する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／内外面黑彩	橙色／石英・雲母・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第47図 11 図版 26-11	土師器 坏	ほぼ完形	□ 13.2 高 4.9	黒色系有段坏／口縁部は強かに外反する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ／内外面黑彩	にぶい橙色／橙色粒子多量，石英・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第47図 12 図版 26-12	土師器 坏	完形	□ 11.0 高 4.8	無彩系有被坏／口縁部はやや外傾する／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，底部は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，底部はヘラ削り後ナデ	にぶい橙色／雲母・角閃石・小礫・砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド左脇)
第47図 13 図版 26-13	土師器 坏	体部～ 底部80%	高 [5.4]	壺状／丸底／在地系土師器	内面：横方向のヘラナデ／外面：体部は横方向のヘラ削り後，横方向のヘラ磨き，底部はヘラ削り後ナデ／内外面黑彩	にぶい橙色／雲母・砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第47図 14 図版 26-14	土師器 鉢	完形	□ 14.1 高 9.8	小型鉢／口縁部は強かに外反する／口縁部と体部の境に弱い段をもつ／底部外面に黑斑あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，体部は横方向のヘラ削り後，横方向のナデ（スリップか），底部はヘラ削り後ナデ（スリップか）	にぶい橙色／石英・雲母・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド左脇)
第47図 15 図版 26-15	土師器 鉢	完形	□ 21.3 高 15.5 底 7.4	大型鉢／複合口縁（口縁部は折り返された，肥厚する）／口縁部は外傾する／口縁部と体部の境に段をもつ／体～底部内外面に大きな黑斑あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はヘラナデ後ナデ／外面：口縁部は横ナデ，体部は横方向のヘラ削り後，横方向のナデ（スリップか），口縁部と体部の境に指頭押圧が残る，底部は手持ち回転ヘラ削り	にぶい褐色／雲母多量，砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第47図 16 図版 26-16	土師器 鉢	口縁部～ 底部80%	□ (25.5) 高 12.6 底 (7.9)	大型鉢／口縁部は外反する／口縁部と体部の境に段をもつ／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はナデか／外面：口縁部は横ナデ，体部はヘラ削り後，ナデか，底部はヘラ削り／器表面が剥して摩滅し，調整不詳	にぶい橙色／砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	貯蔵穴
第47図 17 図版 26-17	土師器 甕	完形	□ 15.5 高 21.3 底 7.4	長甕／小型／口縁部は外反する／最大径は胴部中位にもつ／平底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はヘラナデ／外面：口縁部は幅広の横ナデ，胴上半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向（？）のナデ（スリップか），胴中央部は横方向のヘラナデ，胴下半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向（↓）のナデ（スリップか），胴底下端は横方向のヘラ削り，底部は木葉痕が残る	にぶい橙色／石英・雲母・角閃石・砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド前面)
第48図 18 図版 27-18	土師器 甕	ほぼ完形	□ 17.2 高 34.3 底 6.3	長甕／口縁部は大きく外反する／最大径は胴部中位にもつ／平底／胴部外面に黑斑あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下は縦方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，胴上半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向のナデ（スリップか），胴下半部は縦方向のヘラ削り後，ヘラ磨き，胴底下端は横方向のヘラ削り，底部は木葉痕が残る／胴下半部を中心に外面に煤が付着していることから，カマドでの使用が考えられる	橙色／石英・雲母・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド前面)
第48図 19 図版 27-19	土師器 甕	ほぼ完形	□ 17.8 高 36.5 底 6.6	長甕／口縁部は外反する／最大径は胴部中位にもつ／平底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，胴上半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向のナデ（スリップか），胴下半部は縦方向のヘラ削り後，ヘラ磨き，胴底下端は横方向のヘラ削り，底部は中央部が凹み，木葉痕が残る／胴下半部を中心に外面に煤が付着していることから，カマドでの使用が考えられる	灰黄褐色／石英・雲母・砂粒・白色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド前面)
第48図 20 図版 27-20	土師器 甕	ほぼ完形	□ 17.1 高 35.8 底 7.4	長甕／口縁部は大きく外反する／最大径は胴部中位にもつ／平底／胴部外面に黑斑あり／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，胴上半部は粗い横方向のヘラナデ，胴下半部は回転を利用した縦方向のヘラ削り後，縦方向の（？）ナデ（スリップか），胴下半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向のナデ（スリップか），胴下半部は縦方向のヘラ削り後，横・斜方向のナデ（スリップか），胴底下端は横方向のヘラ削り／胴上半部内面に輪積痕跡が残る／胴下半部を中心に外面広範囲に煤が付着していることから，カマドでの使用が考えられる	にぶい橙色／石英・雲母・角閃石・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド前面)
第48図 21 図版 28-21	土師器 甕	ほぼ完形	□ 21.9 高 29.7 底 8.5	丸甕／最大径は胴部中位にもつ／平底／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ，以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ，胴上半部は縦方向のヘラ削り後，縦方向のナデ（スリップか），胴下半部は縦方向のヘラ削り後，ヘラ磨き，底部はヘラ削り	橙色／石英・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (カマド左脇)
第48図 22 図版 28-22	土師器 甕	胴部25%	高 [20.0]	丸甕／最大径は胴部中位にもつ／在地系土師器	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦方向のヘラ削り後，横方向のナデ（スリップか）	にぶい橙色／雲母・砂粒・橙色粒子中量，小礫・石英少量	床直 (カマド左脇)

第９表　88号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・調　整　等	胎　土	出土位置
第49図 23 図版 28-23	土師器 鉢	胴下半部 ～底部 100%	高〔13.6〕 底 7.4	長胴転用／胴部外面に黒斑あり／在地系土師器	内面：横方向のヘラナデ／外面：胴部は縦方向のヘラ削り後、縦方向のナデ（スリップか）、胴部下端は横方向のヘラ削り／底部焼成後穿孔／長径底部を打欠いて、鉢に転用したと考えられる	にぶい・橙色／雲母・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第49図 24 図版 28-24	土師器 鉢	ほぼ完形	口 22.2 高 33.0 底 9.2	複合口縁（口縁部は折り返され、肥厚する）／口縁部は外反する／最大径は口縁部にもつ／底部は筒抜け式／在地系土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下は縦方向のヘラナデ後縦方向のヘラ磨き／外面：口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り後、縦方向のヘラ磨き、底部は横方向のヘラ削り	にぶい橙色／小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・橙色粒子中量	貯蔵穴
第49図 25 図版 28-25	土師器 甕	胴部～底部 80%	小型甕／胴部は丸みをもって立ち上がる／平底	内面：横方向のヘラナデ後ナデ／外面：胴部は横方向のヘラナデ、底部はヘラ削り後ナデ／底部外面被熱／内外面赤彩	にぶい橙色／石英・雲母・砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	床直 (貯蔵穴周辺)
第49図 26 図版 28-26	ミニチュア土器	胴部～底部 70%	高〔2.9〕 底 5.3	甕形／胴部中位がやや鋭角的に張らむ／平底／粗製品／在地系土師器	内面：横方向のヘラナデ後ナデ／外面：胴部は粗い横方向のヘラナデ、底部はヘラ削り後ナデ	橙色／雲母・小礫・砂粒・白色粒子・赤色粒子・赤色粒子中量	床直

第９表　88 号住居跡出土土器一覧（３）

挿図番号 図版番号	種　別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　徴	出土位置
第49図 27 図版 28-27	支脚	15.8	8.8	1.5	417.0	完形／中空、孔径 1.5cm／胴部は柱状を呈し、裾部は大きく外方に開く／全面が被熱、特に底部が著しく、器表面が一部剥落／胎土はにぶい褐色を基調とし、雲母・小礫・橙色粒子を中量含む	床直 (カマド前面)

第 10 表　88 号住居跡出土土製品一覧

（３）溝跡

19 号溝跡

遺　構（第 50 図）

［位　置］（Ｂ・Ｃ－２）グリッド。

［検出状況］１区北端で検出され、東西両端は調査区外に延びる。確認調査時の試掘坑（15・16 Ｔｒ）により、当該部は欠落する。中世以降のピット（４・14 Ｐ）に切られ、縄文時代のピット（52 Ｐ）を切る。

［構　造］規模：検出長 9.02m ／検出最大上幅 0.94m ／下幅 0.34 ～ 0.73m ／深さ 0.12 ～ 0.33m。溝底には凸凹が見られ、平坦ではなく、西から東に向かって緩やかに傾斜する。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は最大斜度 45°で緩やかに立ち上がる。**走行方位**：Ｎ－ 84°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層される。

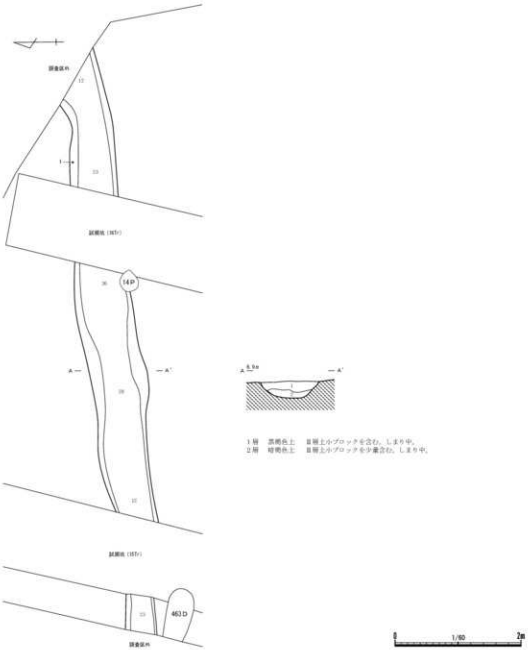
［遺　物］須恵器甕形土器が出土した。

［時　期］古墳時代後期（７世紀前葉）。

遺　物（第 51 図、図版 29 －１、第 11 表）

［土　器］（第 51 図１、図版 29 －１－１、第 11 表）

１は須恵器甕形土器の頸部～胴部である。



第 50 図　19 号溝跡（1／60）

第 51 図　19 号溝跡出土遺物（1／4）

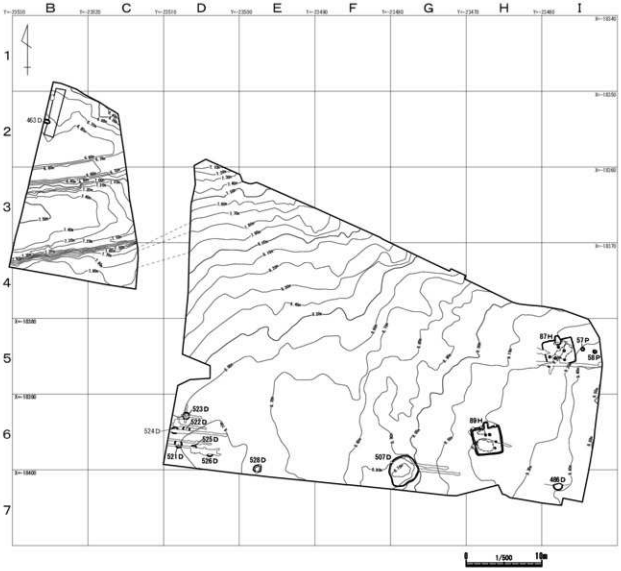
挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 様・調 整 等	胎 土	出土位置
第51図 1 図版 29-1-1	須恵器 壺	胴部破片	高［3.8］	胴部は緩ね球形を呈する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／胴部外面に沈線１条／沈線下に櫛刺突文／胴部外面穿孔１ヶ所／外面口然釉付着／湖西製品か	褐灰色／酸化・白色粒子中量、石英微量	東側 層土上層

第 11 表　19 号溝跡出土土器一覧

第５節　平安時代の遺構・遺物

（１）概　要

平安時代の遺構については、住居跡２軒（87・89 H）・土坑 10 基（463・486・507・521 ～ 526・528 D）・ピット２本（57・58 P）が検出された。住居跡の時期は出土土器から９世紀中葉～後葉と考えられる。また、土坑のうち、521 ～ 526 Dは近接して確認され、覆土も同一の特徴を有することから一連の土坑群と考えられる。



第 52 図　平安時代遺構全体図（１／500）

（２）住居跡

87 号住居跡

遺　　構（第 53 ～ 55 図）

［位　　置］（Ｉ－５）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（470 Ｄ）・溝跡（20 Ｍ）・ピット（92・115 Ｐ）に切られる。全体に削平され、遺存状態はあまり良好ではない。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 4.06m ／短軸 3.88m ／確認面からの深さ 0.22m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－ 14°－Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：カマド前面及び中央部東寄りの一部で、硬化面を検出した。貼床は全体的に薄く、２～７㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁の中央部に位置する。主軸方位はＮ－ 14°－Ｗ。長さ 127㎝／幅 77㎝／壁への掘り込み 59㎝。袖部は検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：５本検出したが、後世のピットの可能性も考えられる。配置状況も不均一で、主柱穴となり得るかは不詳である。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］須恵器蓋・坏形土器、土師器甕形土器、石製品（砥石）が出土した。

［時　　期］平安時代（９世紀中葉）。

遺　　物（第 56 図、図版 29 －２、第 12・13 表）

［土　　器］（第 56 図１～５、図版 29 －２－１～５、第 12 表）

１は須恵器蓋形土器、２は須恵器坏形土器、３～５は土師器甕形土器である。

［石 製 品］（第 56 図６、図版 29 －２－６、第 13 表）

６は凝灰岩製の砥石である。

89 号住居跡

遺　　構（第 57 ～ 59 図）

［位　　置］（Ｈ－６）グリッド。

［検出状況］中世以降のピット（111 Ｐ）及び複数の攪乱に切られる。

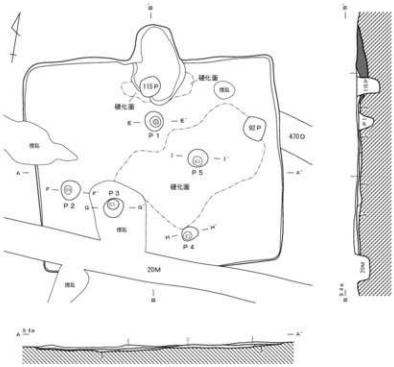
［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 4.30m ／短軸 3.84m ／確認面からの深さ 0.33m。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－９°－Ｗ。**壁溝**：カマド付近を除き、全周する。上幅 13 ～ 27㎝／下幅５～ 17㎝／深さ 14 ～ 20㎝。**床面**：カマド前面西側及び壁際を除く床面南西部で硬化面を検出した。貼床は３～ 14㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁の中央部に位置する。長さ 111㎝／幅 76㎝／壁への掘り込み 79㎝。袖部は攪乱に切られ、遺存状態が悪く、カマドの両脇を被覆していたと考えられる粘土が散在して残存していた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：４本検出したが、後世のピットの可能性も考えられる。いずれも掘り込みが浅く、主柱穴ではないと考えられる。**入口施設**：検出されなかった。

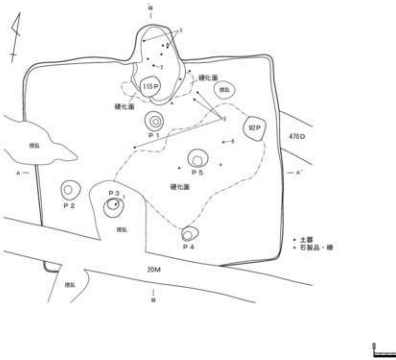
［覆　　土］８層に分層される。

［遺　　物］灰釉陶器（長頸瓶）、須恵器蓋・坏形土器、土師器坏・甕形土器、石製品（砥石）が出土した。土師器甕形土器は特にカマド周辺からまとまって出土した。

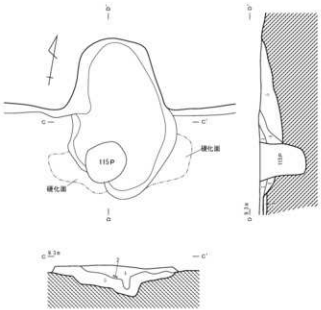
［時　　期］平安時代（９世紀後葉）。

遺　　物（第 60 図、図版 29 －３・30 －１、第 14・15 表）





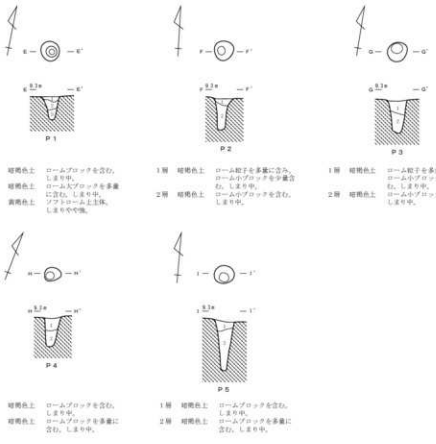
第 53 図　87 号住居跡・遺物出土状態（1／60）



１～３層は第50図に同じ
４層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を少量含む、しまり中。
５層　暗褐色土　ローム粒子・焼土ブロックを含み、炭化物を少量含む、しまり中。

1/20

第 54 図　87 号住居跡カマド（1／30）



１層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまり中。
２層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまり中。
３層　黄褐色土　ソフトローム上主体、しまりやや強。

１層　暗褐色土　ローム粒子を多量に含み、ローム小ブロックを少量含む、しまり中。
２層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまり中。

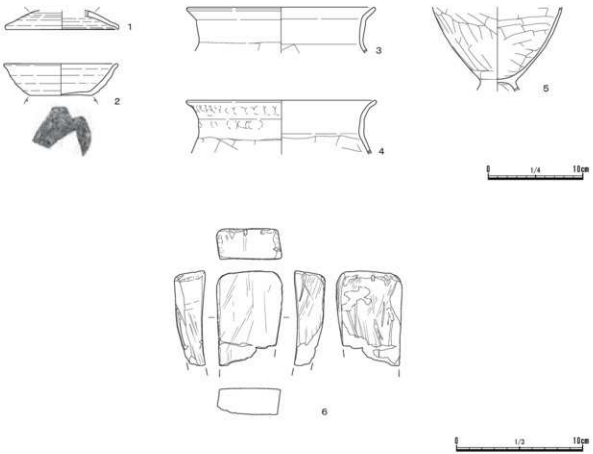
１層　暗褐色土　ローム粒子を多量に含み、ローム小ブロックを少量含む、しまり中。
２層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまり中。

１層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまり中。
２層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまり中。

１層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまり中。
２層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまり中。

1/60

第 55 図　87 号住居跡ピット（1／60）



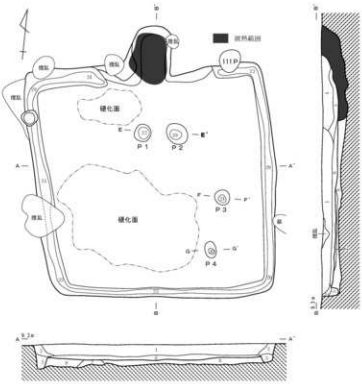
第56図　87号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

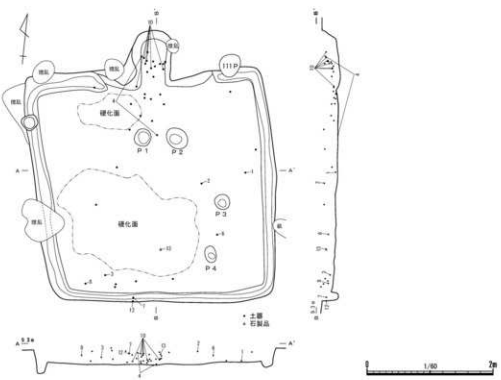
挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第56図1 図版29-2-1	須恵器 蓋	口縁部～ 天井部 20%	口〔11.8〕 高〔2.0〕	口唇部は屈曲して直立する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／外面：天井部は回転ヘラ削り／東金子製品か	褐灰色／砂粒・白色粒子中量	P3覆土下層
第56図2 図版29-2-2	須恵器 坏	口縁部～ 底部20%	口〔11.7〕 高3.4 底〔6.6〕	口縁部は直線的に外傾／底部内面は薄い	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・白色粒子中量	カマド覆土下層
第56図3 図版29-2-3	土師器 甕	口縁部～ 頸部20%	口〔19.6〕 高〔4.9〕	武蔵型甕／頸部は外傾し、口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラ削り	橙色／砂粒・雲母・赤色粒子中量	カマド覆土下層
第56図4 図版29-2-4	土師器 甕	口縁部～ 頸部40%	口〔19.7〕 高〔5.7〕	武蔵型甕／頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラ削り／口縁部は指頭押圧痕が残る	にぶい赤褐色／砂粒・小礫・雲母・橙色粒子中量	覆土下層
第56図5 図版29-2-5	土師器 甕	胴部～脚 台部破片	高〔8.9〕	小型台付甕／胴部はれみかをもって立ち上がり、脚台部はハの字状に大きく開く	内面：横方向のヘラナデ／外面：縦・斜方向のヘラ削り	にぶい赤褐色／砂粒・小礫・雲母・白色粒子・橙色粒子中量	床直（カマド前面）

第12表　87号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第56図6 図版29-2-6	砥石	凝灰岩	7.5	5.2	2.4	119.8	下端を欠損／下端を除く5面が使用面で、うち3面に線状の研ぎ痕がみられる	床直（中央東寄り）

第13表　87号住居跡出土石製品一覧





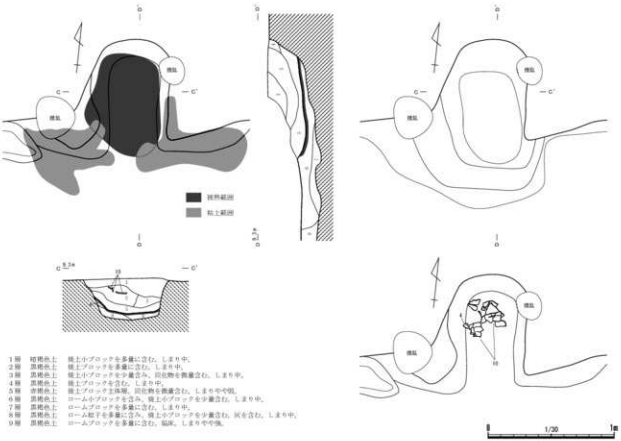
第 57 図　89 号住居跡・遺物出土状態（1／60）

［土　　器］（第 60 図１～ 11、図版 29 －３－１～６・30 －１－７～ 12、第 14 表）

１は灰釉陶器長頸瓶の口縁部である。２は須恵器蓋形土器、３～７は須恵器坏形土器、８は須恵器椀形土器、９は土師器坏形土器、10 ～ 12 は土師器甕形土器である。

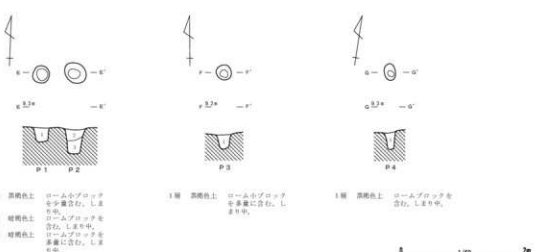
［石 製 品］（第 60 図 13、図版 30 －１－ 13、第 15 表）

13 は砂質凝灰岩製の砥石である。



1層　暗褐色土　焼土小ブロックを多量に含む、しまり中。
2層　黒褐色土　焼土ブロックを多量に含む、しまり中。
3層　黒褐色土　焼土小ブロックを少量含み、炭化物を微量含む、しまり中。
4層　黒褐色土　焼土ブロックを含む、しまり中。
5層　赤褐色土　焼土ブロックを体層、炭化物を微量含む、しまりやや弱。
6層　黒褐色土　ロームのブロックを含み、焼土のブロックを少量含む、しまり中。
7層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまり中。
8層　黒褐色土　ローム粒子を多量に含み、焼土のブロックを少量含む、灰を含む、しまり中。
9層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む、粘質、しまりやや強。

第 58 図　89 号住居跡カマド・遺物出土状態（１／30）

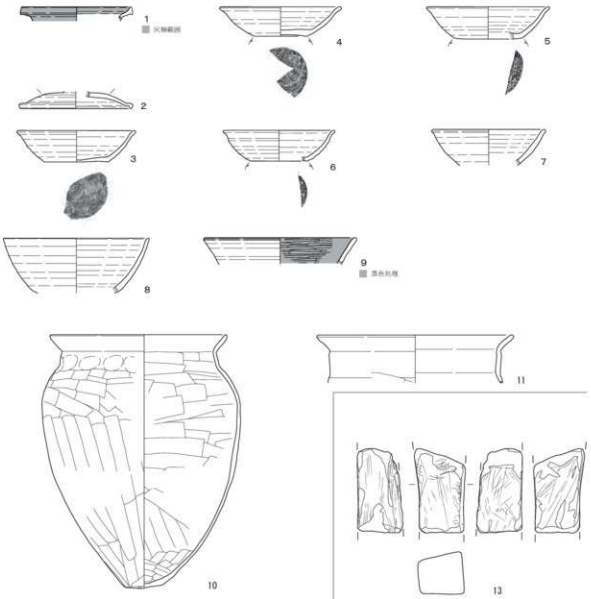


1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまり中。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまり中。

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまり中。

1層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまり中。

第 59 図　89 号住居跡ピット（１／60）



第 60 図　89 号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第60図 1 図版 29-3-1	灰釉陶器 長頸瓶	口縁部 破片	口 (11.5) 高 [1.5]	口縁部は内湾気味に立ち上がる	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／口縁部内面：灰釉／猿投製品か	にぶい・黄橙色／白色粒子・黒色粒子少量	床直
第60図 2 図版 29-3-2	須恵器 蓋	口縁部～天井部 20%	口 (11.6) 高 [1.8]	口縁部は屈曲してやや内傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／外面：天井部は回転ヘラ削り／摘み部一部残存／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・白色粒子中量	覆土下層
第60図 3 図版 29-3-3	須恵器 坏	口縁部～底部 30%	口 (12.2) 高 3.3 底 (6.6)	口縁部は直線的に外傾する／底部内面は薄い	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・白色粒子中量	覆土下層
第60図 4 図版 29-3-4	須恵器 坏	口縁部～底部 30%	口 (12.6) 高 3.1 底 (5.6)	口縁部は直線的に外傾し、口縁部は外反する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・白色粒子・褐色粒子中量	カマド 覆土下層

第 14 表　89 号住居跡出土土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・調　整　等	胎　土	出土位置
第60図５ 図版 29-3-5	須恵器 坏	口縁部～ 底部 20%	口 (12.7) 高 3.4 底 (7.2)	口縁部は直線的に外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・白色粒子中量	覆土下層
第60図６ 図版 29-3-6	須恵器 坏	口縁部～ 底部 20%	口 (11.6) 高 3.2 底 (6.0)	口縁部は直線的に外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・白色粒子中量	覆土下層
第60図７ 図版 30-1-7	須恵器 坏	口縁部～ 体部 25%	口 (11.7) 高 (3.8)	口縁部は直線的に外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／外面煤付着／鳩山製品	灰黄褐色／白色針状物質・砂粒中量	南側周溝覆土
第60図８ 図版 30-1-8	須恵器 瓶	口縁部～ 体部 20%	口 (15.2) 高 (5.8)	口縁部は外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／体部外面に墨痕／東金子製品か	灰黄褐色／砂粒中量、小礫・白色粒子少量	覆土下層
第60図９ 図版 30-1-9	土師器 坏	口縁部～ 体部破片	口 (15.8) 高 (2.9)	内黒土器／口縁部は直線的に外傾する	内面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラ磨き／外面：口縁部は横ナデ、以下は回転ナデ／口辺部及び内面全面黒色処理	にぶい黄橙色／砂粒中量	覆土下層
第60図10 図版 30-1-10	土師器 甕	口縁部～ 底部 25%	口 (18.5) 高 (27.0) 底 4.0	武蔵型甕／口縁部は外反する／底部は小さく、胴部は丸みをもって立ち上がる	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、頸部は指頭押痕が残る、肩部は横方向のヘラ削り、胴部は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削り	にぶい赤褐色／雲母やや多量、砂粒・角閃石・赤色粒子中量	カマド覆土下層
第60図11 図版 30-1-11	土師器 甕	口縁部～ 頸部破片	口 (20.3) 高 (5.1)	武蔵型甕／頸部にはほぼ直立し、口縁部は外反する	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は横方向のヘラ削り	明赤褐色／砂粒中量、石英・小礫少量	覆土下層
図版 30-1-12	土師器 甕	口縁部～ 頸部破片	厚 0.7	武蔵型甕／口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	にぶい橙色／砂粒・小礫・雲母・白色粒子中量	南側周溝覆土

第 14 表　89 号住居跡出土土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　徴	出土位置
第60図13 図版 30-1-13	砥石	砂質凝灰岩	6.4	4.0	3.6	139.1	上・下端を欠損／上・下端を除く４面が使用面／上端欠損面及び側面に紐状付着	覆土下層

第 15 表　89 号住居跡出土石製品一覧

（３）土　坑

463 号土坑

遺　構（第 61 図）

［位　置］（Ｂ－２）グリッド。

［検出状況］西側は調査区外に延びる。

［構　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.81m 以上／短軸 0.51m ／深さ 0.38m。**壁：**60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 77°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

486 号土坑

遺　構（第 61 図）

［位　置］（Ｉ－７）グリッド。

［検出状況］中世以降の溝跡（22 Ｍ）に切られる。

［構　造］**平面形：**円形か。**規模：**長軸 1.21m ／短軸 0.85m 以上／深さ 0.27m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 89°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

507 号土坑

遺　　構（第 61 図）

［位　　置］（F・G－6・7）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（505 D）・ピット（151 P）に切られる。

［構　　造］明確な床面や付帯施設が確認されなかったため、土坑としたが、竪穴状遺構ないしは住居跡の掘方のみが残存したものである可能性が考えられる。**平面形：**不整楕円形。**規模：**長軸 4.34m ／短軸 3.76m ／深さ 0.26m。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**N－26°－E。

［時　　期］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

521 号土坑

遺　　構（第 61 図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］近代以降の畝状遺構に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.94m 以上／短軸 0.86m ／深さ 0.05m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－20°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

522 号土坑

遺　　構（第 61 図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（515 D）及び近代以降の畝状遺構に切られる。

［構　　造］**平面形：**円形か。**規模：**長軸 0.89m ／短軸 0.39m 以上／深さ 0.05m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－81°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

523 号土坑

遺　　構（第 61 図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］近代以降の畝状遺構に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.96m／短軸0.86m／深さ0.14m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－31°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

524号土坑

遺　　構（第61図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（515 D）に切られる。

［構　　造］**平面形：**円形か。**規模：**長軸0.87m／短軸0.80m以上／深さ0.09m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－81°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

525号土坑

遺　　構（第61図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（512 D）及び近代以降の畝状遺構に切られる。

［構　　造］**平面形：**不明。**規模：**遺存部最大0.71m／深さ0.10m。**壁：**40°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

526号土坑

遺　　構（第61図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

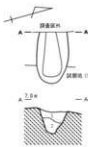
［検出状況］中世以降の土坑（512 D）に切られる。

［構　　造］**平面形：**不明。**規模：**遺存部最大0.77m／深さ0.12m。**壁：**40°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］単層。

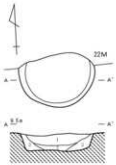
［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。



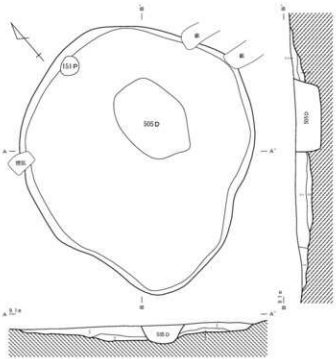
1 層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。
2 層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

463 号土坑



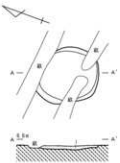
1 層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。
2 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。
3 層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

486 号土坑



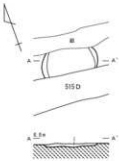
1 層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりや。
2 層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
3 層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

507 号土坑



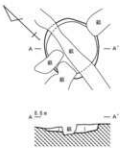
1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

521 号土坑



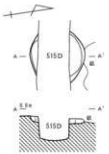
1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

522 号土坑



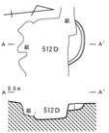
1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

523 号土坑



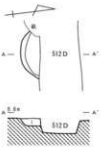
1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

524 号土坑



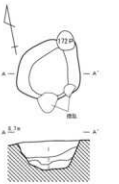
1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

525 号土坑



1 層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

526 号土坑



1 層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりや。
2 層　黒色土　ローム大ブロックを少量含む。しまりや。
3 層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりや。

528 号土坑

第 61 図　平安時代の土坑（1／60）

528 号土坑

遺　構（第 61 図）

［位　　置］（Ｅ－６・７）グリッド。

［検出状況］中世以降の段切状遺構（４段）・ピット（172 Ｐ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 1.08m ／短軸 0.92m ／深さ 0.46m。**壁：**70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 73°－Ｅ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

（４）ピット

57 号ピット

遺　構（第 62 図）

［位　　置］（Ｉ－５）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（470 Ｄ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.52m ／短軸 0.47m ／深さ 0.37m。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。

58 号ピット

遺　構（第 62 図）

［位　　置］（Ｉ－５）グリッド。

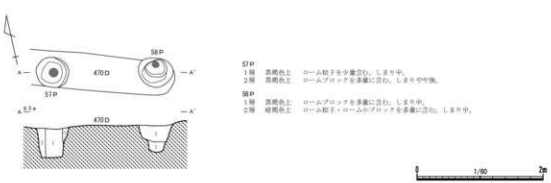
［検出状況］中世以降の土坑（470 Ｄ）に切られる。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.55m ／短軸 0.46m ／深さ 0.42m。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から平安時代と考えられる。



第 62 図　平安時代のピット（1／60）

第６節　中世以降の遺構・遺物

（１）概　要

中世以降の遺構については、段切状遺構５ヶ所（１～５段）、道路状遺構１本（１道）、土坑 73 基、井戸跡４基（15～ 18 W）、溝跡５本（20 ～ 24 M）、ピット 174 本が検出された。

検出された土坑のうち、491・495・553 Dの３基は地下式坑、478・487・492・503・504・505 Dの６基は土坑墓である。土坑墓はいずれも土葬で、南側に隣接する第 95 地点で確認された火葬土坑との対比が特筆される。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（２）段切状遺構

本遺跡において、段切状遺構は第 49・78・95・102 地点で検出されている。いずれも本地点に隣接ないし近接し、本遺跡における北側斜面地に立地している。

１号段切状遺構

遺　構（第 64 図）

［位　置］（Ｂ・Ｃ－３、Ａ・Ｂ・Ｃ－４）グリッド。

［構　造］**遺構の広がり：**西側は（Ａ－４）グリッド内に、東側は（Ｃ－３・４）グリッド内に概ね東西方向に延びる平場面を形成する段差が認められた。段差の方向は北側の低地部に向かって北に９°傾いて延びている。**規模：**南北方向 8.97 ～ 9.15m ／東西方向 17.12m。**深さ：**第 65 図に示した等高線図によると、最も高い標高は（Ｂ－３）グリッドで 7.50m ライン、最も低い標高は（Ｃ－３）グリッドで 7.10m ラインとなり、（Ｂ－３）グリッド内ではほぼ平坦であるのに対し、（Ｃ－３）グリッド内に至ると、比高差 0.30m で緩やかに東側に傾斜する状況が見られる。調査区東・西壁（第 66 図）の観察から、段切状遺構の平場面は立川ローム第Ⅳ層上部まで掘削が及んでいる。南側段差の下端に沿って幅 1.35 ～ 2.07m の溝状の掘方が認められた。**平場の状況：**本地点の南側に位置する第 49・95 地点と同様に、ローム掘削時の工具痕が全体に認められた。

［覆　土］12 層に分層される。南側段差の下端に沿う溝状の掘方に覆土（第 66 図Ａ断面：１・２・６・11 層）が版築状に堆積する。

［遺　物］陶器 13 点（碗・皿・香炉）・土器１点（焙烙）・金属製品２点（煙管）・石製品１点（砥石）が出土した。

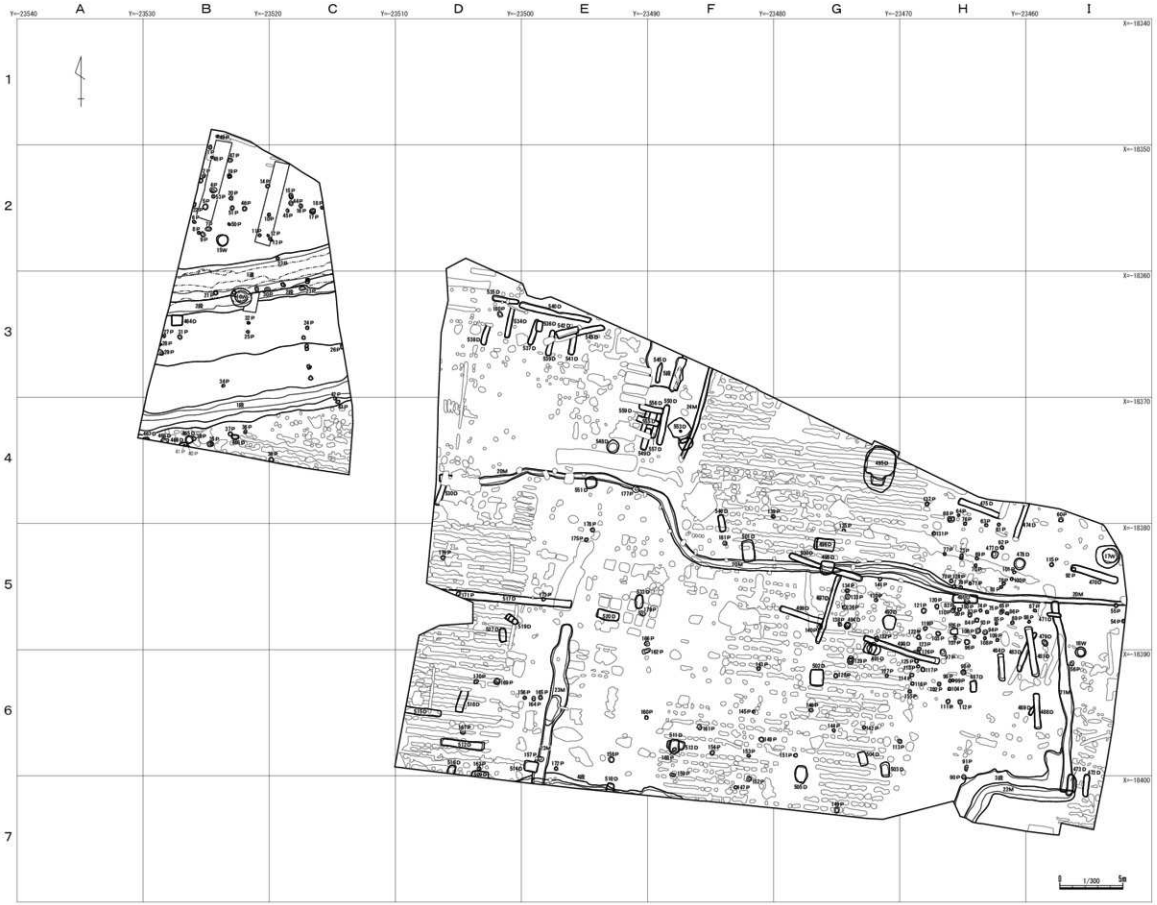
［時　期］中世以降。覆土出土遺物から近世初頭（17 世紀前葉～中葉）には廃絶したと考えられる。

遺　物（第 67 図、図版 30 －２・31 －１、第 16 ～ 18 表）

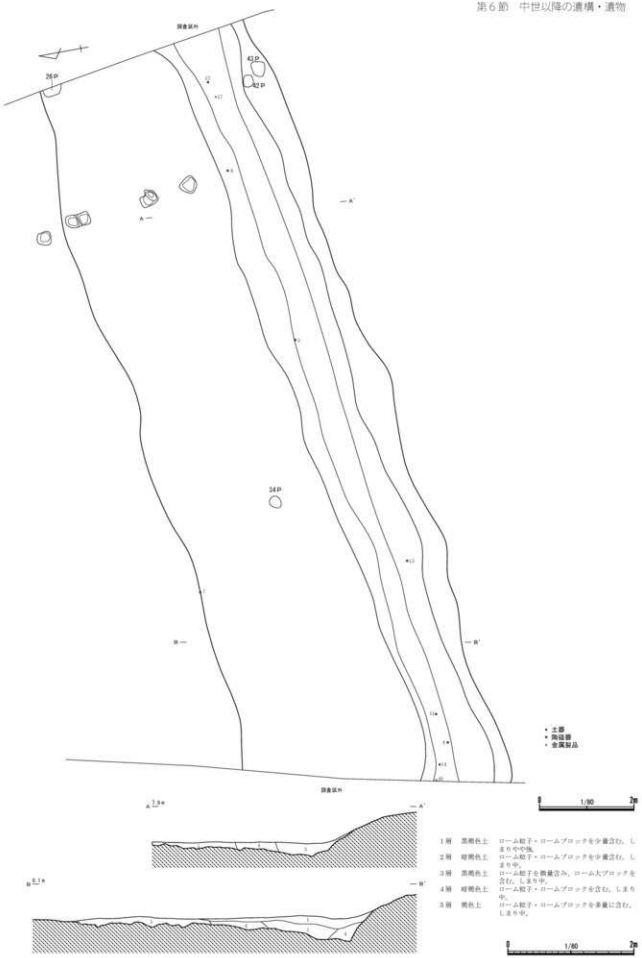
［陶器・土器］（第 67 図１～ 13、図版 30 －２－１～８・31 －１－９～ 14、第 16 表）

１～ 13 は陶器で、１は肥前系の中碗、２・３は瀬戸・美濃系の天目茶碗、４～ 12 は瀬戸・美濃系の小皿、13 は瀬戸・美濃系の香炉である。14 は土器で、在地系の内耳鍋である。

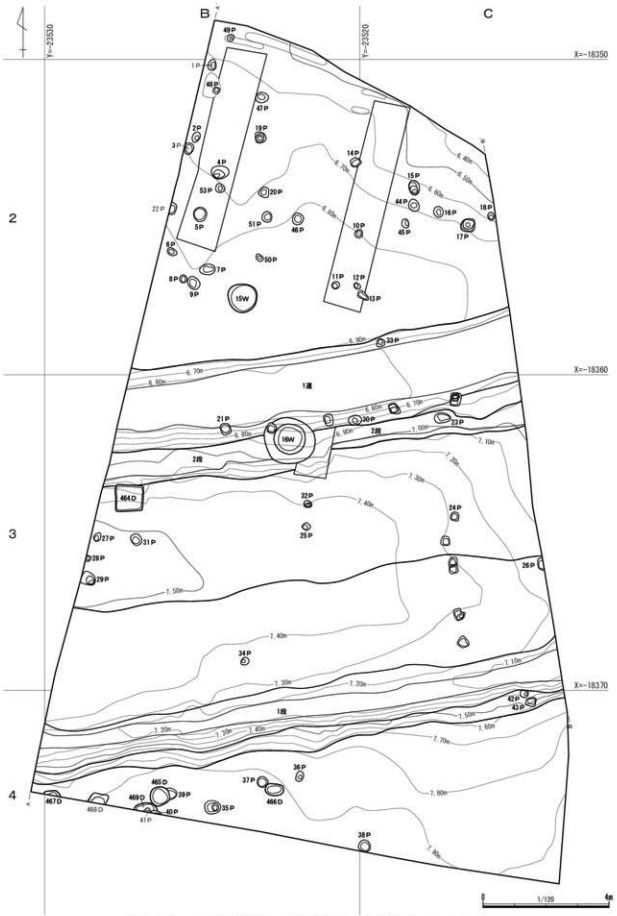
［石 製 品］（第 67 図 15、図版 31 －１－ 15、第 17 表）



第 63 図　中世以降の遺構全体図（1／300）

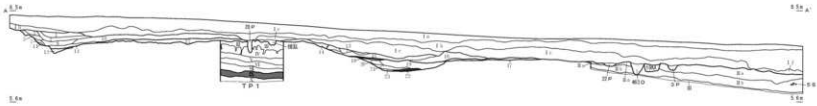


第64図　１号段切状遺構（１／80・１／60）

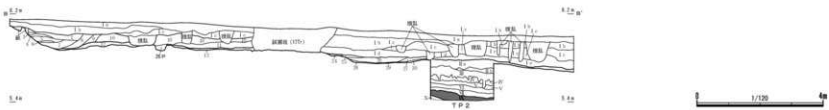


第 65 図　１区中世以降の遺構全体図・等高線図（１／120）

1区西壁



1区東壁



1a層　黒褐色土　表土、しまり弱。
1b層　暗褐色土　耕作土、ローム粒子・ロームブロックを微量含む、しまりやや弱。
1c層　黒褐色土　自然堆積層、ロームブロックを微量含み、Ⅱ層上ホラボを少量含む、しまりやや。
1d層　黒褐色土　自然堆積層、ロームブロックを微量含む、しまりやや。
1e層　黒褐色土　自然堆積層、Ⅱ層上ホラボを含む、しまりやや。
1f層　黒色土　自然堆積層、他と粒子を微量含み、炭化物を少量含む、しまりやや。
2a層　暗褐色土（10YR3/3）　白色粒子を少量含む、ローム層粒極少平面、しまりやや。
2b層　黒色土（10YR1/6）　赤色スコリア・白色粒子少量含む、ローム層粒極少平面、しまりやや。
3層　明黄褐色土（10YR6/6）　赤色スコリアを含み、白色粒子を少量含む、ソフトローム層、しまりや。
4層　明黄褐色土（10YR6/8）　黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリアを含む、ハードローム層、しまり強。
V層　黒褐色土（2.5YR3/6）　黒色スコリア・赤色スコリアを含み、白色粒子を多量に含む、2Cローム層第1黒色帯、しまり強。
VI層　明黄褐色土（2.5YR6/8）　黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリアを少量含む、ATIIIガス層、しまり強。
VII層　黒褐色土（2.5YR3/6）　黒色スコリア・赤色スコリアを含む、2Cローム層第1黒色帯上平面、しまり強。
VIII層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　黒色スコリアを多量に含み、赤色スコリア・白色粒子を少量含む、2Cローム層第1黒色帯下平面、しまり強。
IX層　明黄褐色土（10YR6/6）　黒色スコリアを少量含み、赤色スコリアを含む、しまり強。

1層　黒褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む、しまりやや弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む、しまりやや弱。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む、しまりやや弱。
5層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや弱。
6層　黒褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。
7層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを多量に含む、しまりや。
8層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む、しまりや。
9層　黒褐色土　ローム小ブロックを微量含む、しまりや。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む、しまりや。
11層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む、しまりや。
12層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや強。
13層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む、上面硬化、しまりやや強。
14層　黒褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを含む、しまりや。
15層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む、しまりや。
16層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
17層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや強。
18層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む、上面硬化、しまり強。
19層　暗褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを含む、しまりや。
20層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム大ブロックを多量に含む、しまりや。
21層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
22層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、上面硬化、しまり強。
23層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりや。
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む、上面硬化、しまり強。第77図1層に対応。
25層　黒褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりや。第77図2層に対応。
26層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微量含む、しまりや。第77図6層に対応。
27層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む、しまりや。第77図7層に対応。
28層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む、しまりや。第77図8層に対応。
29層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む、上面硬化、しまり強。第77図9層に対応。
30層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む、しまりや。

1～12層：1号段状遺構、13～30層：1号遺跡状遺構

第66図　1区東壁・西壁（1／120）

15は凝灰岩製の砥石である。

[金属製品]（第67図16・17、図版31－1－16・17、第18表）

16・17は煙管で、16は雁首部、17は吸口部である。

２号段切状遺構

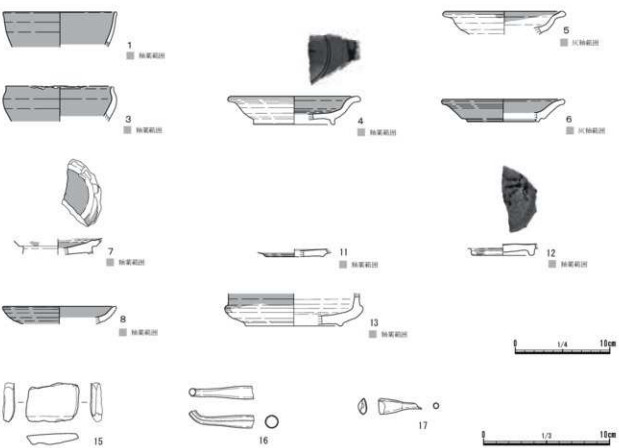
遺　　構（第65図）

[位　　置]（B・C－２・３）グリッド。

[構　　造] **遺構の広がり：**西側は（B－３）グリッド内に、東側は（C－３）グリッド内に概ね東西方向に延びる平場面を形成する段差が認められた。段差の方向は１号段切状遺構と主軸を合わせ、北側の低地部に向かって北に９°傾いて延びている。**規模：**南北方向5.97～7.69m／東西方向13.60m。**深さ：**第65図に示した等高線図によると、最も高い標高は（B－２）グリッドで6.80mライン、最も低い標高は（C－２）グリッドで6.70mラインとなり、平場面全体はほぼ平坦である。また、調査区東・西壁の基本土層（第66図）の観察から、平場面を形成するための掘削は深い箇所でも立川ローム第Ⅲ層下部までに止まり、北半部はローム漸移層が残存していることから自然地形も利用して平場面を形成している状況が見られる。なお、段差の下端に沿って１号道路状遺構が検出された。１号道路状遺構の詳細については後述するが、主軸方位が合致することから両遺構は一連の造成行為に伴うものと考えられる。**平場の状況：**１号段切状遺構とは異なり、工具痕はほとんど見られない。

[遺　　物] 出土しなかった。

[時　　期] １号道路状遺構の出土遺物と重複関係から中世（14世紀）と考えられる。



第67図　１号段切状遺構出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第67図1 図版30-2-1	陶器 椀	口縁部 破片	口(11.8) 高[3.7]	口縁部は僅かに外反する	中轆／内外面：緑釉／肥前系	灰白色／砂粒少量	近世 1650～1740年	覆土中
図版30-2-2	陶器 椀	口縁部 破片	厚0.5	口縁部は直線的に外傾する	天目茶碗／内外面：天目釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒・白色粒子少量	近世 1630～1740年	覆土中
第67図3 図版30-2-3	陶器 椀	口縁部 破片	高[3.7]	口縁部は内湾する	天目茶碗／内外面：天目釉／口唇部打欠き／瀬戸・美濃系	灰白色／砂粒中量	近世 1670～1780年	覆土中
第67図4 図版30-2-4	陶器 皿	口縁部～ 底部15%	口(13.2) 高3.0 底(8.3)	口縁部は大きく外反する／高台あり	小皿／内面・口唇部：灰釉／瀬戸・美濃系	灰白色／砂粒・黒色粒子少量	近世 17世紀初頭	覆土下層
第67図5 図版30-2-5	陶器 皿	口縁部～ 体部破片	口(12.1) 高[2.5]	口縁部は屈曲して大きく外反する	小皿／口縁部内面・口唇部：灰釉／瀬戸・美濃系	灰白色／砂粒・黒色粒子少量	近世 17世紀初頭	覆土下層
第67図6 図版30-2-6	陶器 皿	口縁部～ 底部15%	口(12.6) 高2.4 底(7.3)	口縁部は大きく外反する／高台あり	小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	灰黄色／砂粒少量	近世 17世紀中葉	覆土下層
第67図7 図版30-2-7	陶器 皿	底部30%	高[1.7] 底(7.4)	高台あり	小皿／内面：鉄釉／見込輪花／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒中量	近世 1670～1740年	覆土下層
第67図8 図版30-2-8	陶器 皿	口縁部～ 体部破片	口(11.7) 高[1.9]	口縁部はわみをもって立ち上がる	小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	褐灰色／砂粒中量	近世 1670～1740年	覆土中
図版31-1-9	陶器 皿	口縁部 破片	厚0.4	口縁部は外反する	小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	褐灰色／砂粒少量	近世 1670～1740年	覆土中
図版31-1-10	陶器 皿	口縁部 破片	厚0.5	口縁部は外反する	志野皿／内外面：志野釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒少量	近世 17世紀中葉	覆土中
第67図11 図版31-1-11	陶器 皿	底部20%	高[0.8] 底(5.8)	低高台	志野皿／内外面：志野釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒中量	近世 17世紀中葉	覆土下層
第67図12 図版31-1-12	陶器 皿	底部50%	高[1.2] 底(6.3)	高台あり	鉄釉絵小皿／内外面：灰釉／見込目跡1／瀬戸・美濃系	灰黄褐色／砂粒・白色粒子少量	近世 1710～1770年	覆土下層
第67図13 図版31-1-13	陶器 香炉	胴部～底部20%	高[3.4] 底(10.1)	口縁部と胴部の境に段をもつ	外面：鉄釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒中量	近世 1630～1670年	覆土下層
図版31-1-14	土器 内耳鍋	口縁部～ 底部破片	高[5.5]	胴部は内湾気味に立上り、口縁部はほぼ直立する	内外面：回転ナデ／内耳貼付／在地系	灰黄色／砂粒中量、雲母少量	中世 16世紀中葉	覆土下層

第16表　1号段切状遺構出土陶器・土器一覧

挿図番号 図版番号	原種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第67図15 図版31-1-15	砥石	凝灰岩	3.0	4.1	0.9	14.5	上・下端、裏面を欠損／現存する3面全てが使用面	覆土中

第17表　1号段切状遺構出土石製品一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	材質	長さ (cm)	接合部径 (cm)	吸口径 (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第67図16 図版31-1-16	煙管	銅	[5.1]	1.0	－	4.3	雁首部／火皿部欠損	覆土下層
第67図17 図版31-1-17	煙管	真鍮	[3.4]	1.2	0.4	1.3	吸口部／両端部欠損	覆土下層

第18表　1号段切状遺構出土金属製品一覧

3号段切状遺構

遺　構（第68図）

［位　置］（H・I－6・7）グリッド。

［構　造］**遺構の広がり：**西側は（H－7）グリッド内に、東側は（I－6・7）グリッド内に東西方向を基本に鉤の手状に延びる平場面を形成する段差が認められた。段差の方向を詳しく見ると、西側は真北に対し、東に29°傾いて延び、そこから大きく東方向に屈曲し、中央部は概ね東西方向に延びる。その後、東側では北方向にほぼ直角に屈曲し、真北に対し、西に4°傾いて延びる。**規模：**南北方向5.23m／東西方向8.94m。**深さ：**第5図に示した等高線図によると、最も高い標高は（I－7）グリッドで9.40mライン、最も低い標高は（H－6・7）グリッドで9.30mラインとなり、平場面全体はほぼ平坦であり、調査区南壁の土層観察から、立川ローム第Ⅲ層下部～Ⅳ層上部まで掘削が及んでい

る状況が見られる。なお、平場面南端は 22 M、東端は 21 M・473 D に切られる。**平場の状況：**掘方掘削時の工具痕が部分的に認められる。

［覆　　土］２層に分層される。

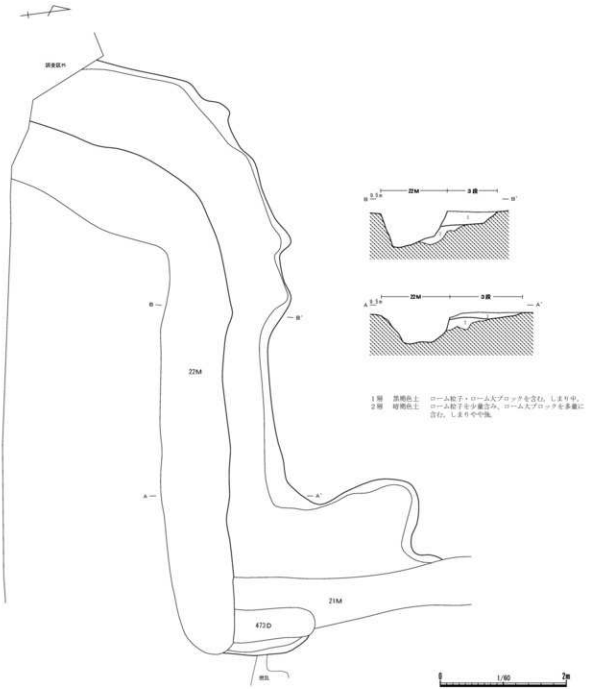
［遺　　物］青磁１点（碗）が出土した。

［時　　期］中世（13 世紀）。

遺　　物（第 69 図、図版 31 －２、第 19 表）

［青　　磁］（第 69 図１、図版 31 －２－１、第 19 表）

１は龍泉窯産と考えられる青磁碗である。



第 68 図　３号段切状遺構（１／60）

第 69 図　３号段切状遺構出土遺物（１／４）

神図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第69図 1 図版 31-2-1	青磁 椀	体部～底部 20%	高 [3.6] 底 (5.2)	高台は高く、直立する	内外面：灰釉／龍泉窯製品か／伝世品の可能性あり	にぶい黄橙色／胎土は精緻されている	中世 13 世紀	覆土中

第 19 表　３号段切状遺構出土陶磁器一覧

４号段切状遺構

遺　　構（第 70 図）

［位　　置］（Ｅ－６、Ｄ・Ｅ・Ｆ－７）グリッド。

［構　　造］**遺構の広がり：**西側は（Ｄ－７）グリッド内に、東側は（Ｆ－７）グリッド内に概ね東西方向に延びる平場面を形成する段差が認められた。段差の方向は北側の低地部に向かって北に６°傾いて延びている。本遺構は南側に隣接する第 95 地点で検出された段切状遺構に連なると推測され、その北端部に該当すると考えられる。**規模：**南北方向 0.76m ／東西方向 13.49m。**深さ：**第５図に示した等高線図によると、平場面全体を通して標高 8.70 ～ 8.80m ライン内に収まり、平坦である状況が見られる。また、調査区南壁（９号試掘坑）の基本土層（第９図）の観察から、段切状遺構の平場面は立川ローム第Ⅳ層上部まで掘削が及んでおり、平場面西端は 23 Mに切られる。**平場の状況：**検出された箇所が北端部の狭小な範囲にとどまるため、顕著な工具痕はあまり見られない。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］陶器１点（甕）・石製品１点（砥石）が出土した。

［時　　期］中世（14 世紀）。

遺　　物（第 71 図、図版 31 －３、第 20・21 表）

［陶　　器］（図版 31 －３－１、第 20 表）

１は常滑の甕である。

［石 製 品］（第 71 図２、図版 31 －３－２、第 21 表）

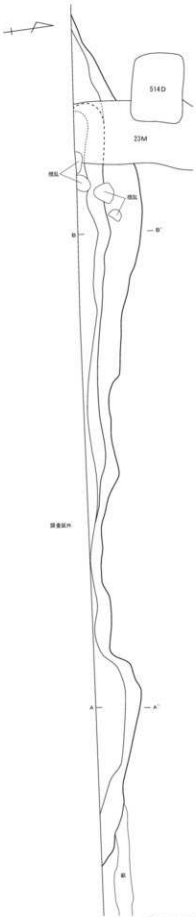
２は凝灰岩製の砥石である。

神図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 31-3-1	陶器 甕	頸部 破片	厚 1.0	大甕	常滑製品	灰黄褐色／石英・雲母・砂粒少量	中世 14 世紀	覆土中

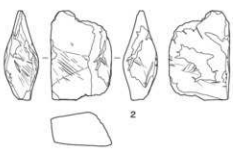
第 20 表　４号段切状遺構出土陶器一覧

神図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第71図 2 図版 31-3-2	砥石	凝灰岩	7.0	4.8	2.7	95.9	上・下端を欠損 / 上・下端を除く４面が使用面	覆土中

第 21 表　４号段切状遺構出土石製品一覧



第 70 図　４号段切状遺構（１／60）



第 71 図　４号段切状遺構出土遺物（１／３）

５号段切状遺構

遺　　構（第72図）

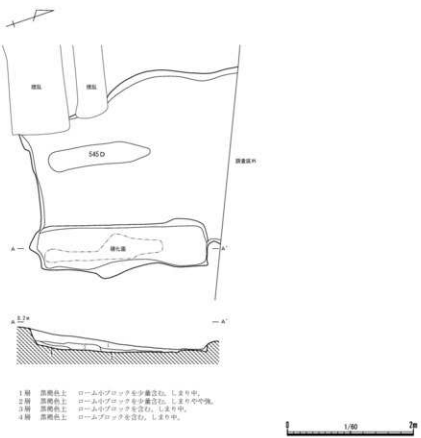
［位　　置］（Ｅ・Ｆ－３）グリッド。

［構　　造］**遺構の広がり：**西側は（Ｅ－３）グリッド内に、東側は（Ｆ－３）グリッド内に概ね南北方向に延びる平場面を形成する段差が認められた。段差の方向は北側の低地部に向かって東に 11°傾いて延びている。**規模：**南北方向3.04m ／東西方向3.14m。**深さ：**第５図に示した等高線図によると、最も高い標高は（Ｆ－３）グリッドで8.00mライン、最も低い標高は（Ｅ－３）グリッドで7.80mラインとなり、比高差0.20mで緩やかに北西方向に傾斜するが、（Ｅ－３）グリッドに至ると概ね平場面全体は平坦となる状況が見られる。調査区北壁の土層観察から、段切状遺構の平場面は立川ローム第Ⅲ層下部～Ⅳ層上部まで掘削が及んでおり、下面から545 Dが検出された。また、東側の段差下端に沿う形で、幅0.57 ～0.75mの溝状の掘り込みが検出され、掘り込み中央部南東寄りで硬化面が確認された。**平場の状況：**ローム掘削時の工具痕が全体に認められる。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第72図　５号段切状遺構（１／60）

（３）道路状遺構

１号道路状遺構

遺　構（第 73 ～ 77 図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－２・３）グリッド。

［検出状況］１区中央部やや北寄りで、２号段切状遺構の段切面に沿う形で検出され、東西両端は調査区外に延びる。中世以降のピット（21・30・33 Ｐ）に切られ、井戸跡（16 Ｗ）を埋め戻して構築されている。なお、硬化面第１面直下から付帯施設と考えられるピット（Ｐ１～Ｐ４）が検出された。４本のピットはいずれも平面形が不整長方形を呈し、道路面に対して並行となるように規則的に配置されている。

［構　　造］**規模**：検出長 13.32m ／検出幅 3.15m。掘方の断面形は逆台形を呈し、壁面は最大斜度 25 ～ 30°で緩やかに立ち上がる。**走行方位**：Ｎ－ 81°－ Ｅ。**路面**：３面確認した。第１・２面は黒褐色土を突き固めて構築され、第３面は遺構底面が踏み固められて構築されたと考えられる。**路面レベル**：第１面：6.87 ～ 7.02m、第２面：6.52 ～ 6.64m、第３面：6.47 ～ 6.58m。**路面規模**：第１面：検出長 13.02m ／検出幅 0.43 ～ 1.02m（16 W直上部が突出して広い）、第２面：検出長 12.66m ／検出幅 0.54 ～ 1.36m、第３面：検出長 12.78m ／検出幅 0.55 ～ 0.90m。

［覆　　土］18 層に分層される。

［遺　　物］陶器４点（碗・甕）・石製品２点（砥石）が出土した。

［時　　期］中世（14 世紀）。

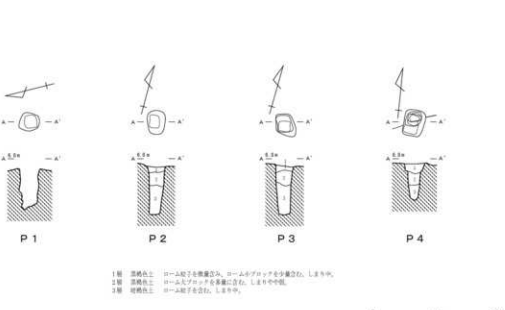
遺　物（第 78 図、図版 32 － 1 、第 22・23 表）

［陶　　器］（第 78 図 1 、図版 32 － 1 － 1 ～ 4 、第 22 表）

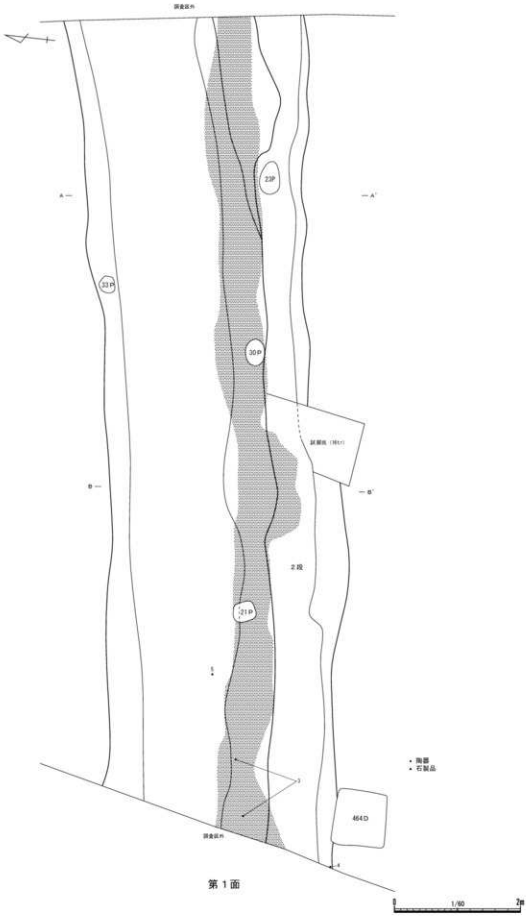
１・２は古瀬戸系の碗、３・４は常滑の甕である。

［石 製 品］（第 78 図 5・6、図版 32 － 1 － 5・6、第 23 表）

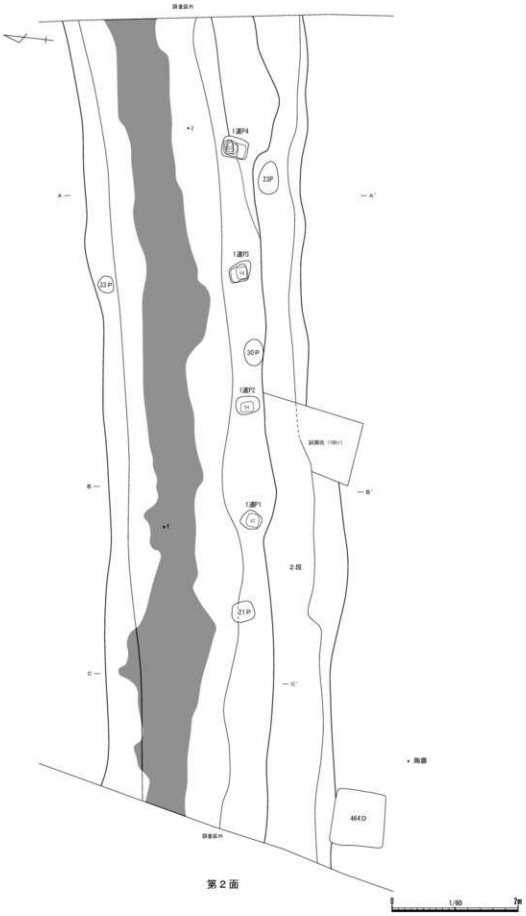
５は砂質凝灰岩製の砥石、６は凝灰岩製の砥石である。



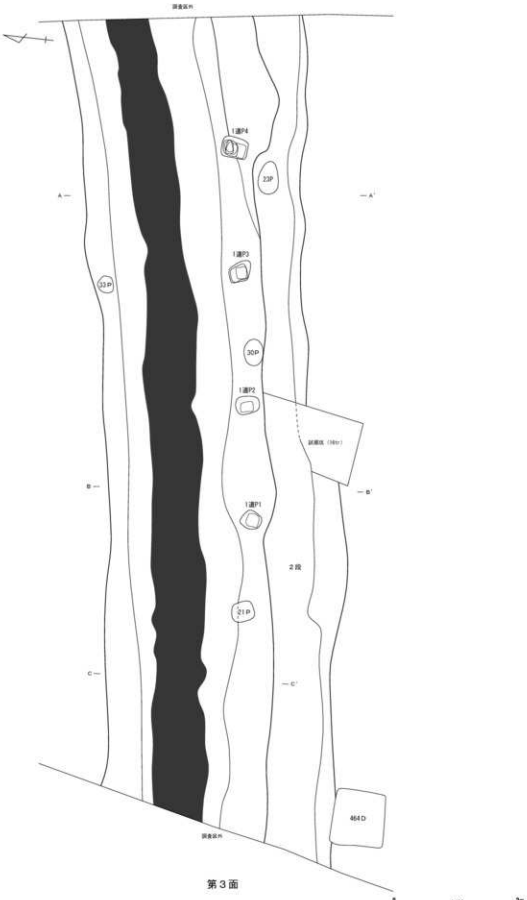
第 73 図　１号道路状遺構　ピット（１／60）



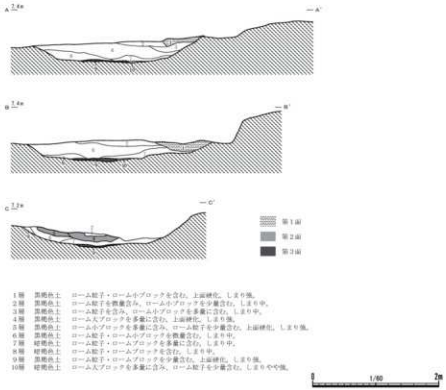
第74図　１号道路状遺構　第１面（１／60）



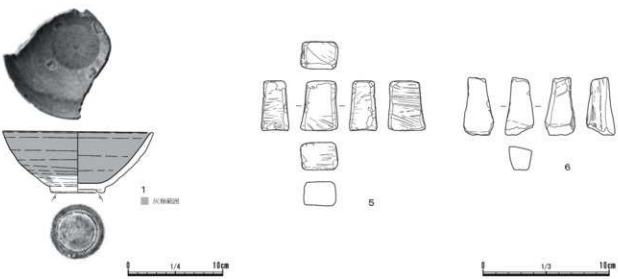
第 75 図　１号道路状遺構　第２面（１／60）



第 76 図　１号道路状遺構　第３面（１／60）



第 77 図　１号道路状遺構　土層断面（１／60）



第 78 図　１号道路状遺構出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第78図 1 図版 32-1-1	陶器 碗	口縁部～ 底部 30%	口 (15.7) 高 6.5 底 5.6	口縁部は外傾する	平滑／内面全面・口縁部～体部外面：灰釉／見込み部４／底部外面に回転糸切り痕／古瀬戸系	にぶい黄橙色／砂粒少量	中世 14 世紀後葉	覆土下層
図版 32-1-2	陶器 碗	口縁部～ 体部破片	厚 0.6	口縁部は屈曲して外反する	天目茶碗／内面全面・口縁部～体部外面：灰釉／上手／古瀬戸系	灰白色／砂粒少量	中世 14 世紀前葉	覆土下層
図版 32-1-3	陶器 甕	胴部 破片	厚 1.5	大甕	常滑製品	灰黄褐色／石英・小礫・砂粒中量	中世 14 世紀	覆土上層
図版 32-1-4	陶器 甕	胴部 破片	厚 1.3	大甕	常滑製品	にぶい褐色／石英・小礫・砂粒中量	中世 14 世紀	覆土上層

第 22 表　１号道路状遺構出土陶器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第78図5 図版32-1-5	砥石	砂質凝灰岩	3.9	3.0	2.2	38.8	ほぼ完形／6面全てが使用面で、うち1面に明瞭な刃物痕跡が見られる	覆土上層
第78図6 図版32-1-6	砥石	凝灰岩	4.6	2.2	2.3	23.7	上・下端を欠損／上・下端を除く4面が使用面で、うち1面に刃物痕跡が見られる	覆土中

第23表　1号道路状遺構出土石製品一覧

（4）土　坑

平面形及び細部の形態的な特徴を城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする（尾形・深井・青木　2005）。F群については、中野遺跡第95地点（徳留・尾形・青木　2017）の分類を使用し、G群については、中野遺跡第102地点（尾形・大久保・深井・青木　2019）の分類を使用する。検出された土坑の総数は73基である。基本構造については、第27表を参照されたい。

A群　方形の土坑　2基（1類－0基、2類－2基）

1類　袋状の構造を呈する　0基

2類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する　2基（464・498 D）

B群　長方形の土坑　56基（1類－14基、2類－40基、3類－2基、4類－0基）

1類　溝状土坑　14基（470・474・475・481・483・490・497・499・500・512・515・517・540・550 D）

2類　幅狭の長方形土坑　40基（471～473・480・484・487～489・496・501・503～505・510・511・513・514・516・518～520・527・530・533～539・541～543・545・546・549・555～557・559 D）

3類　幅広の長方形土坑　2基（492・502 D）

4類　火床部を有する土坑　0基

C群　円形・楕円形の土坑　9基（465・466・469・477～479・494・548・551 D）

D群　不整形の土坑　0基

E群　地下室・地下坑、地下式坑　3基（1類－3基、2類－0基）

1類　1竪坑1主体部タイプ　3基（491・495・553 D）

2類　特殊タイプ　0基

F群　T字形の土坑　0基

G群　その他　3基（467・468・509 D）

Ａ群　方形の土坑（第 79 図、第 27 表）

２類のみが２基（464・498 Ｄ）該当する。重複関係から他群の土坑よりも時期的に新しい傾向が見られる。

Ａ群２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する（第 79 図、第 27 表）

464 号土坑

遺　構（第 79 図）

［位　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］２段を切る。

［構　造］**平面形：**方形。**規模：**長軸 0.87m ／短軸 0.84m ／深さ 0.13m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 89°－Ｅ。

［覆　土］単層。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。

498 号土坑

遺　構（第 79 図）

［位　置］（Ｇ－５）グリッド。

［検出状況］550 Ｄ・20 Ｍを切る。

［構　造］**平面形：**不整方形。**規模：**長軸 1.08m ／短軸 1.07m ／深さ 0.36m。**壁：**80°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 10°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］陶器１点（皿）が出土した。

［時　期］近世（17 世紀前半）。

遺　物（第 80 図、図版 32 －２、第 24 表）

［陶　器］（第 80 図１、図版 32 －２－１、第 24 表）

１は瀬戸・美濃系の灰釉小皿である。

第 79 図　土坑　Ａ群２類（１／ 60）

498 号土坑

第 80 図　中世以降の土坑出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第80図 1 図版 32-2-1	498 D	陶器 皿	口縁部～ 体部破片	口 (11.7) 高 [1.8]	口縁部は折曲して外反する	灰釉小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒少量	近世 1630 ～ 1650 年	覆土中
図版 32-2-2	490 D	陶器 皿	口縁部 破片	厚 0.5	口縁部は外短する	灰釉小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	灰白色／砂粒少量	近世 1670 ～ 1740 年	覆土中

第 24 表　中世以降の土坑出土陶器一覧

B群　長方形の土坑（第 81 ～ 89 図、第 27 表）

56 基検出された。今次調査では最も多く検出された群であり、全 73 基中の 7 割以上（76.7%）を占める。更に 1 類 14 基、2 類 40 基、3 類 2 基、4 類 0 基に細分され、ほぼ 1・2 類に限定される状況である。調査地点西側に当たる 1 区では検出されなかったたが、2・3 区では全域で検出され、3 区北西部の（D・E－3）・（E・F－4）グリッド内にやや集中する傾向が見られる。

B群 1 類　溝状土坑（第 81 ～ 83 図、第 27 表）

470・474・475・481・483・490・497・499・500・512・515・517・540・550 D の 14 基が該当する。長軸方位は概ね東西軸をとるものが 9 基と多く、標高が高い 2 区南半部・3 区南東部を避けて分布する傾向が見られる。

470 号土坑

遺　構（第 81 図）

［位　　置］（I－5）グリッド。

［検出状況］平安時代の住居跡（87 H）・ピット（57・58 P）、中世以降のピット（92 P）を切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 3.84m ／短軸 0.58m ／深さ 0.07m。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**N－73°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

474 号土坑

遺　構（第 81 図）

［位　　置］（H・I－4、H－5）グリッド。

［検出状況］南側は攪乱に切られ、北側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 2.89m 以上／短軸 0.43m ／深さ 0.16m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－19°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

475 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（H－４）グリッド。

［検出状況］東側は撹乱に切られる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 3.48m 以上／短軸 0.46m ／深さ 0.19m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－69°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

481 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（H・I－５、H－６）グリッド。

［検出状況］483 Dを切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 4.00m ／短軸 0.51m ／深さ 0.31m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－８°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

483 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（H・I－５・６）グリッド。

［検出状況］481 Dに切られる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 3.36m ／短軸 0.46m ／深さ 0.11m。**壁：**45°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－23°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

490 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（G・H－５・６）グリッド。

［検出状況］中世の地下式坑（491 D）、中世以降のピット（125・126・132 P）を切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 6.27m ／短軸 0.49m ／深さ 0.45m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－18°－W。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］陶器１点（皿）が出土した。

［時　　期］近世（17 世紀後葉～ 18 世紀前葉）。

遺　　物（図版 32 －2、第 24 表）

［陶　　器］（図版 32 －2－2、第 24 表）

1は瀬戸・美濃系の灰釉小皿である。

497 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（G－5）グリッド。

［検出状況］499 D・140 Pを切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 5.66m ／短軸 0.37m ／深さ 0.24m。**壁：**70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－ 17°－E。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

499 号土坑

遺　　構（第 81 図）

［位　　置］（G－5）グリッド。

［検出状況］497 Dに切られる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 3.54m 以上／短軸 0.45m ／深さ 0.14m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－ 73°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

500 号土坑

遺　　構（第 82 図）

［位　　置］（G－5）グリッド。

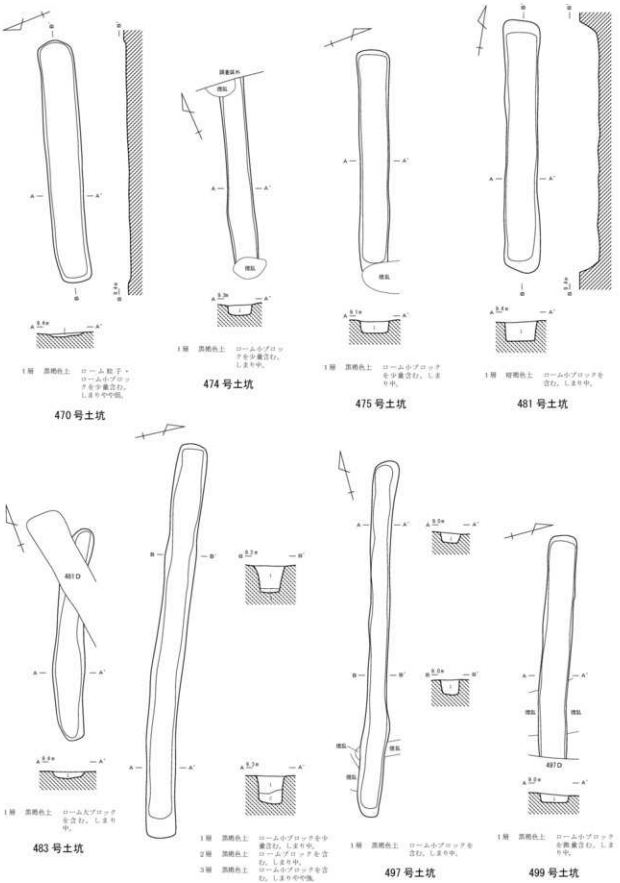
［検出状況］中世の溝跡（20 M）を切り、中世以降の土坑（498 D）に切られる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 6.07m ／短軸 0.51m ／深さ 0.29m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－ 71°－W。

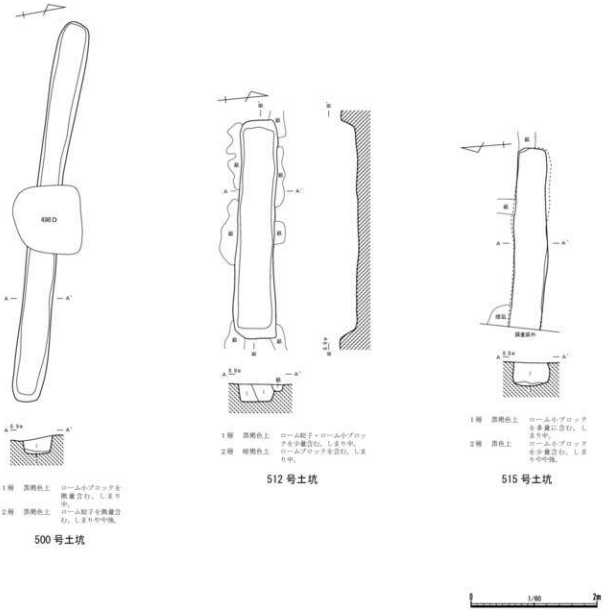
［覆　　土］2層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第81図　土坑　B群１類１（１／60）



第 82 図　土坑　B 群 1 類 2（1／60）

512 号土坑

遺　　構（第 82 図）

［位　　置］（D－6）グリッド。

［検出状況］平安時代の土坑（525・526 D）を切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 3.47m ／短軸 0.64m ／深さ 0.28m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－83°－W。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

515 号土坑

遺　構（第 82 図）

［位　　置］（Ｄ－６）グリッド。

［検出状況］平安時代の土坑（522・524 Ｄ）を切り、西側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸２.87m 以上／短軸０.54m ／深さ０.37m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－83°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

517 号土坑

遺　構（第 83 図）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－５）グリッド。

［検出状況］171・173 Ｐを切り、西側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸 10.46m 以上／短軸０.68m ／深さ０.27m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－85°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

540 号土坑

遺　構（第 83 図）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］縄文時代の土坑（547・558 Ｄ）を切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸５.77m ／短軸０.50m ／深さ０.30m。**壁：**75°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－77°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

550 号土坑

遺　構（第 83 図）

［位　　置］（Ｆ－４）グリッド。

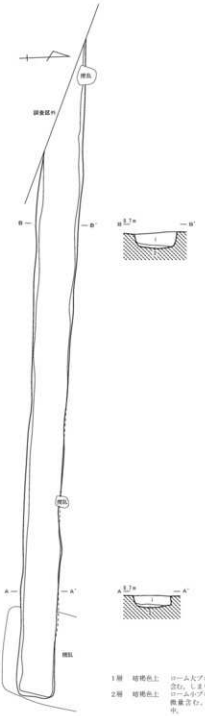
［検出状況］556・557 Ｄを切る。

［構　　造］**平面形：**溝状の長方形。**規模：**長軸３.26m ／短軸０.51m ／深さ０.20m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－12°－Ｅ。

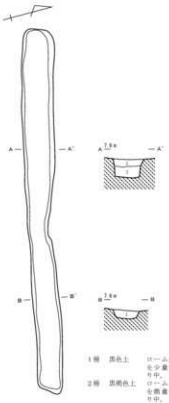
［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

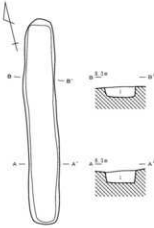
［時　　期］中世以降。



517号土坑



540号土坑



550号土坑

0　1/60　2m

第83図　土坑　B群1類3（1／60）

B群２類　幅狭の長方形土坑（第 84 ～ 88 図、第 27 表）

471 ～ 473・480・484・487 ～ 489・496・501・503 ～ 505・510・511・513・514・516・518 ～ 520・527・530・533 ～ 539・541 ～ 543・545・546・549・555 ～ 557・559 Dの 40 基が該当する。南側に隣接する第 95 地点では、後述する３類（幅広の長方形土坑）との比率が、２：17 と３類が主体を占め、東側に隣接する第 102 地点でも、３：15 と３類が主体的であるのに対し、本地点では 40：２と比率が完全に逆転する点が特筆される。なお、これら 40 基の土坑のうち、487・503 ～ 505 Dの４基は土坑墓と考えられる。以下、土坑墓について個別に詳述する。それ以外の土坑の基本構造については、第 27 表を参照されたい。

487 号土坑

遺　構（第 84 図）

［位　置］（H－６）グリッド。

［構　造］遺存状況が悪く、原形をとどめていなかったが、覆土下層から人骨片が比較的まとまって出土していることから、土坑墓（土葬・直葬か）と考えられる。**平面形：**長方形。**規模：**長軸 0.90m ／短軸 0.48m ／深さ 0.41m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－１°－E。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］人骨（骨片）。

［時　期］中世。

503 号土坑

遺　構（第 84 図）

［位　置］（G－６・７）グリッド。

［構　造］土坑墓（土葬・直葬）である。人骨は頭を北にして埋葬されていた。四肢がほとんど残っておらず、埋葬姿勢については不明である。**平面形：**隅丸長方形。**規模：**長軸 1.17m ／短軸 0.66m ／深さ 0.44m。**壁：**70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－５°－W。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］人骨。

［時　期］中世。

504 号土坑

遺　構（第 84 図）

［位　置］（G－６）グリッド。

［構　造］土坑墓（土葬・直葬）である。人骨は頭を北に、顔を西にして埋葬されていた。腕はほとんど残っていなかったが、脚部の形状から、手足を顔と同じ方向に屈曲した状態で埋葬されたと推測される。**平面形：**長方形。**規模：**長軸 1.11m ／短軸 0.66m ／深さ 0.47m。**壁：**一部オーバーハングしながらほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－ 16°－W。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］人骨と共に、胸部付近から銭貨８点（六文銭）が出土した。

［時　　期］中世。

遺　　物（第95図、図版33、第28表）

［銭　　貨］（第95図1～8、図版33－1～8、第28表）

1は太平通寶、2は至道元寶、3は天聖元寶、4は皇宋通寶、5・6は熙寧元寶、7は元符通寶、8は永楽通寶である。

505号土坑

遺　　構（第84図）

［位　　置］（G－6・7）グリッド。

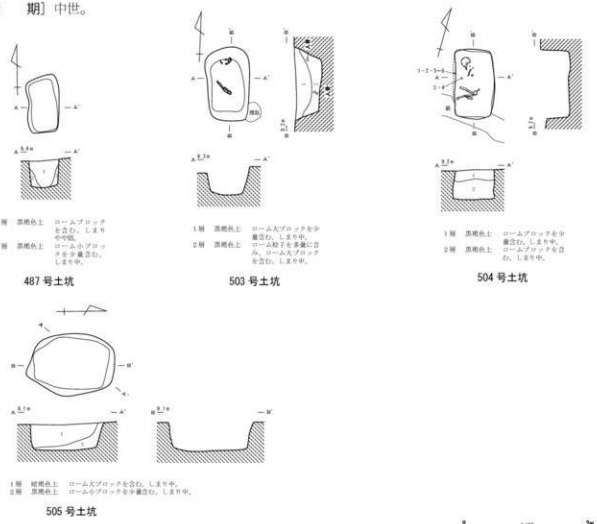
［検出状況］平安時代の土坑（507 D）を切る。

［構　　造］人骨は原位置をとどめていなかったが、503・504 Dとの関連性から土坑墓（土葬・直葬）と考えられる。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸1.36m／短軸0.98m／深さ0.48m。**壁**：75°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－1°－W。

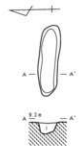
［覆　　土］2層に分層される。

［遺　　物］人骨。

［時　　期］中世。

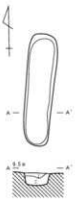


第84図　土坑　B群2類1（1／60）



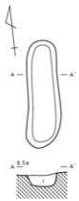
1層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや強。

471 号土坑



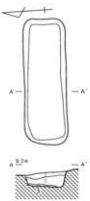
1層　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりやや。

472 号土坑



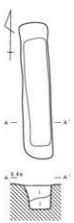
1層　暗褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム大ブロックを少量含む。しまりやや。

473 号土坑



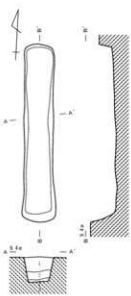
1層　暗灰褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム大ブロックを少量含む。しまり強。

480 号土坑



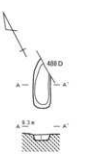
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

484 号土坑



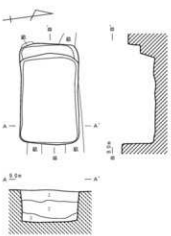
1層　黒褐色土　ローム粒子を少量含む。しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや強。

488 号土坑



1層　黒褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを少量含む。しまりやや強。

489 号土坑



1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを微量含む。しまりや。

496 号土坑

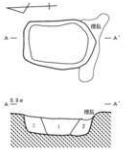
第85図　土坑　B群２類２（1／60）

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。
3層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや強。

501 号土坑

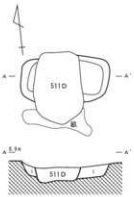
1層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりや。

510 号土坑



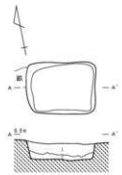
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや強。

511 号土坑



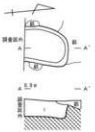
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

513 号土坑



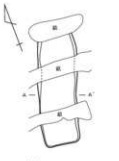
1層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。

514 号土坑



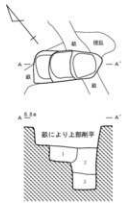
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

516 号土坑



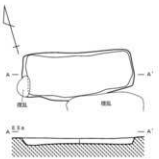
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

518 号土坑



1層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや強。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや強。
3層　黒褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや強。

519 号土坑

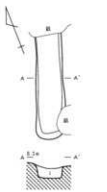


1層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む、しまりや。

520 号土坑

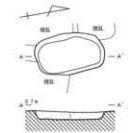
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや強。

527 号土坑



1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

530 号土坑

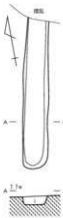


1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

533 号土坑

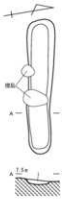
1/60　2m

第86図　土坑　B群2類3（1／60）



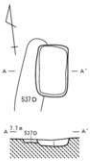
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

534 号土坑



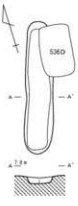
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

535 号土坑



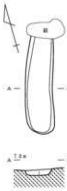
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

536 号土坑



1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

537 号土坑



1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

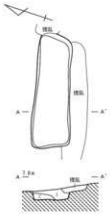
538 号土坑

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

539 号土坑

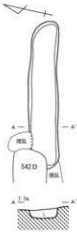
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

541 号土坑



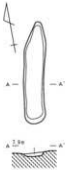
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

542 号土坑



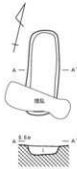
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

543 号土坑



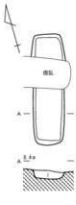
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

545 号土坑



1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

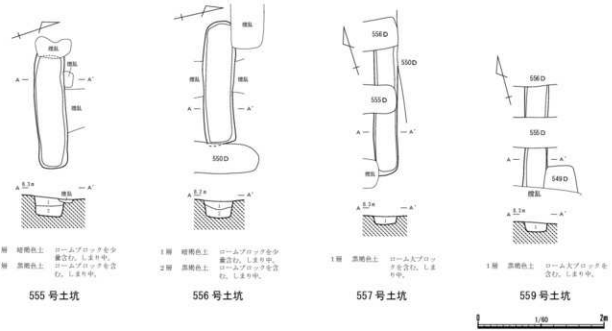
546 号土坑



1層　黒褐色土　ローム土ブロックを少量含む、しまりやや。

549 号土坑

第87図　土坑　B群２類４（1／60）



第88図　土坑　B群2類5（1／60）

B群3類　幅広の長方形土坑（第89図、第27表）

492・502 Dの2基が該当する。本地点では客体的なタイプである。

492号土坑

遺　構（第89図）

［位　置］（G－5）グリッド。

［構　造］土坑墓（土葬・直葬）である。人骨は頭を北に、顔を上面にして埋葬されていた。四肢の残存状態が悪く、埋葬姿勢については不明である。**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸1.10m／短軸1.02m／深さ0.60m。**壁**：一部オーバーハングしながらほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：N－7°－E。

［覆　土］4層に分層される。

［遺　物］人骨と共に、胸部直上から銭貨3点（六文銭）が出土した。

［時　期］中世。

遺　物（第95図、図版33、第28表）

［銭　貨］（第95図1～3、図版33－1～3、第28表）

1は開元通寶、2は皇宋通寶、3は元豊通寶である。

502号土坑

遺　構（第89図）

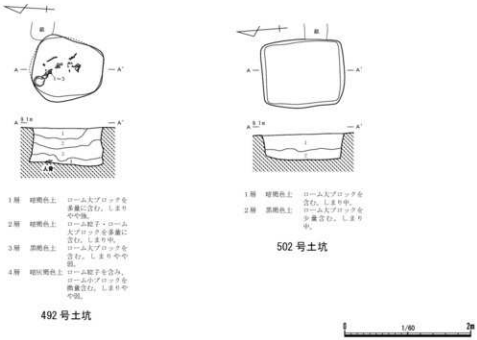
［位　置］（G－6）グリッド。

［構　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸1.30m／短軸1.08m／深さ0.41m。**壁**：80°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：N－3°－E。

［覆　土］2層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。



第 89 図　土坑　B 群３類（1／60）

C 群　円形・楕円形の土坑（第 90 図、第 27 表）

465・466・469・477 ～ 479・494・548・551 D の９基が該当する。１区南端の（B－４）グリッドにやや分布の集中が見られるが、調査区全域に散在して検出された。

465 号土坑

遺　構（第 90 図）

［位　置］（B－４）グリッド。

［検出状況］39 P を切る。

［構　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸 0.63m ／短軸 0.60m ／深さ 0.36m。**壁：**75°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－63°－E。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。

466 号土坑

遺　構（第 90 図）

［位　置］（B－４）グリッド。

［構　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸 0.58m ／短軸 0.37m ／深さ 0.26m。**壁：**70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－84°－W。

［覆　土］３層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。

469号土坑

遺　構（第90図）

［位　置］（B－4）グリッド。

［検出状況］40・41 Pに切られ、南側は調査区外に延びる。

［構　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.74m／短軸0.30m以上／深さ0.20m。**壁：**70°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－88°－W。

［覆　土］単層。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。

477号土坑

遺　構（第90図）

［位　置］（H－5）グリッド。

［構　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸0.54m／短軸0.51m／深さ0.62m。**壁：**75°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－12°－E。

［覆　土］2層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］中世以降。

478号土坑

遺　構（第90図）

［位　置］（H－5）グリッド。

［構　造］土坑墓（土葬・直葬か）である。断面が円筒形を呈し、深度も深く掘削が困難であったため、人骨を原位置で検出することが出来なかった。桶や棺などの埋葬施設は検出されず、埋葬姿勢については、深度が1.30mと非常に深いことから座葬の可能性が考えられる。**平面形：**不整円形。**規模：**長軸0.91m／短軸0.86m／深さ1.30m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**N－15°－E。

［覆　土］4層に分層される。

［遺　物］人骨と共に、銭貨6点（六文銭）が出土した。

［時　期］近世。

遺　物（第95図、図版34－1、第28表）

［銭　貨］（第95図1～6、図版34－1－1～6、第28表）

1～6は寛永通寶（新寛永）である。

479号土坑

遺　構（第90図）

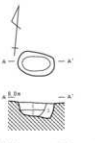
［位　置］（I－5）グリッド。

［検出状況］縄文時代の土坑（482 D）を切る。

［構　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.54m／短軸0.38m／深さ0.14m。**壁：**40°の角度で立ち上

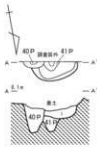
1層　暗褐色土　ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを含む、しまり中。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまり中。

465 号土坑



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む、しまり中。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む、しまり中。
3層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまり中。

466 号土坑

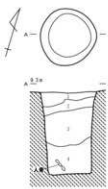


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりやや弱。

469 号土坑

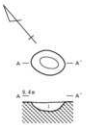
1層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む、しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。

477 号土坑



1層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム大ブロックを含む、しまりやや弱。
2層　黒色土　ローム大ブロックを含む、しまりやや弱。
3層　暗黄褐色土　ローム土主体、暗褐色土小ブロックを少量含む、しまりやや弱。
4層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや弱。

478 号土坑

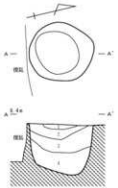


1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。

479 号土坑

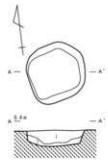
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや弱。

494 号土坑



1層　黄褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む、しまりやや弱。
3層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりやや弱。
4層　暗黄褐色土　ローム大ブロック主体、しまりやや強。

548 号土坑



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む、しまりやや強。
2層　暗黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや強。

551 号土坑

第 90 図　土坑　C 群（1／60）

がる。**長軸方位：**N－40°－W。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

494号土坑

遺　　構（第90図）

［位　　置］（G－5）グリッド。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸0.54m／短軸0.45m／深さ0.48m。**壁：**80°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－22°－E。

［覆　　土］2層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

548号土坑

遺　　構（第90図）

［位　　置］（E－4）グリッド。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸1.04m／短軸0.97m／深さ0.81m。**壁：**80°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－8°－W。

［覆　　土］4層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

551号土坑

遺　　構（第90図）

［位　　置］（E－4）グリッド。

［検出状況］中世の溝跡（20M）を切る。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**長軸0.92m／短軸0.90m／深さ0.26m。**壁：**75°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**N－75°－E。

［覆　　土］2層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

D群　不整形の土坑

今次調査では該当する遺構は検出されなかった。

Ｅ群　地下室・地下坑、地下式坑（第91・92図、第27表）

491・495・553 Ｄの３基が該当する。いずれも中世に属する地下式坑で、１類とした１竪坑１主体部タイプである。

491号土坑

遺　構（第91図）

［位　　置］（Ｇ－５・６）グリッド。

［検出状況］490 Ｄに切られる。

［構　　造］地下式坑の形態をもつ。

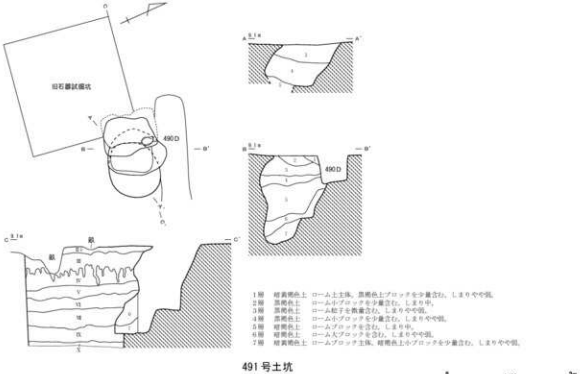
［主 体 部］**平面形：**主軸に対して縦長の長方形を呈する。**規模：**長軸0.85m／短軸0.61m／深さ1.59m。本地点で検出された他の２基の地下式坑に比して非常に狭小であり、地下式坑としての用途を果たしていたのか不明な点が認められる。なお、入口竪坑部との境界で付帯施設の可能性があるピットが１本検出された。**長軸方位：**Ｎ－14°－Ｅ。

［入口竪坑部］**平面形：**開口部は主軸に対して横長の楕円形を呈する。主体部への連絡は70°の角度で、0.36m下がる。**開口部規模：**長軸0.94m／短軸0.80m／深さ1.19m。**長軸方位：**Ｎ－77°－Ｅ。坑底は概ね平坦であるが、主体部の掘り込みによって干渉を受け、西側の２角が欠落した狭小な構造となっている。開口部とは長軸方位を違えて、主軸に対して縦長の隅丸長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、上部は漏斗状に広がる。**坑底規模：**長軸0.67m／短軸0.38m。**長軸方位：**Ｎ－27°－Ｅ。

［覆　　土］７層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世。



第91図　土坑　Ｅ群１類１（１／60）

495号土坑

遺　構（第92図）

［位　置］（G－4）グリッド。

［検出状況］上面は複数の近世以降の畝状遺構に切られる。

［構　造］地下式坑の形態をもつ。

［主体部］**平面形：**方形を呈する。天井部は崩落しており、覆土下層（10層）にその一部と考えられる堆積が確認された。また、入口竪坑部と対面する奥壁中央部に足掛け穴の可能性が考えられる凹みが検出され、壁面四方で工具痕が確認された。主体部への連絡は段差をもち、ほぼ垂直に0.74m下がる。**規模：**長軸2.63m／短軸2.44m／深さ2.12m。**長軸方位：**N－6°－E。

［入口竪坑部］**平面形：**開口部は主軸に対して横長の楕円形を呈する。**開口部規模：**長軸2.29m／短軸1.20m／深さ1.27m。**長軸方位：**N－78°－W。坑底は概ね平坦で、主軸に対して横長の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、上部は角度を変えて外方に広がる。**坑底規模：**長軸0.82m／短軸0.47m。**長軸方位：**N－12°－E。

［覆　土］11層に分層される。

［遺　物］陶器4点（鉢・甕）・石製品1点（砥石）が出土した。

［時　期］中世（14世紀）。

遺　物（第93図、図版34－2、第25・26表）

［陶　器］（第93図1～4、図版34－2－1～4、第25表）

1は山茶碗窯系の捏鉢、2～4は常滑の甕である。

［石 製 品］（第93図5、図版34－2－5、第26表）

5は凝灰岩製の砥石である。

553号土坑

遺　構（第92図）

［位　置］（F－4）グリッド。

［検出状況］24Mに切られる。

［構　造］地下式坑の形態をもつ。

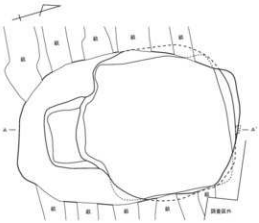
［主体部］**平面形：**方形を呈する。天井部が残存し、主体部は立川ローム第X層を掘り抜いて構築されている。底面主軸線上に径0.20m、深さ0.04mの掘り込みが確認されたが、付帯施設としての用途は不明である。**規模：**長軸1.63m／短軸1.51m／深さ2.37m。**長軸方位：**N－40°－W。

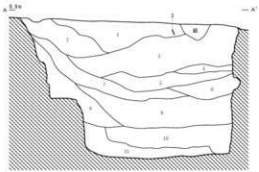
［入口竪坑部］**平面形：**開口部は主軸に対して横長の楕円形を呈する。主体部への連絡は階段状を呈し、上下段共にほぼ垂直に上段0.34m、下段0.74m、計1.08m下がる。**開口部規模：**長軸1.15m／短軸0.91m／深さ1.18m。**長軸方位：**N－72°－E。坑底は平坦で、主軸に対して横長の隅丸長方形を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。**坑底規模：**長軸1.02m／短軸0.70m。**長軸方位：**N－73°－E。

［覆　土］12層に分層される。

［遺　物］出土しなかった。

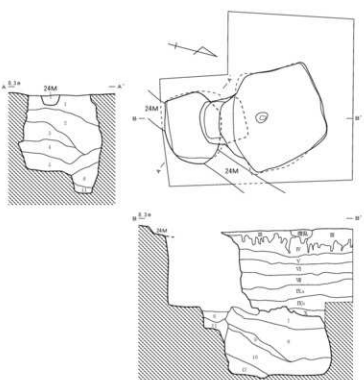
［時　期］中世。





1層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを少量含む。しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを微量含む。しまりやや。
3層　黒色土　ロームブロックを微量含む。しまりやや。
4層　黄褐色土　ブブドローム土主体。しまりやや弱。
5層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや。
6層　黄褐色土　ロームブロック土体。しまりやや。
7層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや。
8層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
9層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや弱。
10層　黄褐色土　ハードローム土主体。天井崩落し。しまり強。
11層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。ロームブロック粒径は、南から北に向かうにつれ大きくなる。しまりやや。

495 号土坑

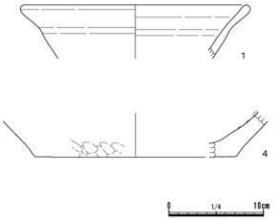


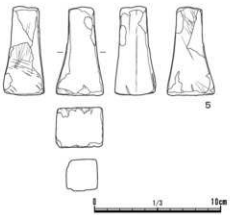
1層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを微量含む。しまりやや弱。
3層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや弱。
4層　黒褐色土　ローム大ブロックを少量含む。しまりやや強。
5層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや強。
6層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや弱。
7層　暗褐色土　ローム特大ブロック（天井崩落風土）を多量に含む。しまり弱。
8層　黒褐色土　ローム粒子を多量に含み、ロームホ・ブロックを少量含む。しまり弱。
9層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまり弱。
10層　暗黄褐色土　ローム大ブロック主体。しまり弱。
11層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまり弱。
12層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまり弱。

553 号土坑

0　1/60　2m

第 92 図　土坑　E 群 1 類 2（1／60）





第 93 図　495 号土坑出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第93図 1 図版 34-2-1	陶器 擂鉢	口縁部～ 体部破片	口 (23.5) 高 [6.5]	口縁部は大きく外反する	体部内面や中摩滅（使用痕跡か）／山茶碗窯系	灰黄褐色／長石・小礫・砂粒中量	中世 13 世紀後葉	覆土上層
図版 34-2-2	陶器 甕	胴部 破片	厚 1.2	大甕	常滑製品	にぶい橙色／小礫・砂粒少量	中世 14 世紀	覆土上層
図版 34-2-3	陶器 甕	胴部 破片	厚 1.1	大甕	常滑製品	にぶい橙色／小礫・砂粒少量	中世 14 世紀	覆土上層
第93図 4 図版 34-2-4	陶器 甕	底部 破片	高 [4.7] 底 (21.4)	大甕	胴部下端に指頭押捺痕が残る／内面広範囲に溶着物あり／常滑製品	褐灰色／小礫中量、砂粒少量	中世 14 世紀	覆土中層

第 25 表　495 号土坑出土陶器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第93図 5 図版 34-2-5	砥石	凝灰岩	7.0	3.7	3.2	90.4	上端を欠損／上・下端を除く 4 面が使用面	覆土上層

第 26 表　495 号土坑出土石製品一覧

F群　T字形の土坑

今次調査では該当する遺構は検出されなかった。

G群　その他（第 94 図、第 27 表）

分類不明な土坑をG群とした。467・468・509 Dの3基が該当する。いずれも遺構が調査区外に延び、全体形状が不明なものである。

467 号土坑

遺　構（第 94 図）

［位　　置］（B－4）グリッド。

［検出状況］南側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸不明／短軸不明／深さ 0.31m。**壁：**60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］2層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

468 号土坑

遺　　構（第 94 図）

［位　　置］（Ｂ－４）グリッド。

［検出状況］南側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸不明／短軸不明／深さ 0.56m。**壁：**80°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**不明。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

509 号土坑

遺　　構（第 94 図）

［位　　置］（Ｄ－６・７）グリッド。

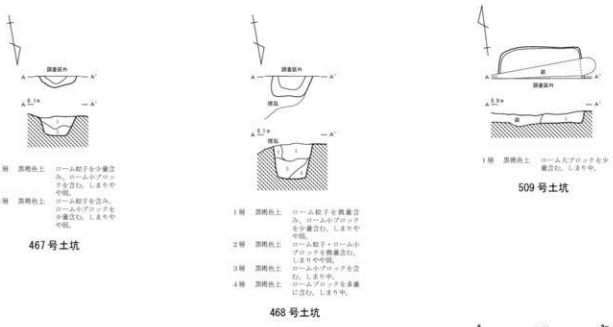
［検出状況］南側は調査区外に延びる。

［構　　造］**平面形：**長方形と考えられるが、全体の平面形は不明である。**規模：**長軸 1.34m ／短軸 0.50m 以上／深さ 0.20m。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－ 84°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



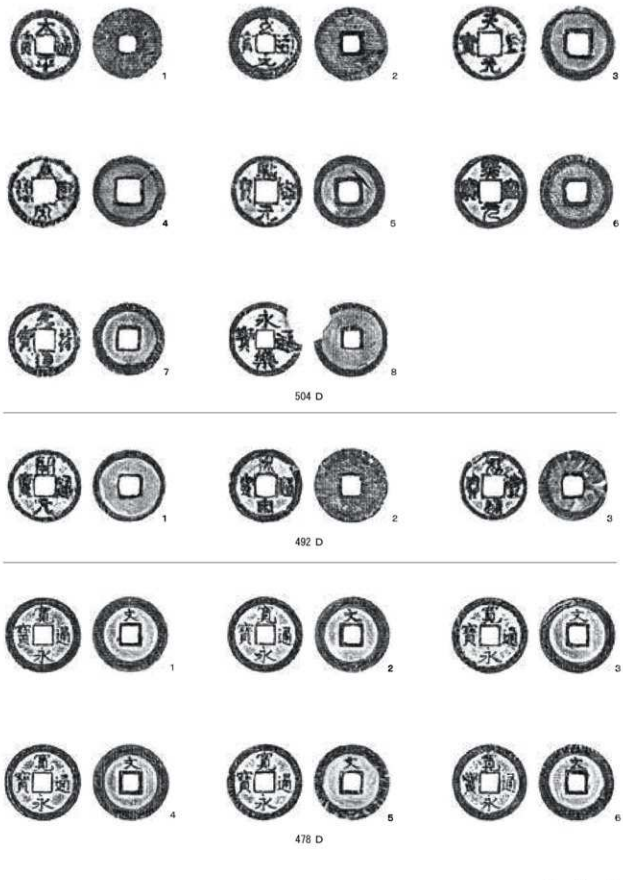
第 94 図　土坑　Ｇ群（1／60）

遺構名	位置	平面形		分類	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期
					長軸	短軸	深さ				
464D	(B-3)G	方形		2類	0.87	0.84	0.13	N-89°-E	単層（第79図） ／2段を切る	遺物なし	中世以降
465D	(B-4)G	不整円形		C群	0.63	0.60	0.36	N-63°-E	2層（第90図） ／39Pを切る	遺物なし	中世以降
466D	(B-4)G	楕円形		C群	0.58	0.37	0.26	N-84°-W	3層（第90図）	遺物なし	中世以降
467D	(B-4)G	楕円形か		G群	不明	不明	0.31	不明	2層（第94図） ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
468D	(B-4)G	楕円形か		G群	不明	不明	0.56	不明	4層（第94図） ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
469D	(B-4)G	楕円形		C群	0.74	(0.30)	0.20	N-88°-W	単層（第90図） ／40・41Pに切られる ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
470D	(I-5)G	溝状土坑		B群1類	3.84	0.58	0.07	N-73°-W	単層（第81図） ／87H、57・58・92Pを切る	遺物なし	中世以降
471D	(I-5)G	長方形		B群2類	1.12	0.31	0.17	N-84°-W	単層（第85図） ／21Mを切る	遺物なし	中世以降
472D	(I-6・7)G	長方形		B群2類	1.79	0.44	0.20	N-5°-E	2層（第85図）	遺物なし	中世以降
473D	(I-6・7)G	長方形		B群2類	1.69	0.49	0.22	N-5°-E	単層（第85図） ／21・22M、3段を切る	遺物なし	中世以降
474D	(H・I-4)G (H-5)G	溝状土坑		B群1類	(2.86)	0.43	0.16	N-19°-E	単層（第81図） ／南側は攪乱に切られる ／北側は調査区外	遺物なし	中世以降
475D	(H-4)G	溝状土坑		B群1類	(3.48)	0.46	0.19	N-69°-W	単層（第81図） ／東側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
477D	(H-5)G	不整円形		C群	0.54	0.51	0.62	N-12°-E	2層（第90図）	遺物なし	中世以降
478D	(H-5)G	土坑墓	不整円形	C群	0.91	0.86	1.30	N-15°-E	4層（第90図） ／土師／断面凹凸形	銭貨6点（新寛永）、人骨	近世
479D	(I-5)G	楕円形		C群	0.54	0.38	0.14	N-40°-W	単層（第90図） ／482Dを切る	遺物なし	中世以降
480D	(H-5)G	長方形		B群2類	1.99	0.67	0.25	N-87°-W	3層（第85図） ／20M、150Pを切る	遺物なし	中世以降
481D	(H・I-5)G (H-6)G	溝状土坑		B群1類	4.00	0.51	0.31	N-8°-W	単層（第81図） ／483Dを切る	遺物なし	中世以降
483D	(H・I-5)G (H・I-6)G	溝状土坑		B群1類	3.36	0.46	0.11	N-23°-E	単層（第81図） ／481Dに切られる	遺物なし	中世以降
484D	(H-6)G	長方形		B群2類	2.16	0.45	0.38	N-4°-W	2層（第85図）	遺物なし	中世以降
487D	(H-6)G	土坑墓	長方形	B群2類	0.90	0.48	0.41	N-1°-E	2層（第84図） ／土師／断面凹凸形	人骨（骨片）	中世
488D	(I-6)G	長方形		B群2類	2.82	0.45	0.42	N-3°-W	3層（第85図） ／32Y、480・493Dを切る	遺物なし	中世以降
489D	(I-6)G	長方形		B群2類	(0.78)	0.27	0.28	N-30°-E	単層（第85図） ／32Y、493Dを切り、488Dに切られる	遺物なし	中世以降
490D	(G・H-5)G (G・H-6)G	溝状土坑		B群1類	6.27	0.49	0.45	N-18°-W	3層（第81図） ／491D、125・126・132Pを切る	陶器1点	近世
491D	(G-5・6)G	地下式坑	主体部：長方形	E群1類	0.85	0.61	1.59	N-14°-E	7層（第91図） ／490Dに切られる ／1竪坑1主体部タイプ	遺物なし	中世
			竪坑部：楕円形		0.94	0.80	1.19	N-77°-E			
492D	(G-5)G	土坑墓	隅丸長方形	B群3類	1.10	1.02	0.60	N-7°-E	4層（第89図） ／土葬	銭貨3点、人骨	中世
494D	(G-5)G	楕円形		C群	0.54	0.45	0.48	N-22°-E	2層（第90図）	遺物なし	中世以降
495D	(G-4)G	地下式坑	主体部：方形	E群1類	2.63	2.44	2.12	N-6°-E	11層（第92図） ／前方部に切られる ／1竪坑1主体部タイプ	陶器4点、石製品1点（硯石）	中世
			竪坑部：長方形		2.29	1.20	1.27	N-12°-E			
496D	(G-5)G	長方形		B群2類	1.61	0.90	0.51	N-84°-W	3層（第85図） ／前方部に切られる	遺物なし	中世以降
497D	(G-5)G	溝状土坑		B群1類	5.66	0.37	0.24	N-17°-E	単層（第81図） ／499D、140Pを切る	遺物なし	中世以降
498D	(G-5)G	不整方形		2類	1.08	1.07	0.36	N-10°-E	2層（第79図） ／500D、20Mを切る	陶器1点	近世
499D	(G-5)G	溝状土坑		B群1類	(3.54)	0.45	0.14	N-73°-W	単層（第81図） ／497Dに切られる	遺物なし	中世以降
500D	(G-5)G	溝状土坑		B群1類	6.07	0.51	0.29	N-71°-W	2層（第82図） ／20Mを切り、498Dに切られる	遺物なし	中世以降
501D	(F-5)G	長方形		B群2類	1.70	0.96	0.33	N-5°-W	3層（第86図） ／20Mを切る	遺物なし	中世以降
502D	(G-6)G	長方形		B群3類	1.30	1.08	0.41	N-3°-E	2層（第89図）	遺物なし	中世以降
503D	(G-6・7)G	土坑墓	隅丸長方形	B群2類	1.17	0.66	0.44	N-5°-W	2層（第84図） ／土葬	人骨	中世
504D	(G-6)G	土坑墓	長方形	B群2類	1.11	0.66	0.47	N-16°-W	2層（第84図） ／土葬	銭貨8点、人骨	中世
505D	(G-6・7)G	土坑墓	隅丸長方形	B群2類	1.36	0.98	0.48	N-1°-W	2層（第84図） ／507Dを切る／土葬	人骨	中世

第27表　中世以降の土坑一覧（1）

遺構名	位　置	平面形		分類	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時　期
					長軸	短軸	深さ				
509D	(D-6・7)G	長方形か		G群	1.34	(0.50)	0.20	N-84°-W	単層（第94図） ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
510D	(E-7)G	長方形		B群２類	(0.69)	0.62	0.26	N-7°-E	単層（第86図） ／489に切られる ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
511D	(F-6)G	長方形		B群２類	1.14	0.78	0.35	N-5°-E	２層（第86図） ／513D、168P を切る	遺物なし	中世以降
512D	(D-6)G	溝状土坑		B群１類	3.47	0.64	0.28	N-83°-W	２層（第82図） ／525・526D を切る	遺物なし	中世以降
513D	(F-6)G	長方形		B群２類	1.39	0.72	0.27	N-84°-W	単層（第86図） ／511D に切られる	遺物なし	中世以降
514D	(E-6)G	長方形		B群２類	1.09	0.81	0.32	N-79°-W	２層（第86図） ／23M を切る	遺物なし	中世以降
515D	(D-6)G	溝状土坑		B群１類	(2.87)	0.54	0.37	N-83°-W	２層（第82図） ／522・524D を切る ／西側は調査区外	遺物なし	中世以降
516D	(D-6)G	長方形		B群２類	(0.70)	0.59	0.31	N-13°-E	単層（第86図） ／南側は調査区外	遺物なし	中世以降
517D	(D・E-5)G	溝状土坑		B群１類	(10.46)	0.68	0.27	N-85°-W	２層（第83図） ／171・173P を切る ／西側は調査区外	遺物なし	中世以降
518D	(D-6)G	長方形		B群２類	(1.70)	0.62	0.16	N-16°-E	単層（第86図） ／畝状遺構に切られる	遺物なし	中世以降
519D	(D-5)G	長方形		B群２類	1.07	0.48	1.00	N-51°-W	３層（第86図） ／畝状遺構に切られる	遺物なし	中世以降
520D	(E-5)G	長方形		B群２類	1.78	0.76	0.12	N-78°-W	単層（第86図）	遺物なし	中世以降
527D	(D-5)G	長方形		B群２類	1.11	0.53	0.32	N-6°-W	２層（第86図） ／畝状遺構に切られる	遺物なし	中世以降
530D	(D-4)G	長方形		B群２類	(1.65)	0.45	0.21	N-20°-E	単層（第86図） ／北側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
533D	(E-5)G	長方形		B群２類	1.08	0.66	0.14	N-3°-W	単層（第86図） ／攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
534D	(D-3)G	長方形		B群２類	(2.37)	0.40	0.14	N-12°-E	単層（第87図） ／北側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
535D	(D-3)G	長方形		B群２類	2.14	0.42	0.09	N-82°-W	単層（第87図）	遺物なし	中世以降
536D	(E-3)G	長方形		B群２類	0.83	0.51	0.13	N-9°-E	単層（第87図） ／537・544D を切る	遺物なし	中世以降
537D	(E-3)G	長方形		B群２類	2.10	0.43	0.11	N-19°-E	単層（第87図） ／544D を切り、536D に切られる	遺物なし	中世以降
538D	(D-3)G	長方形		B群２類	(1.52)	0.43	0.11	N-19°-E	単層（第87図） ／560D を切る ／北側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
539D	(E-3)G	長方形		B群２類	2.06	0.42	0.11	N-11°-E	単層（第87図）	遺物なし	中世以降
540D	(D・E-3)G	溝状土坑		B群１類	5.77	0.50	0.30	N-77°-W	２層（第83図） 547・558D を切る	遺物なし	中世以降
541D	(E-3)G	長方形		B群２類	(1.48)	0.48	0.16	N-11°-E	単層（第87図） ／北側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
542D	(E-3)G	長方形		B群２類	(1.80)	0.60	0.18	N-74°-E	２層（第87図） ／543D を切る ／東側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
543D	(E-3)G	長方形		B群２類	(2.33)	0.47	0.16	N-76°-E	単層（第87図） ／542D に切られる	遺物なし	中世以降
545D	(F-3)G	長方形		B群２類	1.61	0.32	0.07	N-11°-E	単層（第87図） ／５段を切る	遺物なし	中世以降
546D	(F-4・5)G	長方形		B群２類	1.34	0.50	0.15	N-11°-W	単層（第87図） ／畝状遺構に切られる	遺物なし	中世以降
548D	(E-4)G	不整円形		C群	1.04	0.97	0.81	N-8°-W	４層（第90図）	遺物なし	中世以降
549D	(E・F-4)G	長方形		B群２類	1.76	0.49	0.15	N-15°-E	単層（第87図） ／559D を切る	遺物なし	中世以降
550D	(F-4)G	溝状土坑		B群１類	3.26	0.51	0.20	N-12°-E	単層（第83図） ／556・557D を切る	遺物なし	中世以降
551D	(E-4)G	不整円形		C群	0.92	0.90	0.26	N-75°-E	２層（第90図） ／20M を切る	遺物なし	中世以降
553D	(F-4)G	地下式坑	主体部：方形	E群１類	1.63	1.51	2.37	N-40°-W	12 層（第92図） ／24M に切られる ／１類は主体部タイプ	遺物なし	中世
			帰坑部：隅丸長方形		1.15	0.91	1.18	N-73°-E			
555D	(E・F-4)G	長方形		B群２類	(1.79)	0.48	0.32	N-74°-W	２層（第88図） ／557・559D を切る ／西側は攪乱に切られる	遺物なし	中世以降
556D	(E・F-4)G	長方形		B群２類	1.97	0.51	0.28	N-78°-W	２層（第88図） ／557・550D を切り、550D に切られる	遺物なし	中世以降
557D	(F-4)G	長方形		B群２類	(2.01)	0.37	0.13	N-16°-E	単層（第88図） ／550・555・556D に切られる	遺物なし	中世以降
559D	(E・F-4)G	長方形		B群２類	(1.60)	0.38	0.16	N-16°-E	単層（第88図） ／549・555・556D に切られる	遺物なし	中世以降

第 27 表　中世以降の土坑一覧（２）



第95図　中世以降の土坑出土銭貨（4／5）

挿図番号 図版番号	出土遺構	銭貨名	初鋳年	外径 (cm)	方孔一片 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　徴	出土位置
第95図 1 図版 33-1	504 D	太平通寶	（北宋　976）	2.4	0.5	0.1	2.7	完形	覆土下層
第95図 2 図版 33-2	504 D	至道元寶	（北宋　995）	2.5	0.6	0.1	3.3	完形／行書	覆土下層
第95図 3 図版 33-3	504 D	天聖元寶	（北宋　1023）	2.5	0.7	0.1	2.8	完形／真書	覆土下層
第95図 4 図版 33-4	504 D	皇宋通寶	（北宋　1039）	2.5	0.8	0.1	2.6	完形／篆書	覆土下層
第95図 5 図版 33-5	504 D	熙寧元寶	（北宋　1068）	2.4	0.7	0.1	3.5	完形／真書	覆土下層
第95図 6 図版 33-6	504 D	熙寧元寶	（北宋　1068）	2.5	0.7	0.1	3.6	完形／篆書	覆土下層
第95図 7 図版 33-7	504 D	元符通寶	（北宋　1098）	2.4	0.6	0.1	2.6	完形／行書	覆土下層
第95図 8 図版 33-8	504 D	永樂通寶	（明　1408）	2.5	0.6	0.1	2.5	一部欠損	覆土下層
第95図 1 図版 33-1	492 D	開元通寶	（南唐　960）	2.4	0.7	0.1	3.1	完形／隷書	覆土下層
第95図 2 図版 33-2	492 D	皇宋通寶	（北宋　1039）	2.4	0.6	0.1	2.8	完形／篆書	覆土下層
第95図 3 図版 33-3	492 D	元豊通寶	（北宋　1078）	2.3	0.7	0.1	2.2	完形／篆書	覆土下層
第95図 1 図版 34-1-1	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	3.3	完形／新寛永／文銭	覆土下層
第95図 2 図版 34-1-2	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	3.7	完形／新寛永／文銭	覆土下層
第95図 3 図版 34-1-3	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	2.8	完形／新寛永／文銭	覆土下層
第95図 4 図版 34-1-4	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	3.4	完形／新寛永／文銭	覆土下層
第95図 5 図版 34-1-5	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	3.4	完形／新寛永／文銭	覆土下層
第95図 6 図版 34-1-6	478 D	寛永通寶	（日本　1668）	2.5	0.6	0.1	3.4	完形／新寛永／文銭	覆土下層

第 28 表　中世以降の土坑出土銭貨一覧

（５）井戸跡

15 号井戸跡

遺　　構（第 96 図）

［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。

［構　　造］**平面形：**不整円形。**規模：**0.82m × 0.79m ／開口部 0.92m × 0.90m。湧水のため、深さ 0.95m までの精査で終了した。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は確認出来なかった。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

16 号井戸跡

遺　　構（第 96 図）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］１道に切られる（１道造成時に埋め戻される）。

［構　　造］**平面形：**円形。開口部は楕円形。**規模：**1.00m × 0.97m ／開口部 1.65m × 1.45m。危険を伴うため、深さ 1.50m までの精査で終了した。**壁：**開口部は漏斗状に大きく広がり、壁は 75°の角度で立ち上がる。足掛け穴は確認出来なかった。**長軸方位：**Ｎ－ 16°－Ｅ。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］1道（14世紀）造成時に埋め戻されていることから、14世紀以前と考えられる。

17号井戸跡

遺　　構（第97図）

［位　　置］（Ⅰ－5）グリッド。

［構　　造］**平面形：**不整方形。開口部は楕円形。**規模：**1.22m×1.17m／開口部1.94m×1.86m。危険を伴うため、深さ2.90mまでの精査で終了した。**壁：**開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は2ヶ所確認され、壁への掘り込みは4～28cmを測る。**長軸方位：**N－12°－W。

［遺　　物］陶器2点（擂鉢・甕）・石製品2点（石臼・砥石）が出土した。

［時　　期］中世（15世紀）。

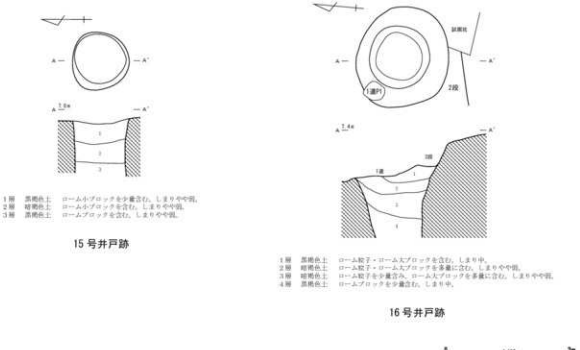
遺　　物（第98図、図版35－1、第29・30表）

［陶　　器］（図版35－1－1・2、第29表）

1は産地不明の擂鉢、2は在地系の甕である。

［石 製 品］（第98図3・4、図版35－1－3・4、第30表）

3は花崗岩製の石臼、4は砂質凝灰岩製の砥石である。



第96図　中世以降の井戸跡1（1／60）

18 号井戸跡

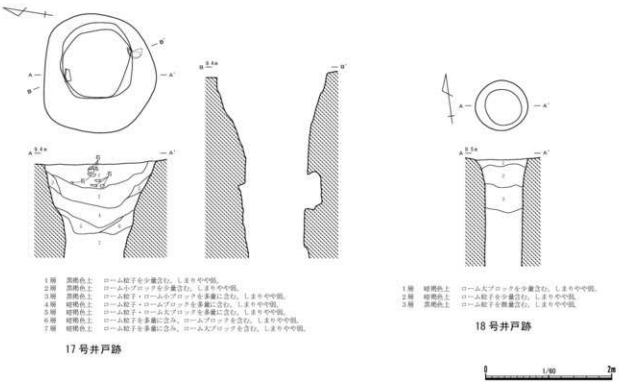
遺　　構（第 97 図）

［位　　置］（Ⅰ－５・６）グリッド。

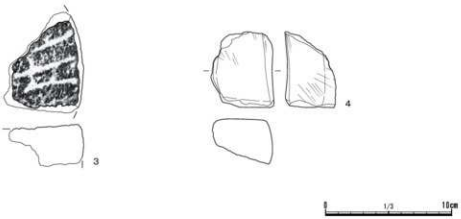
［構　　造］**平面形：**楕円形。開口部は円形。**規模：**0.60m × 0.55m ／開口部 0.83m × 0.79m。危険を伴うため、深さ 1.70m までの精査で終了した。**壁：**開口部は漏斗状に広がり、壁は垂直に立ち上がる。足掛け穴は確認出来なかった。**長軸方位：**N － 26°－W。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第 97 図　中世以降の井戸跡２（１／60）



第 98 図　17 号井戸跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
図版 35-1-1	陶器 擂鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外反し、内面に小突起が見られる	内面にヘラ掻きによる櫛目あり（単位不明）／産地不明	灰褐色／小礫・砂粒少量	中世 15 世紀	覆土中層
図版 35-1-2	土器 甕	胴部破片	厚 1.1	丸みをもって立ち上がる	瓦質／内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ後ナデ／在地系か	にぶい黄橙色／長石・砂粒中量、雲母少量	中世 15 世紀	覆土上層

第 29 表　17 号井戸跡出土陶器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第98図 3 図版 35-1-3	石臼	花崗岩	8.0	6.3	3.3	153.2	下臼か／4条の溝が残る	覆土中層
第98図 4 図版 35-1-4	砥石	砂質凝灰岩	6.0	5.0	3.9	143.2	上・端のほか、2面を欠損／残存する2面は共に使用面	覆土上層

第 30 表　17 号井戸跡出土石製品一覧

（6）溝跡

20 号溝跡

遺　構（第 99 図）

［位　置］（D・E・F－4、F・G・H・I－5）グリッド。

［検出状況］2・3区を横断して検出された。西端は（D－4）グリッド内に収まり、東端は調査区外（第 102 地点）に延びる。延長方向には 17 号溝跡があり、形状が類似することから同一遺構の可能性が高いと考えられる。長大な遺構であるため、多くの遺構と重複し、中世以降の土坑（480・498・500・501・551 D）、溝跡（21 M）、ピット（55・79・124・141・177 P）に切られ、平安時代の住居跡（87 H）、縄文時代の土坑（552・554 D）を切る。

［構　造］**規模：**全体形状は鉤の手状を呈し、やや蛇行しながら、（F－4・5）グリッド内で大きく斜度 67°で屈曲し、（H－5）グリッド内で緩やかに斜度 24°で屈曲する。検出長 58.51m ／検出最大上幅 1.39m ／下幅 0.15 ～ 0.55m ／深さ 0.11 ～ 0.65m。溝底には凸凹が見られ、平坦ではなく、東から西に向かって緩やかに傾斜していき、東西の溝底面の比高差は 1.18m を測る。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は最大斜度 75°で立ち上がるが、（G・H－5）グリッド内では開口部が浅く広がり、以下はほぼ垂直に立ち上がる形状を呈する。**走行方位：**N－88°－W。

［覆　土］10 層に分層される。

［遺　物］陶器 3 点（鉢 1 点、壺 1 点、甕 1 点）、土製品 1 点（転用砥具）、銭貨 1 点が出土した。また、（G－5）グリッド内で覆土上層からウマの下顎骨・歯が出土した（付編Ⅱにて詳述）。

［時　期］中世（13 世紀）。

遺　物（第 100 図、図版 35 －2、第 31 ～ 33 表）

［陶　器］（第 100 図 1 ～ 3、図版 35 －2－1 ～ 3、第 31 表）

1 は在地系の捏鉢の底部破片である。2 は常滑の鉢、3 は渥美の甕である。

［土 製 品］（第 100 図 4、図版 35 －2－4、第 32 表）

4 は山茶碗窯系の片口鉢の口縁部～体部破片を転用した砥具である。

［銭　貨］（第 100 図 5、図版 35 －2－5、第 33 表）

5 は皇宋通寶である。

21 号溝跡

遺　　構（第 101 図）

［位　　置］（Ｉ－５～７）グリッド。

［検出状況］全体が検出されたが、上面は大きく削平されている。471・473 Ｄに切られ、20・22 Ｍ、中世の段切状遺構（３段）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（32 Ｙ）を切る。

［構　　造］規模：緩やかに蛇行する。全長 15.20m ／最大上幅 0.97m ／下幅 0.31 ～ 0.86m ／深さ 0.05 ～ 0.21m。溝底には凸凹が見られ、平坦ではない。傾斜はほとんどなく、南北の比高差は僅か 0.05m である。断面形は概ね皿状を呈し、壁面は最大斜度 40°で立ち上がる。**走行方位：**Ｎ－５°－Ｗ。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

22 号溝跡

遺　　構（第 102 図）

［位　　置］（Ｈ・Ｉ－７）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（473 Ｄ）・溝跡（21 Ｍ）に切られ、中世の段切状遺構（３段）、平安時代の土坑（486 Ｄ）、古墳時代後期の住居跡（88 Ｈ）、縄文時代の土坑（508 Ｄ）を切る。南端は調査区外（第 95 地点）に延びる。延長方向には 15 号溝跡があり、同一遺構である可能性が考えられる。

［構　　造］規模：調査区内での形状はＬ字形を呈し、（Ｈ－７）グリッド内で大きく斜度 62°で屈曲する。検出長 9.65m ／検出最大上幅 1.29m ／下幅 0.41 ～ 0.66m ／深さ 0.39 ～ 0.59m。溝底にはやや凸凹が見られ、平坦ではない。北東から南西に向かってごく緩やかに傾斜していき、その比高差は 0.24m を測る。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は最大斜度 70°で立ち上がる。**走行方位：**Ｎ－ 87°－Ｗ（東半部）、Ｎ－ 31°－Ｅ（西半部）。

［覆　　土］４層に分層される。

［遺　　物］陶器２点（皿２点）、土器１点（皿）が出土した。

［時　　期］近世（17 世紀後葉）。

遺　　物（第 103 図、図版 36 －１、第 34 表）

［陶器・土器］（第 103 図１、図版 36 －１－１～３、第 34 表）

１・２は陶器で、共に瀬戸・美濃系の小皿である。３は土器の小皿である。

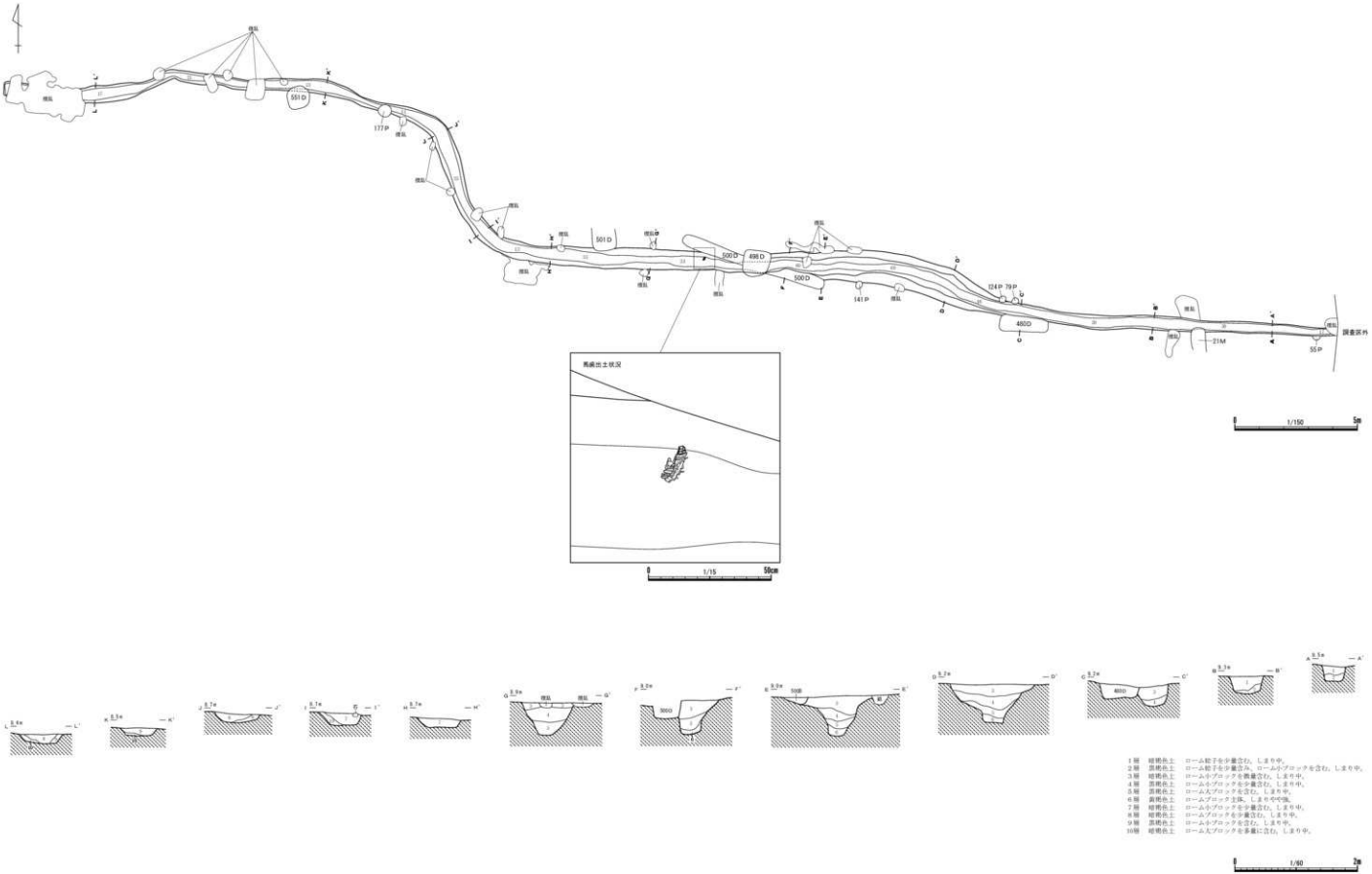
23 号溝跡

遺　　構（第 104 図）

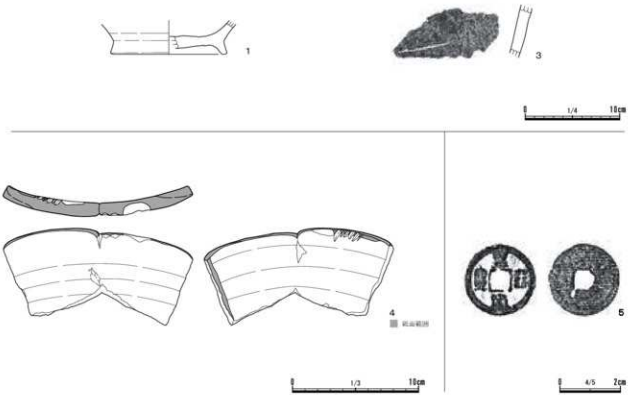
［位　　置］（Ｅ－５～７）グリッド。

［検出状況］中世以降の土坑（514 Ｄ）・ピット（157 Ｐ）に切られ、中世の段切状遺構（４段）、縄文時代の土坑（529 Ｄ）・炉穴（65 ＦＰ）を切る。南端は調査区外に延びる。

［構　　造］規模：箇所により溝幅は異なるが、概ね直接的に延びる。検出長 12.91m ／検出最大上幅 1.42m ／下幅 0.54 ～ 1.18m ／深さ 0.08 ～ 0.32m。溝底には凸凹が見られ、平坦ではない。（Ｅ－６）グリッド内が一段深く土坑状に掘りくぼめられるが、傾斜はほとんどなく、南北の比高差は僅か 0.08m である。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は最大斜度 70°で立ち上がる。**走行方位：**Ｎ－ 11°－Ｅ。



第99図　20号溝跡（1／150・1／60・1／15）



第100図　20号溝跡出土遺物（1／4・1／3・4／5）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第100図1 図版35-2-1	陶器 徳利	底部 15%	高 (3.6) 底 (12.2)	胴部は直線的に立ち上がる	付け高台／破断面の一部に研磨痕跡あり／山茶碗窯系	灰黄色／長石・小礫・砂粒中量	中世 13世紀後葉	覆土下層
図版35-2-2	陶器 鉢	胴部 破片	厚 1.4	ほぼ直線的に立ち上がる	降灰釉付着／須恵器品か	灰黄褐色／小礫・砂粒少量	中世 13世紀	覆土下層
第100図3 図版35-2-3	陶器 甕	胴部 破片	厚 1.3	外傾する	胴部外面に直線状のヘラ描き記号文／瀬戸製品	灰褐色／長石・小礫・砂粒中量	中世 13世紀	覆土下層

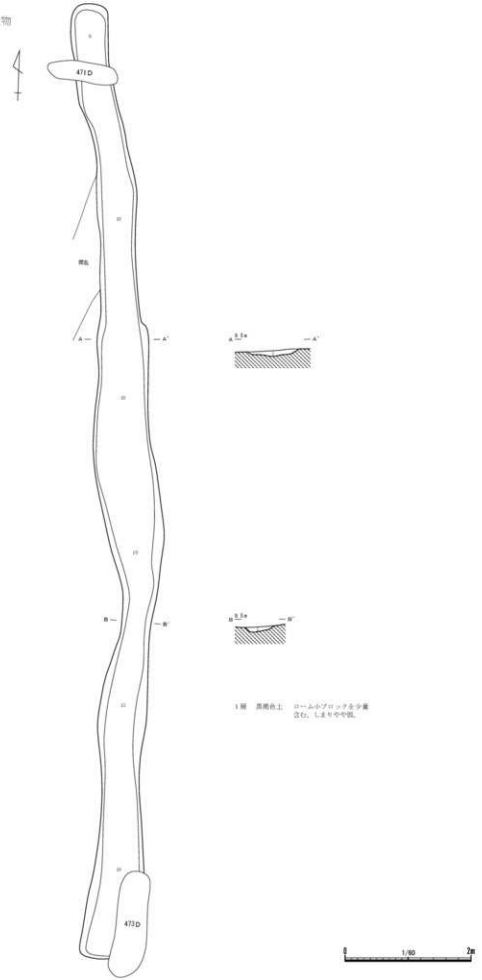
第31表　20号溝跡出土陶器一覧

挿図番号 図版番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第100図4 図版35-2-4	転用紡具	15.0	6.6	1.3	146.0	片口鉢の口縁部～体部破片を紡具に転用／各々紡具として使用されていた2片が接合／口縁部側の破断面と左側縁部を紡面に使用／口縁部側内縁に刃物痕が残られる／山茶碗窯系	遺構外

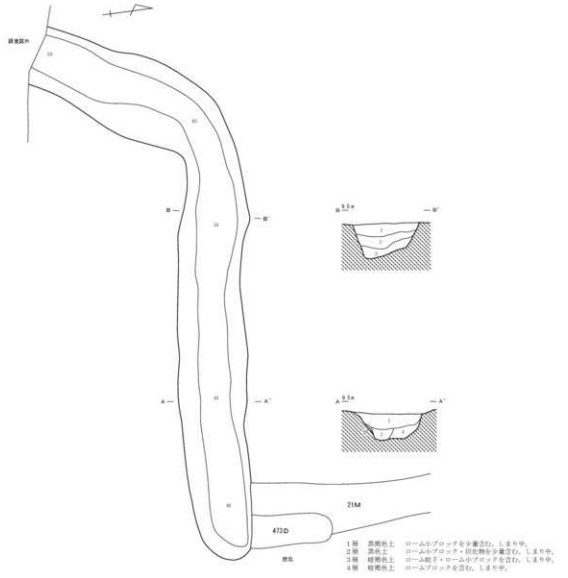
第32表　20号溝跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年	外径 (cm)	方孔一片 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第100図5 図版35-2-5	皇宋通寶	(北宋　1039)	2.4	0.6	0.1	2.3	完形／篆書／遺存状態やや不良	覆土中

第33表　20号溝跡出土銭貨一覧



第101図　21号溝跡（1／60）

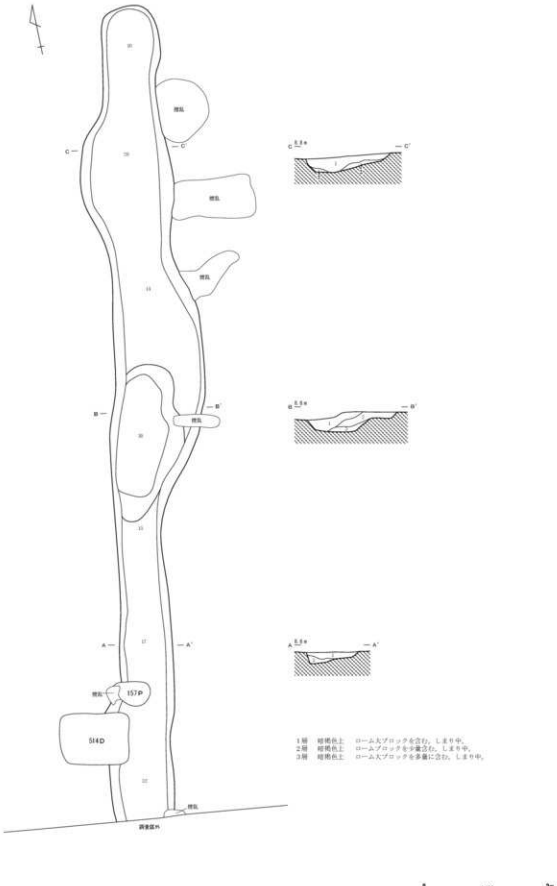


第102図　22号溝跡（1／60）

第103図　22号溝跡出土遺物（1／4）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第103図1 図版36-1-1	陶器 皿	底部40%	高［1.6］ 底（7.6）	底部と体部の境に段をもち，体部は鋭角的に立ち上がる	小皿／内外面：灰釉／桑台内日跡1／瀬戸・美濃系	灰黄色／砂粒少量	近世 1670～1770年	覆土下層
図版36-1-2	陶器 皿	口縁部 破片	厚0.6	口縁部は外反する	灰釉小皿／内外面：灰釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒少量	近世 1630～1650年	覆土中
図版36-1-3	土器 皿	口縁部 破片	厚0.4	外傾する	小皿／ロクロ整形／江戸在地系	橙色／砂粒中量，雲母少量	近世 1680年以降	覆土中

第34表　22号溝跡出土陶器・土器一覧



第104図　23号溝跡（1／60）

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

24号溝跡

遺　　構（第105図）

［位　　置］（Ｆ－３・４）グリッド。

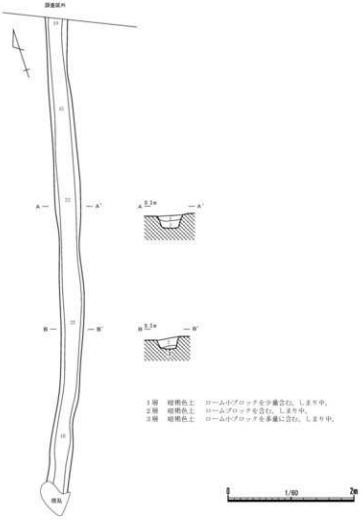
［検出状況］南端は攪乱に切られ、北端は調査区外に延びる。中世の地下式坑（553 D）を切る。

［構　　造］**規模：**（Ｆ－４）グリッド内で緩やかにカーブしながらも、概ね直接的に延びる。検出長7.52m／検出最大上幅0.42m／下幅0.16～0.29m／深さ0.13～0.22m。溝底は概ね平坦で、南から北に向かって緩やかに傾斜していき、その比高差は0.20mを測る。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は最大斜度70°で立ち上がる。**走行方位：**Ｎ－23°－Ｅ（南半部）、Ｎ－15°－Ｅ（北半部）。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］出土しなかった。

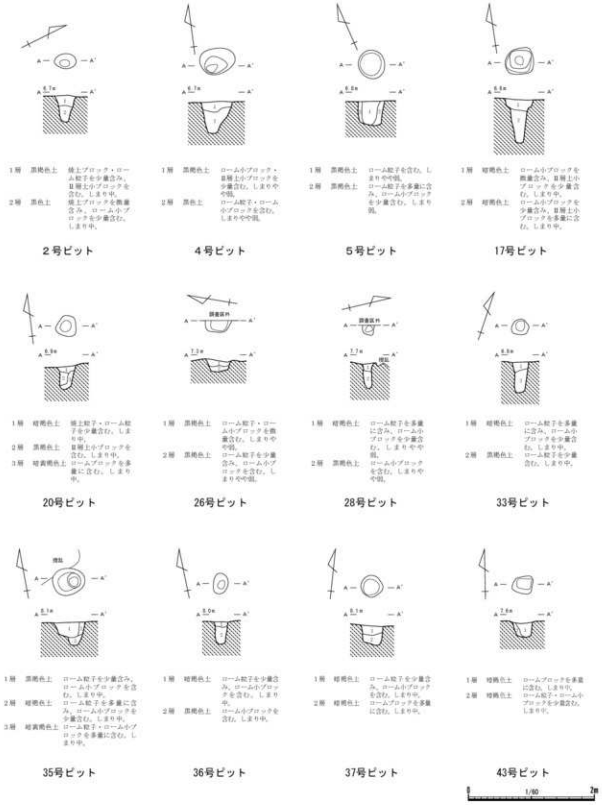
［時　　期］中世以降。



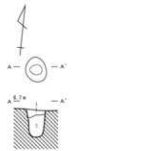
第105図　24号溝跡（1／60）

（7）ピット

本地点では、計 181 本のピットが検出された。その内、縄文時代のピット５本、平安時代のピット２本を除いた 174 本が、中世以降のピットに比定される。縄文・平安時代のピットも含め、全てのピットの基本構造については、第 35 表を参照されたい。

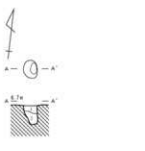


第 106 図　中世以降のピット１（1／60）



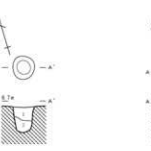
1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む。しまりやや。
2層　黒色土　ローム粒子を少量含む。しまりやや。

44号ピット



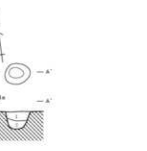
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

45号ピット



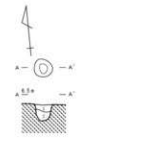
1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

46号ピット



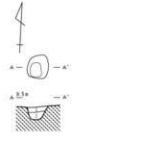
1層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを微量含む。しまりやや強。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。

47号ピット



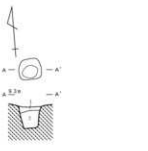
1層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。

53号ピット



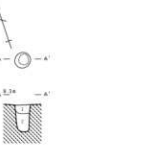
1層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム小・ローム大ブロックを多量に含む。しまりや。

56号ピット



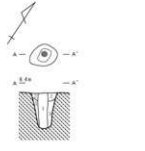
1層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

60号ピット



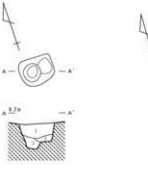
1層　黒褐色土　ローム粒子を微量含む。しまりや。
2層　黒色土　ローム粒子を少量含む。しまりや。

61号ピット



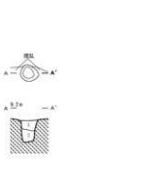
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを微量含み、直径上小ブロックを含む。しまりや。
3層　暗色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

65号ピット



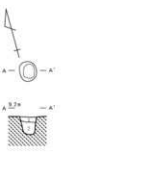
1層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

68号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。

69号ピット

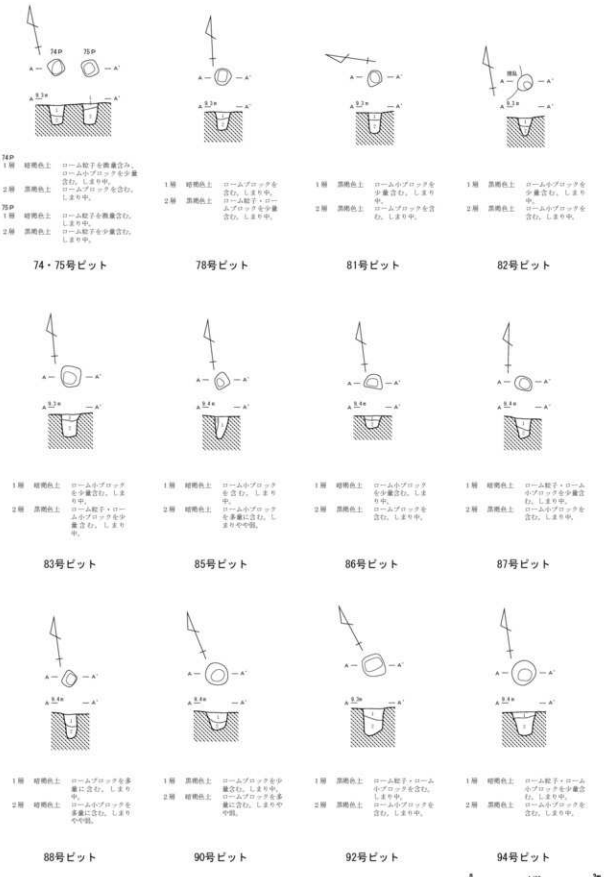


1層　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。

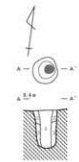
72号ピット

0　1/60　2m

第107図　中世以降のピット２（1／60）



第108図　中世以降のピット３（１／60）

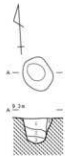


1層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。

95号ピット

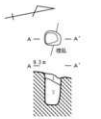
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを微量含む。しまり中。

96号ピット



1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
4層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。

97号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。

100号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまり中。

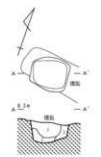
102号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

103号ピット

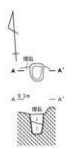
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを微量含む。しまりやや弱。

104号ピット



1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまり中。

105号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

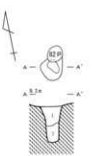
107号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

108号ピット

1層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや弱。

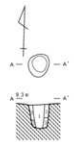
109号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。

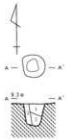
110号ピット

第109図　中世以降のピット4（1／60）



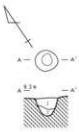
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを微量含む。しまりやや弱。
2層　暗黄褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

111号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を微量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

112号ピット

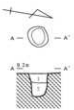


1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

113号ピット

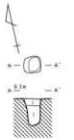
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

114号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。

115号ピット

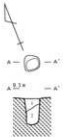


1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

116号ピット

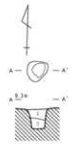
1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。

117号ピット



1層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

118号ピット



1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。ロームブロックを微量含む。しまり中。

119号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子を微量含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子をやや多量含む。しまりやや弱。

120号ピット

1層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を少量含む。しまり中。

121号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。

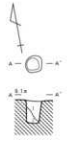
122号ピット

0　1/60　2m

第110図　中世以降のピット５（1／60）

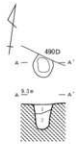
1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。

123号ピット



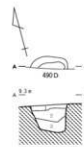
1層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。
2層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまりやや。

124号ピット



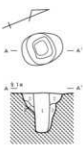
1層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。

125号ピット



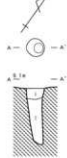
1層　黒褐色土　ロームブロックを微量含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまりやや。
3層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。

126号ピット



1層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを微量含む、しまりやや。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまりやや。

129号ピット

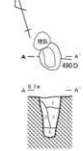


1層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。

130号ピット

1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。

131号ピット



1層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。
3層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。
4層　暗黄褐色土　ロームブロックを多量に含む、しまりやや強。

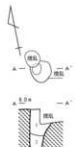
132号ピット

1層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや弱。

133号ピット

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや弱。

134号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。

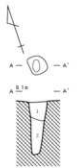
136号ピット

1層　黒褐色土　ロームブロックを含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む、しまりやや。

137号ピット

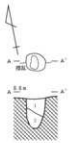
0　1/60　2m

第 111 図　中世以降のピット６（1／60）



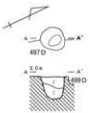
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや弱。

138号ピット



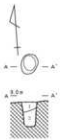
1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

139号ピット



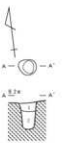
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。

140号ピット



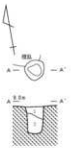
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。
2層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

141号ピット



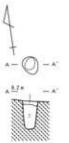
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。

142号ピット



1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。

143号ピット



1層　暗褐色土　ローム小ブロックを微量含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。

144号ピット

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりやや。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりやや弱。

145号ピット

1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりや。

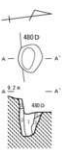
146号ピット

1層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む、しまりや。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む、しまりやや弱。

147号ピット

1層　黒色土　ローム粒子を含む、しまりや。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

148号ピット



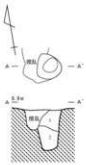
1層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む、しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを多量に含む、しまりや。
3層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む、しまりや。

150号ピット

第112図　中世以降のピット７（１／60）

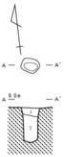
1層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

151号ピット



1層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりややや弱。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりややや弱。

152号ピット



1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりや。

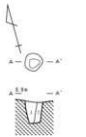
153号ピット

1層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。
3層　黒色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

154号ピット

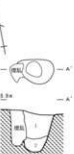
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを微量含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりや。

155号ピット



1層　黒褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

156号ピット



1層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりややや弱。
2層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりややや弱。

157号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

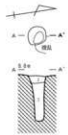
158号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

161号ピット

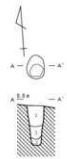
1層　暗褐色土　ロームブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりや。

162号ピット



1層　黒褐色土　ローム大ブロックを少量含む。しまりや。
2層　黒色土　ロームブロックを少量含む。しまりや。

163号ピット



1層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ロームブロックを多量に含む。しまりや。

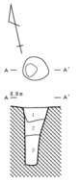
164号ピット

1/60

第113図　中世以降のピット8（1／60）

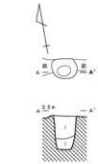
1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり中。

165号ピット



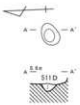
1層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。

166号ピット



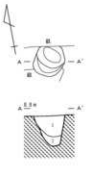
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。

167号ピット



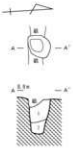
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。

168号ピット



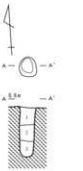
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまりやや弱。

169号ピット



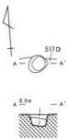
1層　黒褐色土　ローム大ブロックを少量含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。

170号ピット



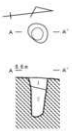
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。

172号ピット



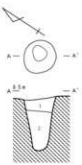
1層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや弱。

173号ピット



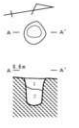
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや弱。

175号ピット



1層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。
2層　暗褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまりやや弱。

177号ピット



1層　暗褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや弱。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを含む。しまりやや弱。

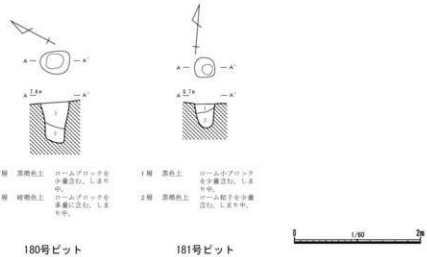
178号ピット

1層　黒褐色土　ローム小ブロックを少量含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム大ブロックを多量に含む。しまり中。

179号ピット

0　1/60　2m

第 114 図　中世以降のピット９（1／60）



第115図　中世以降のピット10（1／60）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
1 P	(B-2)G	楕円形	36	26	14	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
2 P	(B-2)G	楕円形	35	24	43	2層（第106図）	なし	中世以降
3 P	(B-2)G	楕円形	37	29	24	単層／Ⅱ層土小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
4 P	(B-2)G	楕円形	55	41	52	2層（第106図）	なし	中世以降
5 P	(B-2)G	円形	45	43	39	2層（第106図）	なし	中世以降
6 P	(B-2)G	楕円形	32	23	17	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
7 P	(B-2)G	楕円形	50	34	11	単層／ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
8 P	(B-2)G	円形	25	24	11	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
9 P	(B-2)G	楕円形	43	35	15	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
10 P	(B・C-2)G	楕円形	28	25	34	単層／ローム粒子・Ⅱ層土小ブロックを少量含む暗褐色土 ／掘乱に切られる	なし	中世以降
11 P	(B-2)G	楕円形	26	23	17	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
12 P	(B・C-2)G	楕円形	22	17	27	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
13 P	(B・C-2)G	楕円形	39	21	30	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	なし	中世以降
14 P	(B・C-2)G	楕円形	31	28	37	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土／ 19Mを切る	なし	中世以降
15 P	(C-2)G	楕円形	47	33	29	単層／ローム粒子・Ⅱ層土小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
16 P	(C-2)G	楕円形	35	30	17	単層／Ⅱ層土小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
17 P	(C-2)G	楕円形	45	42	70	2層（第106図）	なし	中世以降
18 P	(C-2)G	楕円形	25	20	11	単層／Ⅱ層土小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
19 P	(B-2)G	楕円形	36	33	29	単層／Ⅱ層土小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
20 P	(B-2)G	楕円形	33	31	38	3層（第106図）	なし	中世以降
21 P	(B-3)G	隅丸方形	36	31	10	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土 ／1遺を切る	なし	中世以降
22 P	(B-2)G	楕円形か	40	(20)	16	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土 ／1段切に切られる。西側が調査区外	なし	中世以降
23 P	(C-3)G	楕円形	52	32	9	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土 ／2段切を切る	なし	中世以降
24 P	(C-3)G	楕円形	28	26	22	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降

第35表　ピット一覧（1）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
25 P	(B-3)G	隅丸方形	23	22	31	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
26 P	(C-3)G	楕円形か	42	(18)	20	2層（第106図）／東側が調査区外	なし	中世以降
27 P	(B-3)G	楕円形	29	21	27	単層／ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
28 P	(B-3)G	楕円形	(16)	18	40	2層（第106図）／西側が調査区外	なし	中世以降
29 P	(B-3)G	楕円形	46	39	22	単層／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
30 P	(B・C-3)G	楕円形	42	30	20	単層／ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む黒褐色土／１遺を切る	なし	中世以降
31 P	(B-3)G	楕円形	37	32	17	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
32 P	(B-3)G	楕円形	26	23	27	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
33 P	(C-2)G	楕円形	28	24	48	2層（第106図）／１遺を切る	なし	中世以降
34 P	(B-3)G	楕円形	27	23	31	単層／ローム粒子を微量含み、ローム小ブロックを含む黒褐色土／１段切を切る	なし	中世以降
35 P	(B-4)G	楕円形	50	43	37	3層（第106図）	なし	中世以降
36 P	(B-4)G	楕円形	33	23	35	2層（第106図）	なし	中世以降
37 P	(B-4)G	円形	35	34	31	2層（第106図）	なし	中世以降
38 P	(B・C-4)G	楕円形	38	36	15	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
39 P	(B-4)G	楕円形	37	(26)	28	単層／ローム粒子を多量に含み、ローム小ブロックを含む黒褐色土／465Dに切られる	なし	中世以降
40 P	(B-4)G	楕円形か	31	(10)	46	単層（第90図）／469D・41Pを切る	なし	中世以降
41 P	(B-4)G	楕円形か	不明	不明	34	単層（第90図）／40Pに切られ、469Dを切る	なし	中世以降
42 P	(C-4)G	楕円形	25	21	29	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／１段切を切る	なし	中世以降
43 P	(C-4)G	楕円形	31	30	24	2層（第106図）／１段切を切る	なし	中世以降
44 P	(C-2)G	楕円形	40	32	43	2層（第107図）	なし	中世以降
45 P	(C-2)G	楕円形	29	22	30	2層（第107図）	なし	中世以降
46 P	(B-2)G	楕円形	37	34	41	2層（第107図）	なし	中世以降
47 P	(B-2)G	楕円形	41	34	28	2層（第107図）	なし	中世以降
48 P	(B-2)G	楕円形	23	21	17	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
49 P	(B-1)G	楕円形	22	20	23	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土／撹乱に切られる	なし	中世以降
50 P	(B-2)G	楕円形	26	19	12	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
51 P	(B-2)G	楕円形	34	31	20	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
52 P	(B-2)G	楕円形	32	23	38	2層（第38図）／19Mに切られる	なし	縄文
53 P	(B-2)G	円形	29	28	26	2層（第107図）	なし	中世以降
54 P	(I-5)G	楕円形	29	25	11	単層／ローム粒子を少量含み、ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
55 P	(I-5)G	円形	34	32	10	単層／ロームブロックを含む暗褐色土／20Mを切る	なし	中世以降
56 P	(I-6)G	楕円形	38	33	21	2層（第107図）	なし	中世以降
57 P	(I-5)G	楕円形	52	47	37	2層（第62図）／470Dに切られる	なし	平安
58 P	(I-5)G	楕円形	55	46	42	2層（第62図）／470Dに切られる	なし	平安
59 P	(I-6)G	楕円形	25	21	17	単層（第38図）	なし	縄文
60 P	(I-4)G	楕円形	36	32	34	2層（第107図）	なし	中世以降
61 P	(H-4・5)G	円形	25	25	42	2層（第107図）	なし	中世以降
62 P	(H-5)G	楕円形	32	28	19	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降

第35表　ピット一覧（2）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
63 P	(H-5)G	楕円形	28	23	18	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
64 P	(H-4)G	円形	22	21	34	単層／ローム粒子を少量含む黒褐色土	なし	中世以降
65 P	(H-5)G	楕円形	44	34	56	3層（第107図）／	なし	中世以降
66 P	(H-4)G	楕円形	31	27	52	2層（第38図）／斜行ピット	なし	縄文
67 P	(H-4)G	楕円形	26	24	47	2層（第38図）／斜行ピット	なし	縄文
68 P	(H-4)G	不整方形	54	44	40	3層（第107図）	なし	中世以降
69 P	(H-5)G	楕円形	29	25	35	2層（第107図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
70 P	(H-5)G	楕円形	26	22	20	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
71 P	(H-5)G	楕円形	23	21	10	単層／ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
72 P	(H-5)G	楕円形	31	27	28	2層（第107図）	なし	中世以降
73 P	(H-5)G	不整形	48	29	33	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
74 P	(H-5)G	隅丸方形	24	23	31	2層（第108図）	なし	中世以降
75 P	(H-5)G	隅丸方形	26	24	34	2層（第108図）	なし	中世以降
76 P	(H-4・5)G	楕円形	27	25	26	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
77 P	(H-5)G	円形	25	25	17	単層／ロームブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
78 P	(H-5)G	楕円形	26	25	29	2層（第108図）	なし	中世以降
79 P	(H-5)G	楕円形	29	25	22	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土／20M を切る	なし	中世以降
80 P	(H-5)G	不整方形	27	24	16	単層／ロームブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
81 P	(H-5)G	楕円形	27	22	32	2層（第108図）	なし	中世以降
82 P	(H-5)G	楕円形	27	22	27	2層（第108図）／110P を切る	なし	中世以降
83 P	(H-5)G	楕円形	36	31	34	2層（第108図）	なし	中世以降
84 P	(H-5)G	楕円形	35	33	15	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐色土	なし	中世以降
85 P	(H-5)G	楕円形	28	24	35	2層（第108図）	なし	中世以降
86 P	(H-5)G	楕円形	29	22	20	2層（第108図）	なし	中世以降
87 P	(I-5)G	楕円形	28	22	31	2層（第108図）	なし	中世以降
88 P	(I-5)G	隅丸方形	23	20	39	2層（第108図）	なし	中世以降
89 P	(H-5)G	円形	29	28	12	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土／48SD を切る	なし	中世以降
90 P	(H-6・7)G	円形	35	34	28	2層（第108図）	なし	中世以降
91 P	(H-6)G	不整形	49	26	29	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
92 P	(I-5)G	楕円形	40	35	43	2層（第108図）／47OD に切られ、87H を切る	なし	中世以降
93 P	(H-5)G	楕円形	47	42	28	単層／ローム小ブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
94 P	(H-5)G	楕円形	40	38	37	2層（第108図）	なし	中世以降
95 P	(H-6)G	楕円形	43	40	60	3層（第109図）	なし	中世以降
96 P	(H-5)G	楕円形	45	41	37	2層（第109図）	なし	中世以降
97 P	(H-5・6)G	楕円形	53	44	39	4層（第109図）	なし	中世以降
98 P	(H-6)G	隅丸方形	25	22	19	単層／ロームブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
99 P	(H-6)G	楕円形	24	22	17	単層／ロームブロックを少量含む黒褐色土	なし	中世以降
100 P	(H-5)G	隅丸方形	26	22	49	2層（第109図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
101 P	(H-5)G	隅丸方形	26	21	21	単層／ロームブロックを含む暗褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降

第35表　ピット一覧（3）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
102 P	(H-6)G	楕円形	32	27	38	2層（第109図）	なし	中世以降
103 P	(H-5)G	楕円形	40	36	39	2層（第109図）	なし	中世以降
104 P	(H-6)G	楕円形	28	26	46	2層（第109図）	なし	中世以降
105 P	(H-5)G	不整方形	60	54	35	3層（第109図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
106 P	(H-5)G	隅丸方形	22	22	25	単層／ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
107 P	(H-5)G	楕円形	28	22	32	2層（第109図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
108 P	(H-5)G	円形	25	23	38	2層（第109図）	なし	中世以降
109 P	(H-5)G	楕円形	26	24	45	2層（第109図）	なし	中世以降
110 P	(H-5)G	楕円形	(39)	35	58	2層（第109図）／82Pに切られる	なし	中世以降
111 P	(H-6)G	楕円形	38	32	38	3層（第110図）	なし	中世以降
112 P	(H-6)G	楕円形	37	35	35	3層（第110図）	なし	中世以降
113 P	(G・H-6)G	楕円形	36	33	28	2層（第110図）	なし	中世以降
114 P	(H-6)G	不整方形	32	26	27	2層（第110図）	なし	中世以降
115 P	(I-5)G	楕円形	34	30	36	2層（第110図）	なし	中世以降
116 P	(H-6)G	隅丸方形	27	26	42	2層（第110図）	なし	中世以降
117 P	(H-6)G	楕円形	40	33	42	2層（第110図）	なし	中世以降
118 P	(H-6)G	不整方形	25	24	41	2層（第110図）	なし	中世以降
119 P	(H-5)G	楕円形	36	30	30	2層（第110図）	なし	中世以降
120 P	(H-5)G	楕円形	40	31	35	3層（第110図）	なし	中世以降
121 P	(H-5)G	円形	42	40	35	3層（第110図）	なし	中世以降
122 P	(H-5)G	楕円形	41	34	41	2層（第110図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
123 P	(H-5・6)G	楕円形	33	29	41	2層（第111図）	なし	中世以降
124 P	(H-5)G	楕円形	28	26	36	2層（第111図）／20Mを切る	なし	中世以降
125 P	(H-6)G	楕円形	(36)	32	39	2層（第111図）／490Dに切られる	なし	中世以降
126 P	(H-6)G	楕円形か	59	(19)	45	3層（第111図）／490Dに切られる	なし	中世以降
127 P	(G-6)G	楕円形	28	25	30	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
128 P	(G-6)G	楕円形	37	33	19	単層／ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
129 P	(G-6)G	楕円形	66	50	62	3層（第111図）	なし	中世以降
130 P	(G-5)G	楕円形	30	27	89	2層（第111図）	なし	中世以降
131 P	(H-5)G	円形	31	30	58	2層（第111図）	なし	中世以降
132 P	(G-5)G	楕円形	43	35	65	4層（第111図）／490Dに切られる	なし	中世以降
133 P	(G-5)G	楕円形	44	38	66	2層（第111図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
134 P	(G-5)G	楕円形	34	30	61	2層（第111図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
135 P	(G-5)G	楕円形	26	(20)	21	単層／ロームブロックを含む暗褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
136 P	(G-5)G	楕円形	(31)	33	68	2層（第111図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
137 P	(H-4)G	楕円形	36	30	34	2層（第111図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
138 P	(G-5)G	楕円形	31	27	84	2層（第112図）	なし	中世以降
139 P	(F・G-4)G	楕円形	31	28	48	2層（第112図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
140 P	(G-5)G	楕円形	40	36	35	2層（第112図）／497Dに切られる	なし	中世以降
141 P	(G-5)G	楕円形	33	26	39	2層（第112図）／20Mを切る	なし	中世以降

第35表　ピット一覧（4）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
142 P	(G-6)G	楕円形	29	26	44	2層（第112図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
143 P	(F-6)G	楕円形	32	30	44	2層（第112図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
144 P	(G-6)G	楕円形	29	24	45	2層（第112図）	なし	中世以降
145 P	(F-6)G	楕円形	27	23	73	2層（第112図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
146 P	(G-6)G	円形	32	31	33	2層（第112図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
147 P	(F-7)G	隅丸方形	28	24	50	2層（第112図）	なし	中世以降
148 P	(F-6)G	楕円形	42	37	36	2層（第112図）	なし	中世以降
149 P	(G-7)G	楕円形	46	38	34	単層／ロームブロックを多量に含む暗褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
150 P	(H-5)G	楕円形	43	37	59	3層（第112図）／480Dに切られる	なし	中世以降
151 P	(G-6)G	楕円形	31	28	29	2層（第113図）	なし	中世以降
152 P	(F-7)G	楕円形	42	40	64	2層（第113図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
153 P	(F-6)G	楕円形	28	22	54	2層（第113図）	なし	中世以降
154 P	(F-6)G	楕円形	41	34	55	4層（第113図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
155 P	(H-6)G	楕円形	31	28	29	2層（第113図）	なし	中世以降
156 P	(E-6)G	楕円形	28	26	36	2層（第113図）	なし	中世以降
157 P	(E-6)G	楕円形	(58)	39	59	2層（第113図）／攪乱に切られ，23Mを切る	なし	中世以降
158 P	(E-6)G	円形	46	45	43	2層（第113図）	なし	中世以降
159 P	(F-6・7)G	不整長方形	43	26	31	単層／ローム小ブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
160 P	(E・F-6)G	楕円形	32	30	28	単層／ロームブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
161 P	(F-6)G	楕円形	42	36	44	2層（第113図）	なし	中世以降
162 P	(E・F-5・6)G	不整長方形	67	32	50	3層（第113図）	なし	中世以降
163 P	(D-6)G	楕円形	31	28	72	2層（第113図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
164 P	(E-6)G	楕円形	38	27	62	3層（第113図）	なし	中世以降
165 P	(E-6)G	楕円形	35	30	50	2層（第114図）	なし	中世以降
166 P	(E・F-5)G	楕円形	41	37	91	3層（第114図）	なし	中世以降
167 P	(D-6)G	楕円形	41	(32)	53	2層（第114図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
168 P	(F-6)G	楕円形	36	26	14	単層（第114図）／511Dに切られる	なし	中世以降
169 P	(D-6)G	楕円形	51	46	49	2層（第114図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
170 P	(D-6)G	楕円形	40	32	54	2層（第114図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
171 P	(D-5)G	楕円形	42	32	23	単層／ロームブロックを多量に含む黒褐色土／517Dに切られる	なし	中世以降
172 P	(E-6)G	楕円形	32	28	80	3層（第114図）／528Dを切る	なし	中世以降
173 P	(E-5)G	楕円形	30	27	18	2層（第114図）／517Dに切られる	なし	中世以降
174 P	(D-6)G	楕円形	24	23	25	単層（第38図）	なし	縄文
175 P	(E-5)G	楕円形	34	27	62	2層（第114図）	なし	中世以降
176 P	(D-5)G	楕円形	37	35	35	単層／ローム大ブロックを含む黒褐色土／攪乱に切られる	なし	中世以降
177 P	(D-4)G	円形	52	51	86	2層（第114図）／20Mを切る	なし	中世以降
178 P	(E-5)G	楕円形	36	32	53	2層（第114図）	なし	中世以降
179 P	(E-5)G	楕円形	47	33	73	2層（第114図）／攪乱に切られる	なし	中世以降
180 P	(D-3)G	楕円形	46	37	65	2層（第115図）	なし	中世以降
181 P	(F-5)G	隅丸方形	32	31	37	2層（第115図）	なし	中世以降

第35表　ピット一覧（5）

第７節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の遺物、弥生時代後期～平安時代の遺物、中世以降の遺物に分類する。

（１）旧石器時代の石器（第 116 図１～８、図版 36 －２－１～８、第 36 表）

１は尖頭器、２は尖頭器の未製品か、３は削器、４は楔形石器、５・６は二次調整のある剥片、７・８は石核である。

（２）縄文時代の遺物（第 117 ～ 119 図９～ 68、図版 37 ～ 39 －９～ 68、第 37・38 表）

［土　　器］（第 117・118 図９～ 63、図版 37 ～ 39 －９～ 63、第 37 表）

遺構外からは早期～後期の縄文土器が出土したが、該期の遺構が検出された早期後葉～前期前葉の土器が大多数を占めている。９～ 14 は早期の土器で、９・10 は神ノ木台式土器、11 ～ 14 は条痕文系土器である。15 ～ 50 は前期の土器で、15 ～ 36 は花積下層式土器、37 ～ 39 は羽状縄文系土器、40 は関山式土器、41 は黒浜式土器、42 ～ 45 は諸磯ａ式土器、46・47 は諸磯ｃ式土器、48・49 は浮島Ⅰ式土器、50 は前期後葉の土器である。51 ～ 55 は中期の土器で、51 は阿玉台Ⅱ式土器、52 は勝坂２～３式土器、53・54 は勝坂３式土器、55 は加曽利Ｅ式土器である。56 ～ 63 は後期の土器で、56 は称名寺式土器、57 ～ 60 は堀之内１式土器、61 は加曽利Ｂ１式の粗製土器、62・63 は加曽利Ｂ式土器である。

［石　　器］（第 119 図 64 ～ 68、図版 39 － 64 ～ 68、第 38 表）

64・65 は石鏃、66・67 は打製石斧、68 は磨製石斧である。

（３）弥生時代後期～平安時代の遺物（第 120 図 69 ～ 76、図版 40 －１－ 69 ～ 76、第 39・40 表）

［土　　器］（第 120 図 69 ～ 75、図版 40 －１－ 69 ～ 75、第 39 表）

69 は弥生時代後期の高杯形土器である。70 ～ 72 は古墳時代の土師器で、70 は中期～後期の高坏形土器、71 は後期の坏形土器、72 は後期の甕形土器である。73 ～ 75 は平安時代の須恵器で、73・74 は坏形土器、75 は皿形土器である。

［鉄 製 品］（第 120 図 76、図版 40 －１－ 76、第 40 表）

76 は古墳時代中期～後期の鉄鏃である。

（４）中世以降の遺物（第 121 図 77 ～ 81、図版 40 －２－ 77 ～ 81、第 41 ～ 43 表）

［陶　　器］（第 121 図 77、図版 40 －２－ 77 ～ 79、第 41 表）

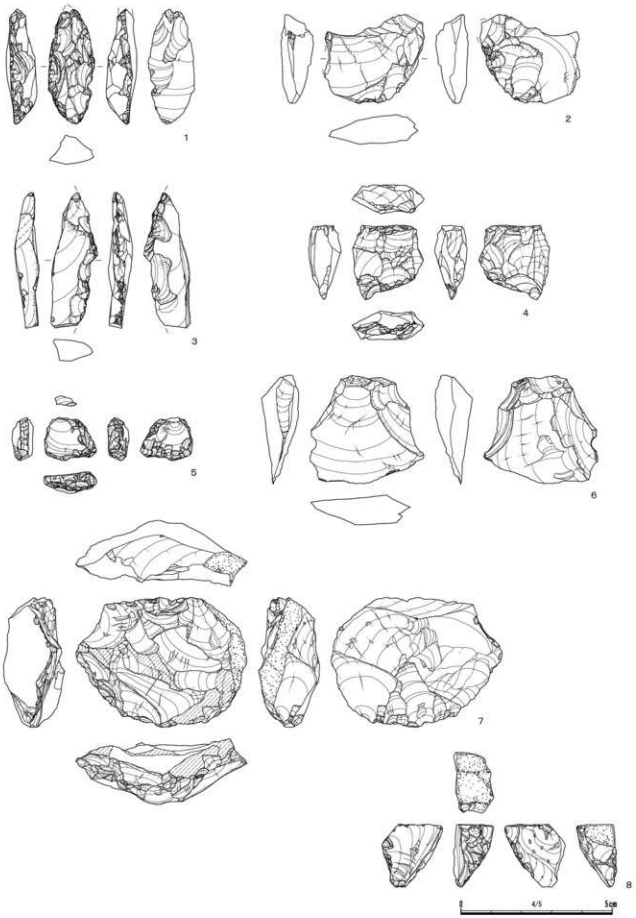
77 ～ 79 は瀬戸・美濃系の小皿である。

［土 製 品］（第 121 図 80、図版 40 －２－ 80、第 42 表）

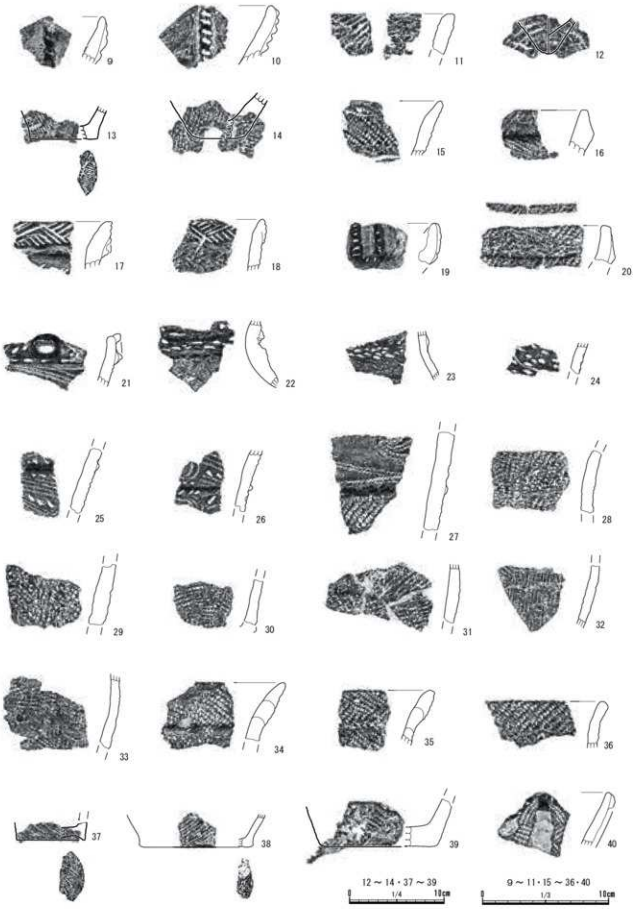
80 は焙烙の底部破片を転用した砥具である。

［石 製 品］（第 121 図 81、図版 40 －２－ 81、第 43 表）

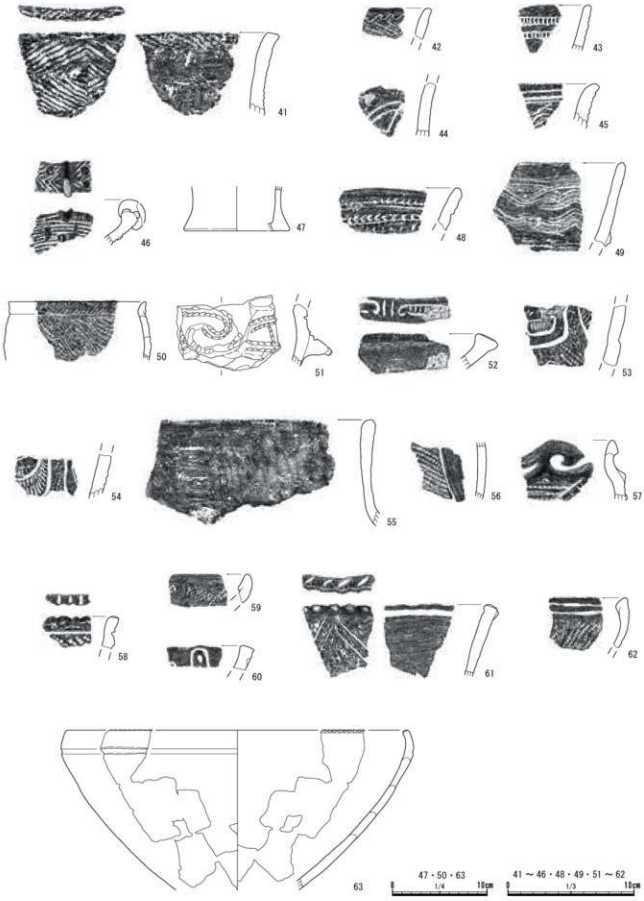
81 は凝灰岩製の砥石である。



第 116 図　旧石器時代遺構外出土遺物（４／５）



第 117 図　縄文時代遺構外出土遺物１（１／４・１／３）



第118図　縄文時代遺構外出土遺物２（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　徴	出土位置 出土遺構
第116図 1 図版 36-2-1	尖頭器	玉髄	[12.3]	3.5	2.5	10.5	先端部欠損／剥片素材／衝撃剥離の可能性あり／素材主要剥離面側から素材背面を除去する長剥離の後、短剥離による周縁加工	495 D
第116図 2 図版 36-2-2	尖頭器 未製品か	頁岩	2.9	[3.3]	1.1	8.4	左側縁部欠損／剥片素材／裏面に素材面を大きく残す連続的な短剥離による周縁加工が一部に施されると／尖頭器等の両面加工石器の未製品と考えられる	遺構外
第116図 3 図版 36-2-3	削器	チャート	4.5	[1.5]	0.5	4.7	左側欠損／不定形横長剥片素材／素材打点部表裏面に連続的な短剥離を施し、刃部とする	20 M
第116図 4 図版 36-2-4	楔形石器	チャート	2.5	2.3	1.1	6.1	完形／厚い不定形横長剥片素材／両極打法による剥離面で構成／下端部に潰れなされ痕	遺構外
第116図 5 図版 36-2-5	二次調整のある剥片	黒曜石	1.4	1.7	0.7	1.7	完形／打面を残す／裏面に素材面を大きく残す連続的な短剥離による周縁加工	88 H
第116図 6 図版 36-2-6	二次調整のある剥片	チャート	3.6	3.8	1.2	13.5	完形／不定形横長剥片素材／素材背面と主要剥離面を打面として左右側縁部を加工	87 H 覆土
第116図 7 図版 36-2-7	石核	チャート	4.3	5.7	2.0	44.3	完形／板状剥片／原礫面を一部残す／背面右側縁部に連続的な微細剥離痕	1 道
第116図 8 図版 36-2-8	石核	黒曜石	2.1	1.3	2.0	4.9	完形／残核か／横長剥片／原礫面を一部残す／表裏面に作業面２面	20 M

第 36 表　旧石器時代遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第117図 9 図版 37-9	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	波状口縁／口縁部は外傾する	刻み目を伴う隆帯貼付	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	縄文早期後葉 神ノ木行式	遺構外
第117図 10 図版 37-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	波状口縁／口縁部は外傾し、口唇部内面は肥厚する	刻み目を伴う隆帯貼付	にぶい橙色／砂粒・繊維中量、金雲母微量	縄文早期後葉 神ノ木行式	3 段
第117図 11 図版 37-11	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は外傾する	内面横方向、外面右上がりに条痕文	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第117図 12 図版 37-12	深鉢	底部 90%	高 [3.7] 厚 2.0	尖底	外面に条痕文	にぶい黄橙色／石英多量、砂粒・繊維中量、金雲母少量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第117図 13 図版 37-13	深鉢	底部 20%	高 [3.5] 底 (7.0) 厚 1.5	平底／底部は僅かに張り出す	胴部外面左上がり、底部外面右下がりに貝殻条痕文	橙色／砂粒・繊維中量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第117図 14 図版 37-14	深鉢	底部 30%	高 [5.7] 底 (5.6) 厚 2.2	丸みを帯びた平底	胴部に貝殻背圧痕文／内面黒色	にぶい赤褐色／砂粒・繊維中量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第117図 15 図版 37-15	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は肥厚し、外傾する	肥厚部に単節 RL 縄文	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 16 図版 37-16	深鉢	口縁部 破片	厚 1.6	口縁部は外傾する	口唇部に単節 LR 縄文、口縁部外面に単節 RL 縄文を羽状に施文	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 17 図版 37-17	深鉢	口縁部 破片	厚 1.7	口縁部は肥厚し、僅かに外反する	肥厚部に羽状状文、以下無節 R 縄文	にぶい黄橙色／石英・砂粒・繊維少量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 18 図版 37-18	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は肥厚し、外傾する	肥厚部に羽状状文	にぶい橙色／砂粒・繊維少量、石英・雲母微量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 19 図版 37-19	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は肥厚し、ほぼ直立する	肥厚部に刻み目を伴う隆帯貼付	褐色／砂粒・繊維中量、白色針状物質少量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 20 図版 37-20	深鉢	口縁部 破片	厚 1.5	複合口縁／口縁部は肥厚し、外傾する	口唇部・口縁部に単節 RL 縄文	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外

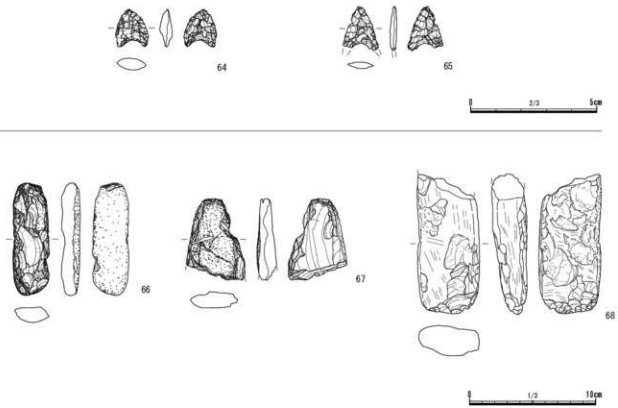
第 37 表　縄文時代遺構外出土土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第117図 21 図版 37-21	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	口縁部は僅かに内湾する	棒状工具による刺突を伴う隆帯貼付／縄Ｒの側面圧痕を伴う環状突起貼付／縄Ｌ・Ｒの側面圧痕	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量、白色針状物質少量	縄文前期前葉 花積下層式	486 D
第117図 22 図版 37-22	深鉢	頸部破片	厚 1.5	頸部は肥厚し、屈曲する	地文は無節Ｒ縄文か／隆帯貼付／隆帯・刻れ部に棒状工具による刺突	橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 23 図版 37-23	深鉢	頸部破片	厚 0.8	頸部は肥厚し、僅かに屈曲する	地文は貝殻背圧痕文／隆帯貼付／棒状工具による刺突	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 24 図版 37-24	深鉢	胴部破片	厚 0.8	外傾する	棒状工具による刺突	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 25 図版 37-25	深鉢	胴部破片	厚 1.2	外傾する	隆帯貼付／縄Ｌ・Ｒの側面圧痕／棒状工具による刺突	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 26 図版 37-26	深鉢	胴部破片	厚 1.0	僅かに外反する	隆帯貼付／縄Ｌの側面圧痕／棒状工具による刺突	にぶい褐色／砂粒・繊維中量、石英少量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 27 図版 37-27	深鉢	胴部破片	厚 1.4	僅かに外傾する	隆帯貼付／隆帯上部に縄Ｌ・Ｒの側面圧痕／隆帯下部に単節ＬＲ縄文	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 28 図版 37-28	深鉢	胴部破片	厚 1.0	僅かに外反する	貝殻背圧痕文	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 29 図版 37-29	深鉢	胴部破片	厚 1.3	外傾する	貝殻背圧痕文／内面黒褐色	にぶい赤褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 30 図版 37-30	深鉢	胴部破片	厚 1.0	外傾する	貝殻背圧痕文／内面黒褐色	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 31 図版 37-31	深鉢	胴部破片	厚 1.0	僅かに内湾する	貝殻背圧痕文	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 32 図版 37-32	深鉢	胴部破片	厚 0.7	僅かに内湾する	貝殻背圧痕文	橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 33 図版 38-33	深鉢	胴部破片	厚 0.9	内湾する	貝殻背圧痕文／内面黒色	橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	32 Y
第117図 34 図版 38-34	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	口縁部は外反する	単節 RL 縄文	にぶい黄橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 35 図版 38-35	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は外反する	単節 RL・LR 横位施文による羽状縄文	灰黄褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 36 図版 38-36	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外反する	単節 LR・RL 横位施文による羽状縄文	にぶい橙色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 花積下層式	遺構外
第117図 37 図版 38-37	深鉢	底部 20%	高 [1.9] 底 (7.0) 厚 1.2	上げ底	胴・底部外面に単節 RL 縄文	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 羽状縄文系	遺構外
第117図 38 図版 38-38	深鉢	底部破片	高 [3.3] 底 (12.0) 厚 1.2	僅かに上げ底	胴・底部外面に単節 LR 縄文	灰褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 羽状縄文系	遺構外 (試掘 14Tr)
第117図 39 図版 38-39	深鉢	底部 20%	高 [5.0] 底 (12.0) 厚 2.2	平底	単節 LR 縄文	にぶい褐色／砂粒・繊維中量	縄文前期前葉 羽状縄文系	遺構外
第117図 40 図版 38-40	片口土器	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は外傾する	隆帯貼付／単節 LR 縄文	にぶい褐色／石英・角閃石・砂粒・繊維少量	縄文前期前葉 関山式	32 Y
第118図 41 図版 38-41	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は外反する	無節Ｌ・Ｒ横位施文による羽状縄文／口唇部に無節Ｌ縄文／口縁部内面に無節Ｒ縄文	にぶい黄橙色／砂粒・繊維多量	縄文前期前葉 黒浜式	485 D
第118図 42 図版 38-42	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部は外傾する	単節 RL 縄文／Ｓ字状結節	にぶい褐色／小礫多量、砂粒・石英中量	縄文前期後葉 諸磯ｂ式	遺構外

第 37 表　縄文時代遺構外出土土器一覧（2）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・調　整　等	胎　土	時　期 型式等	出土位置
第118図 43 図版 38-43	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部は外傾する	半截竹管状工具による連続爪形文	にぶい黄橙色／砂粒中量	縄文前期後葉 諸磯ａ式	遺構外
第118図 44 図版 38-44	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は僅かに外反する	半截竹管状工具による平行沈線文	にぶい黄橙色／砂粒中量、石英・白色針状物質少量	縄文前期後葉 諸磯ａ式	遺構外
第118図 45 図版 38-45	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は外反する	半截竹管状工具による平行沈線文	にぶい赤褐色／雲母・砂粒中量、石英・白色針状物質少量	縄文前期後葉 諸磯ａ式	20 M
第118図 46 図版 38-46	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	口縁部は外方に開き、口唇部は肉薄する	口唇部に瘤状突起貼付／口縁部に刻み目を伴うボタン状貼付文／半截竹管状工具による平行沈線	にぶい赤褐色／砂粒・小礫中量、石英少量	縄文前期後葉 諸磯ｃ式	20 M
第118図 47 図版 38-47	深鉢	底部 15%	高 [47] 底 (11.0) 厚 1.5	平底／底部が大きく張り出すノトロフィー形深鉢	無文	にぶい褐色／砂粒・小礫中量	縄文前期後葉 諸磯ｃ式	遺構外
第118図 48 図版 38-48	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外傾する	半截竹管状工具による連続爪形文	褐色／雲母多量、砂粒中量、白色針状物質少量	縄文前期後葉 浮島Ⅰａ式	遺構外
第118図 49 図版 38-49	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は外傾する	隆帯貼付／櫛歯状工具による直線・波状文	にぶい赤褐色／雲母・白色針状物質・砂粒中量、小礫少量	縄文前期後葉 浮島Ⅰｂ式	遺構外
第118図 50 図版 38-50	浅鉢	口縁部～胴上半部 20%	口 (14.3) 高 [6.2] 厚 0.7	口縁部はほぼ直立し、口唇部は僅かに外傾する	単節 LR 縄文	にぶい褐色／石英・砂粒中量	縄文前期後葉	遺構外
第118図 51 図版 38-51	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は内湾する	隆帯貼付／隆帯に沿って２列の三角押文による加飾	にぶい褐色／小礫多量、金雲母・石英・砂粒中量	縄文中期前葉 阿玉台Ⅱｅ式	32 Y
第118図 52 図版 38-52	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は外反し、口唇部は内外に肥厚する	口唇部に沈線による楕円区画文	橙色／小礫・砂粒中量、石英少量	縄文中期中葉 勝坂２～３式	遺構外
第118図 53 図版 38-53	深鉢	胴部破片	厚 1.1	外傾する	地文は単節 RL 縄文／沈線による区画内にキャタピラー文充填	橙色／小礫・砂粒中量、石英少量	縄文中期中葉 勝坂３式	遺構外
第118図 54 図版 39-54	深鉢	胴部破片	厚 1.0	外傾する	地文は単節 RL 縄文／沈線による区画内にキャタピラー文充填	橙色／小礫・砂粒中量、石英少量	縄文中期中葉 勝坂３式	遺構外
第118図 55 図版 39-55	両耳壺	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部はほぼ直立する	無文	にぶい黄橙色／石英・小礫・砂粒中量	縄文中期後葉 加曽利Ｅ３－Ｄ式	遺構外 (試掘４Tr)
第118図 56 図版 39-56	深鉢	胴部破片	厚 0.7	僅かに内湾する	沈線による弧線文／単節 RL 縄文充填	褐灰色／砂粒中量、金雲母少量	縄文後期初頭 称名寺式	遺構外
第118図 57 図版 39-57	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	波状口縁／口縁部は僅かに外傾する	渦巻状の隆帯貼付／棒状工具による押引文	にぶい黄橙色／金雲母・石英・砂粒中量	縄文後期前葉 堀之内１式	遺構外
第118図 58 図版 39-58	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部は外傾する	地文は単節 LR 縄文／竹管状工具による沈線文／口唇部に竹管状工具による刻み目	にぶい赤褐色／石英・小礫・砂粒中量	縄文後期前葉 堀之内１式	遺構外
第118図 59 図版 39-59	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は僅かに内湾し、口唇部内面は肥厚する	縄上の側面圧痕	にぶい黄橙色／砂粒中量	縄文後期前葉 堀之内１式	遺構外
第118図 60 図版 39-60	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は外傾し、口唇部内面は僅かに肥厚する	竹管状工具による沈線区画内に棒状工具による刺突文を充填	にぶい赤褐色／砂粒中量	縄文後期前葉 堀之内１式	遺構外
第118図 61 図版 39-61	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部は外傾する／口唇部内面直下に太い沈線が巡る	隆帯貼付／隆帯上に指頭押捺／口唇部に棒状工具による押捺、竹管状工具による沈線文／地文は節の粗い単節 LR 縄文／竹管状工具による条線文／粗製土器	にぶい橙色／小礫・砂粒中量	縄文後期中葉 加曽利Ｂ１式	遺構外
第118図 62 図版 39-62	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は内湾し、口唇部内面は折り返され、肥厚する	地文は単節 LR 縄文／口縁部外面に竹管状工具による沈線文	にぶい赤褐色／小礫・砂粒中量、雲母少量	縄文後期中葉 加曽利Ｂ２式	遺構外
第118図 63 図版 39-63	浅鉢	口縁部～胴部 15%	口 (14.3) 高 [6.2] 厚 0.7	口縁部は内湾する／口縁部外面直下に太い沈線が巡る	無文／口唇部に棒状工具による刻み目	にぶい橙色／小礫・砂粒・金雲母中量、石英少量	縄文後期中葉 加曽利Ｂ３式	遺構外

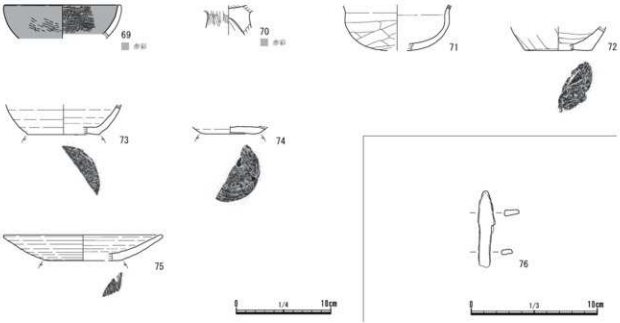
第 37 表　縄文時代遺構外出土土器一覧（3）



第 119 図　縄文時代遺構外出土遺物３（２／３・１／３）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　徴	出土位置 出土遺構
第119図 64 図版 39-64	石鏃	チャート	1.5	1.3	0.5	0.7	完形／剥片素材／凹基無茎	495 D
第119図 65 図版 39-65	石鏃	チャート	[1.8]	[1.4]	0.3	0.5	両脚部折損／剥片素材／凹基無茎	遺構外
第119図 66 図版 39-66	打製石斧	凝灰岩	8.9	2.9	1.5	54.7	短冊形片刃打製石斧／完形／棒状円礫素材／表面に原礫面残存／裏面はほぼ原礫面の片面加工	遺構外
第119図 67 図版 39-67	打製石斧	凝灰質片岩	[6.4]	[4.6]	1.6	44.3	撥形／刃部欠損／剥片素材／表面は原礫面，裏面は素材主要剥離面を大きく残す／刃潰し状に周辺加工を施す	遺構外
第119図 68 図版 39-68	磨製石斧	緑色岩	[11.1]	[4.9]	2.8	253.0	定角式磨製石斧／刃部端・基部欠損／刃部はやや鈍い両刃／扁平棒状礫素材／周縁部から表裏面に横長調整を加え整形／敲打調整後，研磨	遺構外 1試掘 13Tr

第 38 表　縄文時代遺構外出土石器一覧



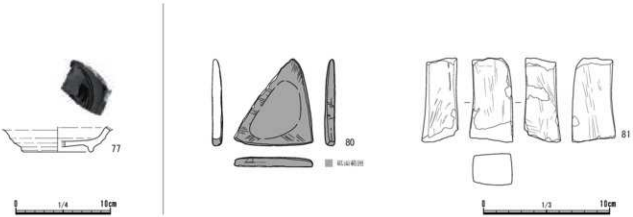
第 120 図　弥生時代後期～平安時代遺構外出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第120図 69 図版 40-1-69	高杯	杯部破片	口 (12.1) 高 [3.6]	口縁部は内湾しながら立ち上がる	内外面：口縁部は横ナデ、以下は縦かいヘラ磨き／内外面全面赤彩	にぶい橙色／橙色粒子中量、雲母少量	弥生後期	遺構外
第120図 70 図版 40-1-70	土師器 高坏	脚部破片	高 [3.2]	脚部は樽ね柱状を呈する	内面：坏部はヘラ磨き、脚部はヘラナデ／外面：縦方向のヘラ削り後、縦方向のヘラ磨き／坏部内面赤彩	にぶい橙色／砂粒中量、赤色粒子・白色粒子少量	古墳中期～後期	遺構外
第120図 71 図版 40-1-71	土師器坏	口縁部～底部破片	高 [4.9]	有段坏／口縁部は外反する／口縁部と底部の境は段をもつ	内面：口縁部は横ナデ、底部はナデ／外面：口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り後ナデ	にぶい橙色／砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子中量	古墳後期（7世紀代）	553 D
第120図 72 図版 40-1-72	土師器 甕	底部破片	高 [2.5] 底 (6.8)	長甕／脚部はやや丸みをもって立ち上がる	内面：ヘラナデ／外面：脚部はヘラナデ、底部は外縁のみヘラナデで、中央部は木葉痕が残る	にぶい黄橙色／砂粒・雲母・小礫中量	古墳後期（7世紀代）	遺構外
第120図 73 図版 40-1-73	須恵器 坏	体部～底部破片	高 [3.2] 底 (7.6)	体部は丸みをもって立ち上がる	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	黄灰色／砂粒・小礫・長石中量	平安時代（9世紀代）	22 M
第120図 74 図版 40-1-74	須恵器 坏	底部 50%	高 [0.9] 底 (6.2)	体部は丸みをもって立ち上がる	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／鳴山製品	浅黄色／白色針状物質・砂粒・小礫・白色粒子中量	平安時代（9世紀代）	1 段
第120図 75 図版 40-1-75	須恵器 皿	口縁部～底部 20%	口 (16.4) 高 2.8 底 (8.3)	口縁部は直線的に外傾	ロクロ成形／ロクロ回転は右方向／底部は回転糸切痕が残る／東金子製品か	灰黄色／砂粒中量、長石少量	平安時代（9世紀代）	22 M

第 39 表　弥生時代後期～平安時代遺構外出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第120図 76 図版 40-1-76	鉄鏃	鉄	[6.0]	1.3	0.7	7.6	茎部下半欠損／鏃身部片刃形／茎部断面形は平形	遺構外 (試掘 4 Tr)

第 40 表　弥生時代後期～平安時代遺構外出土金属製品一覧



第 121 図　中世以降遺構外出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	時期 型式等	出土位置
第121図 77 図版 40-2-77	陶器 皿	体部～ 底部破片	高〔2.6〕 底（7.0）	口縁部は外反する	小皿／内面：鉄釉櫛竹文／見込環状重ね弧／瀬戸・美濃系	炭黄色／砂粒少量	近世 17 世紀中葉	遺構外
図版 40-2-78	陶器 皿	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部は直線的に外傾する	志野皿／内外面：志野釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒少量	近世 17 世紀中葉	遺構外
図版 40-2-79	陶器 皿	口縁部 破片	厚 0.6	口縁部は直線的に外傾する	志野皿／内外面：志野釉／瀬戸・美濃系	にぶい黄橙色／砂粒少量	近世 17 世紀中葉	遺構外

第 41 表　中世以降遺構外出土陶器一覧

挿図番号 図版番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第121図 80 図版 40-2-80	転用砥具	6.8	6.2	0.8	27.3	焙烙底部破片を砥具に転用／全体形状は三角形／３辺のうち２辺を砥面に使用	遺構外

第 42 表　中世以降遺構外出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第121図 81 図版 40-2-81	砥石	凝灰岩	6.6	3.4	2.8	91.3	上・下端を欠損／上・下端を除く４面が使用面	遺構外

第 43 表　中世以降遺構外出土石製品一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　旧石器時代

旧石器時代の遺構として、15 号試掘坑（ＴＰ 15）から石器集中地点１ヶ所（４Ｕ）が検出された。ここでは本地点での主要石材（黒曜石・赤色頁岩・頁岩）毎の分布状況を取りまとめると共に、本遺跡他地点の出土状況との比較検討を行ってみたい。

（１）４号石器集中地点（４Ｕ）の石器分布状況と石器製作

①黒曜石（第 17 図３～８、第 19 ～ 21 図 19 ～ 36）

黒曜石製の石器の総点数は 177 点で、その内訳は石核２点、剥片 125 点、砕片 50 点である。母岩は複数種あると想定され、主要３石材の中では最も広範囲で接合関係が認められた。分布は４Ｕ中央部一帯に広がるが、層位的には立川ローム第Ⅴ層中にまとまる傾向にあり、全体の約７割は同層中から出土している。また、石核・砕片・微細剥片は分布の中心域にまとまる傾向にある。

接合資料の大半は、多方面から打面転位しながら剥離が行われており、非接合資料を含め、原礫面を残した資料はほとんど確認されなかった。このことから、原礫面除去後の石核ないしは剥離後の剥片状態で本地点に持ち込まれた可能性が考えられる。

②赤色頁岩（第 18 図９～ 14、第 22・23 図 37 ～ 53）

赤色頁岩製の石器の総点数は 64 点で、その内訳は剥片 59 点、砕片５点である。母岩は全て同質と考えられるが、部位によって色調等が異なるようで、肉眼観察により３類に分類することが出来た。各類の特徴を簡潔にまとめたのが、下記 44 表である。

類別	比率	色調的特徴	剥片の形状など	実測図番号
1	13 点（20.3%）	黄みがかった淡い発色	横長剥片が約６割	第 18 図 11、第 22 図 37 ～ 39
2	24 点（37.5%）	鮮やかな濃い発色	横長剥片が約７割	第 18 図９・10・13・14、第 22 図 40 ～ 42、第 23 図 43 ～ 49
3	27 点（42.2%）	くすんだ発色	横長剥片が９割以上、砕片多い	第 18 図 12、第 23 図 50 ～ 53

第 44 表　赤色頁岩の分類

分布は４Ｕ中央部南西寄りに集中する傾向にあるが、層位的には立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅵ層上部にかけて広がりを見せ、主要３石材の中では最も高低差が見られる。また、主要３石材の中では、接合資料の大半が原礫面を多く残している点が特筆される。

③頁岩（第 17 図１・２、第 24 ～ 28 図 54 ～ 66）

頁岩製の石器の総点数は 35 点で、その内訳は調整剥片２点、石核１点、剥片 32 点である。肉眼観察により、母岩は全て同一と考えられ、主要３石材の中で最も多くの接合関係が認められた。分布は４Ｕ中央部に小さくまとまる傾向にあり、層位的にも立川ローム第Ⅳ層下部から第Ⅴ層下部にかけて比高差

30cm前後の範囲内に概ねまとまる。

特筆すべき点として、ナイフ形石器または角錐状石器の調整剥片が出土している。先端部裏面中央部を加撃していることから、刃部再生を行ったと考えられる。先端部からの縦方向の剥離は衝撃剥離痕の可能性がある。なお、このトゥールの基部側は、４Ｕでは出土しておらず、本地点外に持ち出されたと考えられる。

石器の接合状況については、第 24 図 54 に示したように、石核部分を欠き、外縁部のみが残存する形で剥片が接合された。赤色頁岩とは異なり、原礫面が下端部以外は残っておらず、もう１点の接合資料（第 28 図 63）及び非接合資料についても原礫面はほとんど残っていなかった。なお、第 24 図 54 下部は、石核調整剥片として剥離した後、剥片素材の石核（第 26 図 58）にしたと考えられる。その前後の石器製作工程を第 122 図に示したので参照されたい。

最後に本地点における主要３石材の分布範囲と作業内容の相違点についてまとめたい。

分布範囲については、第 12 図に示した石材別分布図に示したように、南西部は赤色頁岩にほぼ限定され、南西部を避ける形で北東部一帯に黒曜石・頁岩が分布し、更にその中で頁岩は北東部中央にまとまるという明確な区分が見られる。この区分は後述する作業内容の違いを反映した可能性が高いと考えられる。

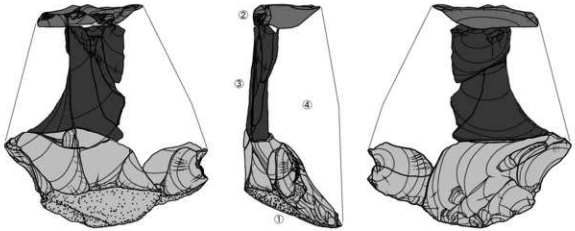
作業内容については、石核の有無に焦点をおいて述べてみたい。①黒曜石は、不定形の剥片や砕片が多く出土し、小形の石核が残されていることから、本地点で石核調整作業や小型の不定形剥片の作出及び、石核の遺棄・廃棄を行ったと考えられる。②赤色頁岩は、石核が出土せず、接合資料の大半が原礫面を多く残し、不定形の縦・横長剥片が出土していることから、本地点で礫面除去作業や不定形剥片素材の作出等の石器製作を行い、石核は本地点外に持ち出されたと考えられる。③頁岩は、石核調整や打面調整を行ったことを示す残核と剥片の接合資料が出土し、その背面剥離構成の観察から、縦長剥片（石刃）を剥離していたと考えられる石核を本地点に持ち込み、縦長の素材剥片の獲得等の石器製作を行った後、石核は本地点外に持ち出されたと考えられる。

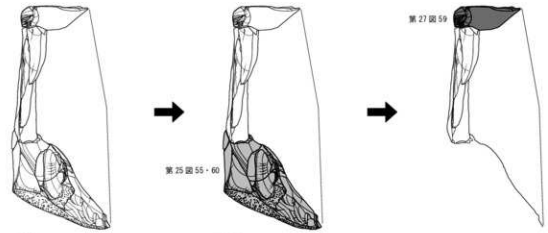
（２）本遺跡における石器集中地点の様相

本遺跡では、本地点の他にも遺跡の北東端部に位置し、地勢的には遺跡北側を流れる柳瀬川右岸に向かう緩斜面の入口部分に相当するエリアにおいて石器集中地点が複数確認されている。ここでは、本地点の南側に隣接する第 49 地点で検出された３号石器集中地点の様相（尾形・深井・青木　2004）について取りまとめ、その上で本地点との比較検討を行ってみたい。

３号石器集中地点では、立川ローム第Ⅳ層上～下部にかけて計 58 点の石器が出土した。文化層としては第Ⅳ層下部の１面と捉えており、本地点で検出された４号石器集中地点と概ね合致する。

３号石器集中地点で出土した石器の内訳は、ナイフ形石器１点、角錐状石器１点、二次加工のある剥片１点、石核４点、剥片 30 点、砕片 21 点で、ナイフ形石器・角錐状石器・石核は全て黒曜石製、二次加工のある剥片は凝灰岩製である。石質別では、黒曜石 45 点、安山岩５点、頁岩３点、チャート２点、凝灰岩２点、ホルンフェルス１点となり、石質組成については、本地点で特徴的に出土した赤色頁岩が出土していない点が大きく異なるが、黒曜石の比率が極めて高い点は類似する（第 123 図）。

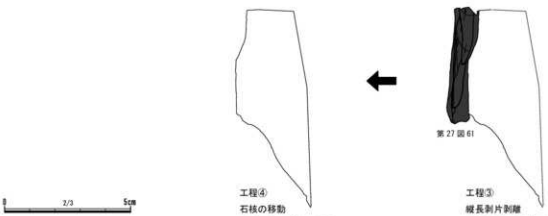




工程①
縦長剥片（石刃）を
取っていた石核の持ち込み

工程①
石核調整→第 25 図 55 は石核
調整剥片を石核（フレークコア）
として利用

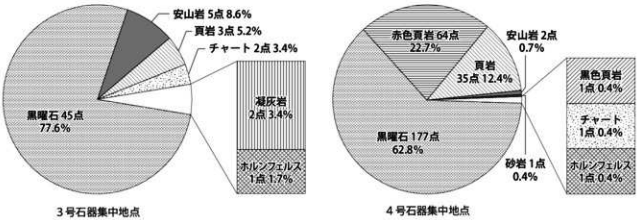
工程②
打面調整



工程③
縦長剥片剥離
（素材剥片の獲得か）

工程④
石核の移動
（地点外への持ち出し）

第 122 図　４号石器集中地点　石器製作工程



第 123 図　３・４号石器集中地点　石質組成

第２節　縄文時代

縄文時代の遺構として、炉穴１基（65 号炉穴）、土坑 15 基（476・482・485・493・506・508・529・531・532・544・547・552・554・558・560 号土坑）、集石１基（５号集石）、ピット５本（52・59・66・67・174 号ピット）が検出された。ここでは 15 基検出された土坑について所見を述べ、まとめとしたい。

（１）縄文時代の土坑について

①476・482・485・506・529・531・532・544・547・552・554・558・560 号土坑（第 31・33・35 図）

平面形が円形・楕円形を基調とする一群で、計 13 基検出された。断面形が円筒状を呈する 547 号土坑は貯蔵穴としての用途が想定されるが、その他の土坑に関しては不詳な点が多い一群である。平・断面の形状から 529・552 号土坑については風倒木と考えられ、その他の土坑に関してもその可能性が考えられる。遺物は、476・482・485・531・532・558・560 号土坑の７基から縄文土器・礫が出土しており、中期前葉の 485 号土坑を除き、他の６基は早期末～前期前葉に比定される。

②493 号土坑（第 33 図）

溝状に細長く、オーバーハングして深く掘り込まれる平・断面の形状から陥穴（Ｔピット）と考えられる。底面は立川ローム第Ｘ層まで達し、確認面からの深さは 1.64m を測る。管見の限りでは本遺跡では稀有な検出例である。検出地点は東から西に下る緩斜面上に位置し、傾斜方向に対して直行する形で構築されている。出土遺物は無く、詳細な時期は不明である。

③508 号土坑（第 33 図）

調査区の制約があり、遺構の一部分しか調査出来なかったため、土坑とせざるを得なかったが、遺物の出土状況と僅かに硬化が認められた底面の状況から、中期後葉（加曽利ＥⅣ式期）の住居跡の一部である可能性が考えられる。本遺跡では縄文時代の住居跡の検出例は未だ少なく、本地点の南側に近接する第 25・49 地点（第２図）で各１軒検出された中期後葉の住居跡２軒（尾形・深井　2001、尾形・深井・青木　2004）及び、遺跡南端に近い第 85 地点で検出された後期前葉の柄鏡形住居（敷石住居）跡１軒（未報告）のみであるが、第 25・49 地点及び本地点を包括する遺跡北西部のエリアには、中期後葉を主体とする小・中規模の縄文時代の集落が展開していたことが推測される。

第３節　古墳時代後期

古墳時代後期の遺構として、住居跡２軒（86・88 号住居跡）、溝跡１本（19 号溝跡）が検出された。ここでは 88 号住居跡からまとまって出土した土師器について、若干の考察を行いたい。

（１）古墳時代後期 88 号住居跡出土土師器について

本住居跡から出土した土師器の実測個体 26 点中 24 点（92.3％）は在地系土師器（尾形　2005・2006）と考えられ、86 号住居跡出土遺物に関しても同様の傾向が看取される。なお、各器種の分類については、尾形氏の分類基準（尾形　2006）に準拠する。

①土師器坏形土器（第 47 図１～ 13）

１は内外面に赤彩が施された非在地系の赤色系有段坏である。２～ 13 は在地系土師器と考えられ、２～ 11 は有段坏タイプ（Ａ類）、12 は有稜坏タイプ（Ｂ類）、13 は内外面に黒彩が施された埦タイプ（ＢⅠｄ類）である。今次調査地点周辺の出土例を見ると、49 地点 66 号住居跡出土の土師器坏形土器は７点全てが有段坏タイプ、95 地点 85 号住居跡出土の土師器坏形土器も３点中２点が有段坏タイプであり、有段坏タイプが優勢である点が共通する。

２～ 11 の有段坏タイプのうち、２～７の６点（60％）は無彩系、８～ 11 の４点（40％）は黒色系に分類され、僅かに無彩系が優勢となる。２～ 11 の口径に着目すると、４が 10.6㎝と小型で、やや新しい様相を示すが、他の土器の口径は 11.7 ～ 15.0㎝で、その中でも 12 ～ 14㎝の中型が主体となり、16㎝を超える大型の坏は見られない。

口縁部の形状については、直立するもの（２・６）、外傾するもの（５・９・10）・外反するもの（３・４・７・８・11）と個体差が見られるが、にぶい橙色・にぶい黄橙色を基調とする胎土と、胎土中に含まれる鉱物組成は共通している。在地系土師器についてはバリエーションが豊富であることが示唆されており、12 のような有稜坏タイプ、13 のような埦タイプも含め、そのバリエーションの中の１つとして包括できるものであり、坏形土器の時間差は然程ないものと考えられる。

②土師器鉢形土器（第 47 図 14 ～ 16）

14 は小型で、器高が特に高いタイプ（Ｄ２類）、15 は大型で、器高が特に高いタイプ（Ｄ１ａ類）、16 は大型で器高が高く、口縁部が外反するタイプ（Ｃ類）である。これらの土器も坏形土器同様に、バリエーション豊富な在地系土師器鉢形土器の中の諸タイプとして捉えられ、その中でも器高が高いタイプにまとまりを見せる傾向が看取される。

③土師器甕形土器（第 47・48 図 17 ～ 22）

17 ～ 20 は長甕タイプ（Ａ類）、21・22 は丸甕タイプ（Ｂ類）である。

長甕タイプの最大径の位置に着目すると、小型（17）・大型（18 ～ 20）の別を問わず、全てが口縁部と胴部中位のほぼ同位置に最大径をもち、僅かに胴部中位の方が大きいタイプである。20 は他の土器よりも歪みが大きいことにも起因し、胴下半部が膨らむ古い様相を残しており、木葉痕を残さない底部外面の調整技法にも違いが見られるが、18 ～ 20 はいずれもカマド前面に並列した状態で出土し、胴下半部外面の広範囲に煤が付着していることから、同時期にカマドで使用されたことが想定され、時間差はないものと考えられる。丸甕タイプも、長甕タイプと同様に胴部中位に最大径をもち、タイプによる

時期的な齟齬は見られない。また、長甕・丸甕のタイプを問わず、胴部外面にはヘラ削り後のナデに化粧土（スリップ）を施したような薄い膜状の調整痕が見られる。スリップ技法は本市を含めた武蔵野台地北西部で特徴的に用いられる技法で、本地点では甕形土器に限らず、鉢形土器全てにも用いられていることから、小地域での土師器製作の基盤が確立したことを示唆するものではないかと考えられる。

③土師器甑形土器（第 49 図 23・24）

23 は長甕の底部を焼成後穿孔した転用品である。胴下半部から底部のみであるが、型式的特徴は他の長甕（17 ～ 20）と共通する。24 は底部が筒抜け式で、やや不明瞭な複合口縁を呈するタイプ（Ａ２類）である。胴部は中位が僅かに膨らむが、ほぼ直線的な長胴を呈し、内外面に縦方向のヘラ磨きが施される。ヘラ磨きによる器面調整は７世紀中葉以降、粗雑化する傾向にあり、長胴化が進む胴部の形状と、複合口縁部の形状から、７世紀中葉以前に比定されると考えられる。

以上、本住居跡の時期については、土師器の９割以上が在地系土師器で占められていることから、概して７世紀以降の時期が与えられる。坏形土器は有段坏が８割以上と優勢で、陶邑編年 TK217 型式段階のような口径 10cm程度の小型品（田辺　1981）が含まれないこと、甕形土器は全てが口縁部と胴部中位のほぼ同位置に最大径をもつタイプであること、甑形土器は胴部内外面に磨きが施され、長胴化が進行していることから総合的に判断し、７世紀前葉に比定できると考えられる。坏形土器はバラエティーに富んだ構成を示し、鉢・甕形土器は型式的特徴がほぼ共通する貴重な一括資料と言えよう。

第４節　平安時代

平安時代の遺構として、住居跡２軒（87・89 号住居跡）、土坑 10 基（463・486・507・521 ～ 526・528 号土坑）、ピット２本（57・58 号ピット）が検出された。ここでは 87・89 号住居跡から出土した遺物について、若干の考察を行いたい。

（１）平安時代 87・89 号住居跡出土遺物について

87・89 号住居跡は、約 15m の間隔をおいて重複することなく検出された。共に北壁の中央部にカマドを有し、主軸方位はほぼ合致する。出土遺物にも共通項が多いことから、２軒は同時並行ないしは連続して構築された可能性が高いと考えられる。以下詳述していきたい。

① 87 号住居跡出土遺物（第 56 図１～６）

須恵器蓋形土器１点、須恵器坏形土器１点、土師器甕形土器３点、砥石１点が出土した。須恵器蓋・坏は共に東金子製品で、須恵器坏（２）の口径 11.7cmと内底径 6.0cmの比率は 51 となり、東金子窯編年Ⅶ期（古代の入間を考える会　2013）の９世紀中葉に比定される。土師器甕（３）は口縁部が「コ」の字状を呈する「武蔵型甕」で、口縁部形状から比定される年代観は須恵器坏と合致する。砥石は凝灰岩製で、使用面５面中３面に刃物を砥いだと想定される線状の痕跡が認められる。

② 89 号住居跡出土遺物（第 60 図１～ 13）

灰釉陶器長頸瓶１点、須恵器蓋形土器１点、須恵器坏形土器５点、須恵器埦形土器１点、土師器坏形土器１点、土師器甕形土器３点、砥石１点が出土した。灰釉陶器長頸瓶は湖西産と考えられ、須恵器蓋（２）・坏（３～６）、埦（８）は東金子製品、坏（７）は鳩山製品と考えられる。口径と底径が計測出来

た東金子製品の須恵器坏（３～６）の口径と内底径の比率は順に、53・51・51・50となり、87号住居跡出土遺物と同様に、東金子窯編年Ⅶ期の９世紀中葉に比定される。ただし、６は内底径5.9㎝を測り、6.0㎝を切って縮小化する傾向が見られる。鳩山製品の須恵器坏（７）も残存部から推定される底径が6.0㎝を切ることから、一段階新しい様相を呈し、９世紀後葉に比定される。

土師器甕（10～12）は全て口縁部が「コ」の字状を呈する「武蔵型甕」で、87号住居跡出土遺物と概ね同一型式と考えられる。砥石は砂質凝灰岩製で、使用面に鉄分の付着が認められることから、恒常的に鉄製品を研磨していたことが想定される。

第５節　中世以降

中世以降の遺構として、段切状遺構５ヶ所、道路状遺構１本、土坑73基、井戸跡４基、溝跡５本、ピット174本が検出された。ここでは様相が異なる１区と２・３区毎に、段切状遺構を軸とした中世段階における土地利用の変遷について、若干の考察を行いたい。

（１）１区の様相

中世に帰属すると考えられる主な遺構として、段切状遺構２ヶ所（１・２号段切状遺構、以下１・２段）、道路状遺構１本（１号道路状遺構、以下１道）、土坑１基（464号土坑）、井戸跡２基（15・16号井戸跡）が検出された。新旧関係は、２段→15・16号井戸跡→１道→１段→464号土坑と考えられる。

１区の地形は第65図に示した等高線図にあるように、比高差1.5m、斜度約7.5％で、南から北に向かって傾斜する斜面地であるが、１区東・西壁の基本土層の観察により、平坦面を確保するために上下２段階で切土による造成工事が行われたことが判明した。切土造成上段の痕跡を１段、切土造成下段の痕跡を２段と呼称し、出土遺物と周辺遺構との重複関係から、最初に２段（下段）、次いで１段（上段）の順に構築されたものと考えられる。平場面を形成するための掘削は、１段では立川ローム第Ⅳ層上部にまで達しているが、２段では立川ローム第Ⅲ層上部までにとどまり、２段から下方はローム漸移層（Ⅱ層）が残存している。この事から１区北側に関しては、北東隅を除けば勾配が緩やかなこともあり、自然地形をある程度生かして最小限の労力で平場面を形成していたことが推測される。出土遺物と各遺構との重複関係から２段は14世紀代、１段は15世紀代に比定され、切土造成は中世段階に行われたと想定される。その後、近世初頭（17世紀中葉～後葉）には埋没し、嵩上げされ、近世以降は畑地として利用されたものと考えられる。

中世段階に話を戻すと、２段によって形成された平場面には、15・16号井戸跡が構築された後、２段の一部と16号井戸跡を埋め戻して、１道が構築される。１道は２段の段切面に沿って構築され、上下３面の路面が確認された。出土遺物から１道の構築年代は14世紀代に比定され、その後、斜面地上側に新たに１段に伴う平場面が形成されるが、１段と２段の間の平場面では464号土坑と小規模なピットが検出されたのみで、積極的な土地利用の痕跡は確認されなかった。また、１・２段の東端部は３区まで達することを想定していたが、３区調査区西壁ではその痕跡は確認されなかった。このことから１・２段は、１・３区を隔てる市道内で終息ないしは南北方向に屈曲するものと考えられる。

（２）２・３区の様相

中世に帰属すると考えられる主な遺構として、段切状遺構３ヶ所（３～５号段切状遺構、以下３～５段）、地下式坑３基（491・495・553 号土坑）、土坑墓５基（487・492・503・504・505 号土坑）、溝跡１本（20 号溝跡）が検出された。

①段切状遺構

段切状遺構のうち、調査区北端で検出された５段は検出範囲が狭いため不詳な点が多く、南東部で検出された３段も小規模なものであるが、南西部で検出された４段は南側に隣接する第 95 地点で検出された大規模な段切状遺構に連なるもので、段差部の北端に該当する。第 95 地点の調査報告書（徳留・尾形・青木　2017）によると、南北方向 12.5m、東西方向 21 ～ 33m の範囲でローム面を平場状に整地しており、平場面から多くの土坑・井戸跡等が検出されている。

その中で特筆すべきは５基検出された平面Ｔ字形の火葬土坑である。火葬土坑は中野遺跡第 95 地点の調査で、市内で初めて検出され、隣接する本地点でも類例の増加が予想されていたが、本地点では予想に反して、火葬土坑は１基も検出されず、代わりに土坑墓６基が検出された。このことから切土造成（４段）によって形成された平場面は、火葬土坑を構築するために周囲より一段下に掘り込まれ、整地された可能性があり、平場面の外側（４段の段差外）に当たる本地点とは土地利用のあり方が異なっていたと考えられる。

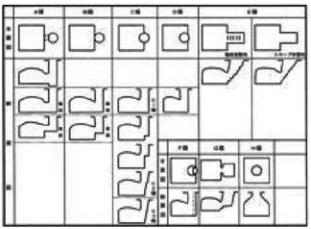
第 95 地点の調査以降、本地点の西側に隣接する第 102 地点でも、段切状遺構内から火葬土坑１基が検出されており（尾形・大久保・深井・青木　2019）、段切状遺構に伴う平場面と火葬土坑の密接な関係性が想定されるが、先述した１・２段によって形成された平場面からは、火葬土坑は検出されなかった。火葬土坑の選地条件に法則性があるのか否かは現時点では判然とせず、今後の調査事例の増加を待ちたいが、後述する土坑墓と火葬土坑に関しては、ある程度明確な住み分けがされていた可能性が高い。

②地下式坑

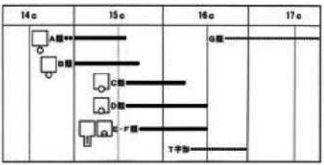
本地点で検出された地下式坑３基（491・495・553 号土坑）は、全て１竪坑１主体部タイプで、竪坑部と主体部の接続部が有段となるタイプである。天井部が残存していた 553 号土坑をはじめ、遺存状態は良好であった。第 124・125 図に示した築瀬氏の分類基準（築瀬　2006）に準拠すると、491 号土坑はＣ類、495・553 号土坑はＢ類に該当し、いずれも中世段階（14 ～ 15 世紀代）に属するものと考えられる。出土遺物の観点からも、495 号土坑から 14 世紀代の陶器が出土しており、年代観は合致する。

築瀬氏の分類でＢ類とした 495・553 号土坑（第 92 図）の主体部は共に方形を呈し、竪坑部から１m 前後下まで深く掘り込まれているが、形式的に新しいＣ類の 491 号土坑（第 91 図）の主体部は未発達で狭く、竪坑部からの比高差は 0.36m と他の２基に比べて格段に浅い。地下式坑の用途については、大きく埋葬施設とする説と、貯蔵施設とする説の２者があり、495・553 号土坑については、主体部の発達具合から貯蔵施設である可能性が考えられる。

それに対し、491 号土坑は主体部が特異な形状を呈し、区画施設と考えられる 20 号溝跡の南側に３基中で唯一位置することから、形式分類の違いも加味すると他の２基とは用途が異なる可能性がある。人骨や副葬品に限らず、491 号土坑からは遺構の性格を示す遺物は出土しなかったが、後述する土坑墓との分布の兼ね合いから同様の埋葬施設である可能性を提示したい。



第 124 図　竪坑による地下式坑分類図(築瀬2006を改変)



第 125 図　築瀬氏による地下式坑時期的変化模式図
（築瀬 2006）

③土坑墓

計５基検出された土坑墓（487・492・503・504・505 号土坑）は全て土葬墓で、第 95・102 地点で検出された火葬土坑との違いが特筆される。なお、478 号土坑も土坑墓であるが、平面形・断面形・分布状況が他の５基とは明らかに異なり、出土銭貨も全て寛永通寶（新寛永）であることから、近世に属する遺構と考え、本記述からは除外する。

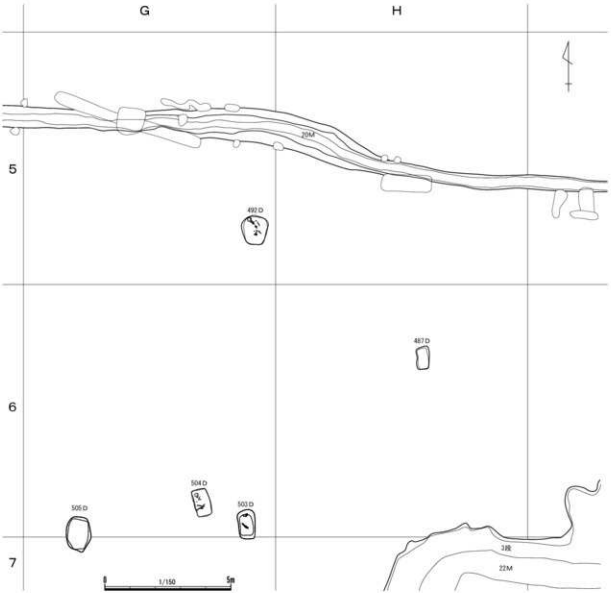
土坑墓の平面形状は、城山遺跡第 42 地点で報告された分類基準（尾形・深井・青木　2005）に準拠すると、Ｂ２類が４基（487・503・504・505 号土坑）、Ｂ３類が１基（492 号土坑）となる。分布は２区に限られ、北限は 20 号溝跡に画されている。若干の振れ幅はあるが、長軸方向は全て南北軸を取り、503・504・505 号土坑の３基は、（Ｇ－６・７）グリッド内に近接して検出された（第 126 図）。

本遺跡での土坑墓の検出は第 49 地点で検出された 67 号土坑（尾形・深井・青木　2004）に続き、２例目となるが、後述する形態的特徴が類似する土坑は本遺跡では数多く検出されており、その中に人骨や副葬品を伴わないために土坑墓として判別出来なかった遺構が多く含まれることが想定される。本地点でも見落としている可能性は十分にあるが、今後の示準として以下に土坑墓の形態的特徴について詳述したい。

土坑墓の形態的特徴として、①平面形：長方形または隅丸長方形を呈する。②長軸：1.0m 前後（0.90 ～ 1.17m、505 号土坑のみ 1.36m）。③短軸：バラつきがあるが、長軸の 50 ～ 60％前後のものが多い。④壁面：ほぼ垂直に立ち上り、オーバーハングするものも多い。の４点が挙げられる。

土坑墓からの出土遺物は少なく、六文銭と考えられる銭貨数枚と人骨のみであった。人骨も図化可能な状態でまとまって出土したのは５基中３基のみである。詳細については附編Ⅰを参照していただきたいが、遺存状態が悪いため、年齢・性別などは大まかに特定することが出来たものの、年代などの詳細情報は得られなかった。また、埋葬姿勢が推測出来る人骨は全て頭を北に向け、横臥屈葬の体勢を取っており、第 49 地点 67 号土坑の検出例と共通する。銭貨については、銭形や書体の乱れが少ないことから、大部分が中国の南唐～明王朝期に中国現地で鋳造された渡来銭で、模鋳銭はほとんど含まれないと考えられる。

火葬土坑の年代は、第 95・102 地点から出土した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、13 世紀末～ 15 世紀前半とされている（徳留・尾形・青木　2017、尾形・大久保・深井・青木　2019）のに対し、土坑墓からは直接的に年代を示す遺物は出土しなかったが、土坑墓との関連が示唆される溝跡や



第 126 図　土坑墓配置図（1／150）

段切状遺構で 13 ～ 14 世紀の遺物が出土していることから、年代的には火葬土坑と同時期ないしは若干先行する可能性が考えられる。

④溝跡

20 号溝跡は調査区中央部を横断し、西端は調査区内に収まるが、東端は調査区外に延び、西側に隣接する第 102 地点で検出された 17 号溝跡に連なる長大な遺構である。本地点での検出長は 58.51m、東西の底面の比高差は 1.18m を測り、東から西に向かって緩やかに傾斜していく。西端に近付くにつれ、深度は浅くなり、全体的に削平されていることもあり、掘り込みは決して深くはないが、掘形は箱薬研堀に近い形状をしていることから、区画施設の可能性が考えられる。20 号溝跡を境に、北側には地下式坑、南側には土坑墓と、両者の分布が分かれることも区画施設としての用途を傍証するものと考えられる。出土遺物から 13 世紀代に比定され、覆土上層からはウマの下顎骨・歯も出土している。

[引用・参考文献]

愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』
愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』
愛知県史編さん委員会　2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』
大久保聡・尾形則敏・青木　修　2014『中野遺跡第 78 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 57 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏　1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点－小地域を対象とした編年の確立に向けて－」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会
2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（１）－５世紀から７世紀の坏形土器の変遷－」『あらかわ』第３号　あらかわ考古談話会
2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（２）－５世紀から７世紀の甕・甕形土器の変遷－」『あらかわ』第４号　あらかわ考古談話会
2002「武蔵野台地北西部における古墳時代の地域性－集落を中心とする５世紀から７世紀の土器様相－」『あらかわ』第５号　あらかわ考古談話会
2004「荒川下流域右岸地域における古墳時代中・後期の様相－東京西北～東北部を中心とした５～７世紀の遺跡と土器様相－」『あらかわ』第７号　あらかわ考古談話会
2005「第４章　第２節　148 号住居跡出土の土師器の胎土分析と考古学的な検証」『城山遺跡第 42 地点埋蔵文化財発掘調査報告』志木市遺跡調査会調査報告第 10 集　埼玉県志木市遺跡調査会
2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義－武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例－」『埼玉の考古学Ⅱ－埼玉考古第 41 号－』　埼玉考古学会
2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識－（仮称）「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として－」『埼玉考古第 43 号』埼玉考古学会
尾形則敏・深井恵子　1999『志木市遺跡群９』志木市の文化財第 27 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子　2001『埋蔵文化財調査報告書２』志木市の文化財第 31 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子・青木　修　2004『中野遺跡第 49 地点－東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告－』志木市遺跡調査会調査報告第７集　埼玉県志木市遺跡調査会
2005『城山遺跡第 42 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 10 集　埼玉県志木市遺跡調査会
2008『志木市遺跡群 17』志木市の文化財第 39 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・藤波啓容・鈴木　徹　中村真理　2008『城山遺跡第 58・60 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 17 集　埼玉県志木市遺跡調査会
尾形則敏・大久保聡・深井恵子・青木　修　2019『西原大塚遺跡第 213 地点　中野遺跡第 102 地点　中野遺跡第 104 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 72 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貴則・宅間清公　2021『城山遺跡第 96 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 78 集　埼玉県志木市教育委員会
古代の入間を考える会　2012『古代入間の土器と遺跡（１）－須恵器坏の編年と遺跡動態を考える－』
2013『古代入間の土器と遺跡（Ⅱ）－須恵器坏の編年（９・10 世紀）－』
2015『南比企窯と東金子窯（Ⅱ）－東金子窯の開窯と９世紀の編年－』
小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』株式会社 UM Promotion
田口哲也　2006「江戸周縁地域に見る墓制－中世から近世における連続性と非連続性－」『埼玉の考古学Ⅱ－埼玉考古第 41 号－』埼玉考古学会
田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店
中世土器研究会　1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
徳留彰紀・尾形則敏・青木　修　2017『市場裏遺跡第 23 地点　城山遺跡第 87 地点　西原大塚遺跡第 207 地点　中野遺跡第 95 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 68 集　埼玉県志木市教育委員会
永井久美男　2002『新版　中世出土銭の分類図版』高志書院
樂瀬裕一　2006「地下式坑の分類と編年試論－中馬場遺跡他の千葉県の事例をもとに－」『房総中近世考古』第２号　房総中近世考古学研究会

［付　編］

自 然 科 学 分 析

Ⅰ．中野遺跡第 109 地点出土人骨について

（独）国立科学博物館人類研究部
梶ヶ山真里

（1）緒言

当遺跡は、埼玉県志木市柏町一丁目に所在する遺跡で、旧石器～近世の遺構や遺物が出土し、そのうち人骨は中世の土坑墓 4 基と近世の土坑墓 1 基から検出されている。本報告はこの 5 地点から検出された人骨について墓坑ごとに記載する。

（2）人骨

492 D：1 体（壮年後半～・性別不明） 図版 41 － NO. 1

右側頭骨とバジオン付近の頭頂骨 1 ㎝四方骨片が保存されている。縫合の癒合程度は、外板では開いているが、内板では閉鎖している。

503 D：1 体（壮年・不明） 図版 41 － NO. 2

上下顎骨と歯、四肢骨の破片が保存されている。歯の保存状態は以下の歯式のとおりである。

	7	6	5	4	3	2	1	1		3		6	7	
	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7

大臼歯の歯の咬耗が、エナメル質が僅かに露出する程度であり、それほど進んではいない。また、全体的に歯が小さい。年齢は、歯の咬耗程度から判断して壮年期であろう。性別は不明であるものの、歯の大きさが小さきことからどちらかというと女性の可能性が高い。

504 D：1 体（壮年半ば～・不明） 図版 41 － NO. 3

頭蓋骨の左右側頭骨及び錐体と永久歯、大腿骨の後面破片が保存されている。

	7	6	5	4	3		1	1	2	3	4	5	6	7	
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

歯の咬耗は、象牙質がやや線状につながっている個所がみられ、ブロカのⅡに相当する。左右の錐体はやや小さめで、乳様突起の発達もそれほど強くない。歯は、上顎中切歯はシャベル形を呈し、大きさはそれほど大きくない。大腿骨は骨体が 30㎝程度保存されている。後面粗線の隆起は弱いが、骨体の断面はつまんだような滴型を呈する。

505 D：1 体（成人・男性） 図版 41 － NO. 4

大腿骨骨体片が保存される。骨体は太く、体周は 88㎜である。後面粗線の発達が強く、生前の付着する筋肉の良好な発達がうかがえる。江戸時代男性平均値（81㎜）を上回り、中世のものとしても太い。明らかに男性のものであろう。

478 D：1 体（壮年・男性） 図版 41 － NO. 5

左右側頭骨を含む頭蓋骨及び頭蓋骨破片と、永久歯、左上腕骨、左橈骨、左尺骨、左大腿骨が保存されている。

頭蓋骨の左右錐体はやや大きい。永久歯は上顎左第 7 大臼歯である。左上腕骨の太さはそれほど太くはない（周 72㎜）。上肢骨のうち、左前腕骨の尺骨と橈骨が保存されている。骨間縁の発達が良好で、前腕の筋肉の良好な発達がうかがえる。双方の骨体部の長さは、10㎝程であり、尺骨の骨体周（52㎜）橈骨の骨体周（48㎜）である。江戸時代男性平均値を上回る値である。上腕骨はそれほど太くはないが、前腕骨の骨間縁の相互の発達から全体的な肩から腕を使うのではなく、手の握力を使う作業をしていた可能性が高い。左大腿骨は、骨体中央横径 27、骨体中央矢状径 28 と、骨体示数は 100 を超える。当然、骨体周（90㎜）は太く頑丈である。

四肢骨の形態から判断して、明らかに男性のものと思われる。年齢は、上顎第 2 大臼歯の摩耗程度があまり強くないことから壮年期にものとして問題なかろう。

（3）まとめ

当該遺跡から 5 つの土坑墓から 5 人分の人骨が検出した。以下の表にまとめた。

骨NO.	遺構番号	時代	保存状況	年齢	性別	摘要
NO. 1	492 D	中世	D	壮年後半	不明	
NO. 2	503 D	中世	D	壮年	不明	歯冠径小さい（♀か）
NO. 3	504 D	中世	D	壮年半ば	不明	大腿骨粗線発達弱い　乳様突起小さい（♀か）
NO. 4	505 D	中世	D	成人	男性	
NO. 5	478 D	近世	D	壮年	男性	橈骨、尺骨骨間縁発達　大腿骨体周 90㎜

第 45 表　出土人骨

以上のことから、当遺跡から検出された人骨は、成人以上の個体が 5 人である。うち 2 体は男性と思われる。3 体の性別は不明であるが、どちらかというと歯が小さいので女性の可能性が高い。しかし、歯の大きさのみから性別を推定することは危険である。

保存状態があまり良くなく、個々の特徴を割り出すには至らない。中世の遺構から人骨が検出されることは少なく、その意味において非常に貴重である。また、江戸市中から検出される人骨は多いが、江戸近郊の農村部からの検出は非常に少ない。近郊の人々の体格や栄養状態を究明し、江戸市中の人々との比較においても、近郊の農村部の人々の資料の増加を期待したい。

Ⅱ．中野遺跡第 109 地点出土のウマ遺体

帝京大学文化財研究所
植月　学

中世の区画溝と想定されている 20 号溝跡の覆土上層よりウマ顎歯が出土した。上下、左右の臼歯がほぼ揃うが、左上顎臼歯の一部は欠落する。切歯破片も 1 点ある。出土状況写真（図版 15 － 4 ）では左側の上下臼歯列がほぼ原位置を保って出土しており、元来は頭骨も存在していたと推定される。下顎骨では一部骨も残存するが、頭蓋骨は完全に消失しているので、骨の保存に適した環境ではなかったと考えられる。したがって、本来は胴部が存在した可能性もある。右上顎のＭ１とＭ２は高齢のため同定が困難であったが、全歯高が小さく、近心の小窩がほぼ消失している方をＭ１に同定した。この方が前後の歯とのエナメル質の接触も無理がない。なお、左上顎は出土状況写真ではＰ 23 に続いてＰ４の位置から臼歯が検出されているが、歯冠長からＰ４とは考えにくく、右側との特徴の一致からＭ１に同定した。西中川・松元（1991）の推定式による歯冠高からの推定年齢は約 13 ～ 18 歳と、高齢のため歯種によるばらつきが大きい。平均は 15.6 歳であった。

[参考文献]

西中川駿・松元光春　1991「遺跡出土骨同定のための基礎的研究」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛，馬の渡来時期とその経路に関する研究』（平成２年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書）

上下	左右	歯種	歯冠長 ㎜	歯冠幅 ㎜	全歯高 ㎜	推定年齢
?	?	切歯				
上	左	Ｐ２	33.9 ±	18.6	14.5	16.9
		Ｐ３	25.2	22.4	23.0	15.0
		Ｍ１	20.3	22.9	16.0	17.3
	右	Ｐ２	33.4	20.7	18.0	15.1
		Ｐ３	25.5	21.6	20.5	15.9
		Ｐ４	23.7	23.0	18.0	18.8
		Ｍ１	20.6	22.7	16.0	17.3
		Ｍ２	20.0	21.4	18.0	16.9
		Ｍ３	25.8	20.3	16.0	－
下	左	Ｐ２	29.0 ±	13.0	20.8	12.8
		Ｐ３	24.8	13.8	21.5	14.6
		Ｐ４	23.3	14.4	23.5	14.8
		Ｍ１	20.5	12.1	25.5	15.1
		Ｍ２	20.5	11.0	20.5	17.9
		Ｍ３	28.2	11.2	21.0	13.8
	右	Ｐ２	27.9	13.1	19.0	13.6
		Ｐ３	25.4	14.0	植立	－
		Ｐ４	23.2	13.4	植立	－
		Ｍ１	20.2	12.0	植立	－
		Ｍ２	20.4	11.3	植立	－
		Ｍ３	31.7	11.8	22.0	13.6
					平均	15.6
下顎右 Ｐ２－Ｍ３：142.1，Ｐ２－Ｐ４：75.3，Ｍ１－Ｍ３：70.3（㎜）						

図　　版

1．1区調査前現況（東から）

2．2・3区調査前現況（西から）

3．遺構精査風景（南から）

4．全体清掃風景（東から）

5．9号試掘坑南壁（北から）

6．10号試掘坑南壁（北から）

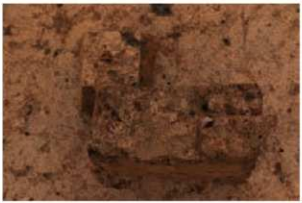
7．11号試掘坑西壁（東から）

8．13号試掘坑北壁（南から）

1．15号試掘坑西壁（東から）

2．4号石器集中地点遺物出土状態Ⅴ層下部（南から）

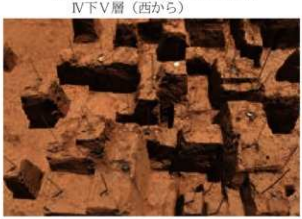
1．4号石器集中地点遺物出土状態（南から）



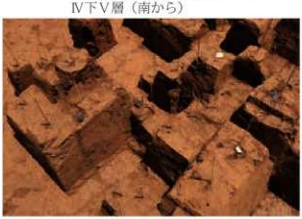
2．4号石器集中地点遺物出土状態（西から）

3．4号石器集中地点遺物出土状態
Ⅳ下Ⅴ層（西から）

4．4号石器集中地点遺物出土状態
Ⅳ下Ⅴ層（南から）



5．4号石器集中地点遺物出土状態
Ⅴ層下部（西から）



6．4号石器集中地点遺物出土状態
Ⅴ層下部（南から）

7．旧石器調査風景（南から）

8．旧石器調査風景（西から）

1．476号土坑（北から）

2．485号土坑（西から）

3．493号土坑（南から）

4．493号土坑断割り断面（東から）

5．506号土坑（南から）

6．508号土坑遺物出土状態（北から）

7．532号土坑（東から）

8．547号土坑（南から）

1．560号土坑遺物出土状態（南から）

2．5号集石（東から）

3．32号住居跡（南から）

4．86号住居跡（北から）

5．88号住居跡遺物出土状態（南西から）

1．88 号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）

2．88 号住居跡カマド（南西から）

3．88 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 1（北から）

4．88 号住居跡貯蔵穴断面（北から）

5．88 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 2（北から）

6．88 号住居跡貯蔵穴（南西から）

7．88 号住居跡（北西から）

8．19 号溝跡（東から）

1．87 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．87 号住居跡（南から）

3．87 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

4．87 号住居跡カマド（南から）

5．89 号住居跡遺物出土状態（南から）

6．89 号住居跡（南から）

7．89 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

8．89 号住居跡カマド（南から）

1．486号土坑（南から）

2．507号土坑（西から）

3．1区遺構検出状況（北から）

4．1区調査区西壁（東から）

5．1号段切状遺構断面（東から）

6．1号段切状遺構断面（西から）

7．2号段切状遺構・1号道路状遺構（北から）

8．2号段切状遺構・1号道路状遺構（西から）

1．1号道路状遺構第1面（東から）

2．1号道路状遺構第2面（東から）

3．1号道路状遺構第3面（西から）

4．1号道路状遺構断面（西から）

5．464号土坑（A群2類）（西から）

6．474号土坑（B群1類）（南から）

7．490号土坑（B群1類）（東から）

8．512号土坑（B群1類）（東から）

1．515 号土坑（B 群 1 類）（西から）

2．550 号土坑（B 群 1 類）（東から）

3．472 号土坑（B 群 2 類）（南から）

4．484 号土坑（B 群 2 類）（西から）

5．487 号土坑（B 群 2 類）（南から）

6．496 号土坑（B 群 2 類）（東から）

7．501 号土坑（B 群 2 類）（南から）

8．503 号土坑（B 群 2 類）（南から）

1．503 号土坑人骨出土状態（東から）

2．503 号土坑人骨出土状態（南から）

3．504 号土坑人骨出土状態（東から）

4．504 号土坑人骨出土状態（南から）

5．504 号土坑（B 群 2 類）（南から）

6．505 号土坑（B 群 2 類）（南から）

7．514 号土坑（B 群 2 類）（南から）

8．518 号土坑（B 群 2 類）（南から）

1．519 号土坑（B 群 2 類）（北から）

2．527 号土坑（B 群 2 類）（南から）

3．555 号土坑（B 群 2 類）（西から）

4．492 号土坑断面（西から）

5．492 号土坑人骨出土状態（南から）

6．492 号土坑人骨出土状態（西から）

7．492 号土坑（B 群 3 類）（南から）

8．502 号土坑（B 群 3 類）（南から）

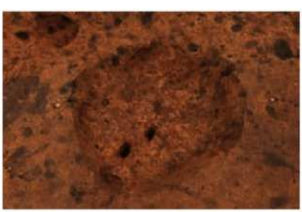
1．477 号土坑（C 群）（西から）

2．478 号土坑人骨出土状態（南から）

3．478 号土坑（C 群）（南から）

4．494 号土坑（C 群）（西から）

5．548 号土坑（C 群）（南から）



6．551 号土坑（C 群）（南から）

7．491 号土坑（E 群 1 類）（東から）

8．491 号土坑（E 群 1 類）（北から）

1．495 号土坑（E 群 1 類）（南から）

2．495 号土坑（E 群 1 類）（西から）

3．495 号土坑竪坑接続部（北から）

4．553 号土坑（E 群 1 類）（東から）

5．553 号土坑竪坑（南から）

6．553 号土坑断面（東から）

7．15 号井戸跡（西から）

8．16 号井戸跡（北から）

1．17号井戸跡（西から）

2．18号井戸跡（東から）

3．20号溝跡（2区）（西から）

4．20号溝跡馬歯出土状態（南から）

5．23号溝跡（北から）

6．24号溝跡（南から）

7．2区遺構検出状況（西から）

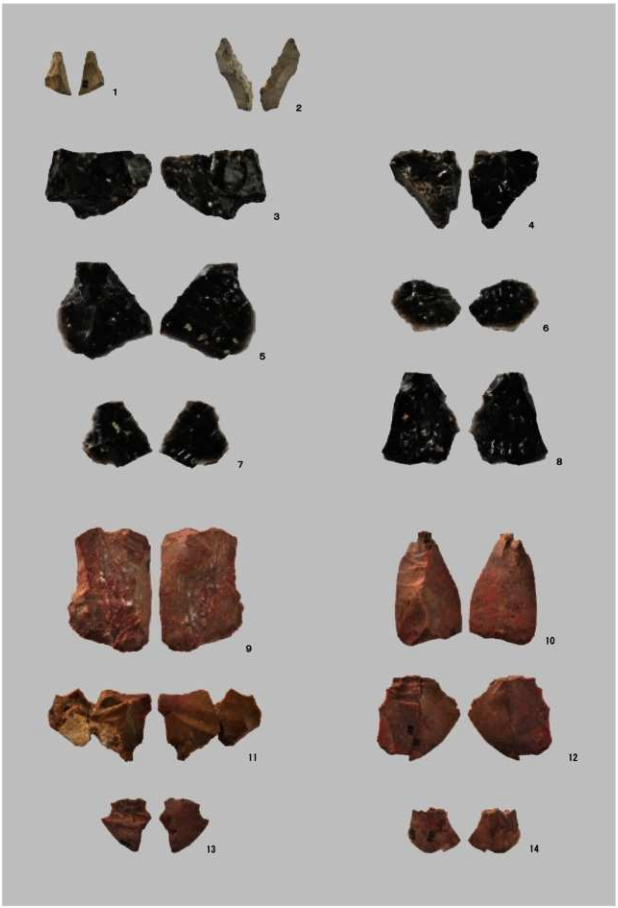
8．2区全景（西から）

1．2区遺構検出状況（南から）

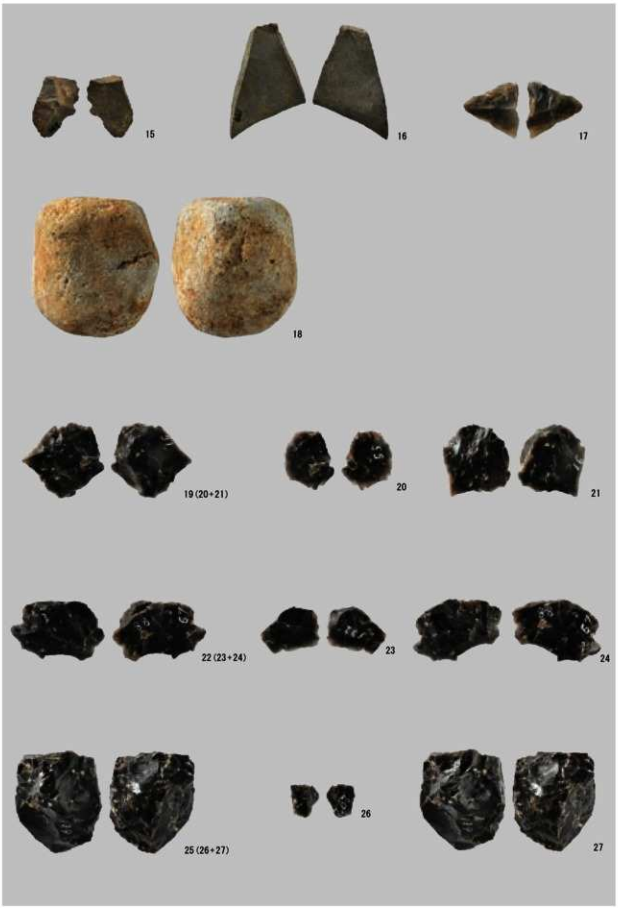
2．2区全景（南から）

1．3区遺構検出状況（東から）

2．3区全景（東から）

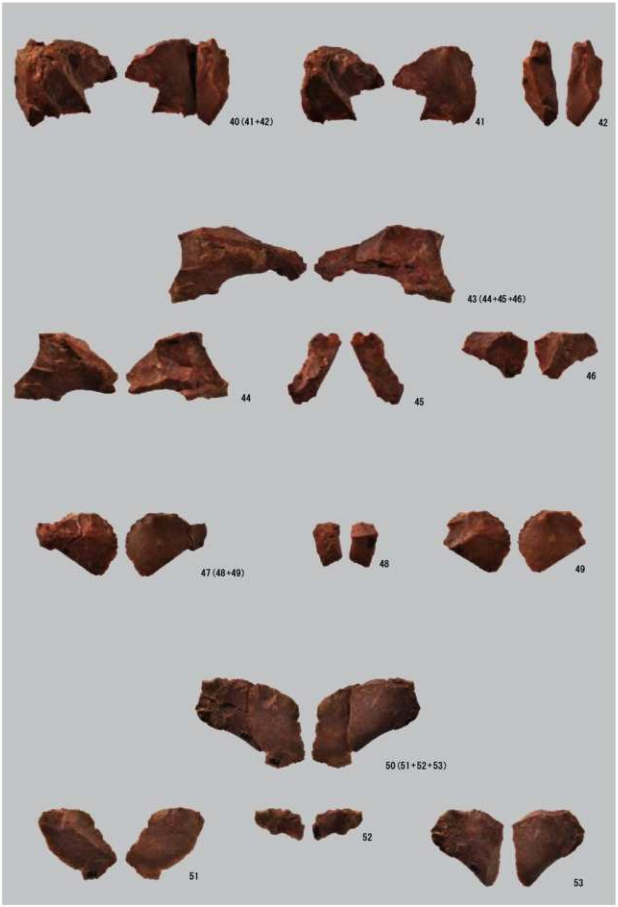


4号石器集中地点出土遺物1

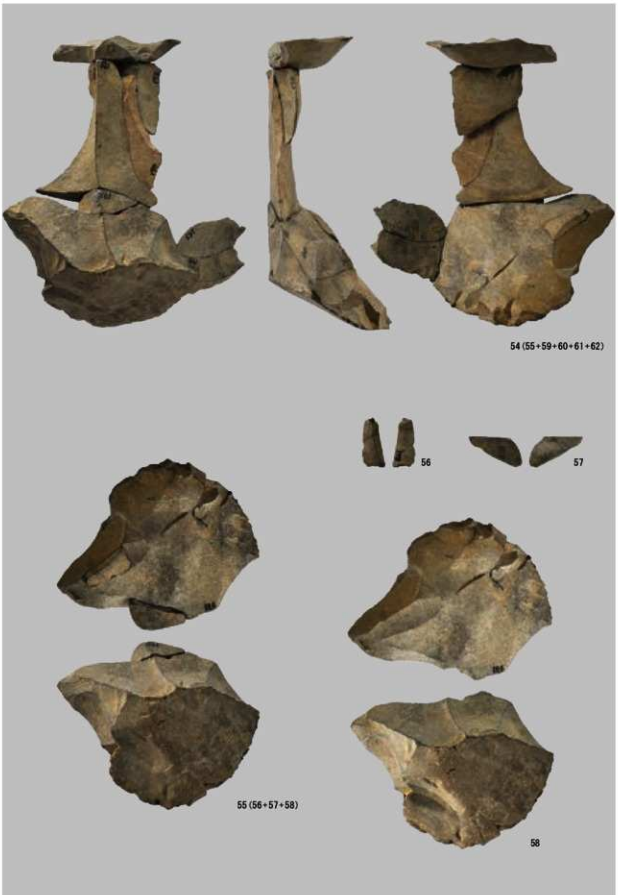


4号石器集中地点出土遺物２

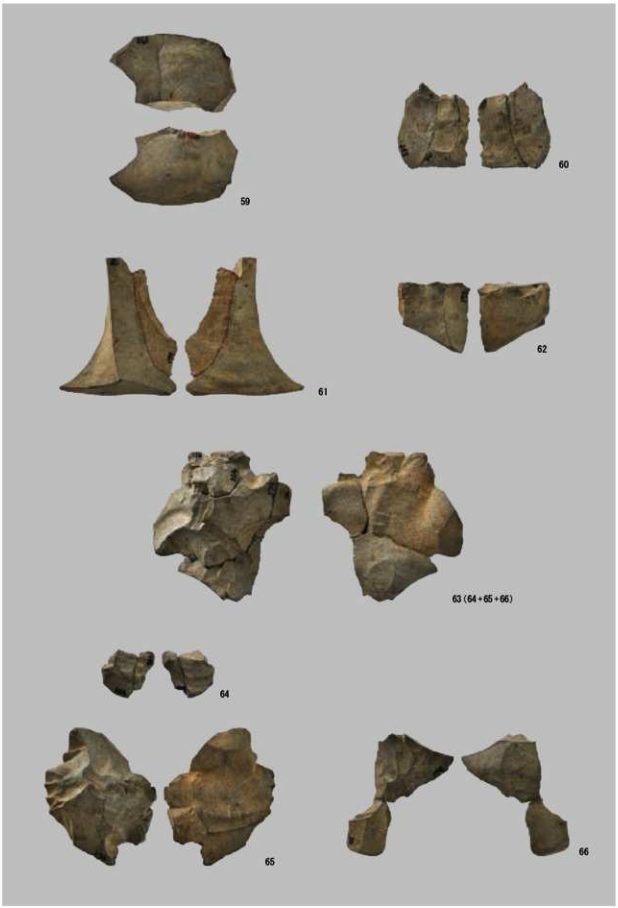
4号石器集中地点出土遺物3



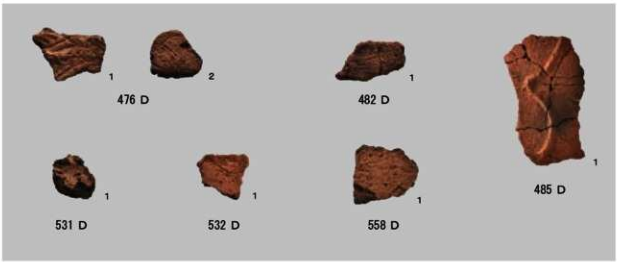
4号石器集中地点出土遺物4



4号石器集中地点出土遺物5

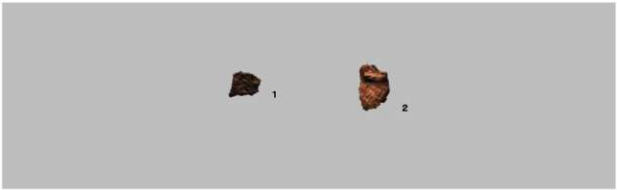


4号石器集中地点出土遺物6

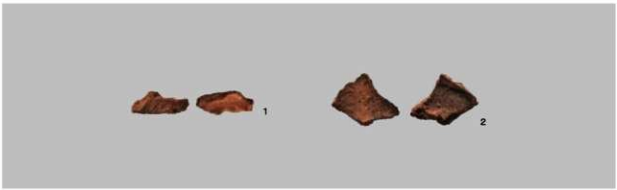


1．縄文時代の土坑出土遺物

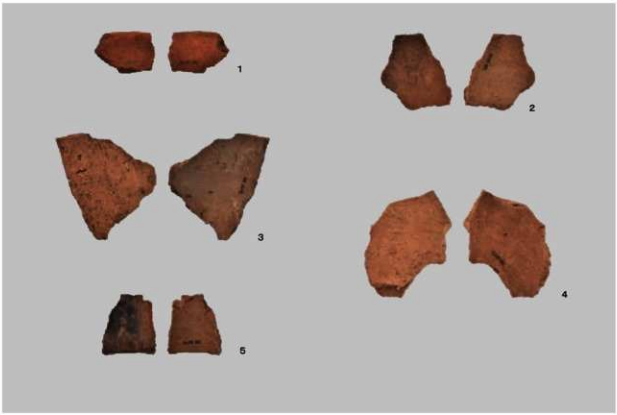
2．508 号土坑出土遺物



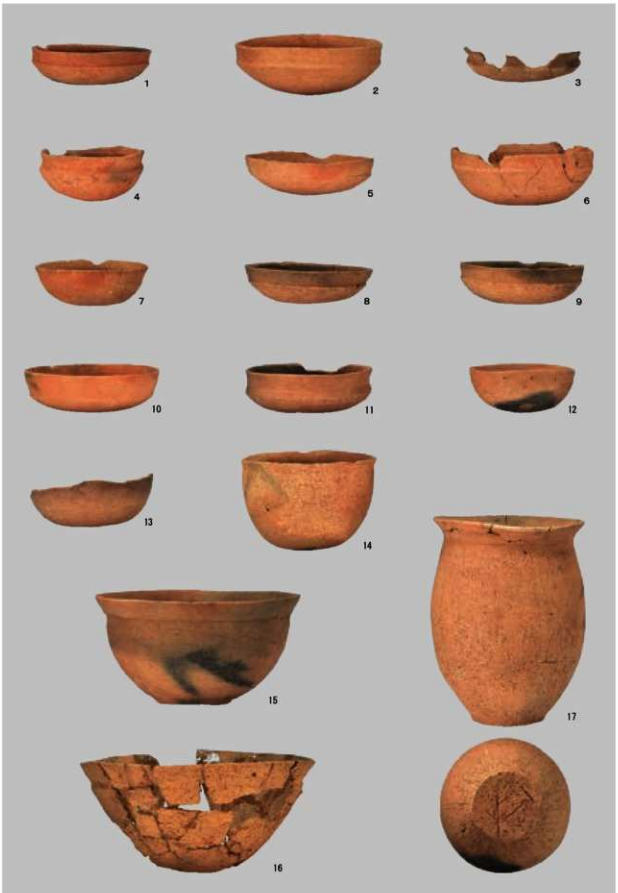
1．560 号土坑出土遺物



2．32 号住居跡出土遺物

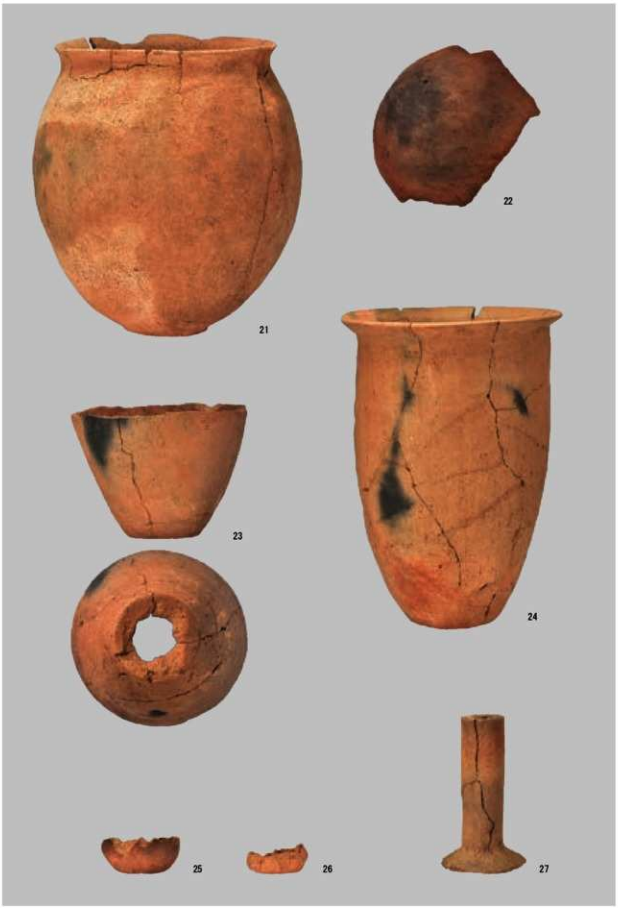


3．86 号住居跡出土遺物



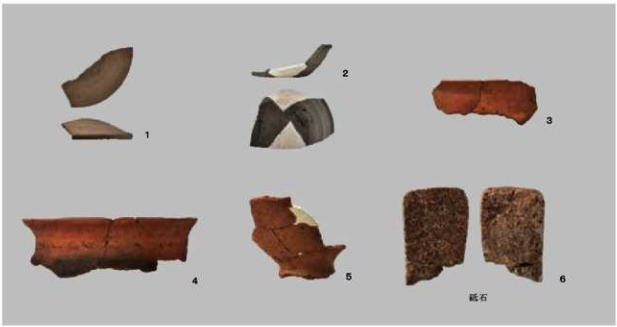
88 号住居跡出土遺物 1

88 号住居跡出土遺物 2



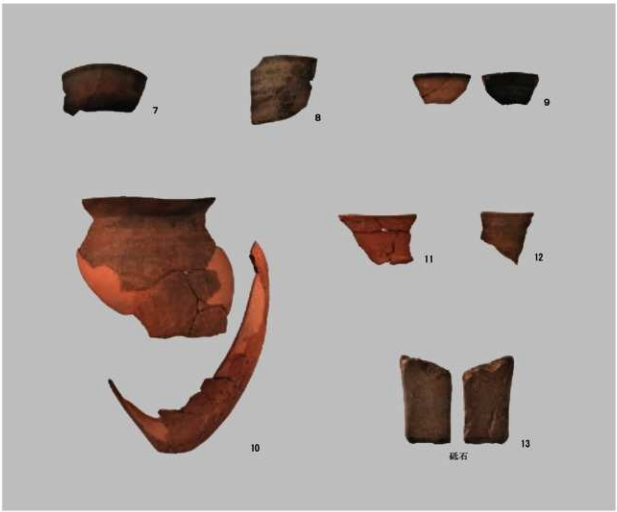
88 号住居跡出土遺物 3

1．19 号溝跡出土遺物



2．87 号住居跡出土遺物

3．89 号住居跡出土遺物 1

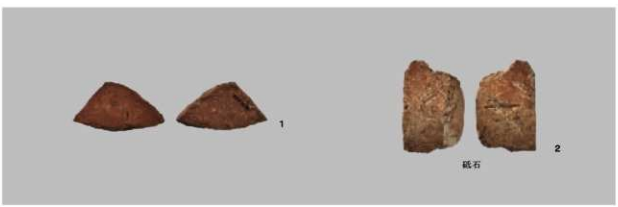


1．89号住居跡出土遺物2

2．1号段切状遺構出土遺物1

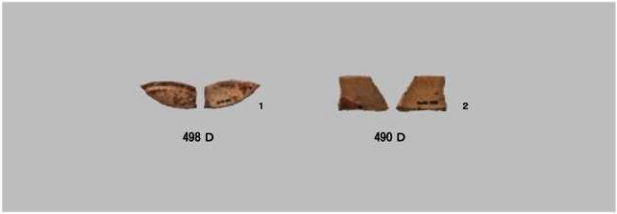
1．1号段切状遺構出土遺物2

2．3号段切状遺構出土遺物

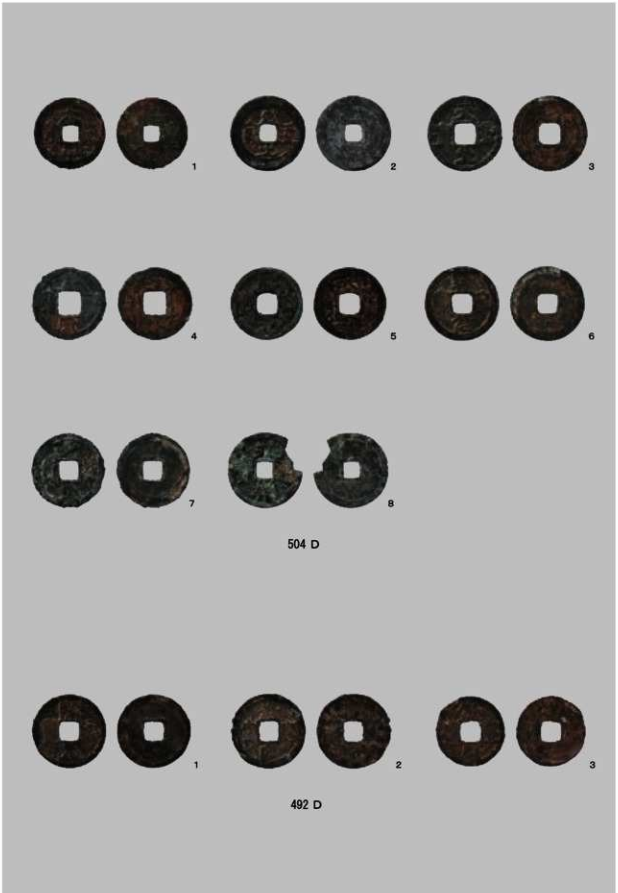


3．4号段切状遺構出土遺物

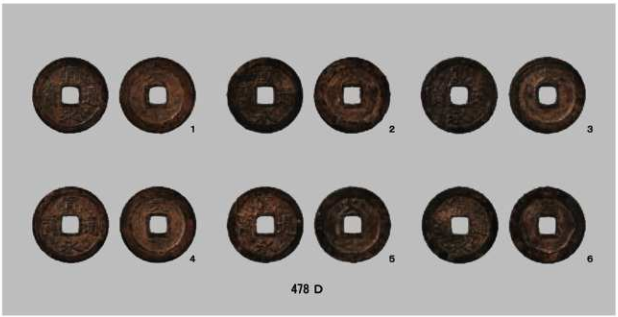
1．1号道路状遺構出土遺物



2．中世以降の土坑出土遺物1

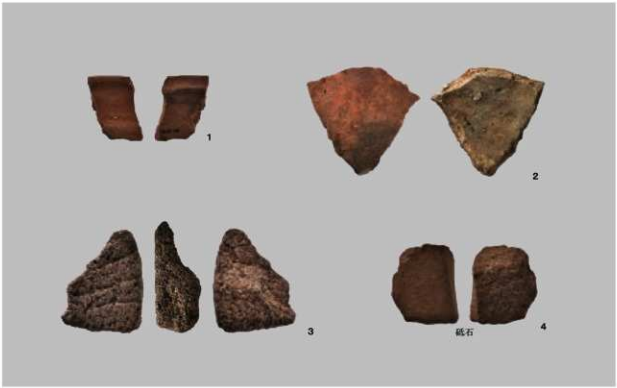


中世以降の土坑出土遺物２



1．中世以降の土坑出土遺物3

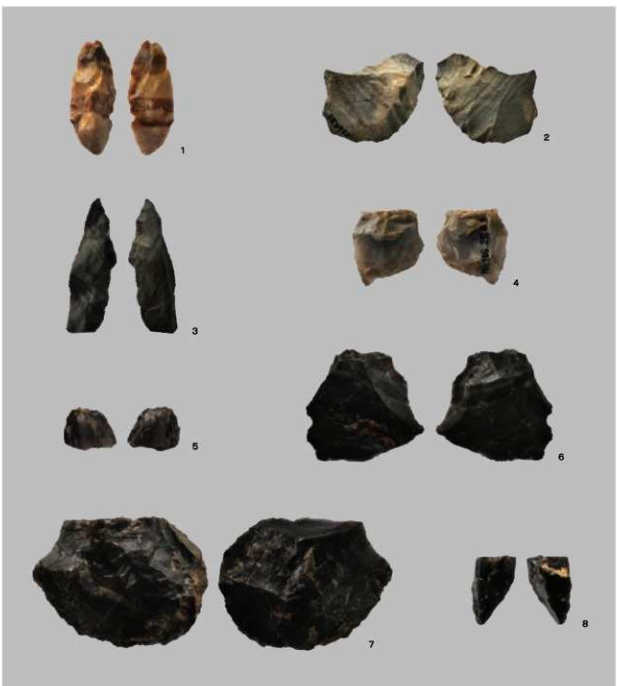
2．495 号土坑出土遺物



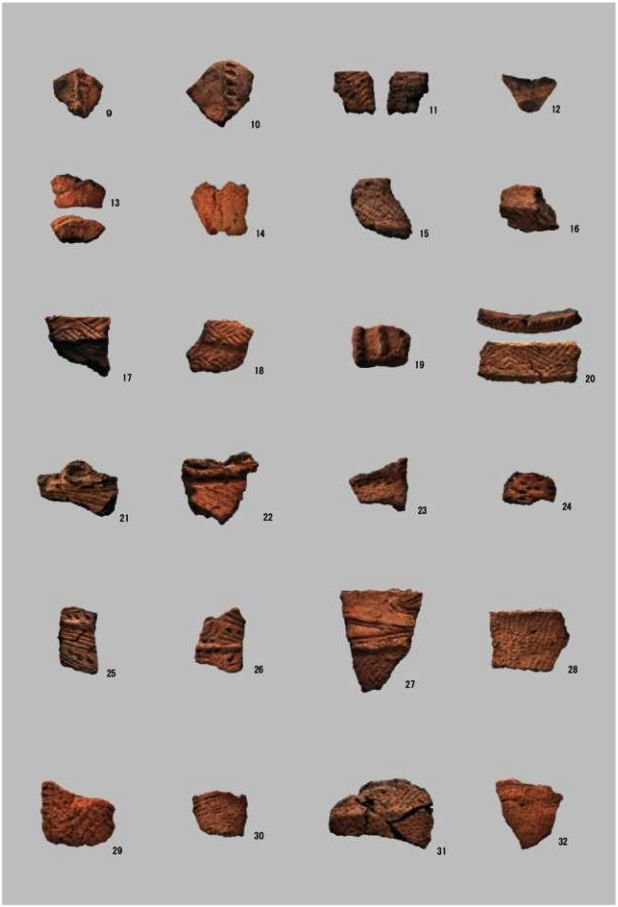
1．17号井戸跡出土遺物

2．20号溝跡出土遺物

1．22号溝跡出土遺物



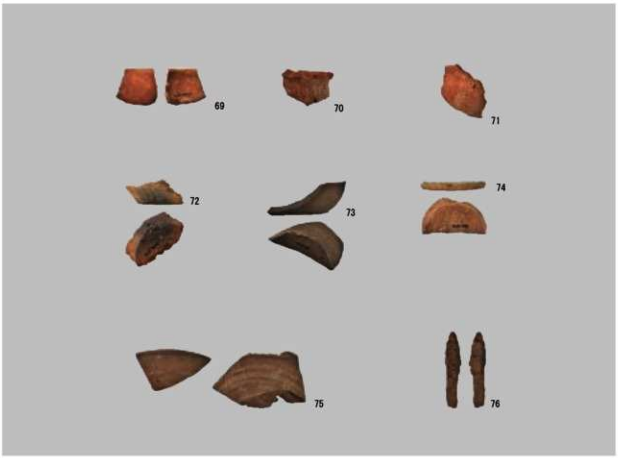
2．旧石器時代遺構外出土遺物



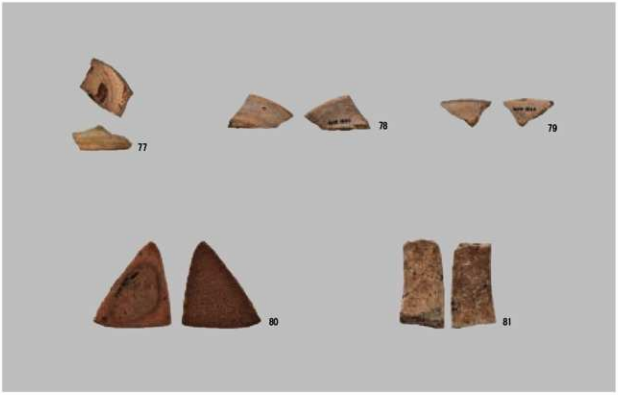
縄文時代遺構外出土遺物 1

縄文時代遺構外出土遺物２

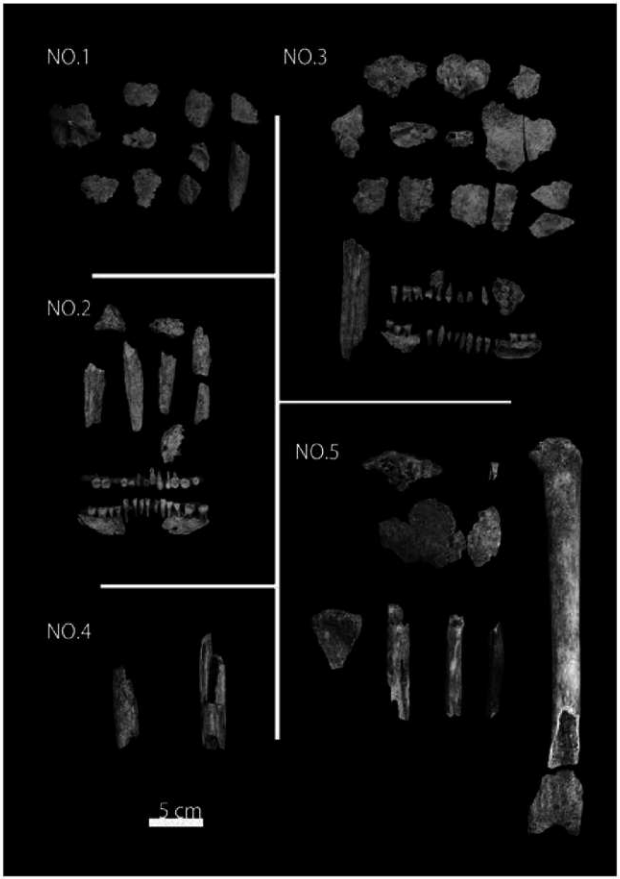
縄文時代遺構外出土遺物３



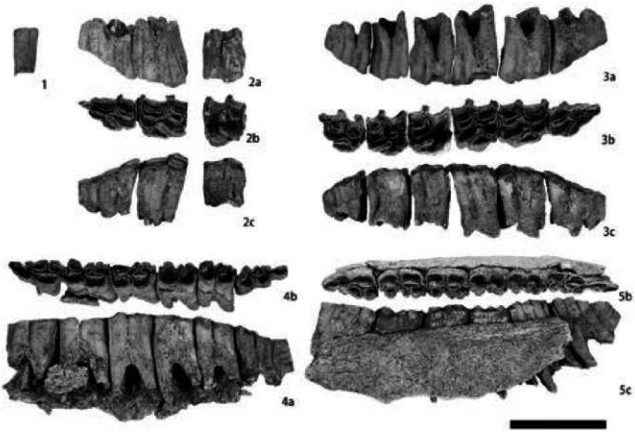
1．弥生時代後期～平安時代遺構外出土遺物



2．中世以降の遺構外出土遺物



人骨写真



1.切歯　2.左P２３M１　3.右P２３４M１２３　4.左P２３４M１２３　5.右P２３４M１２３

a：頬側　b：咬合面　c：舌側　スケールは5cm

馬歯写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかのいせきだい 109 ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	中野遺跡第 109 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第 82 集
編　著　者	尾形則敏　徳留彰紀　大久保　聡　市川康弘　梶ヶ山真里　植月　学
編 集 機 関	埼玉県志木市教育委員会
所　在　地	〒 353-0002 埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和 3（2021）年 6 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積㎡ (全体面積)	調査原因
なかのいせき 中野遺跡 (第109地点)	しきしかしわちょう 志木市柏町 1 丁目 1491-1、1492-1、1493-2	11228	09-002	35° 50′ 03″	139° 34′ 23″	20191224 ～ 20200622	2,094.29 (2,410.37)	分譲住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
中野遺跡 (第 109 地点)	集落跡	旧石器時代	石器集中地点	1 ヶ所	石器	縄文時代の土坑のうち、493Dは陥穴である。 中世以降の土坑のうち、478・487・492・503・504・505Dの6基は土坑墓、491・495・553Dの3基は地下式坑である。
		縄文時代	炉穴	1 基		
			土坑	15 基	土器	
			集石	1 基		
			ピット	5 本		
		弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡	1 軒	土器	
		古墳時代後期	住居跡	2 軒	土器・土製品	
			溝跡	1 本	土器	
		平安時代	住居跡	2 軒	土器・石製品	
			土坑	10 基		
			ピット	2 本		
		中世以降	段切状遺構	5 ヶ所	陶磁器・土器・石製品	
			道路状遺構	1 本	陶器・石製品	
			土坑	73 基	陶器・石製品・銭貨	
			井戸跡	4 基	陶器・石製品	
			溝跡	5 本	陶磁器・土器・銭貨	
			ピット	174 本		

要　　約

中野遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が検出される複合遺跡である。今回の第 109 地点での調査では、南側に隣接する第 95 地点での調査成果を裏付けるべく、段切状遺構 5 ヶ所、土坑墓 6 基、地下式坑 3 基をはじめとした中世段階の遺構の広がりを確認した。また、第 49 地点他に次いで 4 例目となる石器集中地点が確認された。出土した石器は微細な剥片が多く、接合関係が認められることから本地点において石器製作ないしは加工を行っていたことが想定される。

志木市の文化財　第82集

中野遺跡第109地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日　令和3（2021）年6月30日
印　刷　能登印刷株式会社